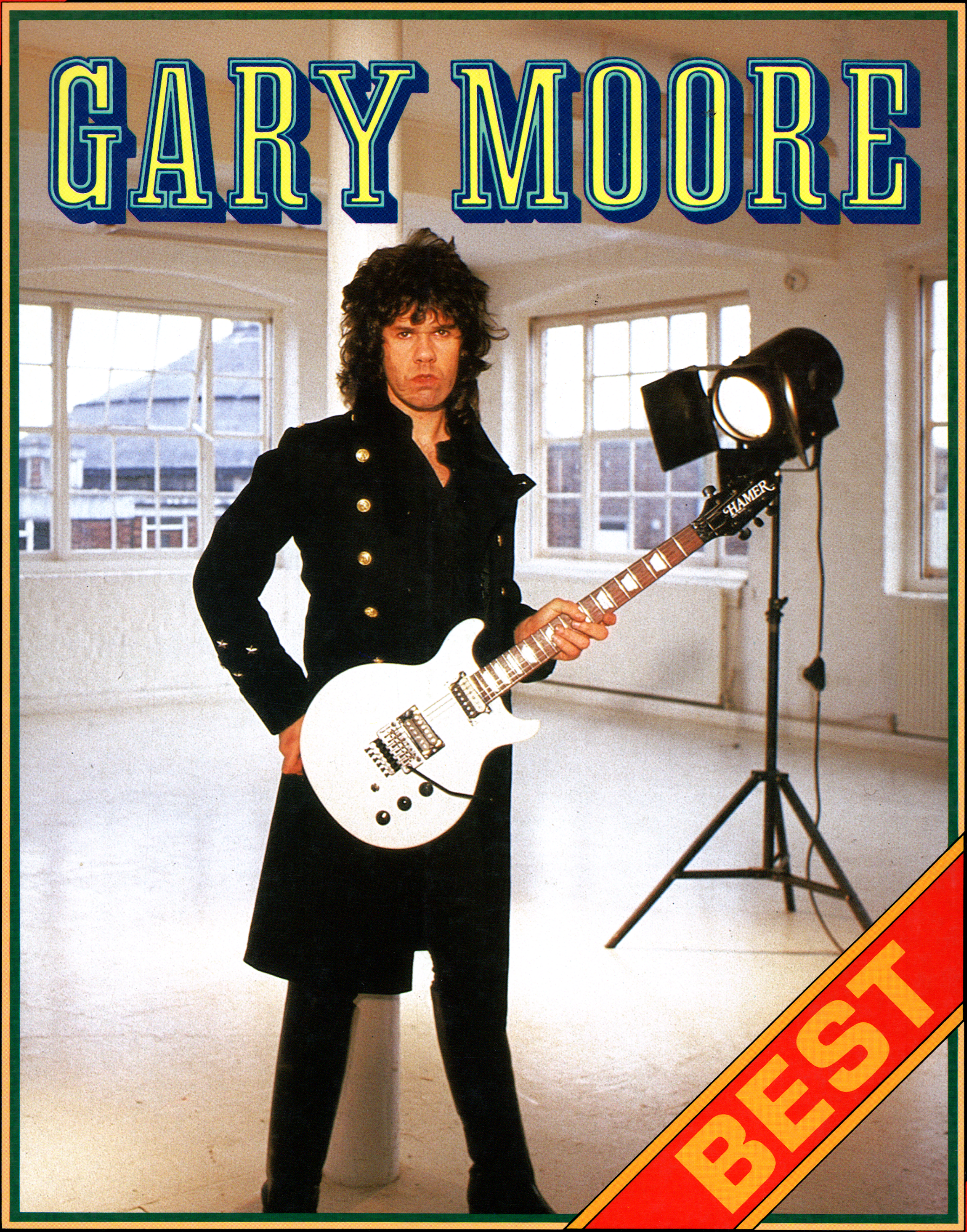
BAND SCORE



ゲイリー・ムーア●ベスト

Rittor Music

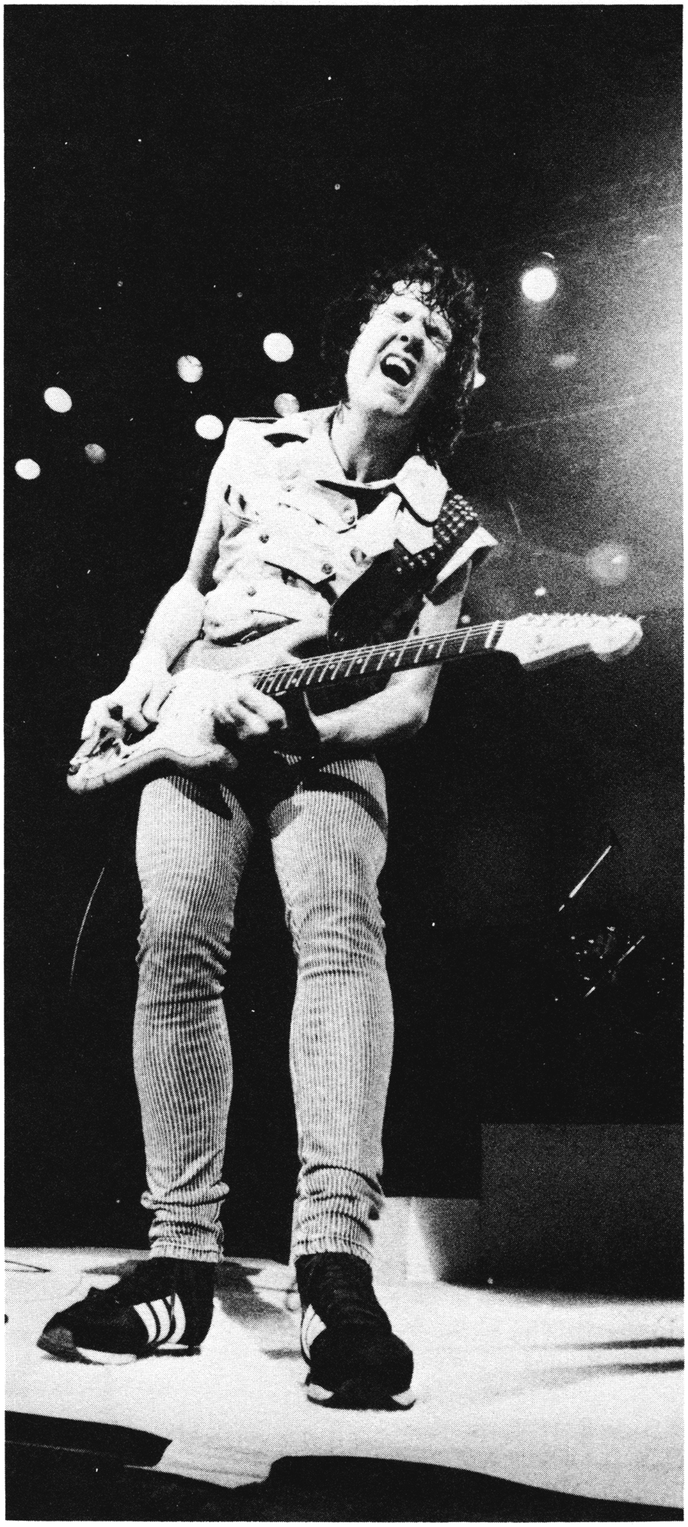


Photo by K. Hiki

ゲイリー・ムーア●ベスト

CONTENTS

本書で使用したレコード……2
BIOGRAPHY……3
SOUND ADVICE……4
■***Run For Cover***……6
ラン・フォー・カヴァー (from LP "Run For Cover")
■***Once In A Lifetime***……18
ワンス・イン・ア・ライフタイム (from LP "Run For Cover")
■***All Messed Up***……28
オール・メスド・アップ (from LP "Run For Cover")
■***Out In The Fields***……40
アウト・イン・ザ・フィールド (from 12inch "Out In The Fields")
■***Military Man***……55
ミリタリー・マン (from 12inch "Out In The Fields")
■***Still In Love With You***……74
それでも君を (from 12inch "Out In The Fields")
■***Shapes Of Things***……85
シェイプス・オブ・シングス (from LP "Victims Of The Future")

本書で使用したレコード

（発売元：東芝EMI株式会社）

『*Run For Cover*／ラン・フォー・カヴァー』(28VB-1045)

●Side 1

Run For Cover ラン・フォー・カヴァー
Reach For The Sky リーチ・フォー・ザ・スカイ
Military Man ミリタリー・マン
Empty Rooms エンプティ・ルーム

●Side 2

Out In The Fields アウト・イン・ザ・フィールド
Nothing To Lose ナッシング・トゥ・ルーズ
Once In A Lifetime ワンス・イン・ア・ライフタイム
All Messed Up オール・メスド・アップ
Listen To Your Heartbeat リッスン・トゥ・ユア・ハートビート

『*Out In The Fields*／アウト・イン・ザ・フィールド』(14VA-9003)

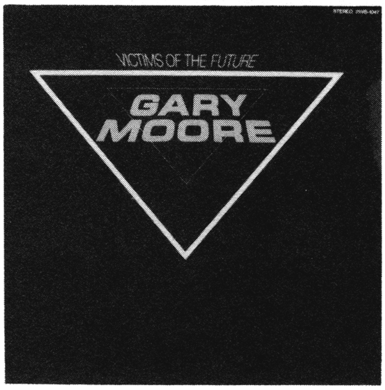
●Side 1

Out In The Fields アウト・イン・ザ・フィールド
Military Man ミリタリー・マン

●Side 2

Still In Love With You それでも君を

『*Victims Of The Future*／炎の舞』(25VB-1047)



●Side 1

Shapes Of Things シェイプス・オブ・シングス
Hold On To Love ホールド・オン・トゥ・ラブ
Murder In The Skies マーダー・イン・ザ・スカイズ
Empty Rooms エンプティ・ルーム

●Side 2

Victims Of The Future 夢なき世界で
Teenage Idol ティーンエイジ・アイドル
Devil In Her Heart デビル・イン・ハー・ハート
Law Of The Jungle ロー・オブ・ザ・ジャングル

Photo by K. Hiki

● Biography

1952
アイルランド、ベルファーストに生まれる。

1969
『スキッド・ロウ』というハード・ロック・バンドに参加。プロとしての第一歩を踏み出す。このグループでフィル・リノットと知り合う。

1971
『スキッド・ロウ』、"SKID""34HOURS"の2枚のアルバムを残して空中分解。

1973
『ザ・ゲイリー・ムーア・バンド』結成。アルバム"G-RINDING STONE"を発表したが同年消滅。

1974
フィル・リノットの在籍する『シン・リジィ』のアルバム"ナイト・ライフ"に参加。

1975
ジョン・ハイズマンの誘いで『コラシアムII』に参加する。

1978
"ストレンジ・ニュー・フレッシュ""エレクトリック・サベージ""ウォー・ダンス"の3枚のアルバムを発表した『コラシアムII』から脱退。

『シン・リジィ』に参加。

初のリーダー・アルバム『バック・オン・ザ・ストリーツ』リリース。

1979
『シン・リジィ』、アルバム"ブラック・ローズ"リリース。このときの全米ツアー中にトラブルから同グループを脱退。

1980
『G-フォース』を結成、アルバム"G-FORCE"を発表するが、同年グループが解散。

1982
ソロ・アルバム『大いなる野望』リリース。

1983
初来日、『ゲイリー・ムーア・ライヴ・イン・ジャパン』リリース。

1984
『炎の舞』リリース。

1985
12インチ・シングル『アウト・イン・ザ・フィールド』、アルバム『ラン・フォー・カヴァー』リリース!!

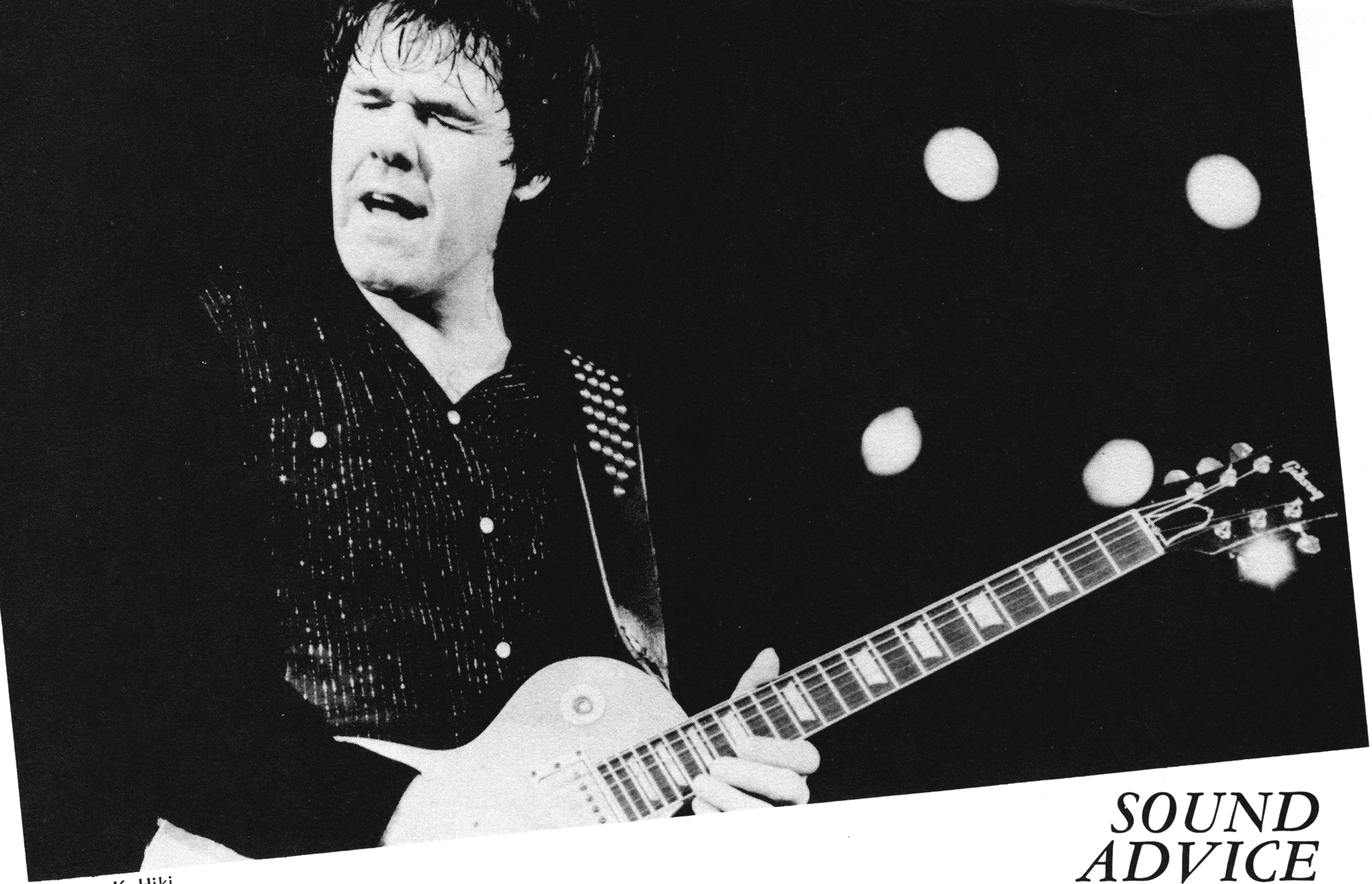


Photo by K. Hiki

SOUND ADVICE

Gary Moore Guitar Sound

おそろしくスピーディなフレーズをキメたかと思うとスローで味のあるプレイも見せる、といったように、力強さと繊細さの両方を兼ね備えた非常にバランスのとれたギタリスト——それがゲイリー・ムーアだ。

一番興味を持たれているのはテクニカルな速弾きについてだと思うが、ゲイリー・ムーアの場合ポイントは何といってもピッキングにある。とにかく**これだというフレーズはすべてピッキングして弾いている**ので、フレーズが強力に前面に押し出されてくるというワケだ。しかも32分音符ぐらいまでは平気でピッキングしているのだから、まず相当右手のトレーニングを積まなければいけない。プリングやハンマリングでの代用は通用しないからだ。

速弾きのフレーズの代表的なものは、スケール的なくり返しのフレーズで低音から高音へ上昇していくというパターン。これには**スケール的な運指の確実さ**が要求される。またフレーズの最後をチョーキングでキメることが多いが、次のフレーズへのつなぎもスムーズに行わなければ意味がない。なお同じフレーズを3連や6連でくり返して弾くことも多いようだ。

スローなプレイではチョーキング、ヴィブラートといった**基礎テクニック**が重要で、これらのテクニックでしっかり表情をつけなければ、ゲイリー・ムーアのような味のあるプレイは無理だろう。

アーミングというのも忘れることのできないテクニックだ。アーム・ダウン以外では、ヴィブラートのためにアームを使うことが多い。ヴィブラートのパターンはリズムに合わせたものが多く、アーミングのノリもいい。またほんの少しアーミングをかける、といった繊細なプレイも行っており、フレーズにツヤを与えている。

ギター・サウンドは、やはりマーシャル＋ハムバッキングというおなじみのコンビから生み出されているが、ストラト系のシングル・コイルを使うときには、ディストーション類も用いているようだ。他にディレイ、コーラスといったものもよく使われている。

Keyboard

ギターをメインとしたアンサンブル構成なので、キーボードはほとんどがサポート的役割りとして地味に扱われている。原曲どおりでは物足りない人は、適宜自分なりのアレンジを加えるとよいが、その場合余計なソロ・フレーズは交えず、omit 3などによるシンプルなコード・バッキングでまとめること。

音色的にはデジタルのポリ・シンセが1台あれば大体用は足りるはず。ストリングスにしろオルガンにしろ金属的な音作りを心がけ、インパクトあるギター・サウンドにピッタリフィットさせたい。2音色合成できる機種が用意できれば、減衰系と持続系とをあれこれ組み合わせてみよう。

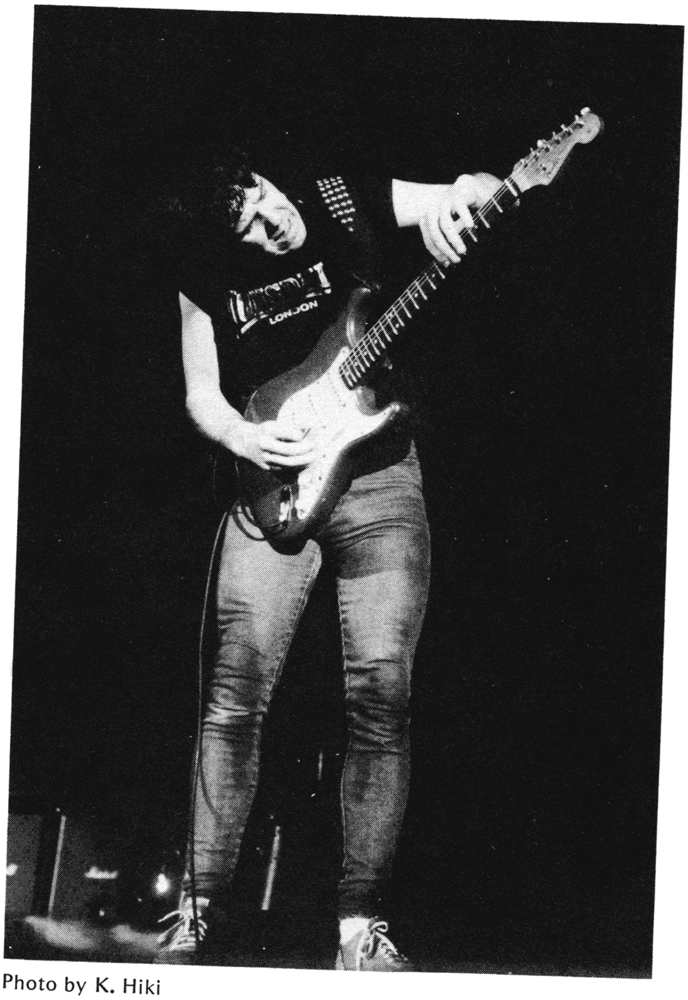


Photo by K. Hiki

Bass

ハードな曲とソフトな曲の両タイプがあるので、プレイもそれなりに弾きわけること。

ラインとしては、8分でのルート弾きやパターンのくり返しによるものが多いため、リズム・キープとドラムスとのコンビネーションを重視したい。またスロー・ナンバーでは白玉(＝2分音符や全音符)によるプレイが中心になるので、サステインに注意すること。

サウンドについては、曲によってディストーションやシンセ・ベースも使われているようだ。

Drums

8ビートの曲が主体だが、16ビートの曲や1曲の中でビートが変わるものなどもあり、ドラマーの多彩な感覚が要求される。スネアのロールなどもよく使われるので、1点打ちや2点打ちなどの基礎テクニックをしっかり身につけておかなければならない。

サウンド的には、タイトで重いバスドラと締まったスネアがポイントになる。またシモンズなどのエレクトリック・ドラマを使っている曲もあるので、できればトライしたいところだ。

Run For Cover

●ラン・フォー・カヴァー　by G.Moore

Copyright©1985 by 10 Music Ltd.
The rights for Japan assigned to CBS/SONY SONGS
Sale of this edition is authorized within Japan only.

この曲のポイント

■Guitar

ヘヴィな曲によく用いられるスタイルのリフが多用されている。こういう場合の彼の特徴である、4度音程の2音の和音や、ベース音の押弦に親指も用いるなどのワザが出てくることに注目。ギター・ソロは彼にしては控えめのつもりなのだろうが、とんでもない速弾きも平然と出てきてしまう。

■Keyboard

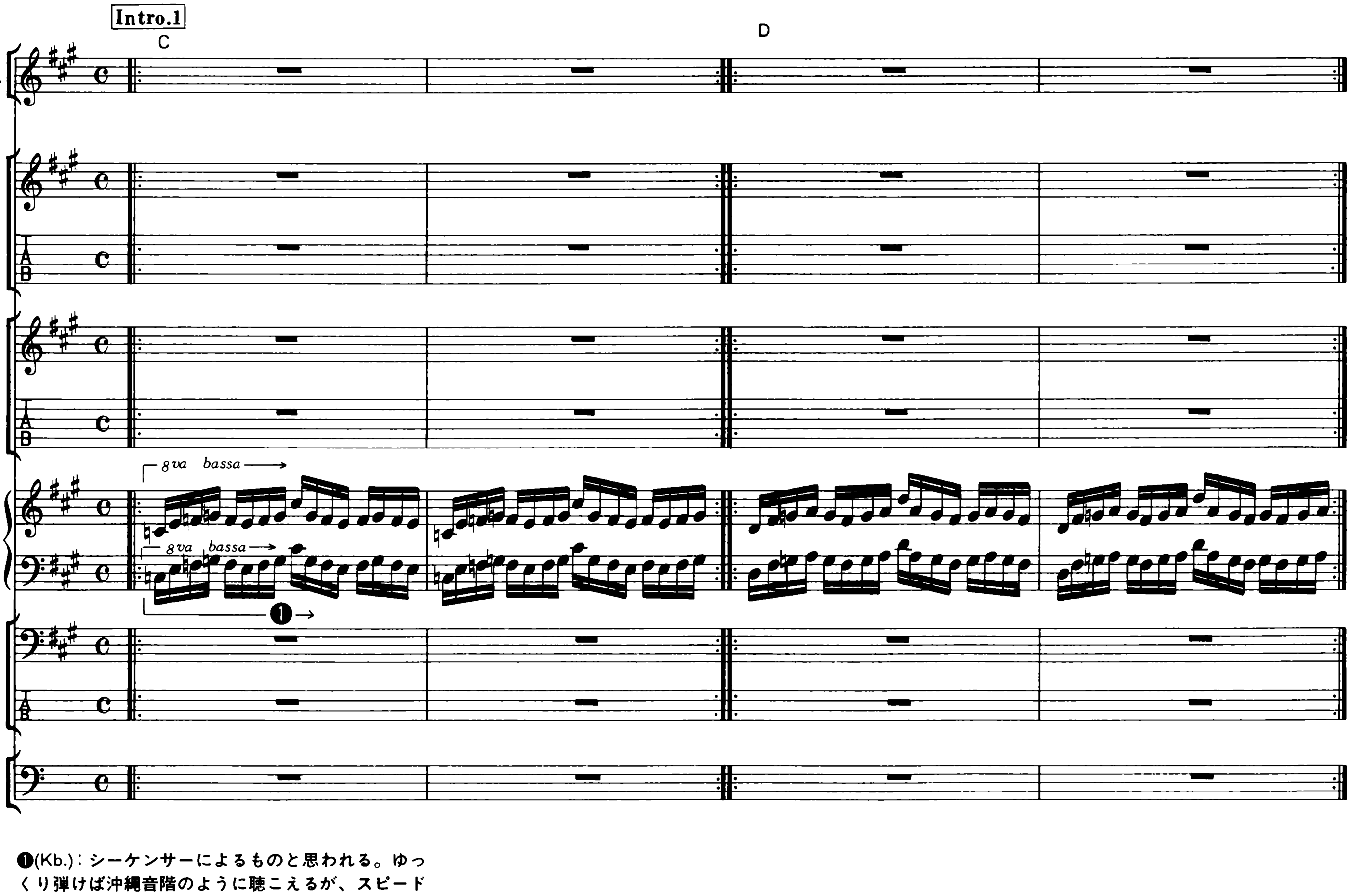
曲の冒頭および曲中のシーケンスはおそらくシーケンサーによるもので、手弾きによるプレイはⒸでのメロディのみだろう。ギター・リフの和音をフォローするようなかたちで、もっと参加してかまわない。

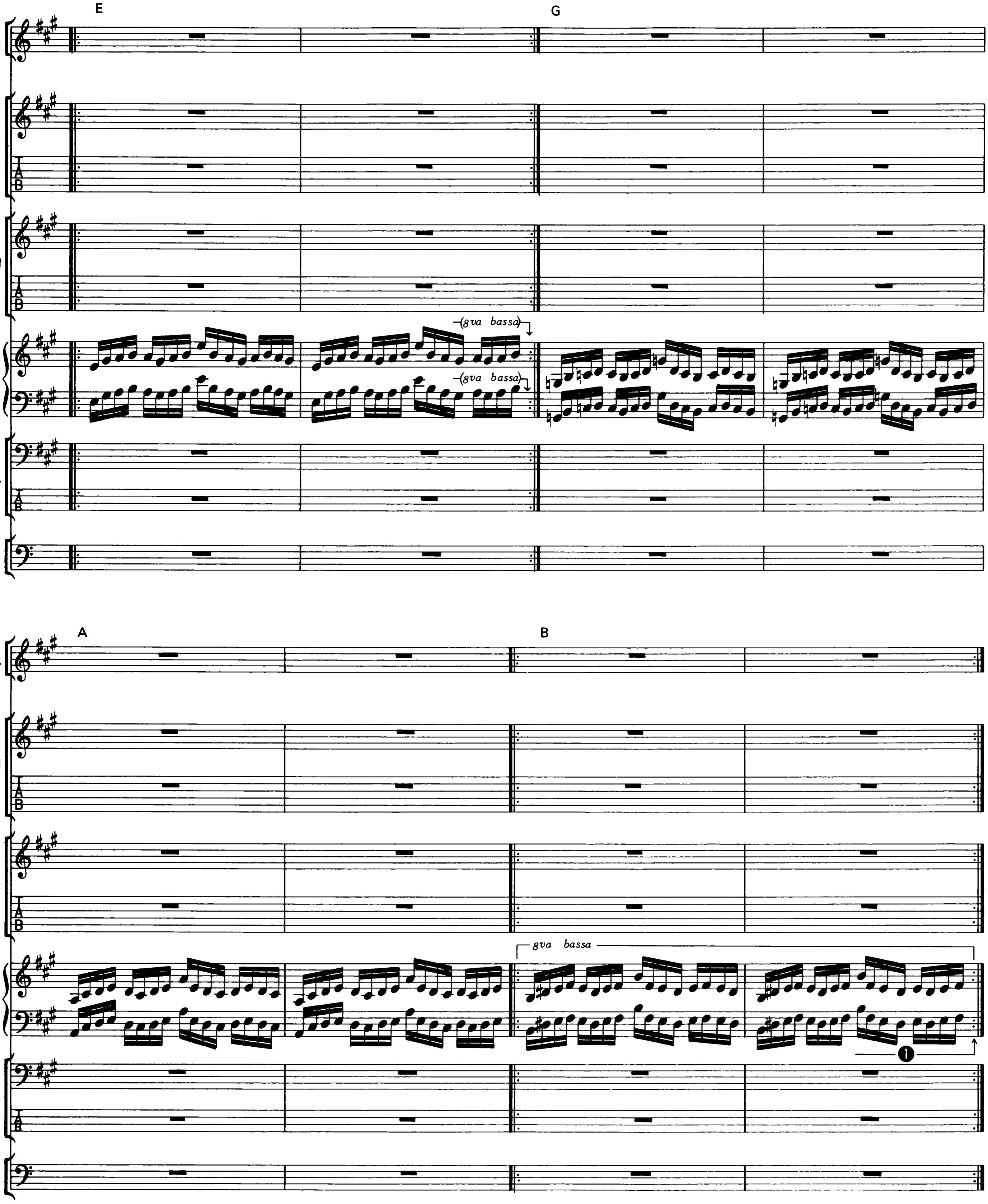
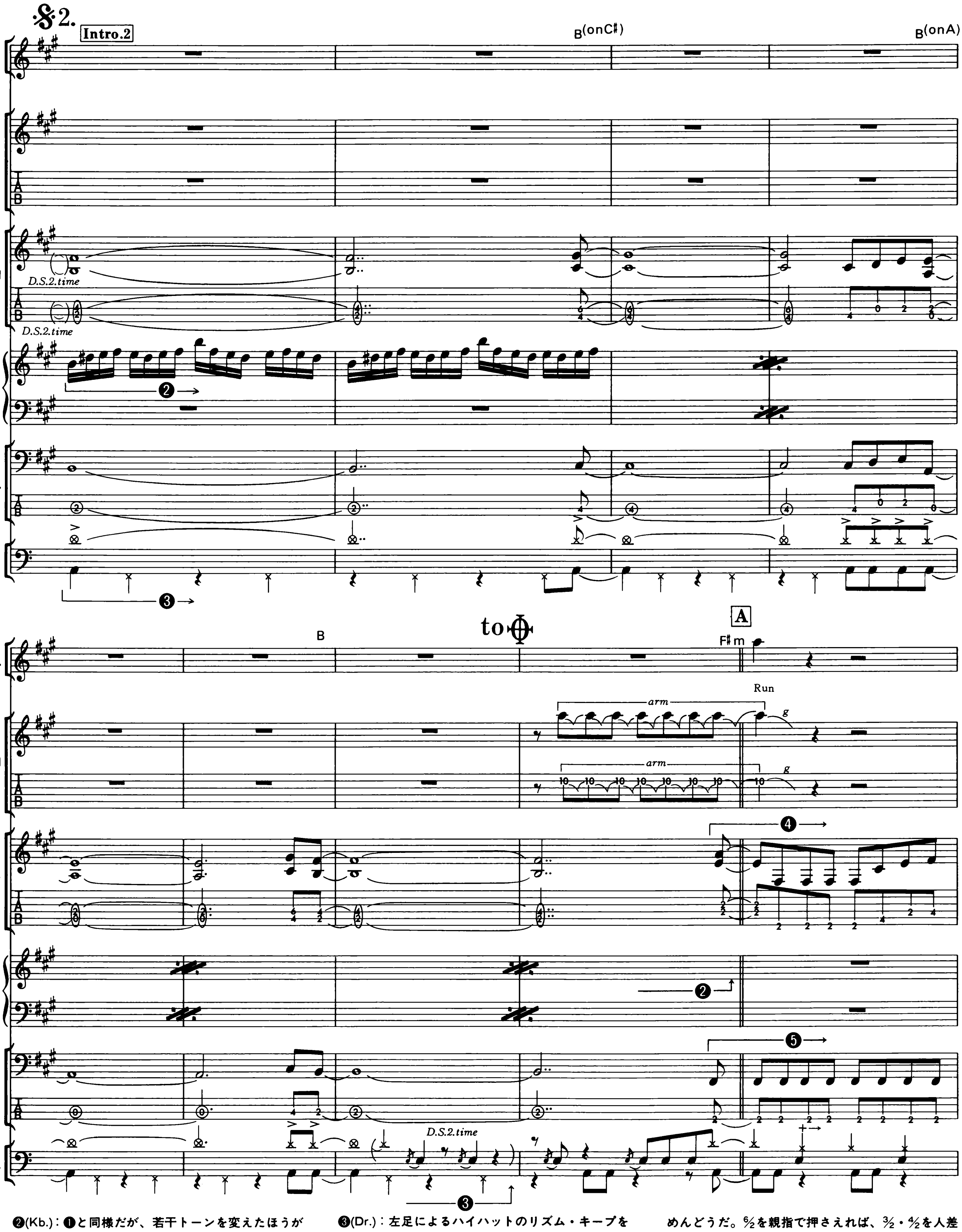
■Bass

ルート音の8分弾きを中心に、部分部分でメロディックに音が動く、ギターをフォローする、といった非常にオーソドックスなベース・プレイを行っている。

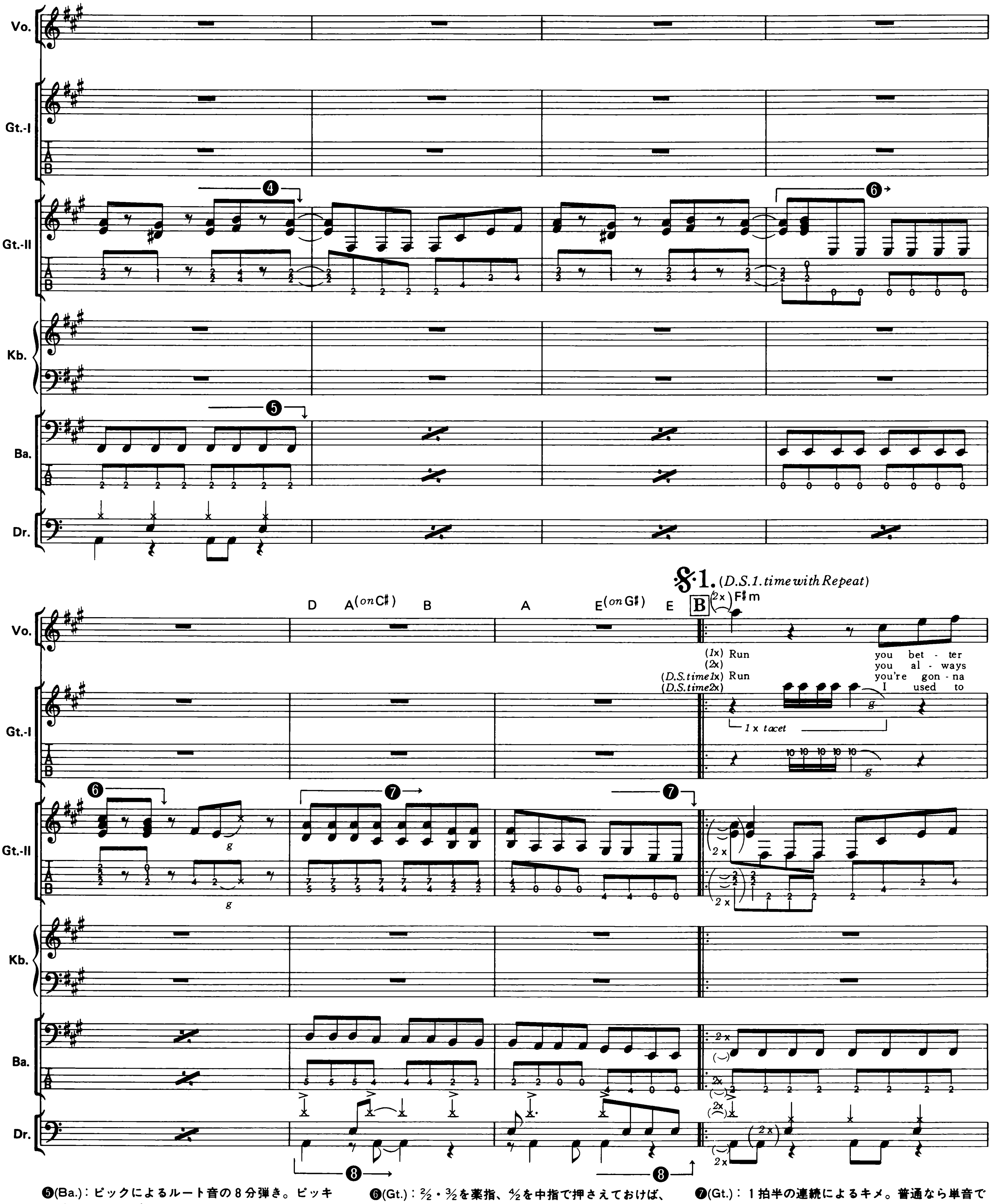
■Drums

ベース同様、あくまでオーソドックスでシンプルなプレイに徹している。特に後半の盛り上がりでもあえてシンプルなフィルインで抑えている点は、注目してもらいたいところだ。



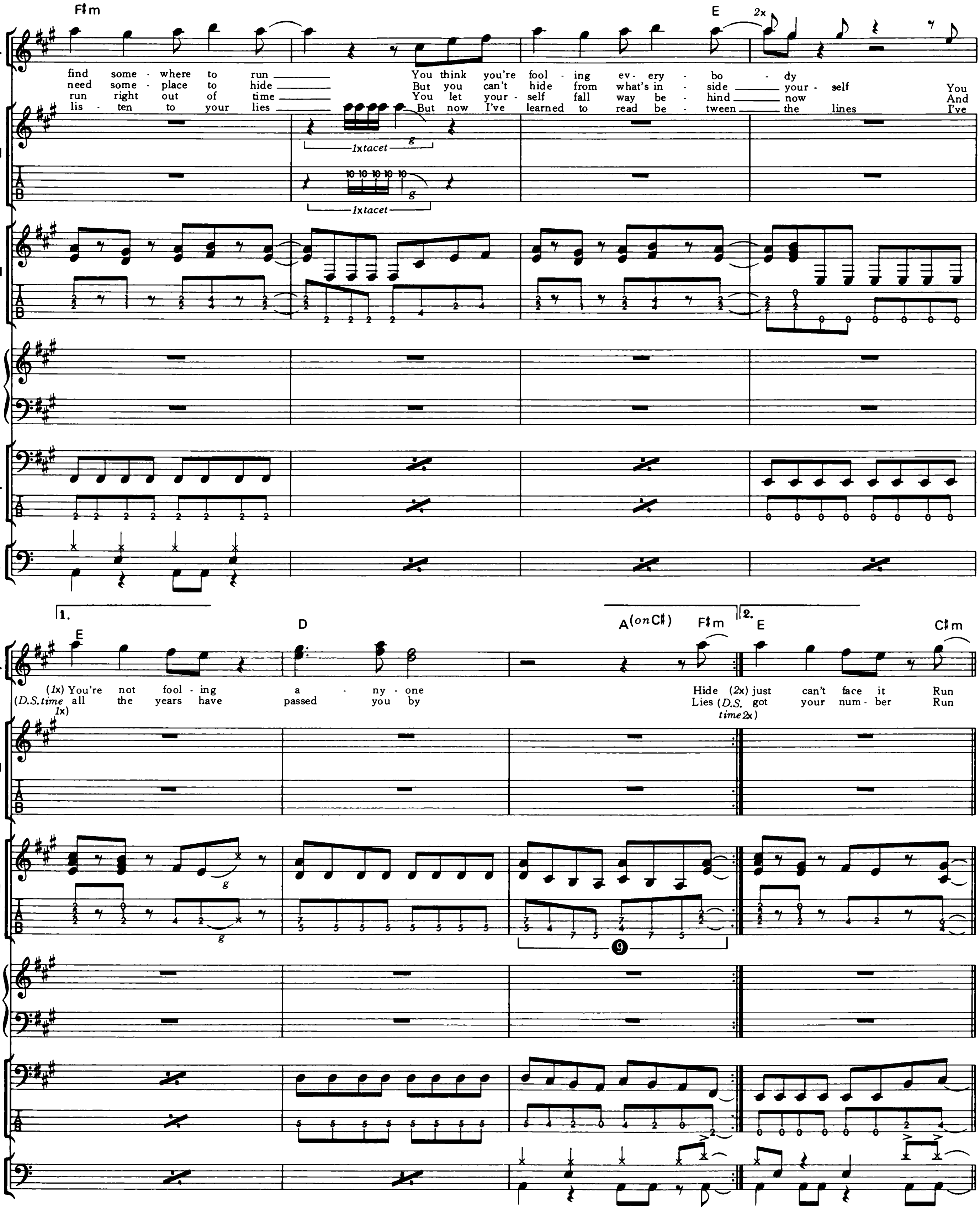
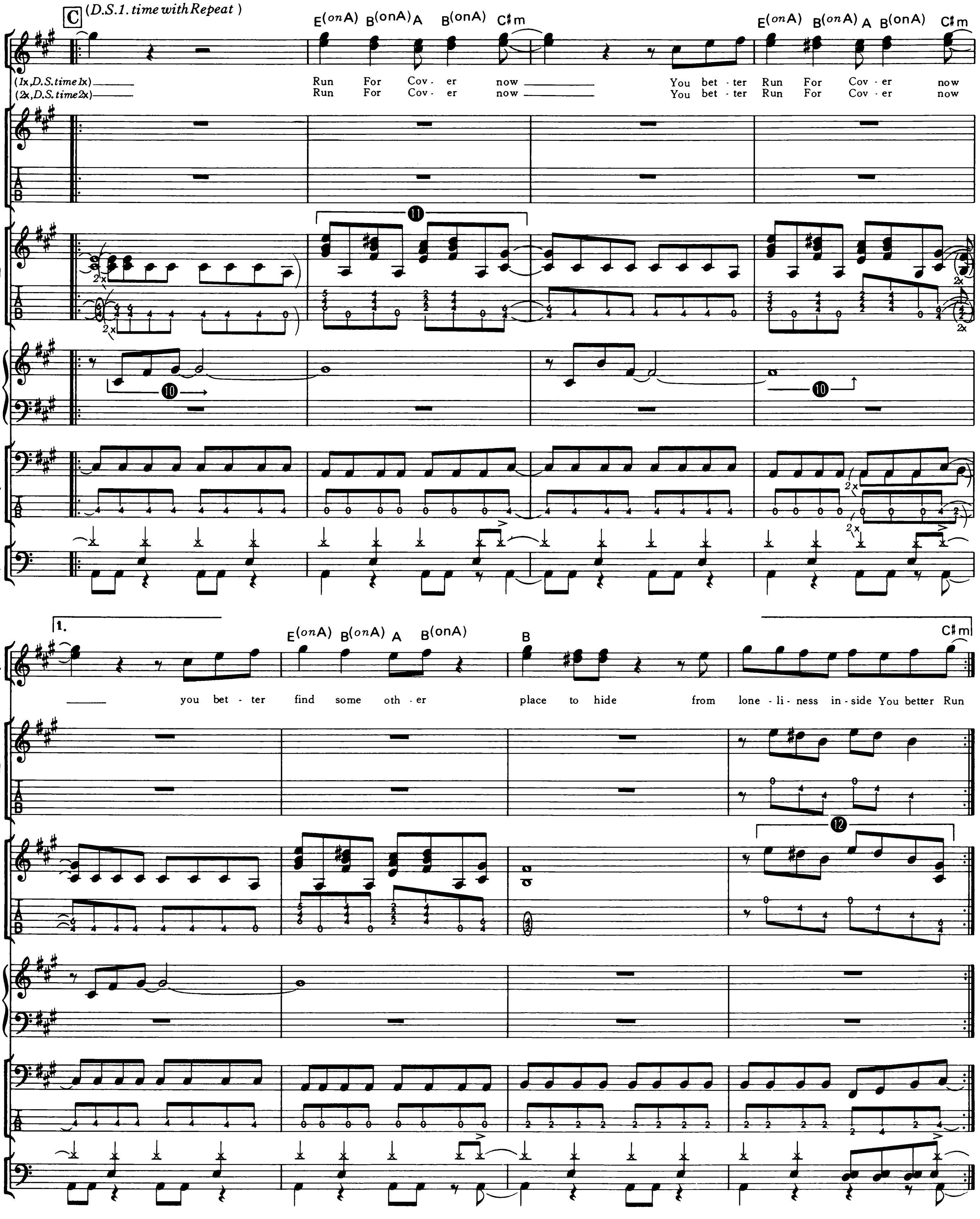
❶(Kb.)：シーケンサーによるものと思われる。ゆっくり弾けば沖縄音階のように聴こえるが、スピードがつくとソリッドに聴こえてくるという面白いフレーズだ。これは音色の異なるシンセ2台の同期演奏だろう。

E
G
Vo.
Gt.-I
Gt.-II
Kb.
(8va bassa)
(8va bassa)
Ba.
Dr.
A
B
Vo.
Gt.-I
Gt.-II
Kb.
8va bassa
Ba.
Dr.

❷(Kb.)：❶と同様だが、若干トーンを変えたほうが効果的。D.S.timeは、シーケンサーのテンポにドラムスなどの他パートが合わせなければならないが、少しくらいずれてしまってもそれほどおかしくはないはずだ。

❸(Dr.)：左足によるハイハットのリズム・キープを忘れずに。

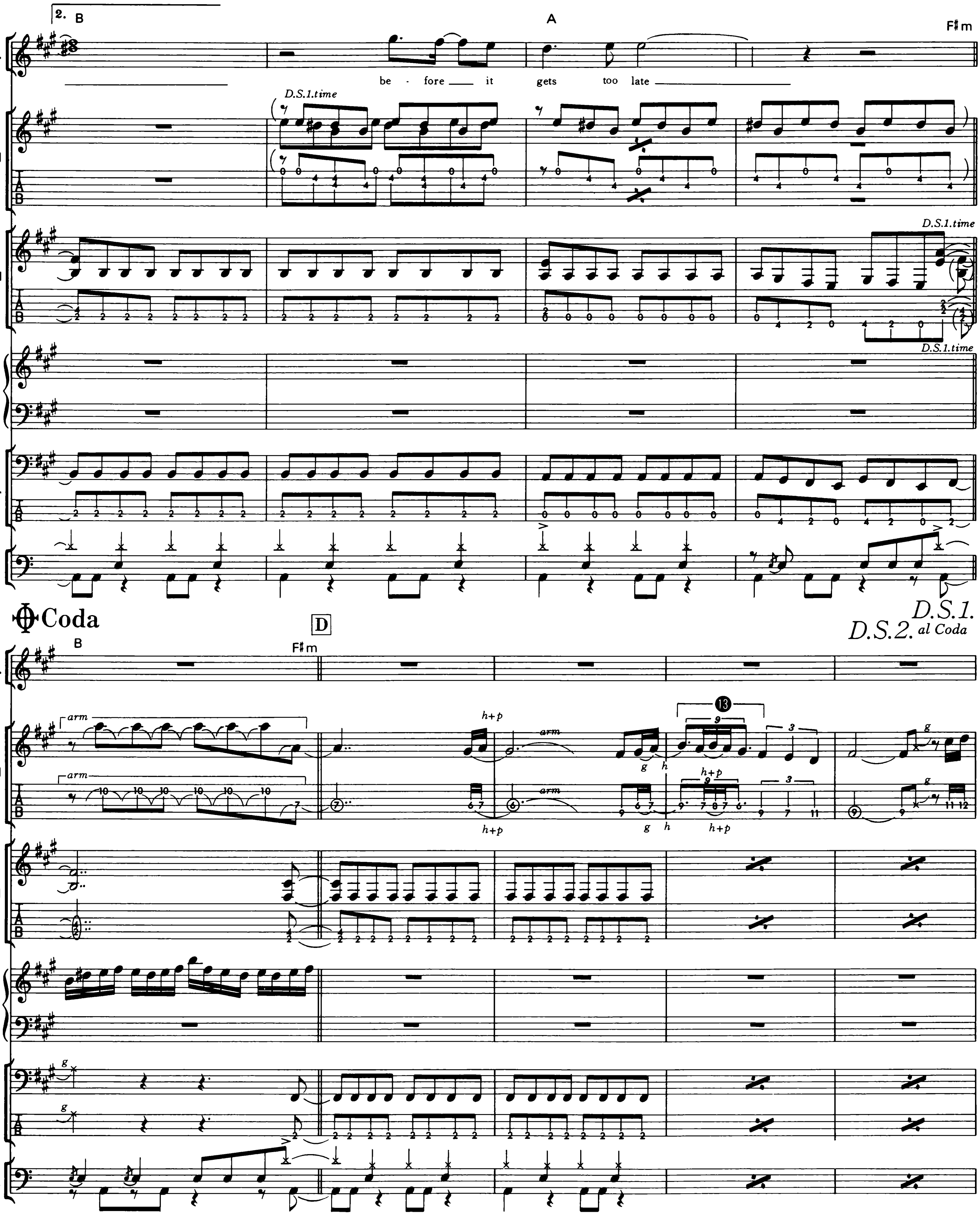
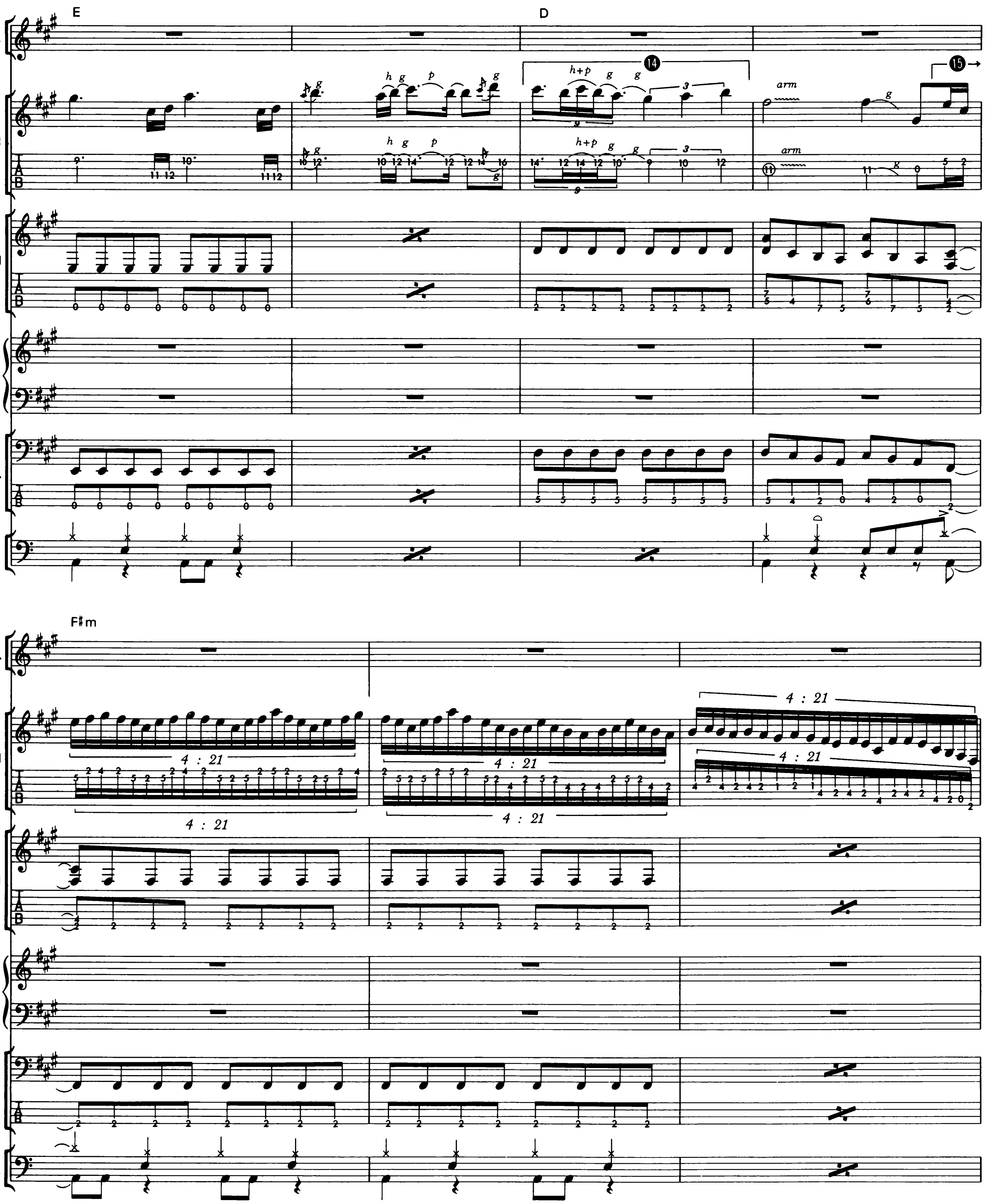
❹(Gt.)：３・４弦の４度音程の和音が、いかにも彼らしいリフ・パターン。シンプルなわりには押弦がめんどうだ。6/2を親指で押さえれば、3/2・4/2を人差し指、3/1・4/1を人差し指、3/4・4/4を小指・薬指で押弦することになる。または6/2を中指で押さえ、3/2・4/2を薬指、3/1・4/1を人差し指、3/4・4/4を薬指で押弦するという方法もある。

❺(Ba.)：ピックによるルート音の8分弾き。ピッキングはもちろんダウンで。

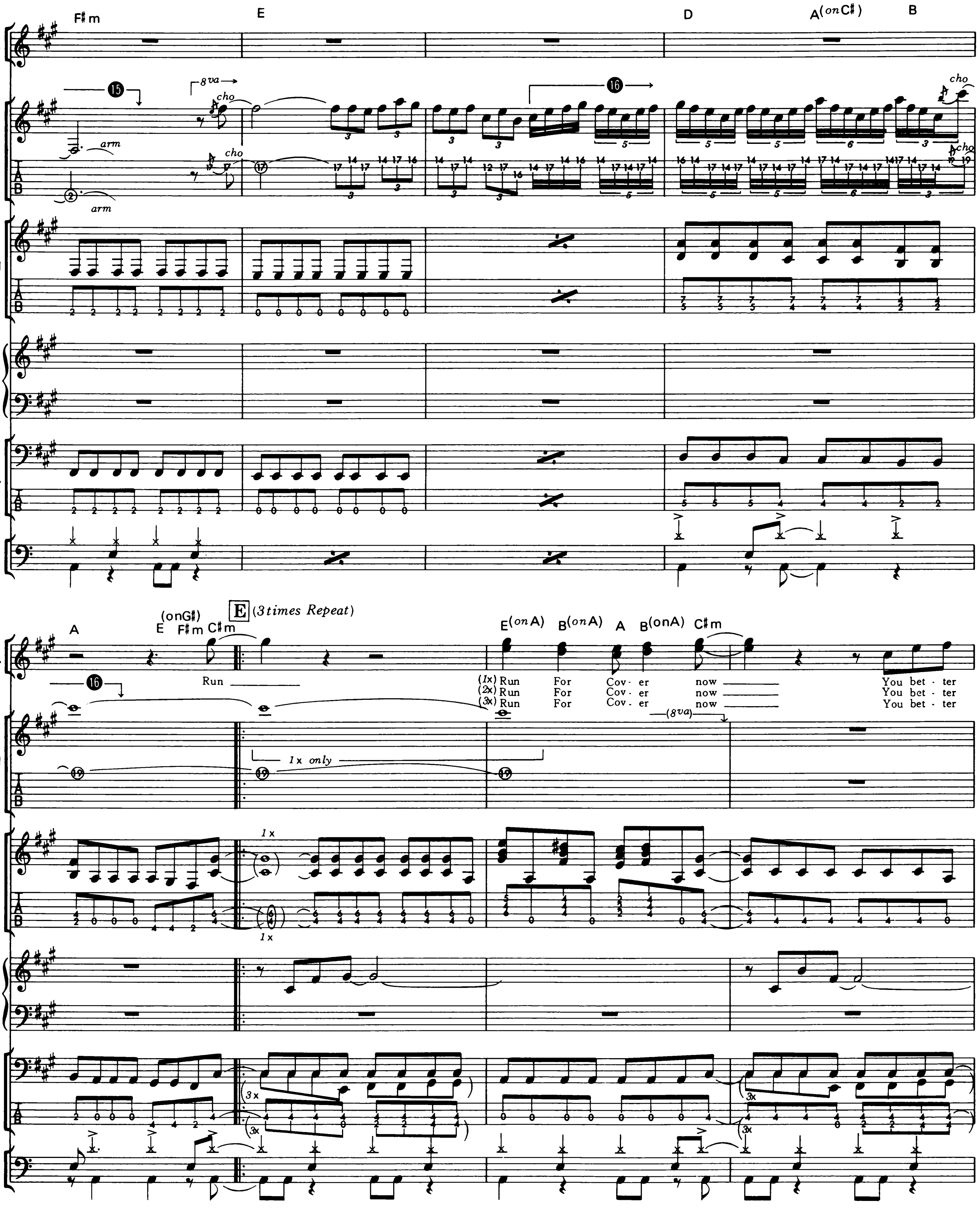
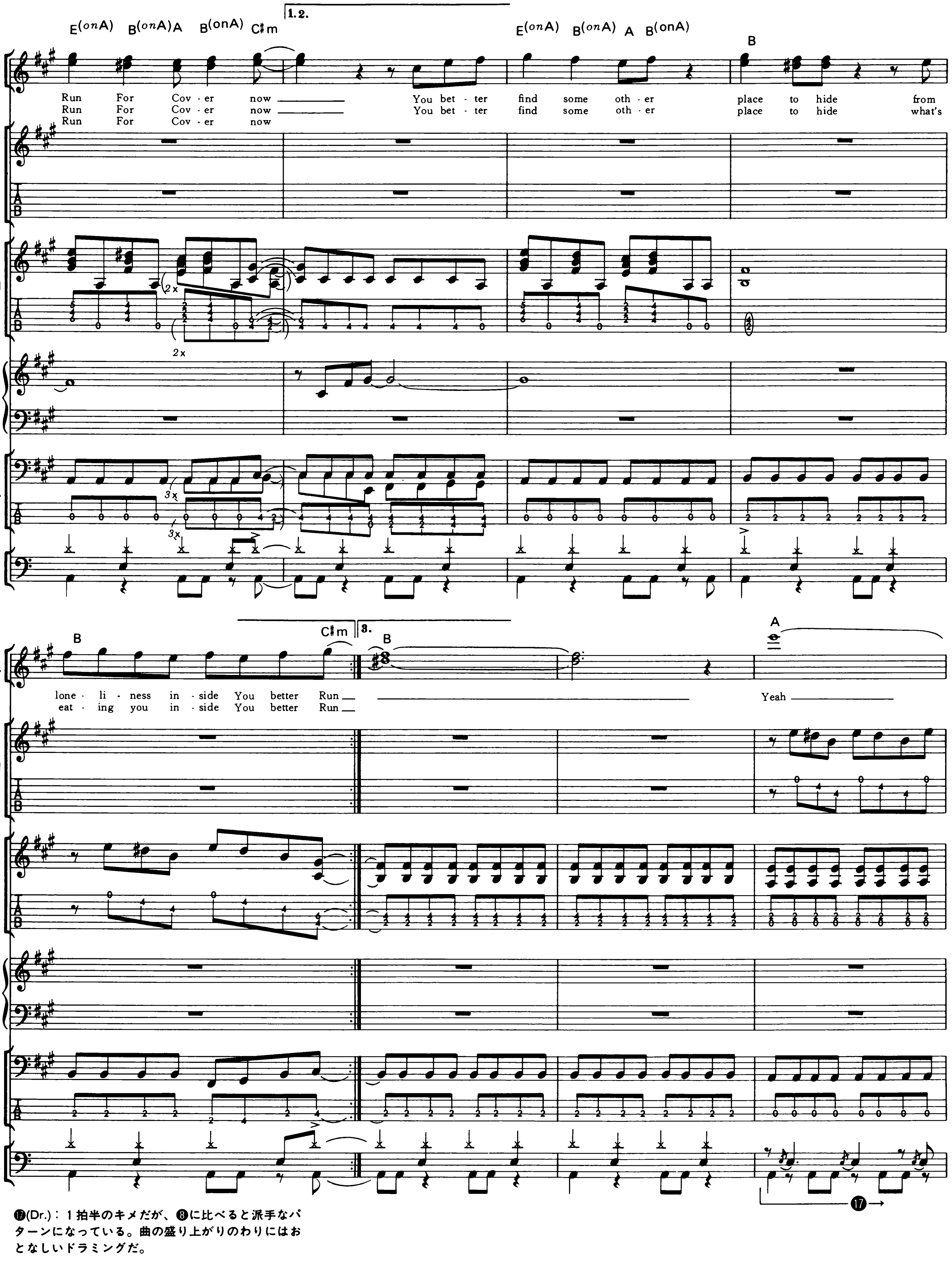
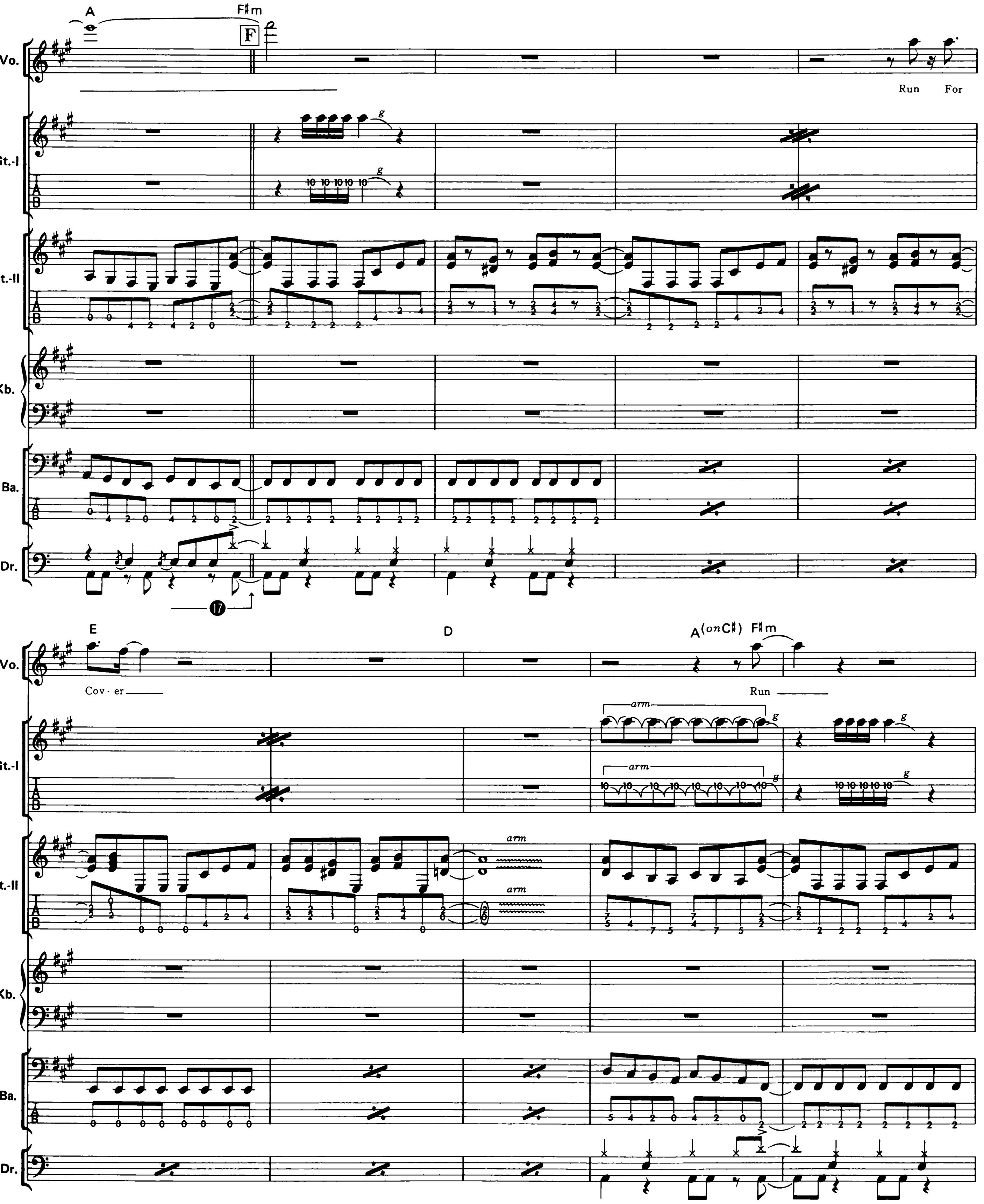
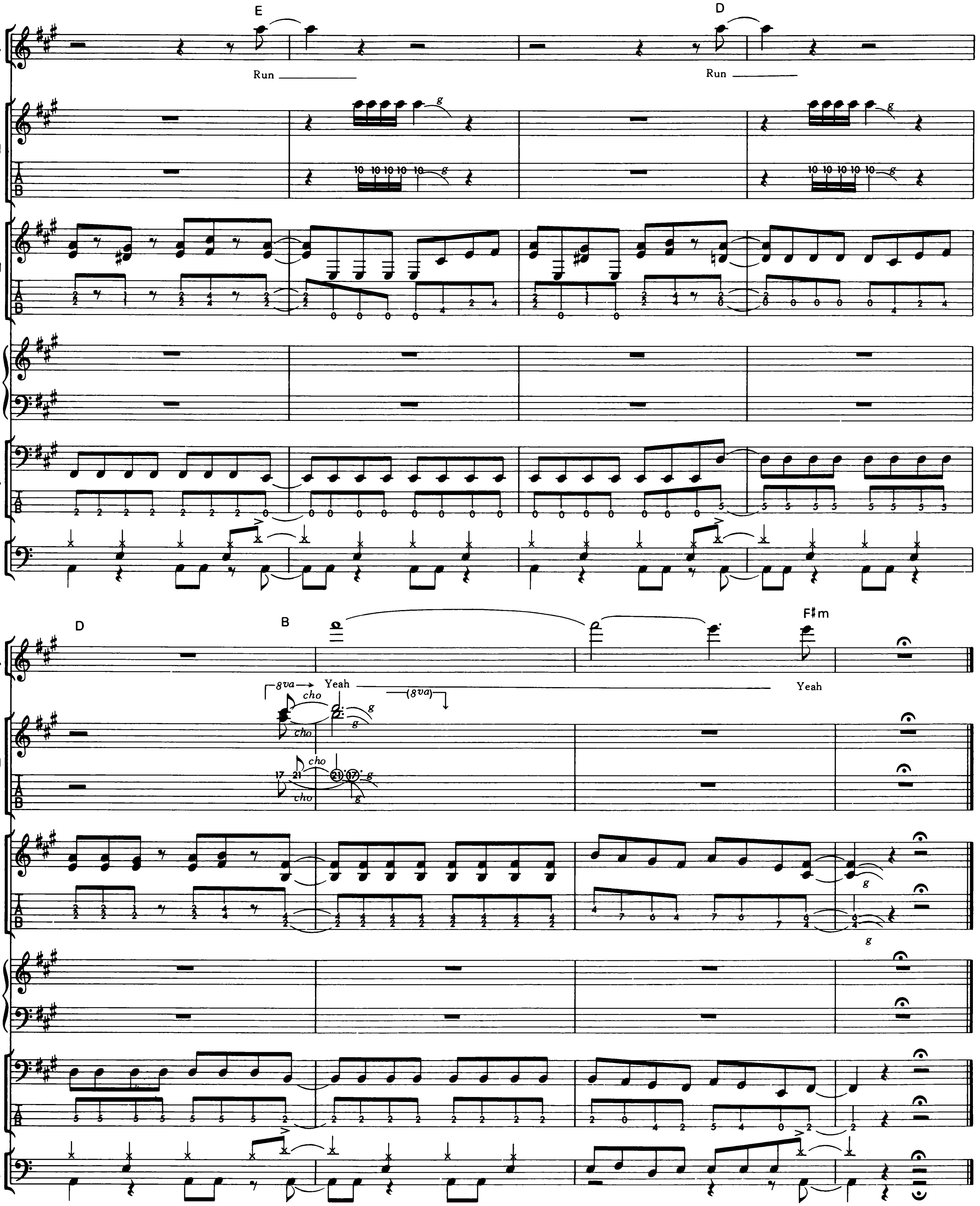
❻(Gt.)：2/2・3/2を薬指、4/2を中指で押さえておけば、2/0・3/1・4/2への移動が楽になる。なお譜面が煩雑になるのであえて表記はしていないが、こういったバッキングのリフは、低音弦をブリッジ近くでミュートして弾くこと。

❼(Gt.)：1拍半の連続によるキメ。普通なら単音ですませてしまうところだが、前半をコードにしているところが彼らしい。

❽(Dr.)：1拍半のキメだが、単純にモチーフを並べたかたちにはなっていない。4拍目のスネアがポイントだ。

❾(Gt.)：❼同様、1・3拍目アタマはコードになっている。人差し指を4フレットに置き、小指まで使ったフィンガリングになる。

❿(Kb.)：ヴォーカルのバックでは唯一のプレイだが、非常に印象的な音作りだ。

⓫(Gt.)：5/0のベース音と2～4弦のコードを用いたリフ。5弦のミュートと、2～3弦のフィンガリングがポイント。2/5・3/4・4/6は中指・人差し指・薬指で、2/2・3/2・4/2は人差し指のジョイント、2/4・3/4・4/4は薬指のジョイントになる。1弦の音が出てしまわないように注意しよう。

⓬(Gt.)：ここはB add 11というコードになっている。1弦の開放の使いかたが上手い。

⑬(Gt.)：２拍３連の２つめを３連にした、という符割りだが、実際は♫ ♫の真中の♪♪を３連にした感じだ。ただこれだとわかりにくくなるので、譜面のような符割りにしておいたワケだ。

⑭(Gt.)：これも⑬と同様だ。

⑮(Gt.)：大変な速弾きだ。4：21は4拍に音が21個入っているという意味だ。1拍5連の勢いが余ってこうなったと思ってほしい。不規則な音の並びかただが、この辺は手クセによるものだろう。

⑯(Gt.)：これもスピーディだが、⑮に比べれば規則性がある分だけ弾き切るのは楽だ。⑮も⑯もこれだけの速弾きなのに、ピッキングが弱まっていないのがすごい。

⑰(Dr.)：１拍半のキメだが、❽に比べると派手なパターンになっている。曲の盛り上がりのわりにはおとなしいドラミングだ。

A
F♯m
F
Vo.
Run For
Gt.-I
Gt.-II
Kb.
Ba.
Dr.
17
E
D
A(onC♯) F♯m
Cov - er
Run
arm

E
D
Run
Run
Vo.
Gt.-I
Gt.-II
Kb.
Ba.
Dr.
D
B
F♯m
Yeah
Yeah
cho
8va

Once In A Lifetime

●ワンス・イン・ア・ライフタイム　by G.Moore

Copyright©1985 by 10 Music Ltd.
The rights for Japan assigned to CBS/SONY SONGS
Sale of this edition is authorized within Japan only.

この曲のポイント

■Guitar

ゲイリー・ムーアのギター・プレイは、力でゴリ押しというような印象を受けるほどまでにワイルドなのだが、それと同時に非常に繊細な一面も持っている。たとえば、どんなにワイルドでも、またどんな速弾きでも、必要な弦の音だけを大変力強く弾くというのは、パワーだけでは絶対に不可能なことだ。ギター・ソロの泣きも彼ならではのものだが、トレモロを使ったゆるやかなヴィブラートは近年の彼の特徴といえる。

■Keyboard

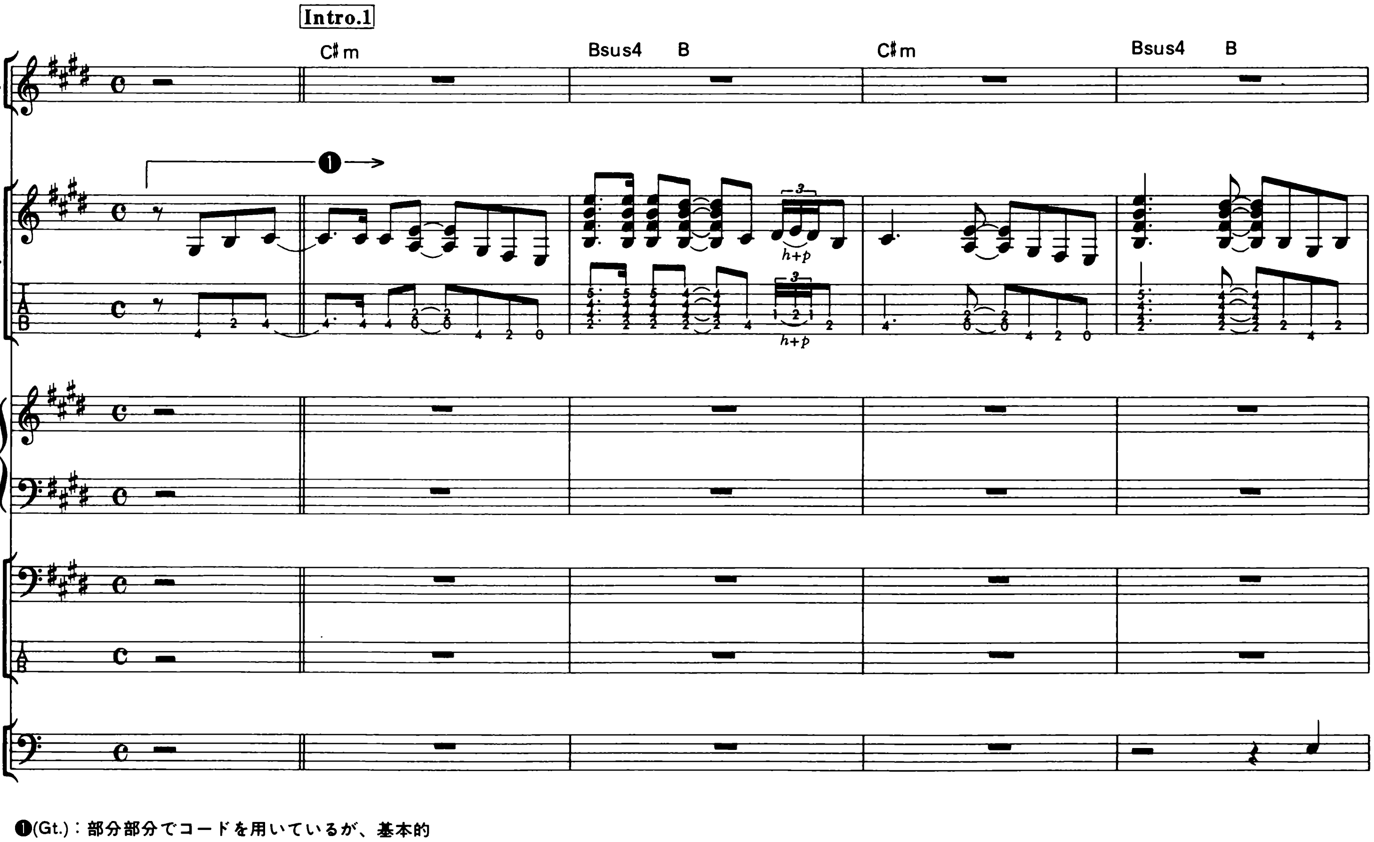
アルペジオとギター・リフのフォローという２つのパターンがある。Ⓑのラストと Ⓓでのコードは重要な部分だ。

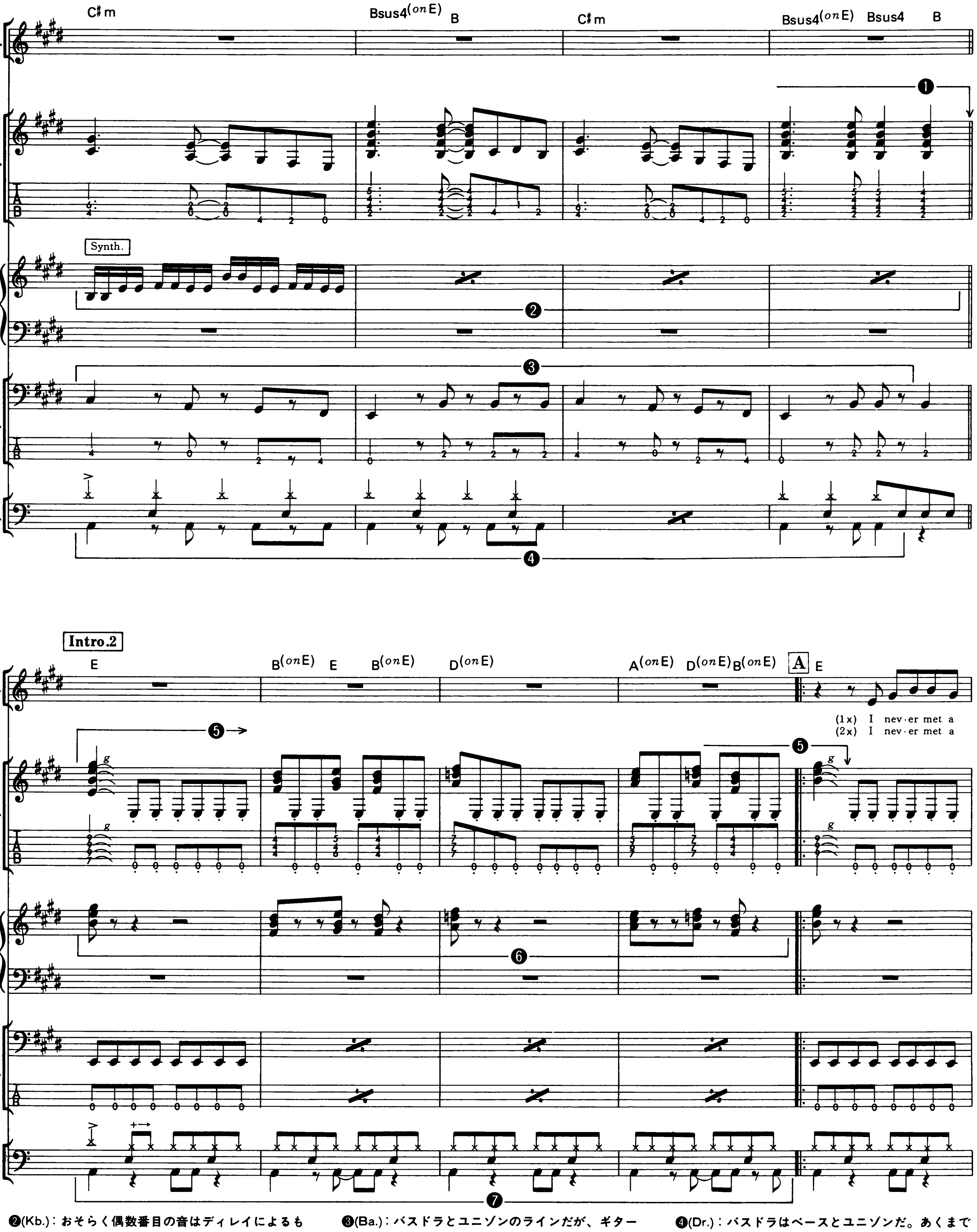
■Bass

シンプルなプレイだが、オモテを休んでウラを弾く部分が多いので、バスドラと息を合わせ、ヘヴィにプレイしてほしい。

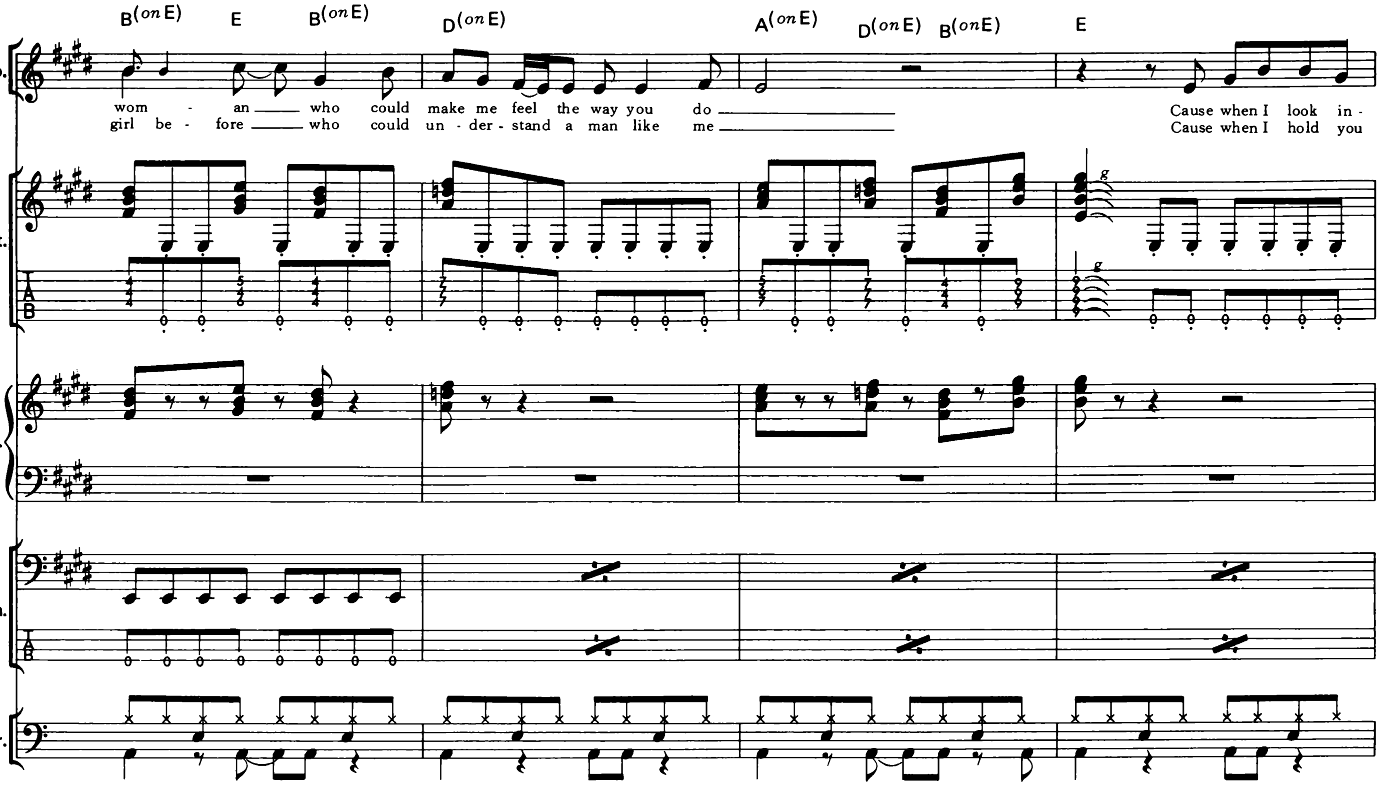
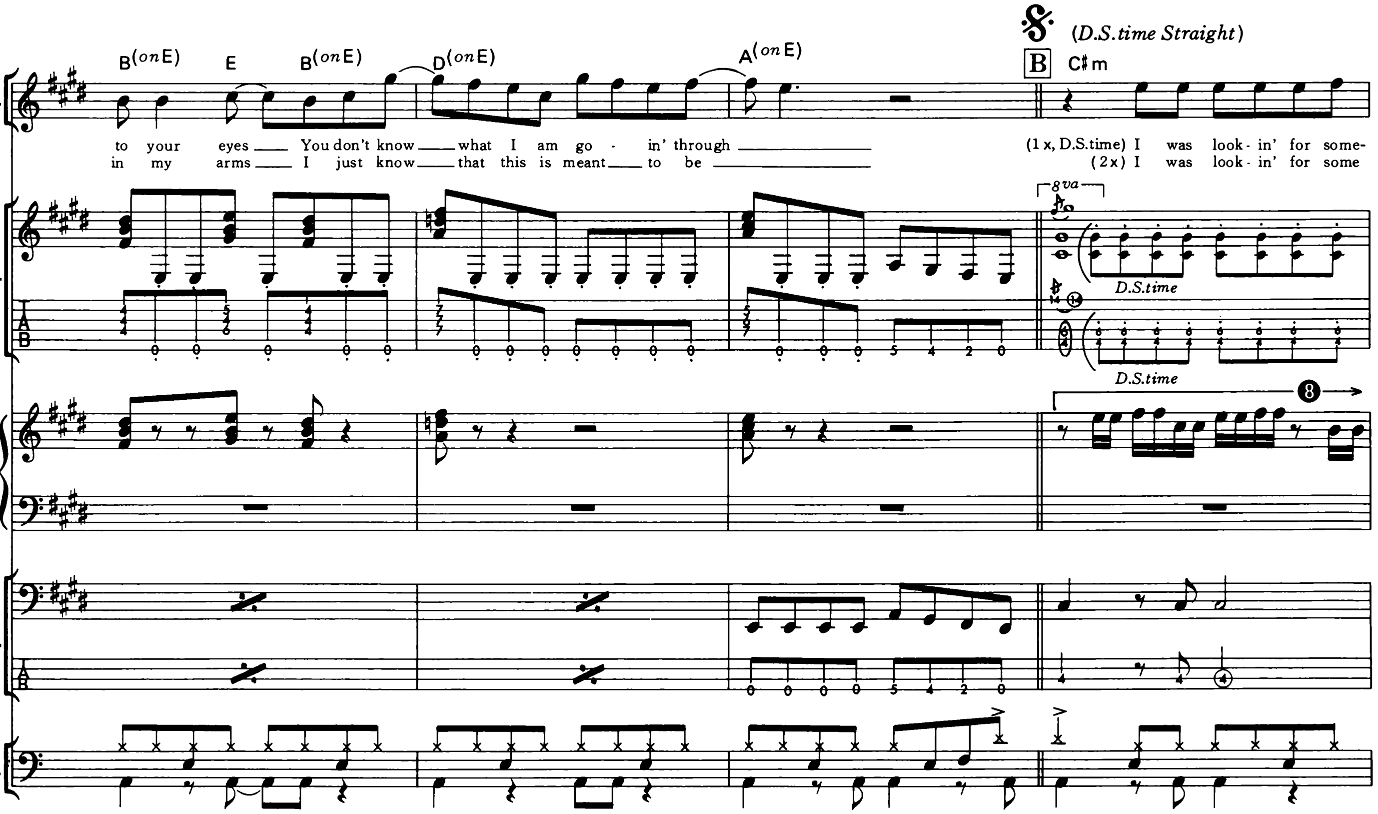
■Drums

ハイハット、スネアは淡々と、バスドラはヘヴィに、という気持ちでドラミングを。特にベースとのコンビネーションに気を使いたい。



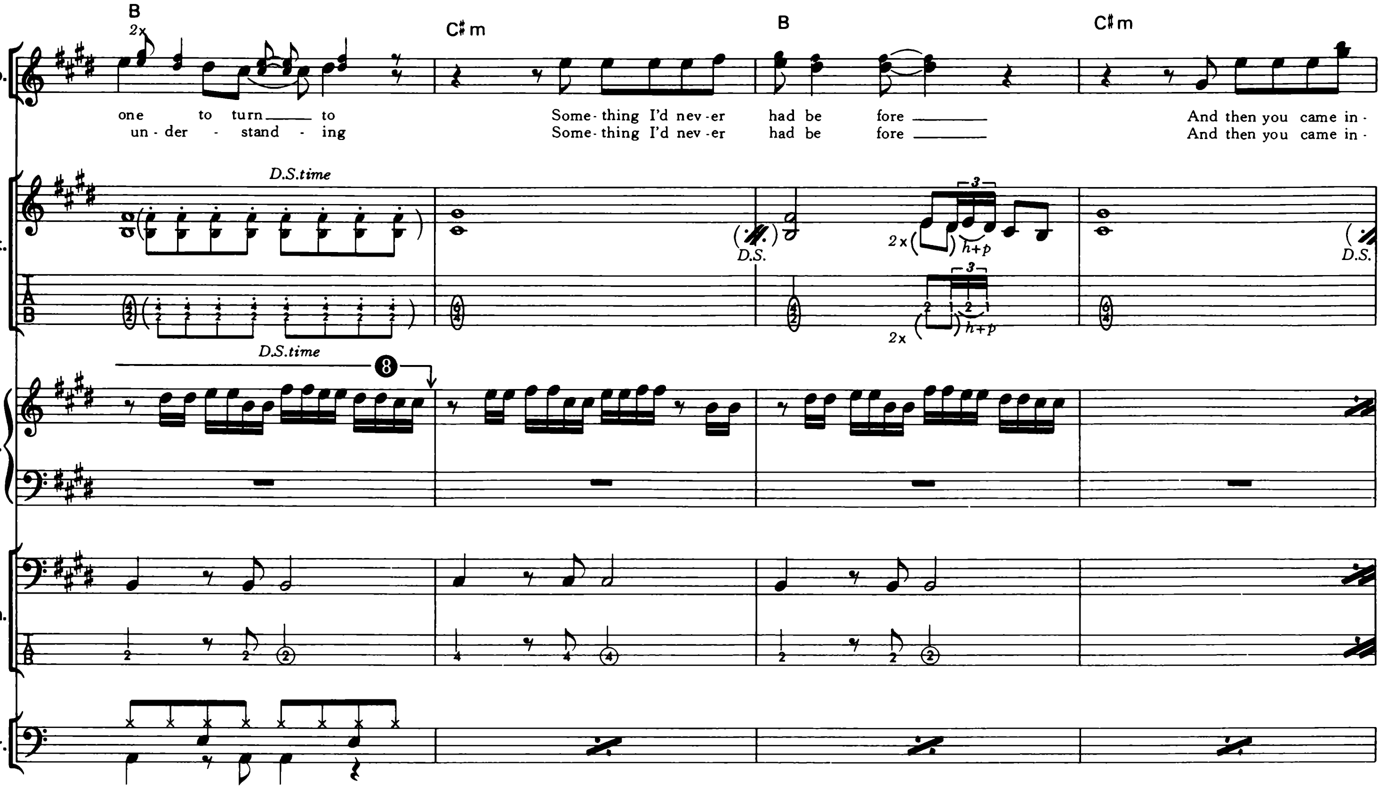
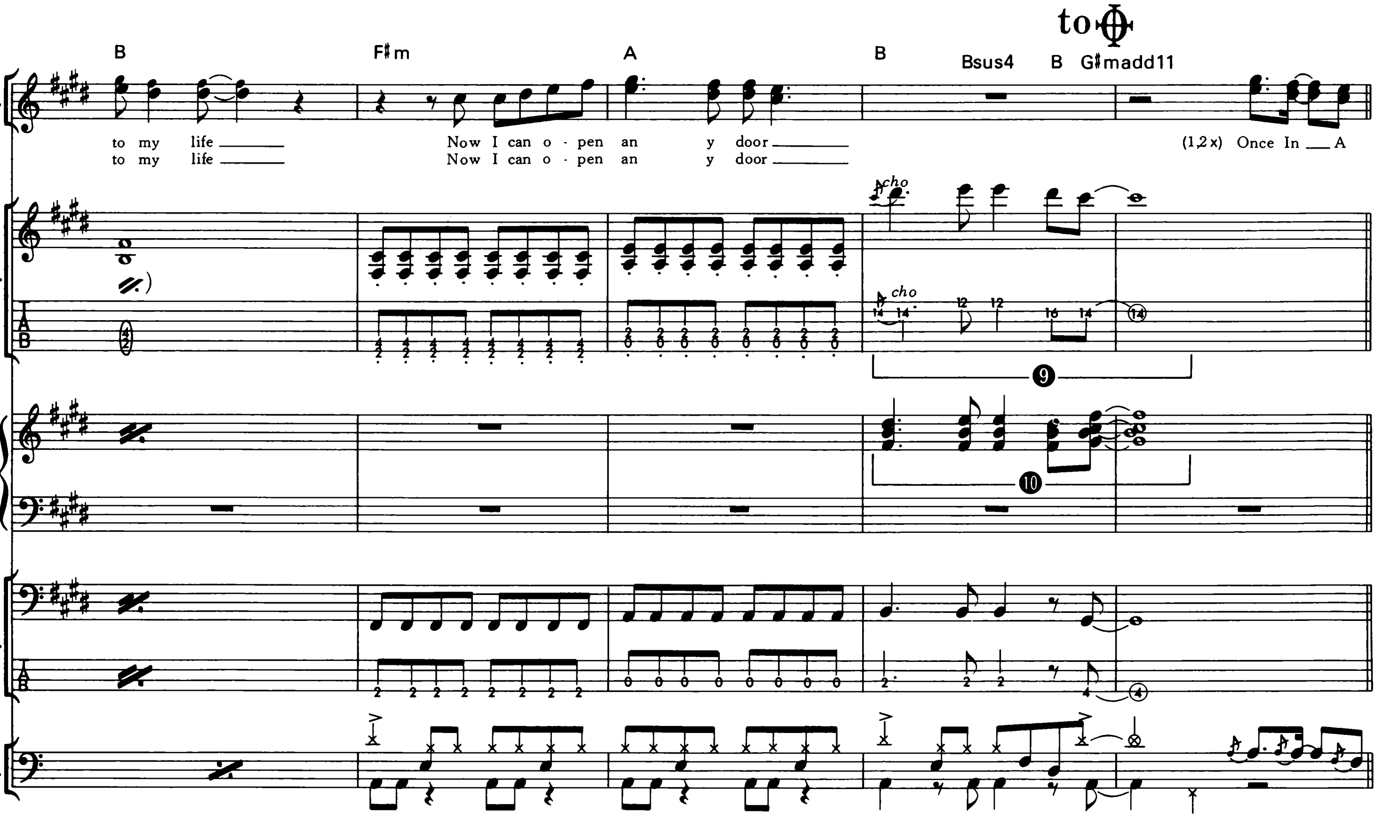
❶(Gt.)：部分部分でコードを用いているが、基本的には単音中心のリフだ。４本の指をフルに使わないとスムーズに弾けない。

❷(Kb.)：おそらく偶数番目の音はディレイによるものだろう。デジタル・ディレイをシングル・ディレイにセットし、ディレイ・タイムを♪に合わせて使っているというワケ。

❸(Ba.)：バスドラとユニゾンのラインだが、ギターのラインとはユニゾンになっていないことに注目したい。計算されたものか偶然かは定かではないが、ギターとのずれは非常に効果的に音の厚味を生み出している。

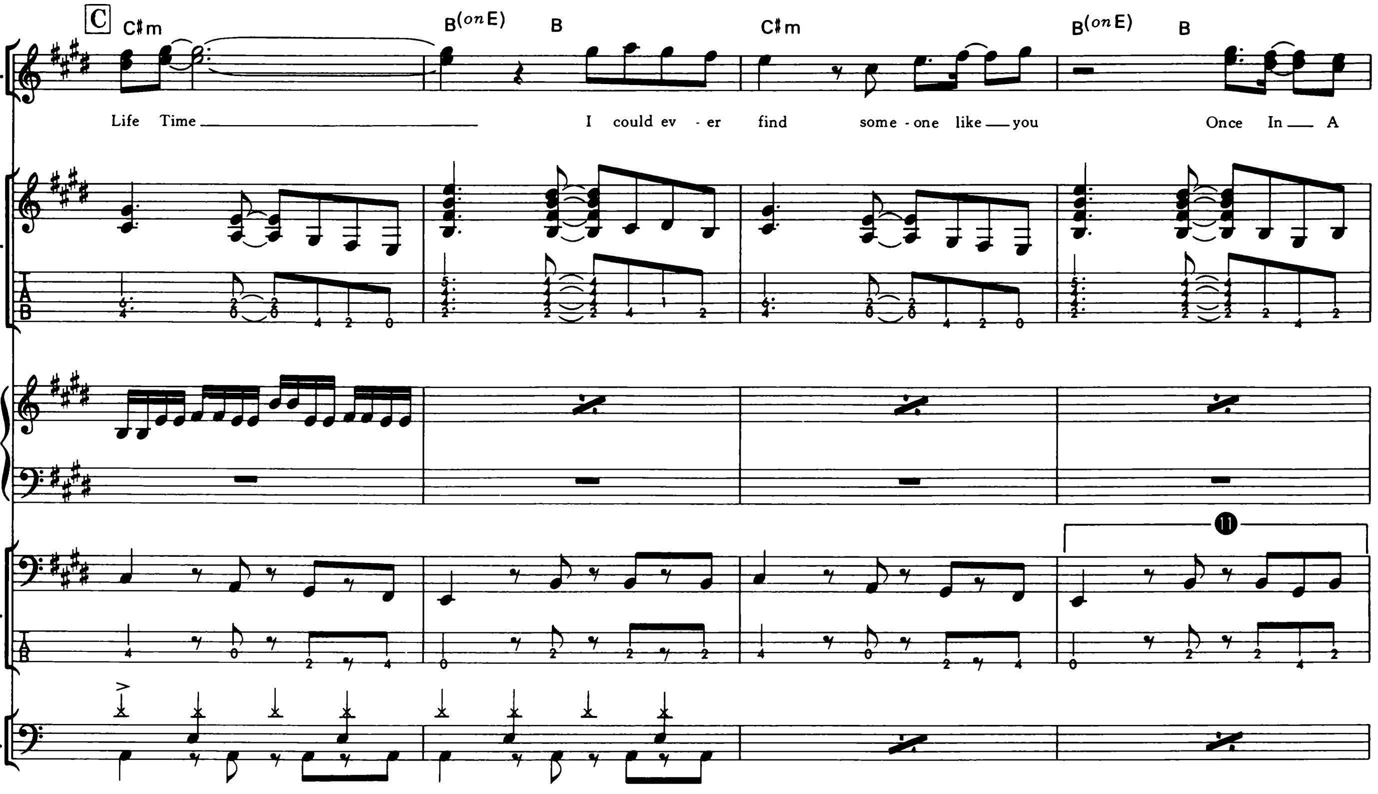
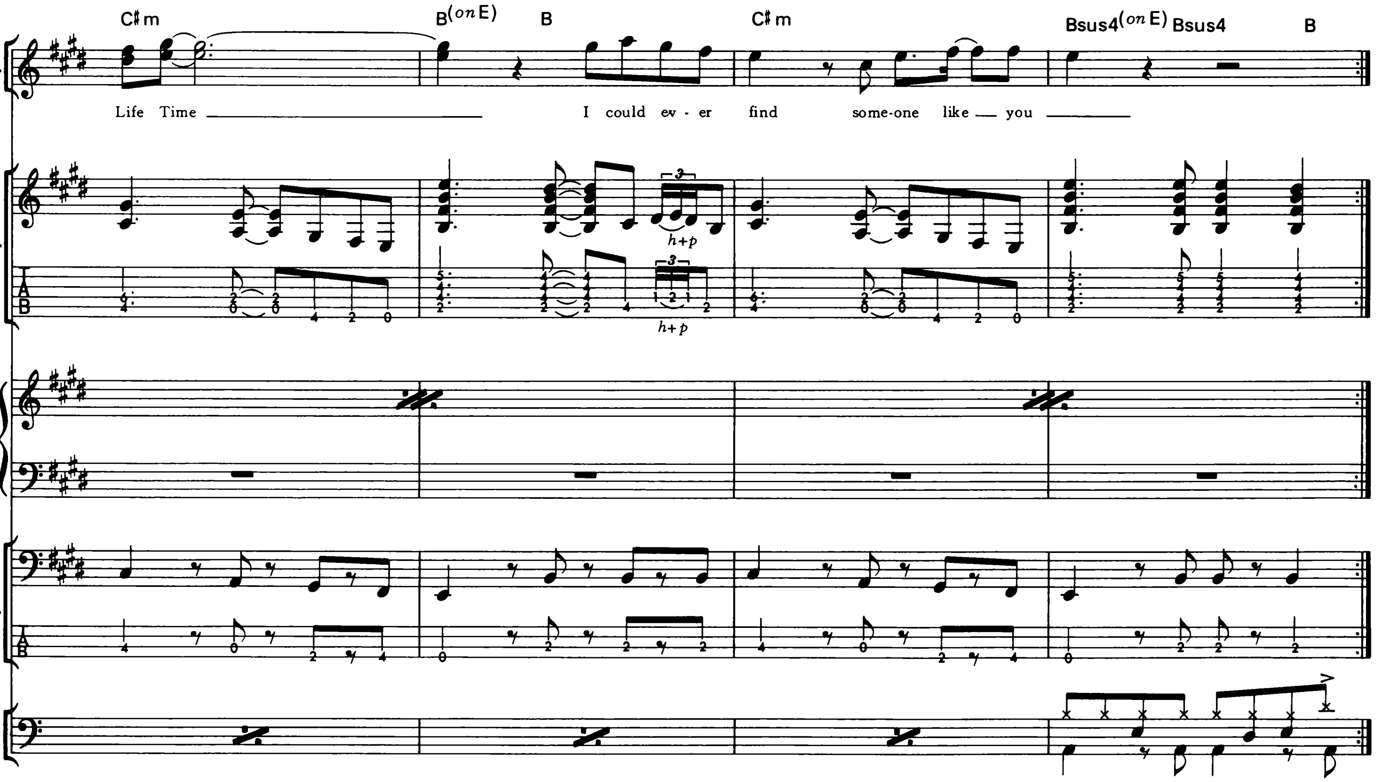
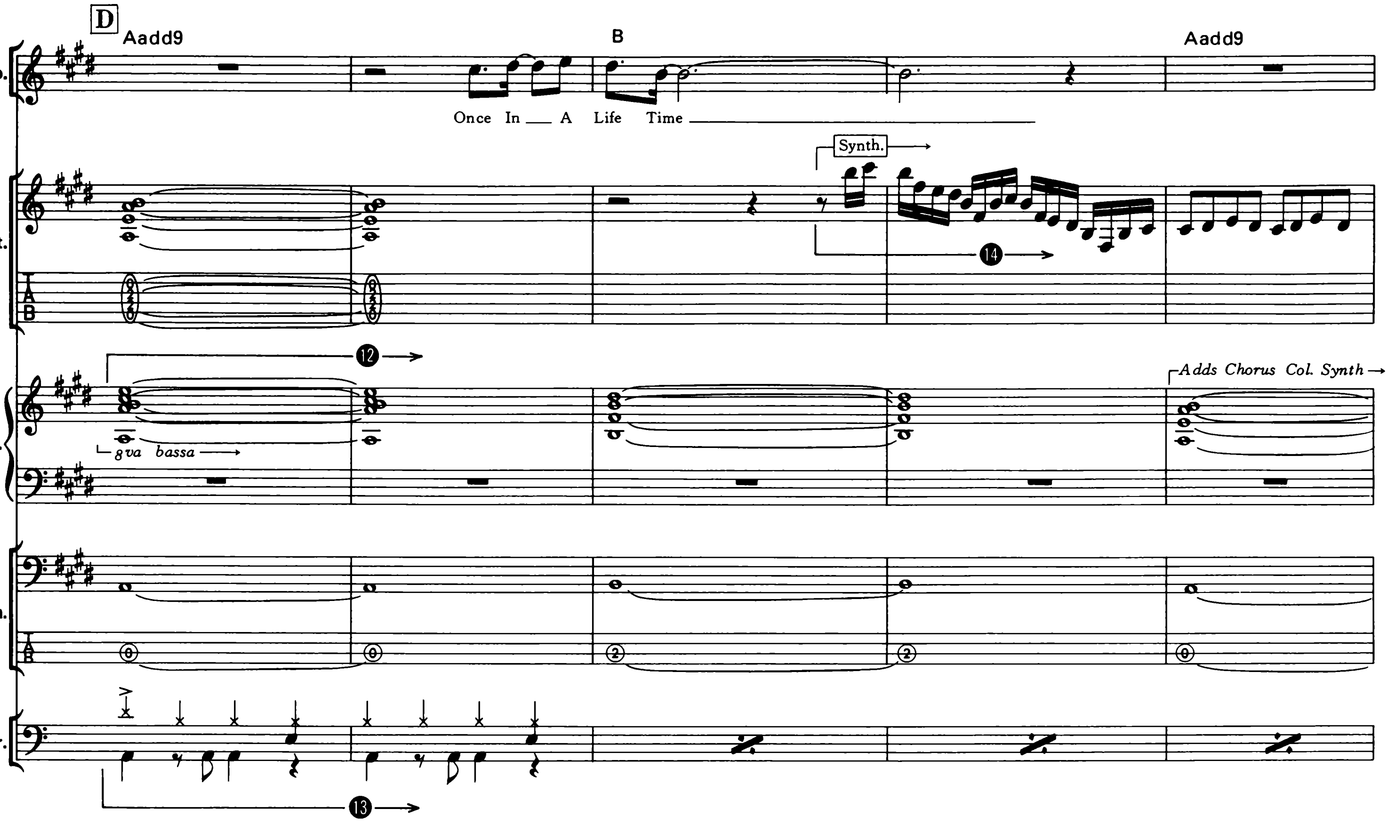
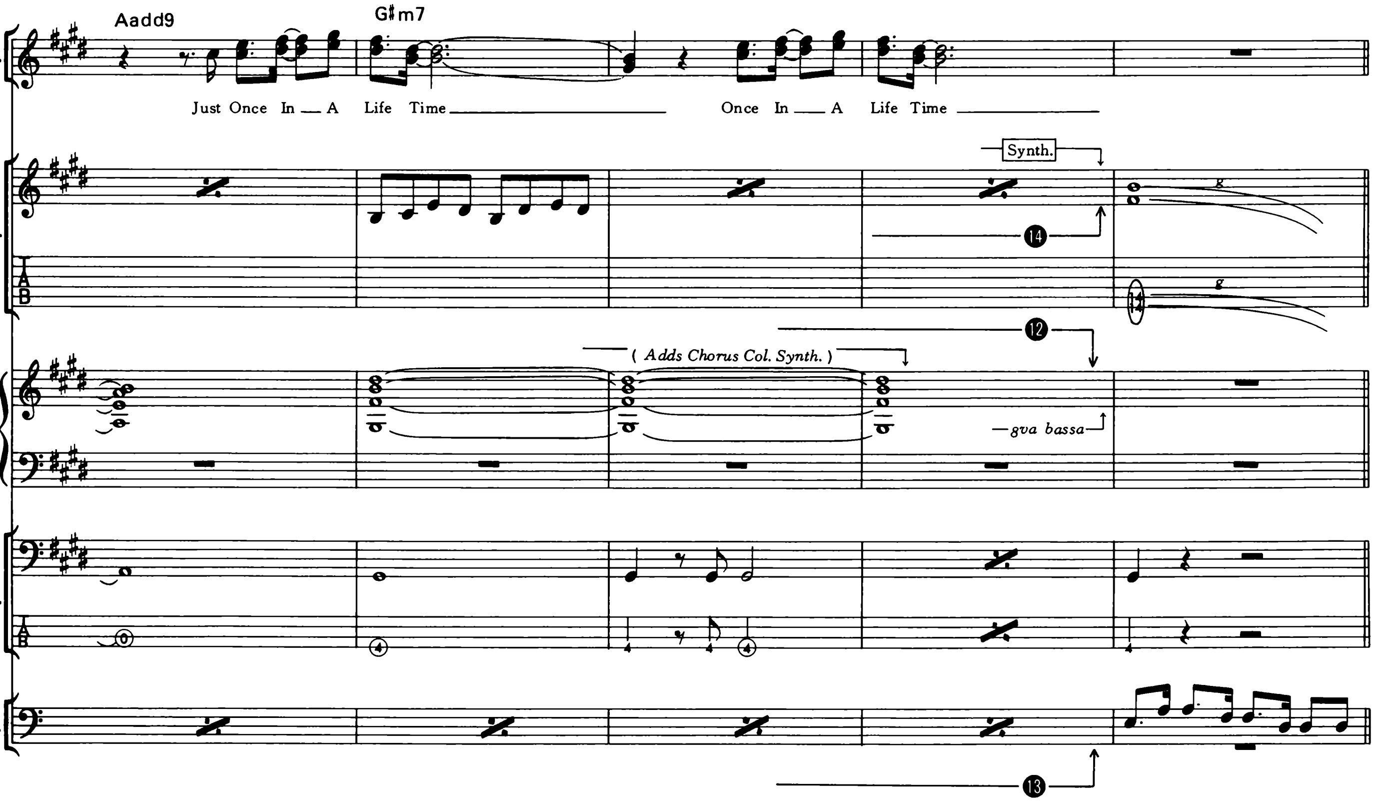
❹(Dr.)：バスドラはベースとユニゾンだ。あくまでヘヴィに。

❺(Gt.)：❶のブルージーな感じから一転してポップなリフになる。$\frac{6}{0}$はブリッジ近くでミュート。$\frac{2}{4}$・$\frac{3}{4}$・$\frac{5}{4}$は人差し指のジョイント、$\frac{2}{5}$・$\frac{3}{4}$・$\frac{4}{6}$は中指・人差し指・薬指で、$\frac{2}{7}$・$\frac{3}{7}$・$\frac{4}{7}$は薬指のジョイント、$\frac{2}{5}$・$\frac{3}{6}$・$\frac{4}{7}$は人差し指・中指・薬指で押弦する。

❻(Kb.)：ギターのコードをフォローする。明るい音で、スタッカート気味に歯切れよく。

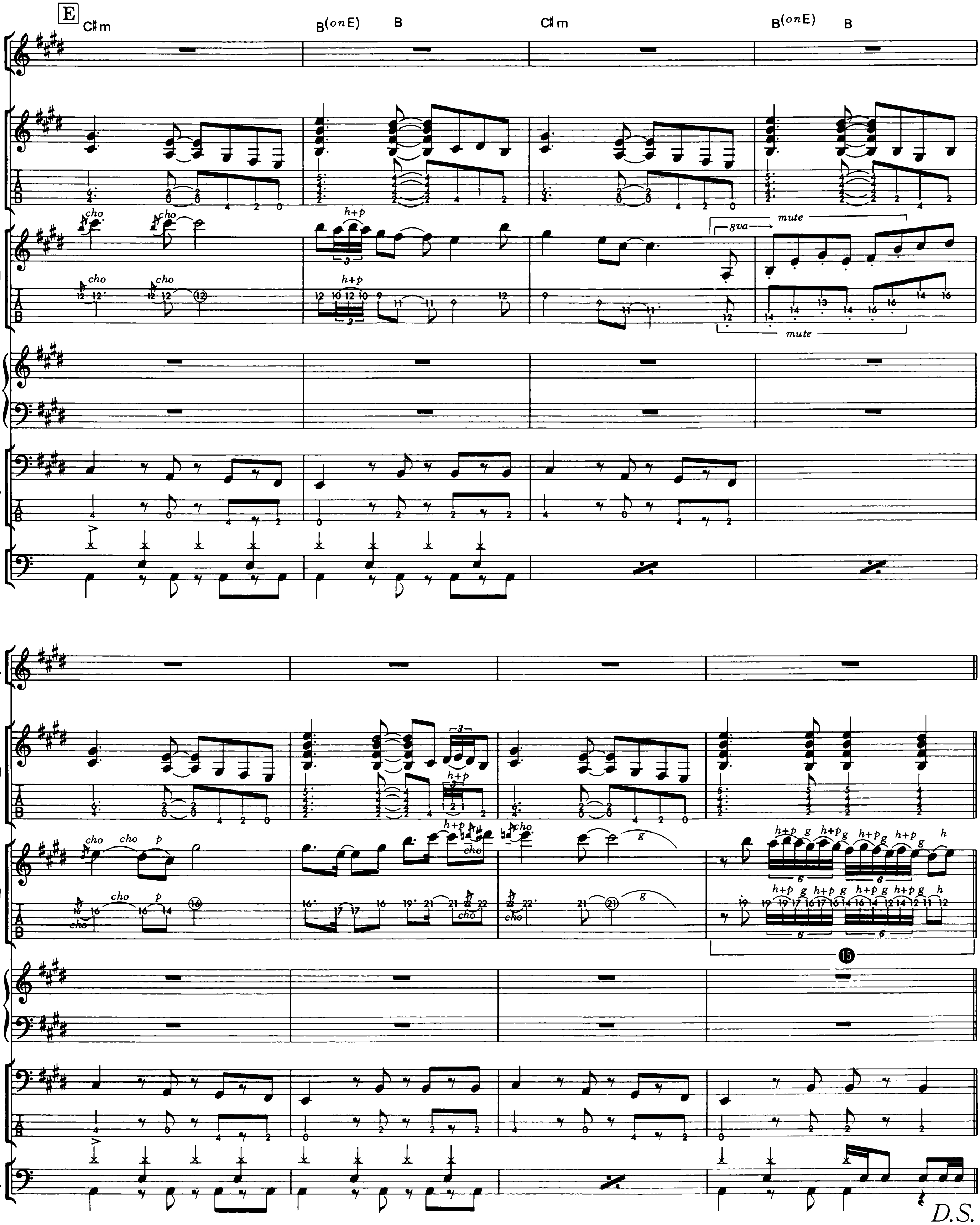
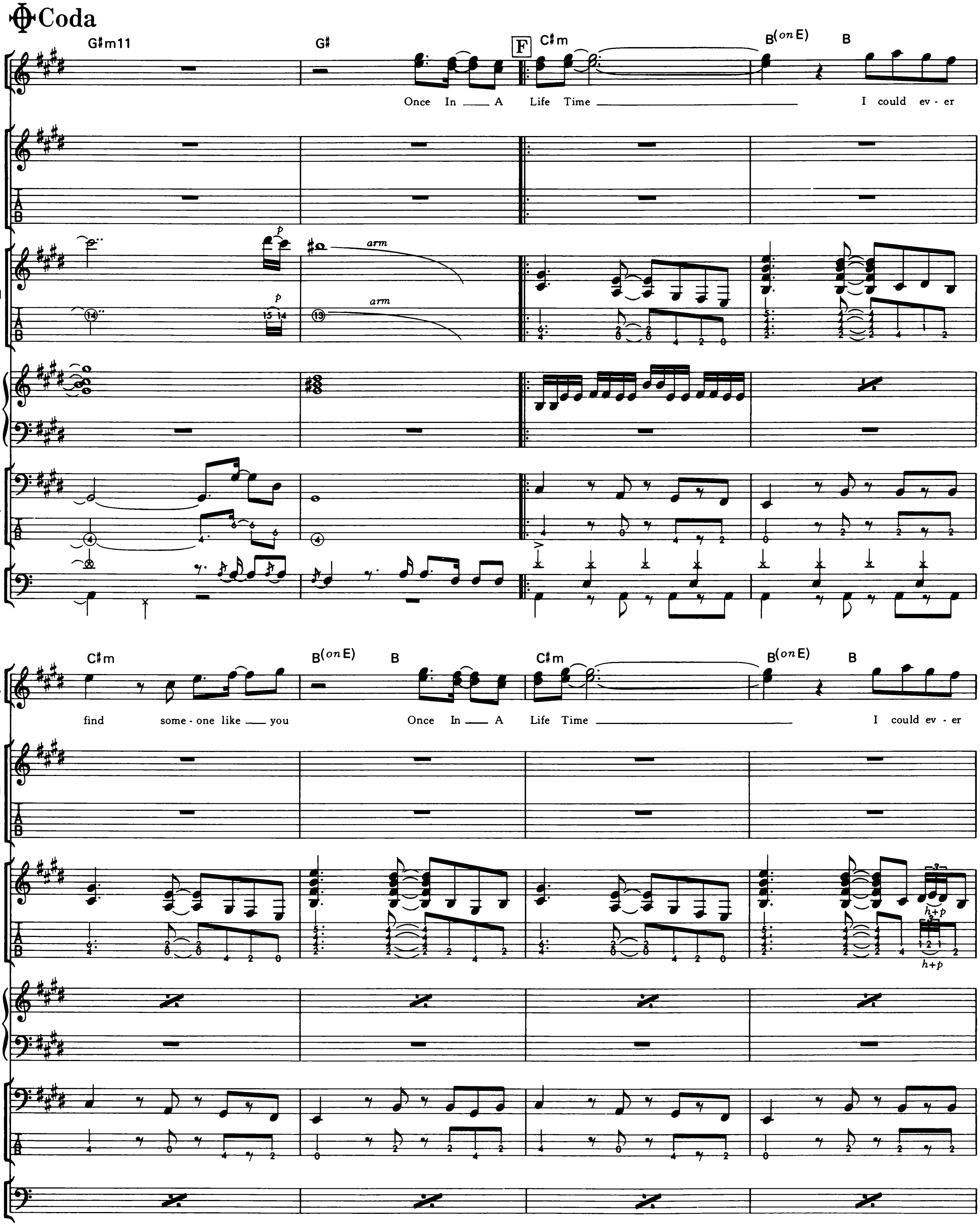
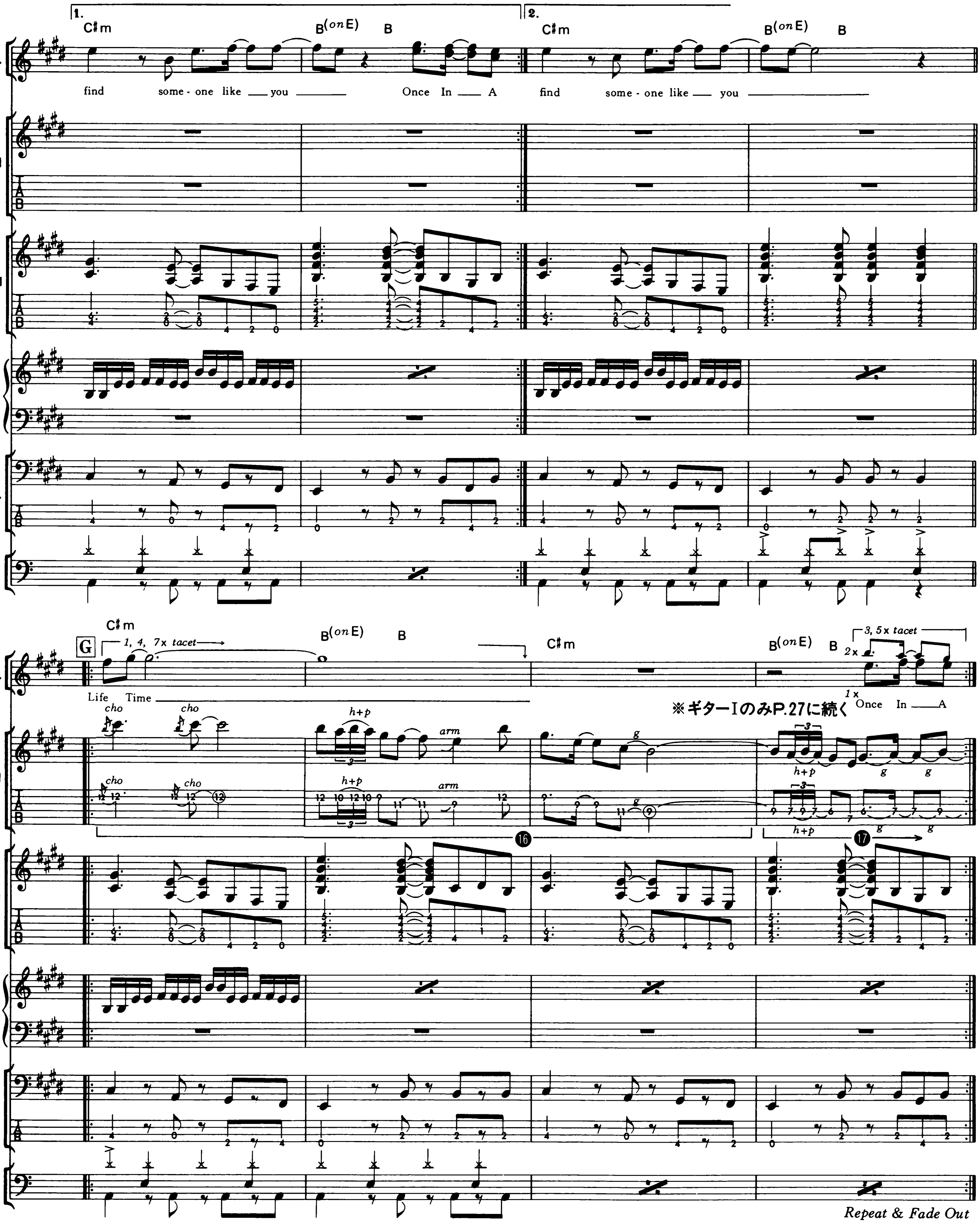
❼(Dr.)：バスドラは４小節パターンになっているので注意。

❽(Kb.)：これも❷同様に、ディレイを使ったプレイだろう。



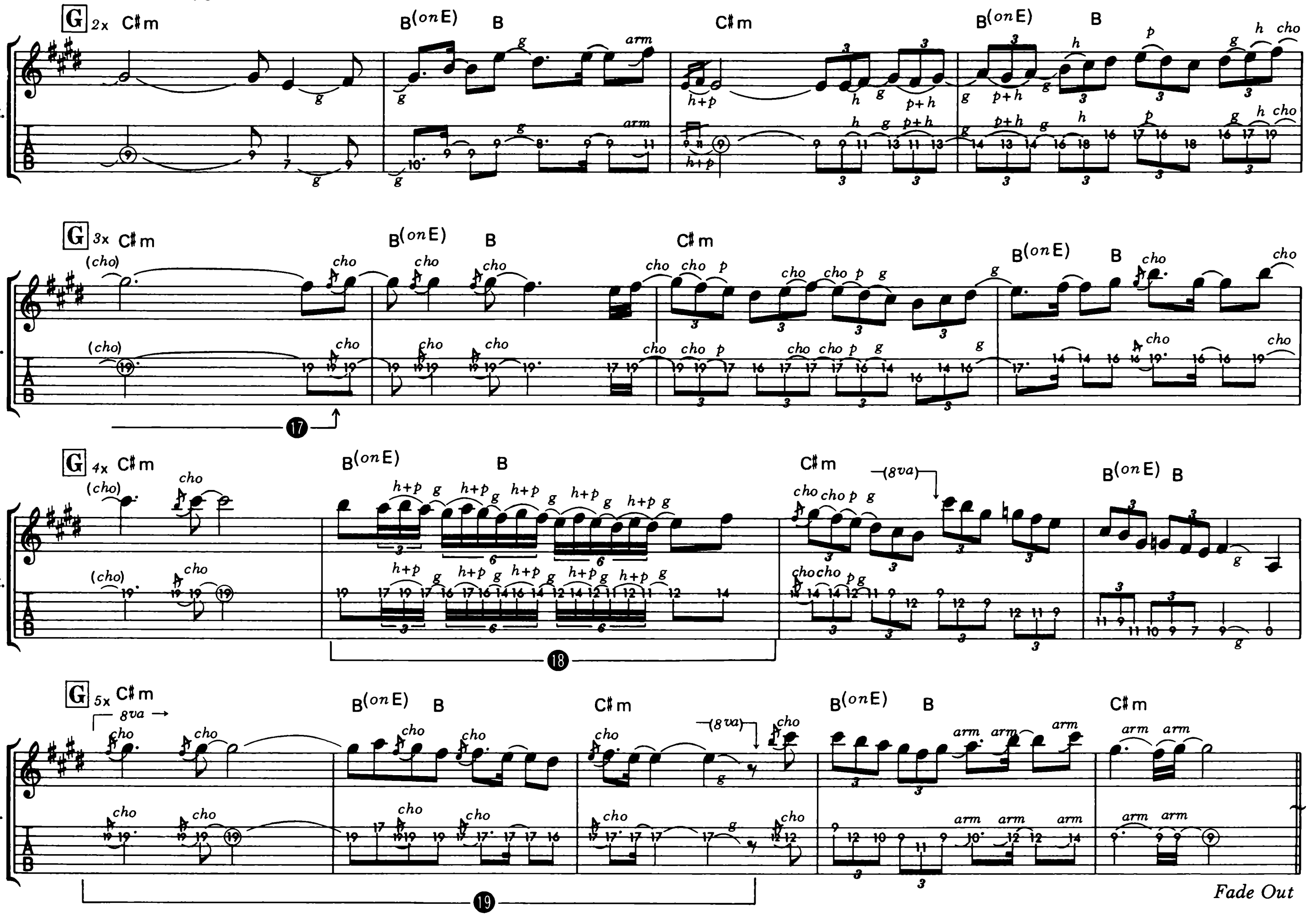
❾(Gt.)：キーボーディストのいないバンドでギタリストも１人の場合は、ここはこの単音のメロディ弾きだけではさびしい。トップ・ノートをメロディと同じにして、コード・ネームに沿ったコード弾きを行うとよいだろう（シンセのコードを参考に）。

❿(Kb.)：キーボーディストはいないがギタリストは２人いる、その場合は１人がこの部分をギターで弾くとよい。ただしラストのG♯音をオクターヴ下げないと弾けない。

⓫(Ba.)：Ⓒは Intro.2 と同様だが、4小節目をこのように弾くことで、4小節パターンのリフとなっている。

⓬(Kb.)：このコードもギターでの代用が可能なものだ。

⓭(Dr.)：Dは倍テンポのため、気分をチェンジしてゆったりとしたノリで。

⓮(Gt.)：これは原曲ではシンセがプレイしているものだが、ギターのコード弾きをシンセに、こちらをギターが担当したほうがしっくりするだろう。

⑮(Gt.)：ハンマリング＋プリングをグリッサンドでつないでいく、スピーディなフレーズ。それぞれのテクニックが完全でないと、音がつながらないので気をつけよう。

Coda
G♯m11
G♯
F
C♯m
B(on E)
B
Once In A Life Time
I could ev - er
find some - one like you
Once In A Life Time
I could ev - er
arm
h+p
Vo.
Gt.-I
Gt.-II
Kb.
Ba.
Dr.

⑯(Gt.)：曲中のソロの冒頭とほぼ同じフレーズだ。ソロのアタマのフレーズを決めておくと、よりアピールするものになることを覚えておこう。

⑰(Gt.)：ピッキングの数を減らし、色々なテクニックで音をつないでいく。

※P.26　ギターIの続き

⑱(Gt.)：曲中のソロのラストと同様のフレージング。これもアピールするための手だ。

⑲(Gt.)：ソロの冒頭のフレーズに似たもの。このようにして長いソロにひと区切りをつけると、聴く側も安心感を持っていられるものだ。⑯⑱⑲は、ぜひソロ作りの参考にしたい。

All Messed Up

●オール・メスド・アップ　by G.Moore & N.Carter

Copyright©1985 by 10 Music Ltd.
The rights for Japan assigned to CBS/SONY SONGS
Sale of this edition is authorized within Japan only.

この曲のポイント

■Guitar

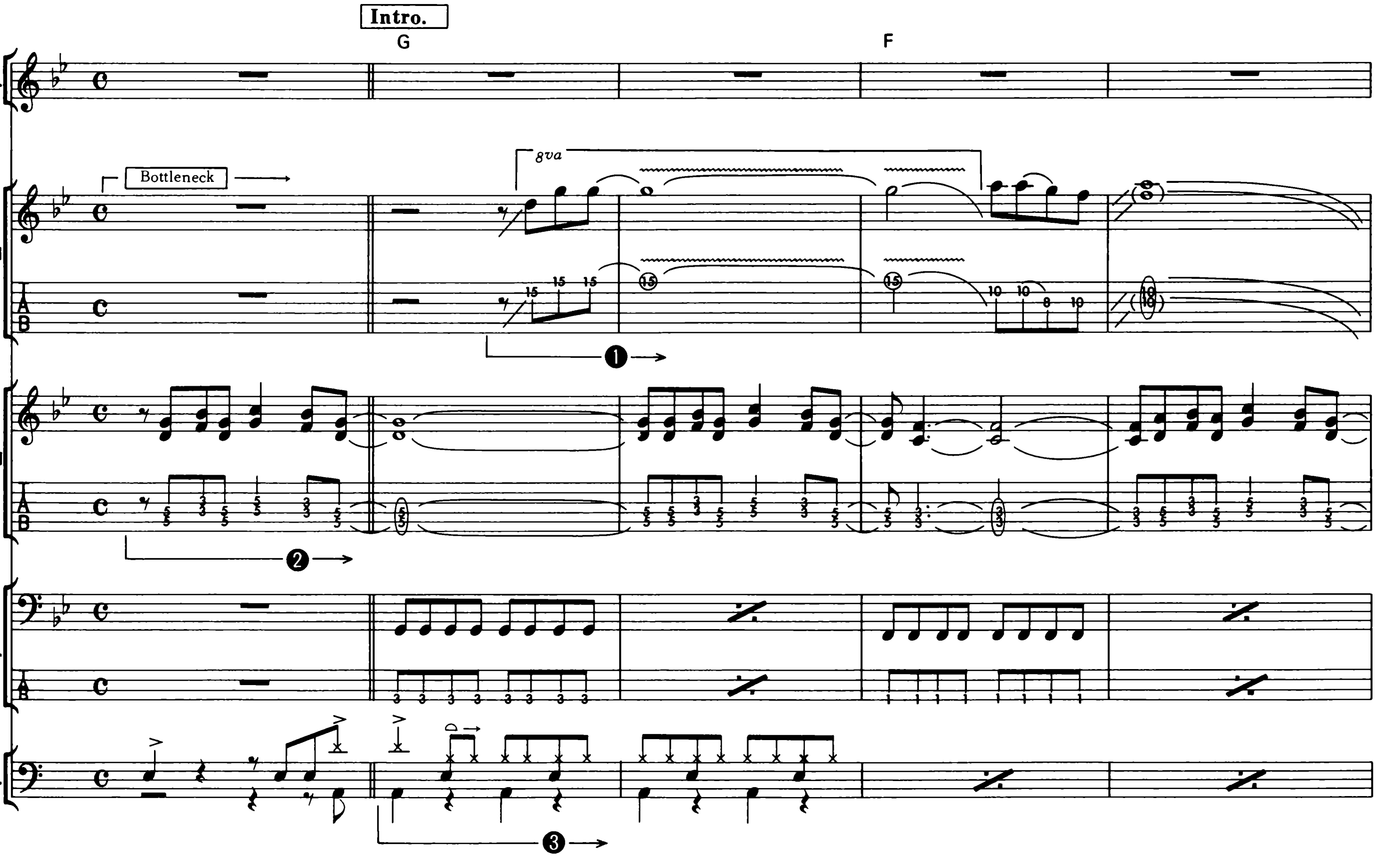
この曲で最も注目すべき点は、何といってもボトル・ネック奏法にある。ゲイリー・ムーアにしては珍しいが、ブルージーなフレージングが素晴らしい。なおこの曲は、1～6弦のチューニングを半音下げてプレイしているようだ。

■Bass

ギター同様1～4弦を半音下げているようだ。ルート音の8分弾きというオーソドックスなプレイなので、ピックのダウン弾きでOKだが、リズムがルーズな感じのため、フィンガー・ピッキングのほうが雰囲気は出せるかもしれない。

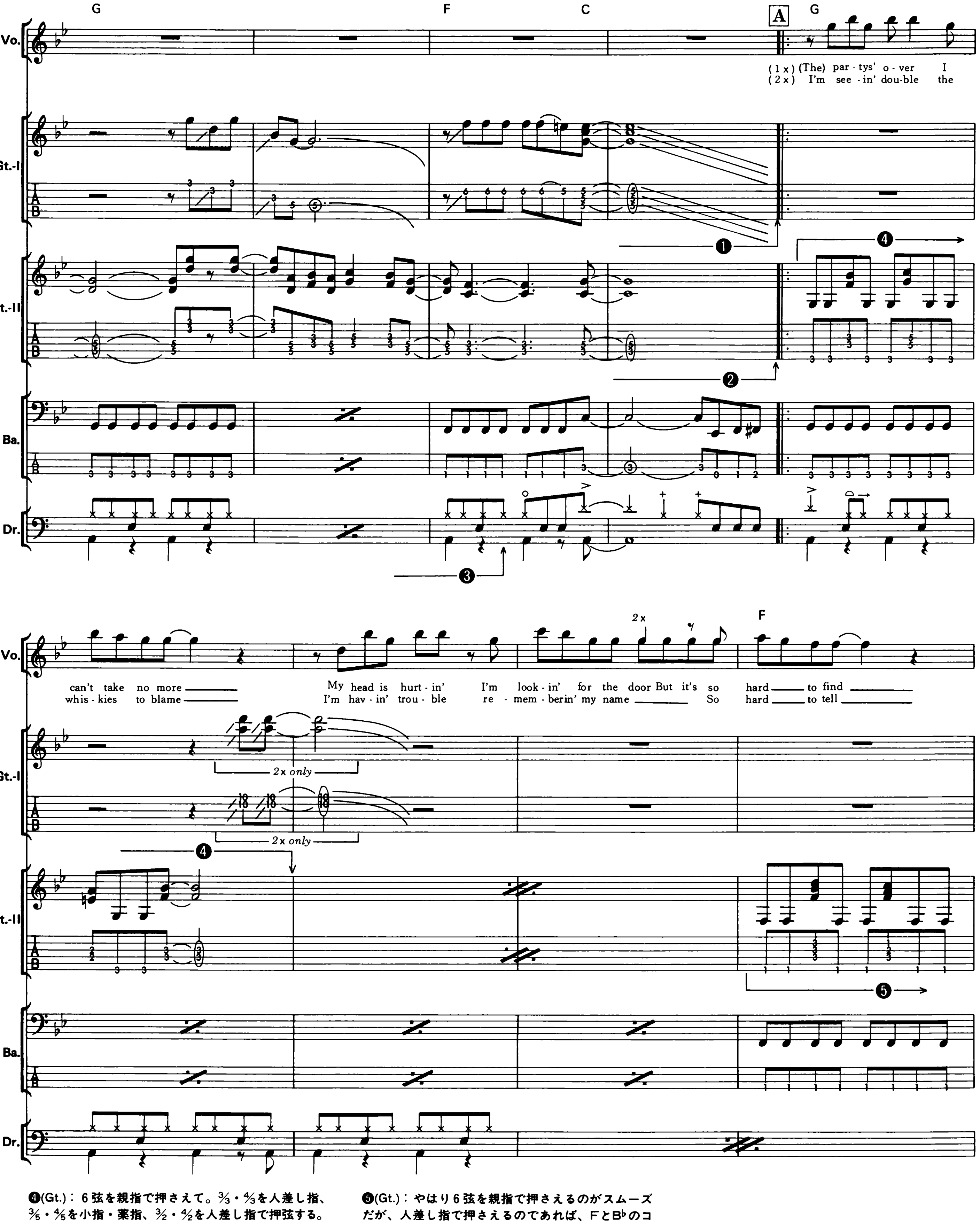
■Drums

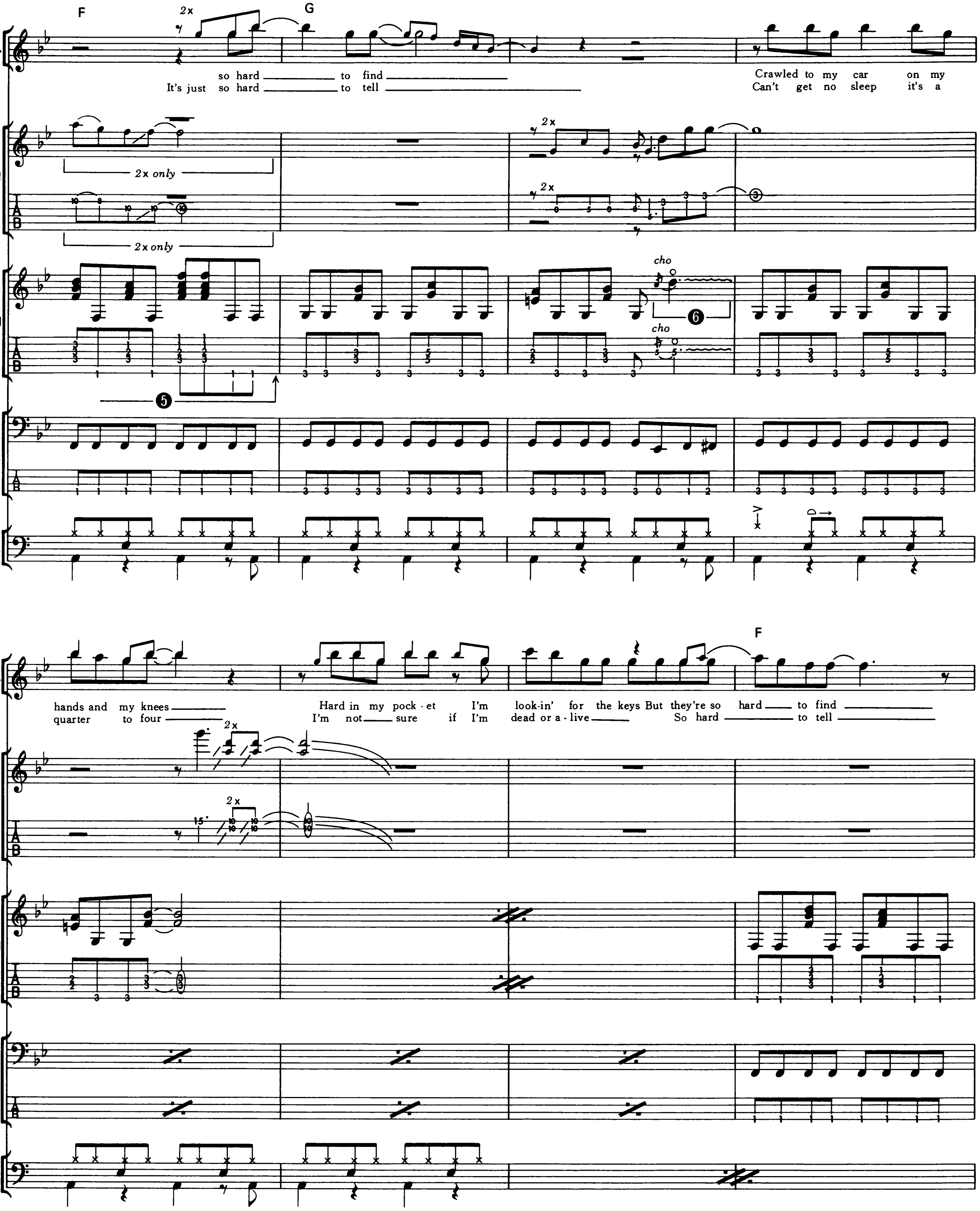
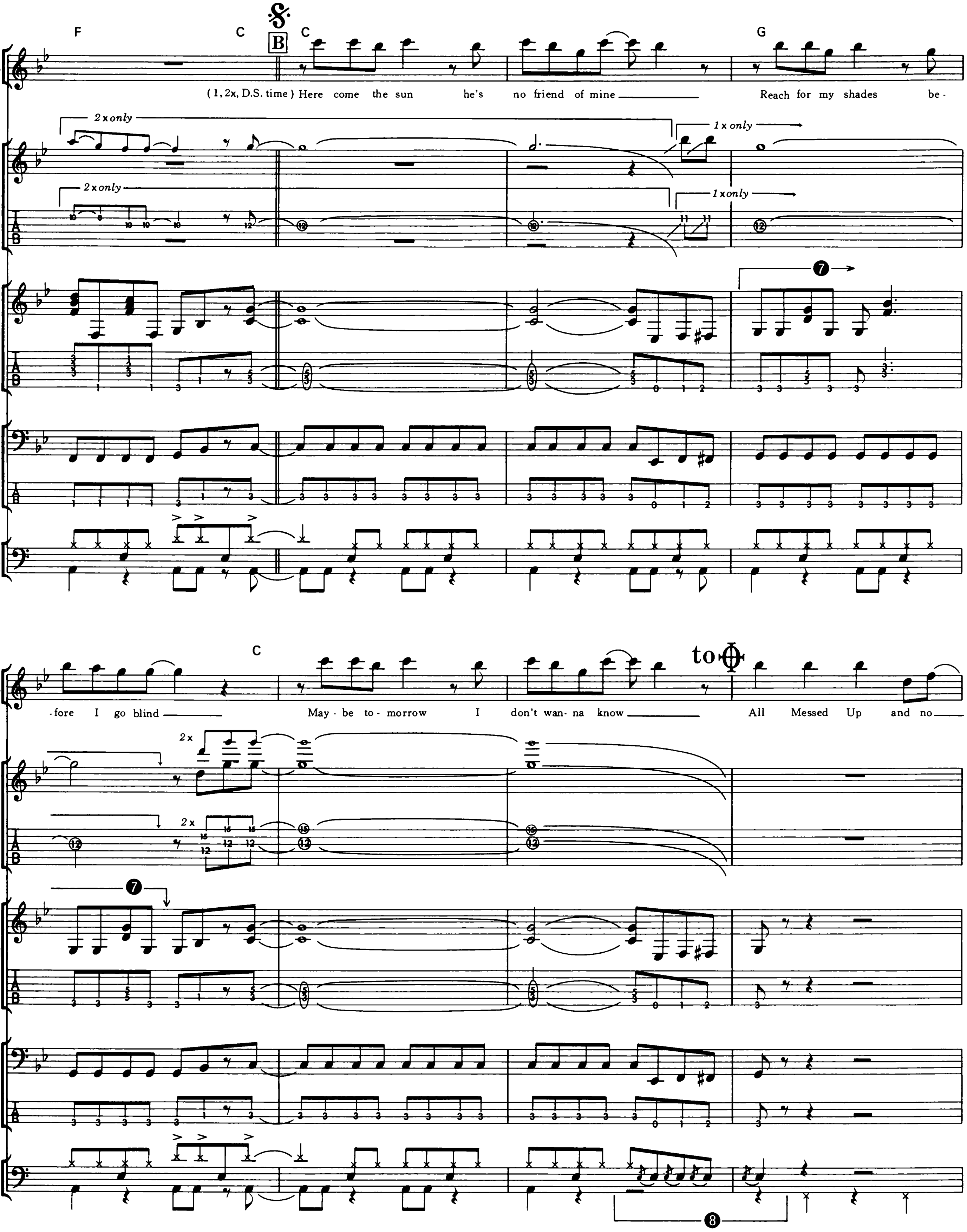
ハーフ・オープンのハイハットからもわかるように、ルーズでレイド・バックした感じのドラミングだ。特にヘヴィ・メタル系のドラマーにとっては叩きづらいものだと思われるので、よく聴き込んでノリをつかんでほしい。

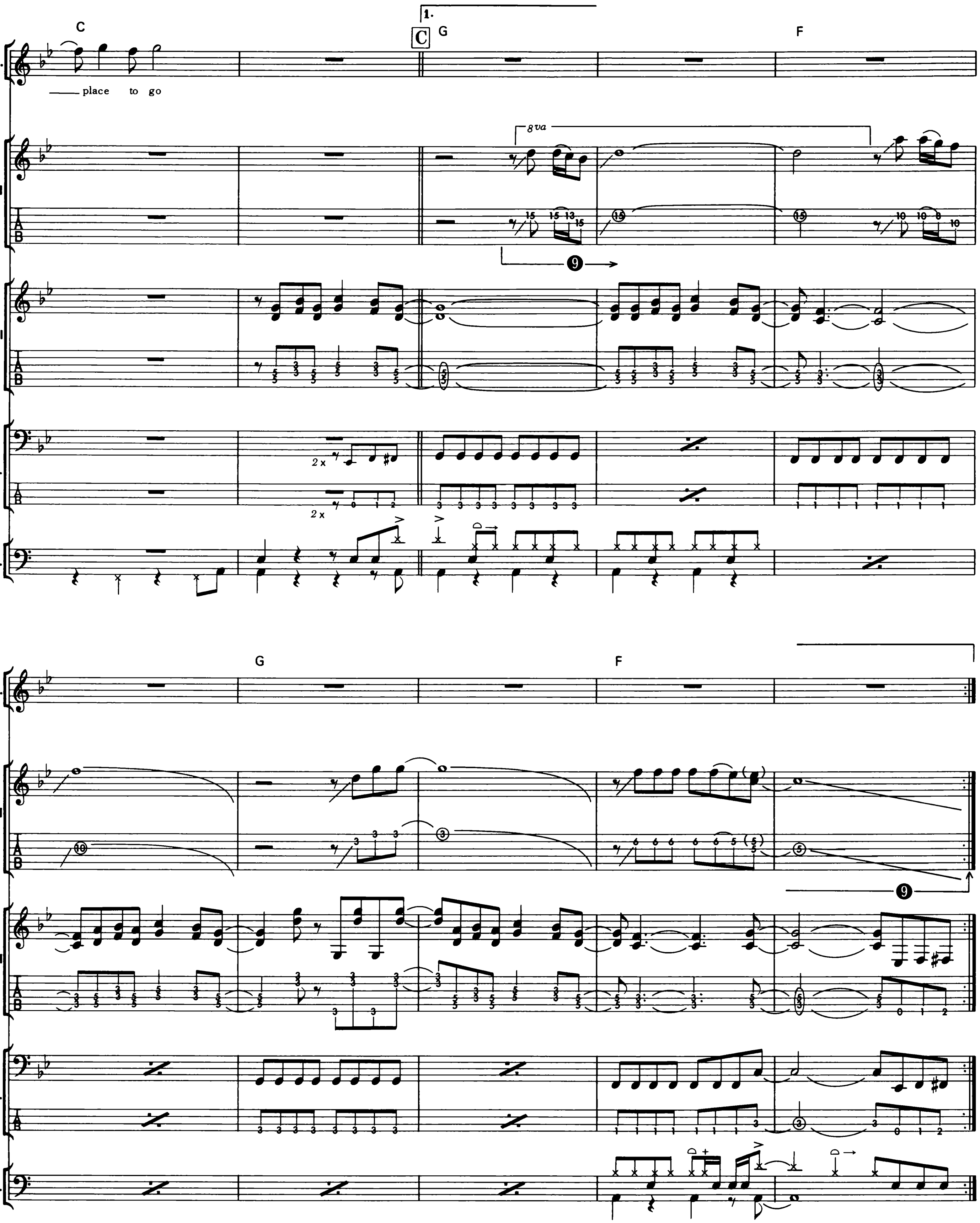
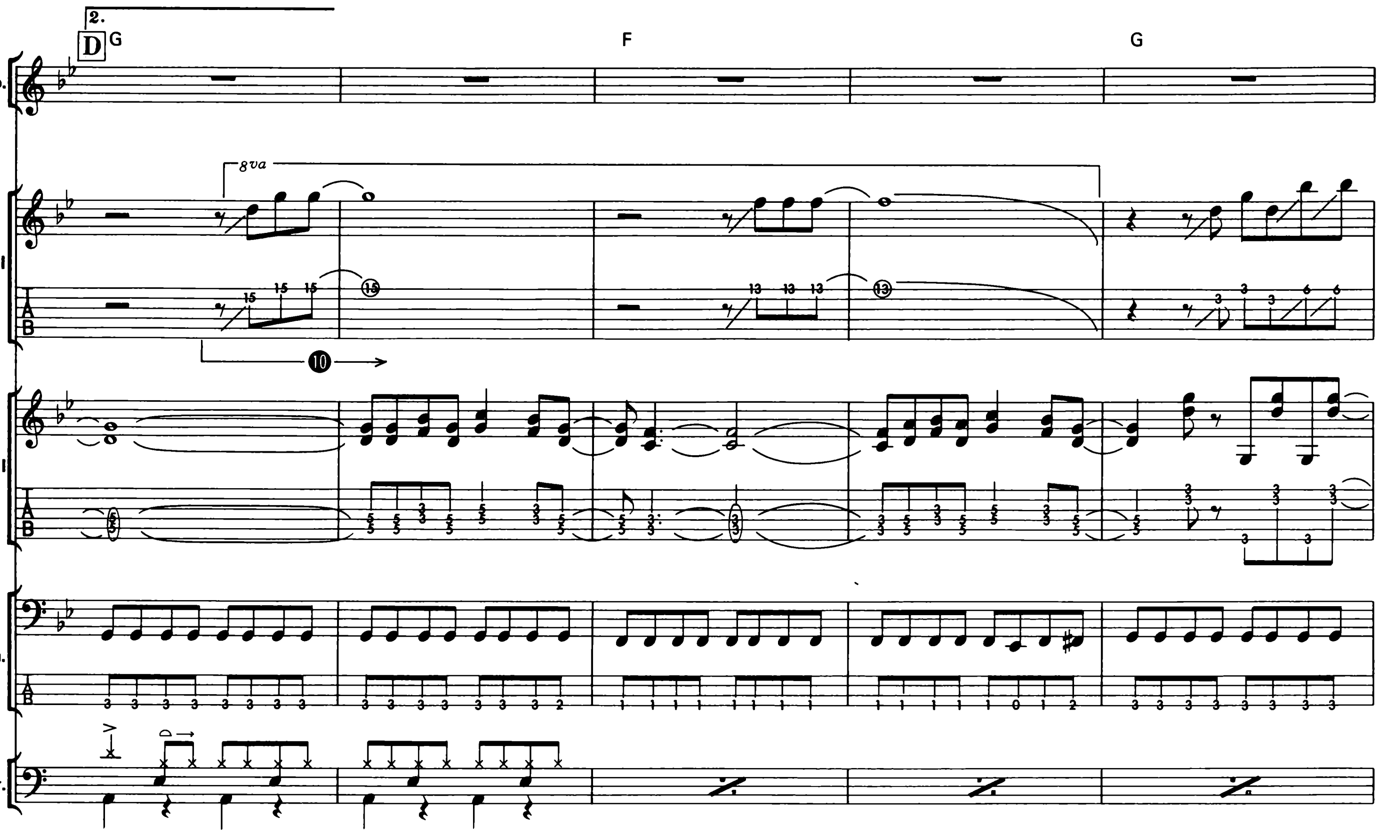
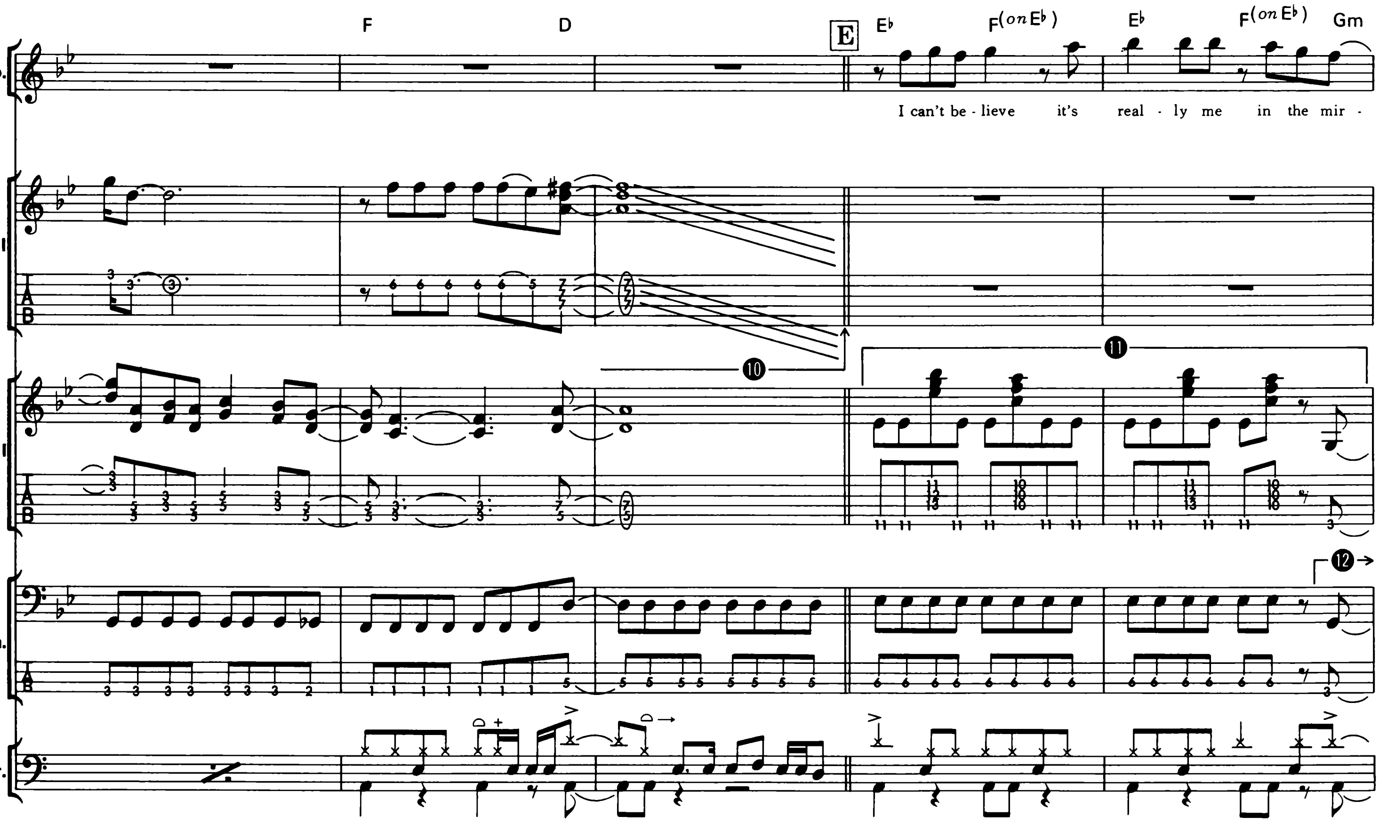


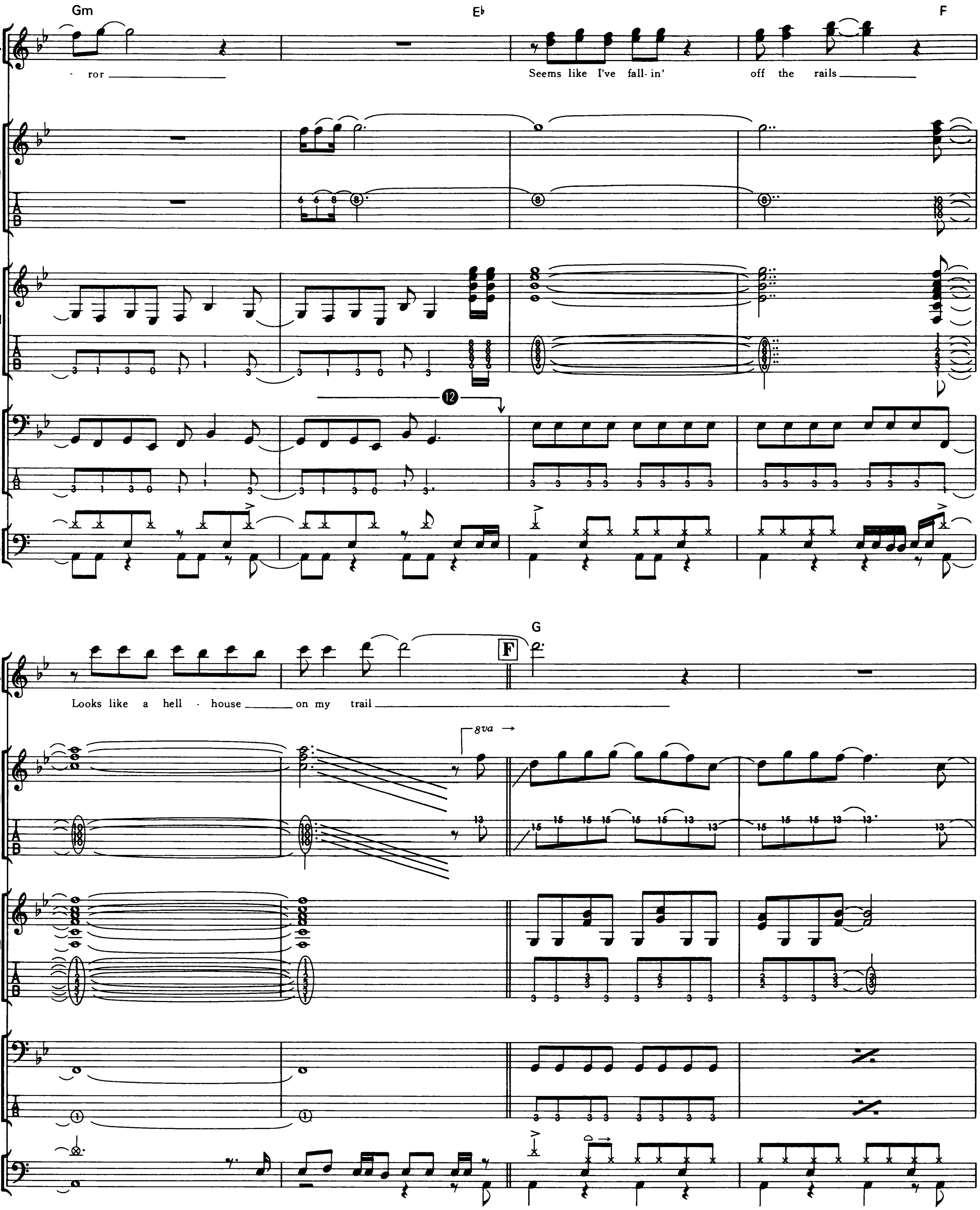
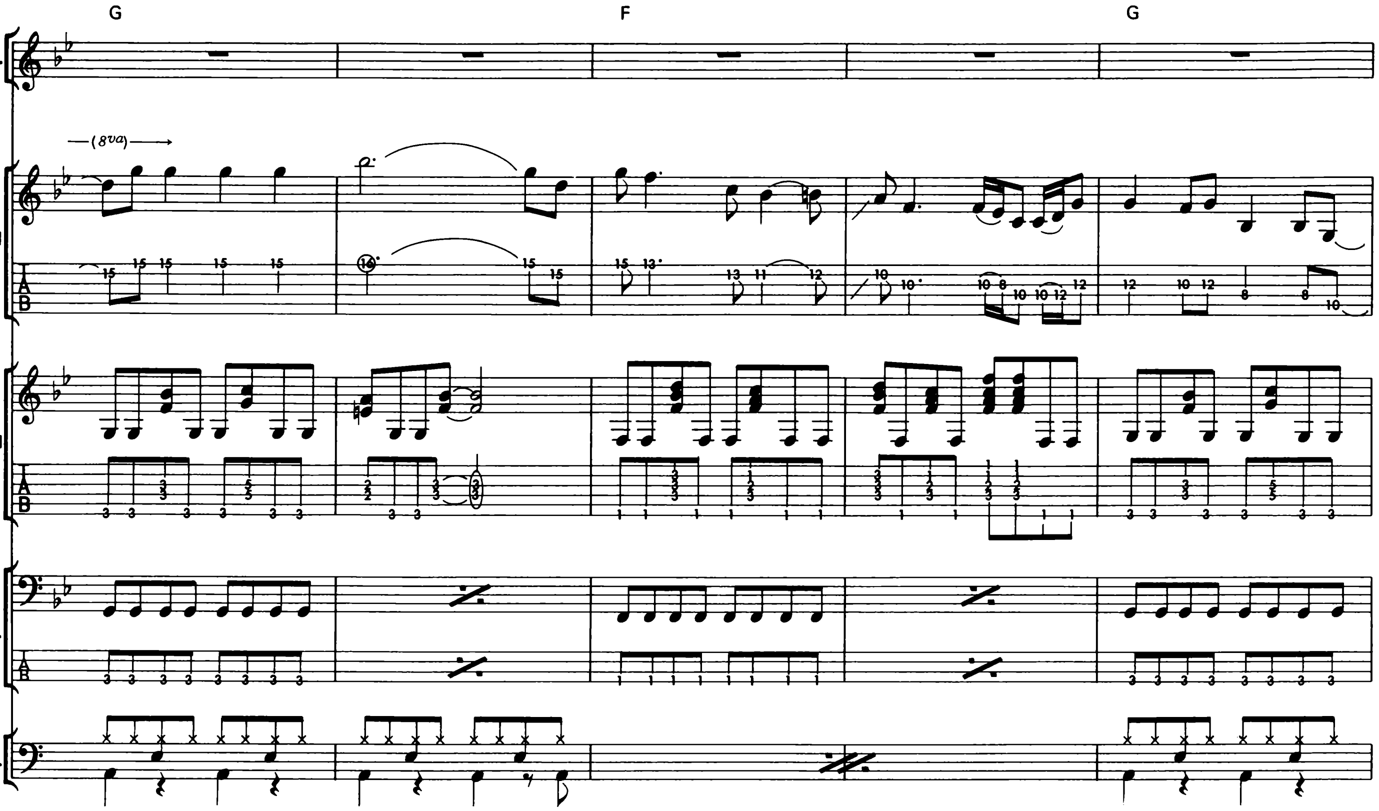
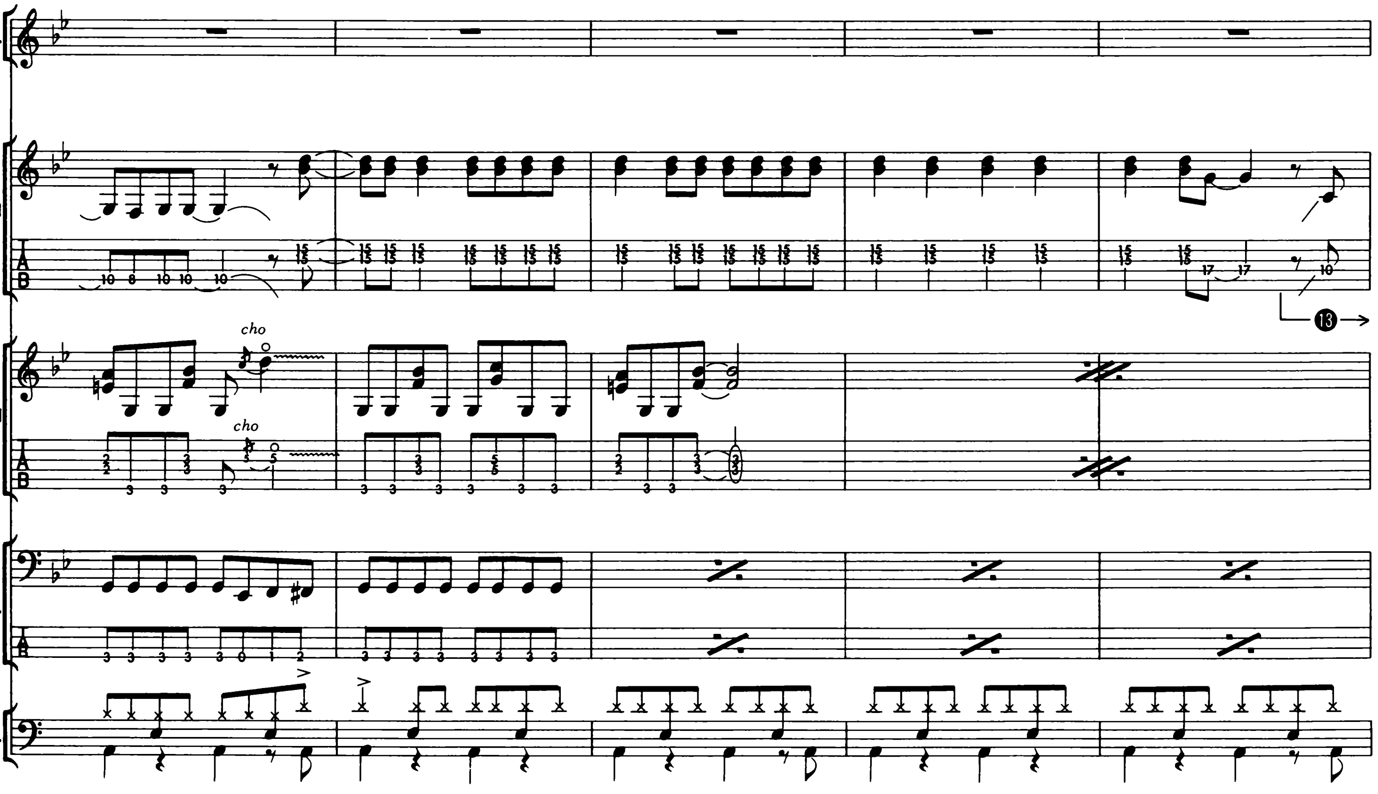
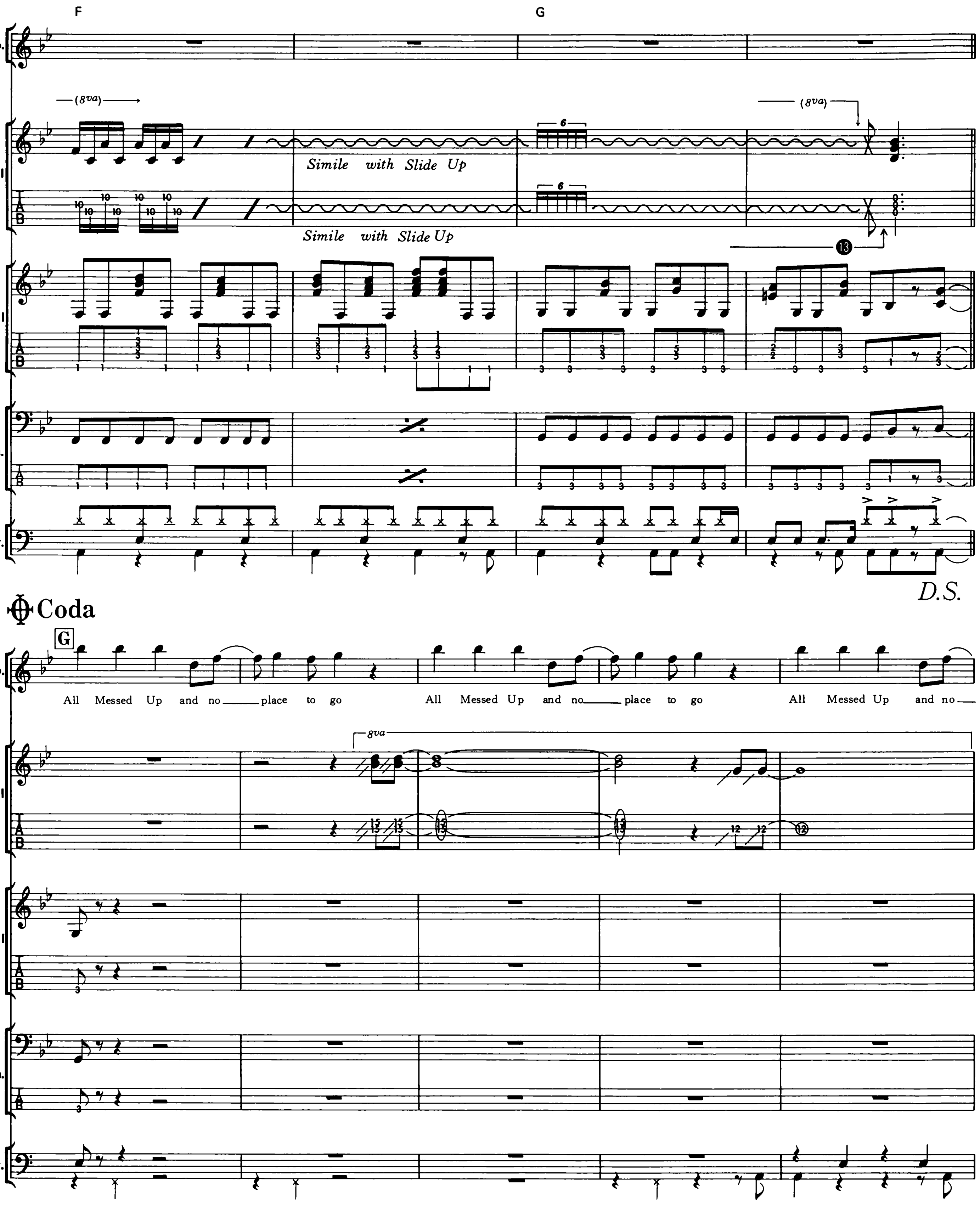
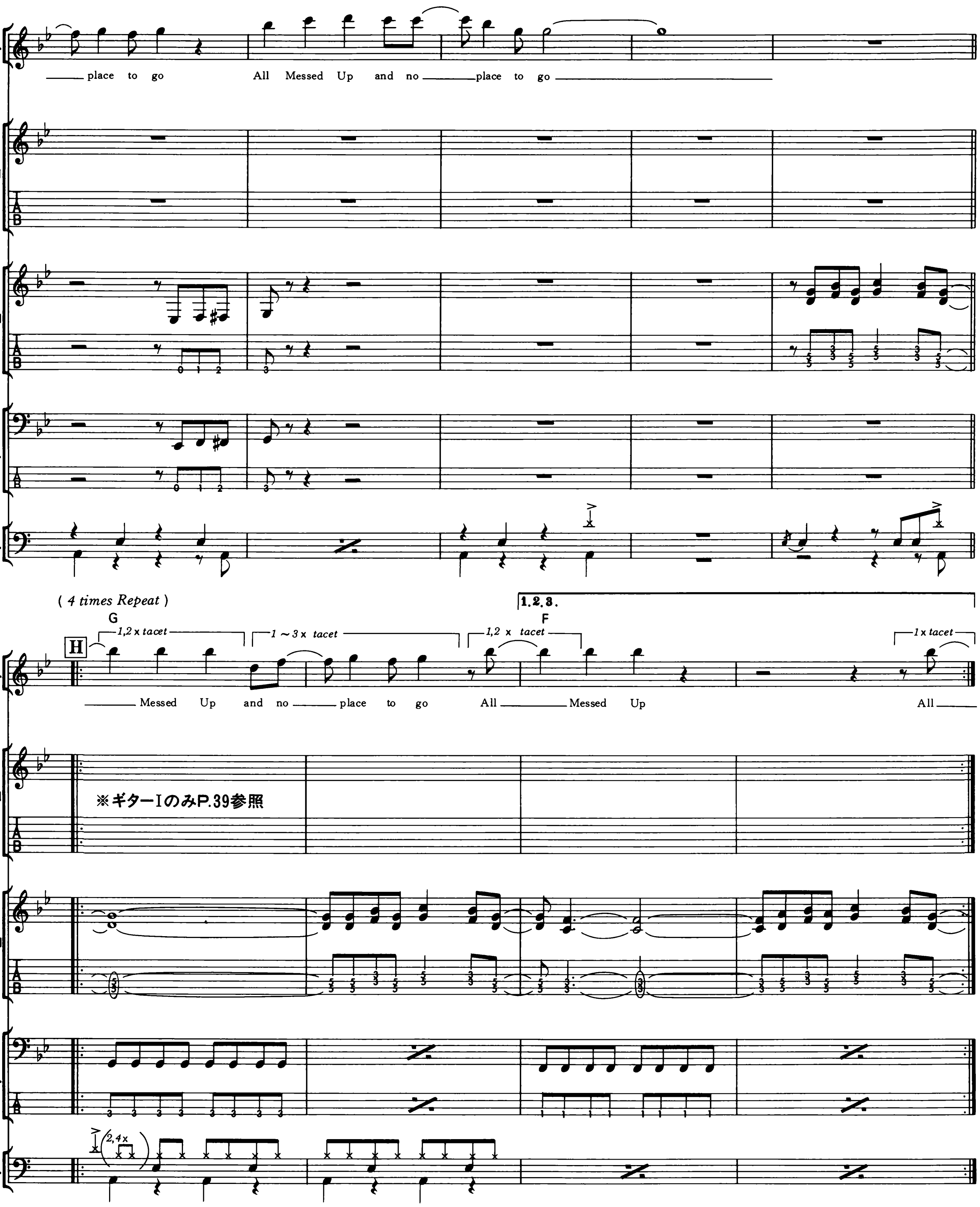
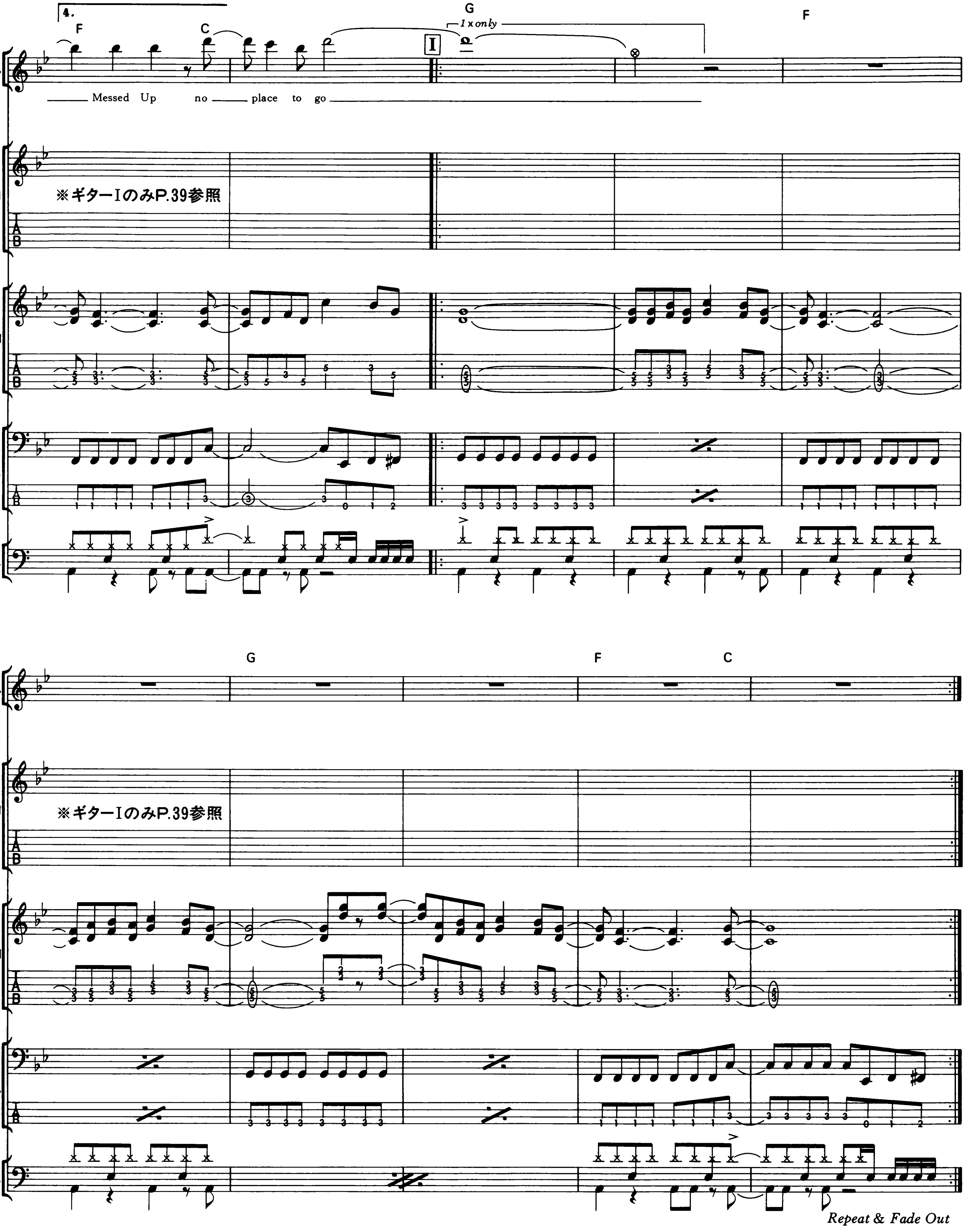
❶(Gt.)：ボトル・ネック奏法は、ある程度慣れていないとどうしても音がフラットしてしまう。スライド・バーをフレットの真上に当てることがポイントだ。ここのフレージングはゆったりとしたもので、バーの移動も少ないため、このフレーズを徹底的にマスターしてスライド・バーに慣れてしまおう。

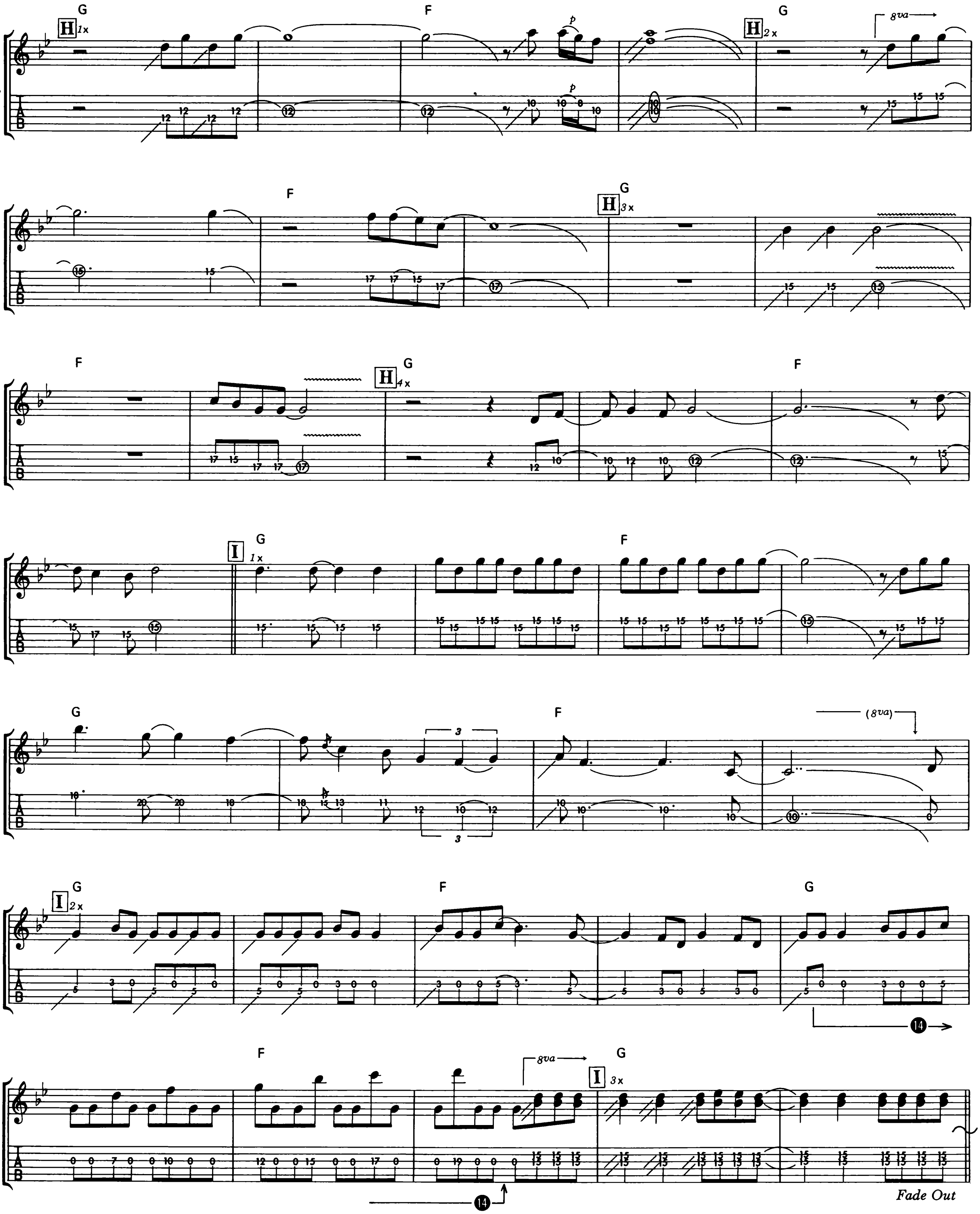
❷(Gt.)：5フレットの2音は薬指と小指、3フレットの2音は人差し指のジョイントで押弦するとよいだろう。必要以外の弦の音は絶対出さないように。

❸(Dr.)：ハイハットはハーフ・オープン。シンプルでヘヴィな感じをつかんでほしい。

❹(Gt.)：6弦を親指で押さえて。3/3・4/3を人差し指、3/5・4/5を小指・薬指、3/2・4/2を人差し指で押弦する。どうしても無理なら6弦を中指で押さえ、3/3・4/3を薬指、3/5・4/5を小指、3/2・4/2を人差し指で押さえることになる。

❺(Gt.)：やはり6弦を親指で押さえるのがスムーズだが、人差し指で押さえるのであれば、FとB♭のコードというつもりで5弦の音も出してしまってよいだろう。

❻(Gt.)：ピッキング・ハーモニクス。事前にポイントをしっかり覚えておくことだ。

❼(Gt.)：4・5弦、3・4弦の2音をきちんと弾きわけるよう注意して。

❽(Dr.)：フラムの間隔が長くなりすぎないようにしたいところ。

❾❿(Gt.)：Intro.と同様のゆったりとしたフレージングだ。まったく同じフレーズを弾いてしまってもかまわない。

⓫(Gt.)：6弦の押弦は親指で。この場合は他の指での代用はちょっと無理だろう。

⓬(Ba.)：ギターとユニゾンのキメだが、曲中唯一ベースが大きく動くところだ。自分が中心になるつもりで力強く。

Gm
E♭
F
Vo.
- ror
Seems like I've fall- in' off the rails
Gt.-I
Gt.-II
Ba.
Dr.
12
G
F
Looks like a hell - house on my trail
8va

⓭(Gt.)：バーを10フレットから徐々に移動しながら、
2弦と4弦を交互に弾いていく。3弦の音が出ない
ように弾くのは大変難しい。

F
G
Vo.
Gt.-I
Gt.-II
Ba.
Dr.
(8va)
Simile with Slide Up
D.S.
Coda
G
All Messed Up and no place to go All Messed Up and no place to go All Messed Up and no
8va

Vo.
place to go All Messed Up and no place to go
Gt.-I
Gt.-II
Ba.
Dr.
(4 times Repeat)
1.2.3.
G
1,2 x tacet
1 ~ 3 x tacet
1,2 x tacet
F
1x tacet
H
Messed Up and no place to go All Messed Up All
※ギターIのみP.39参照
2,4x

4.
F
C
G
1 x only
I
F
Vo.
Messed Up no place to go
Gt.-I
※ギターIのみP.39参照
Gt.-II
Ba.
Dr.
G
F
C
Vo.
Gt.-I
※ギターIのみP.39参照
Gt.-II
Ba.
Dr.
Repeat & Fade Out

※P.37～P.38　ギターI

⓮(Gt.)：3弦の開放とスライド・バーで押さえた音とを使いわける。他弦の音をミュートし、バーの上げ下げもすばやく。あまり強く押しつけると、フレットやフィンガー・ボードを叩くノイズが出てしまうので注意しよう。

Out In The Fields

●アウト・イン・ザ・フィールド　by G. Moore

Copyright©1985 by 10 Music Ltd.
The rights for Japan assigned to CBS/SONY SONGS
Sale of this edition is authorized within Japan only.

この曲のポイント

■Guitar

ハードなサウンドながら、シンセとの絡みなど、アレンジがなかなか凝ったものとなっており参考になる点が多い。またテーマ・メロディでオクターバー(またはハーモナイザー)を使ったユニゾン・サウンドを用いているので、この曲をプレイするにはぜひ１台用意したい。

■Keyboard

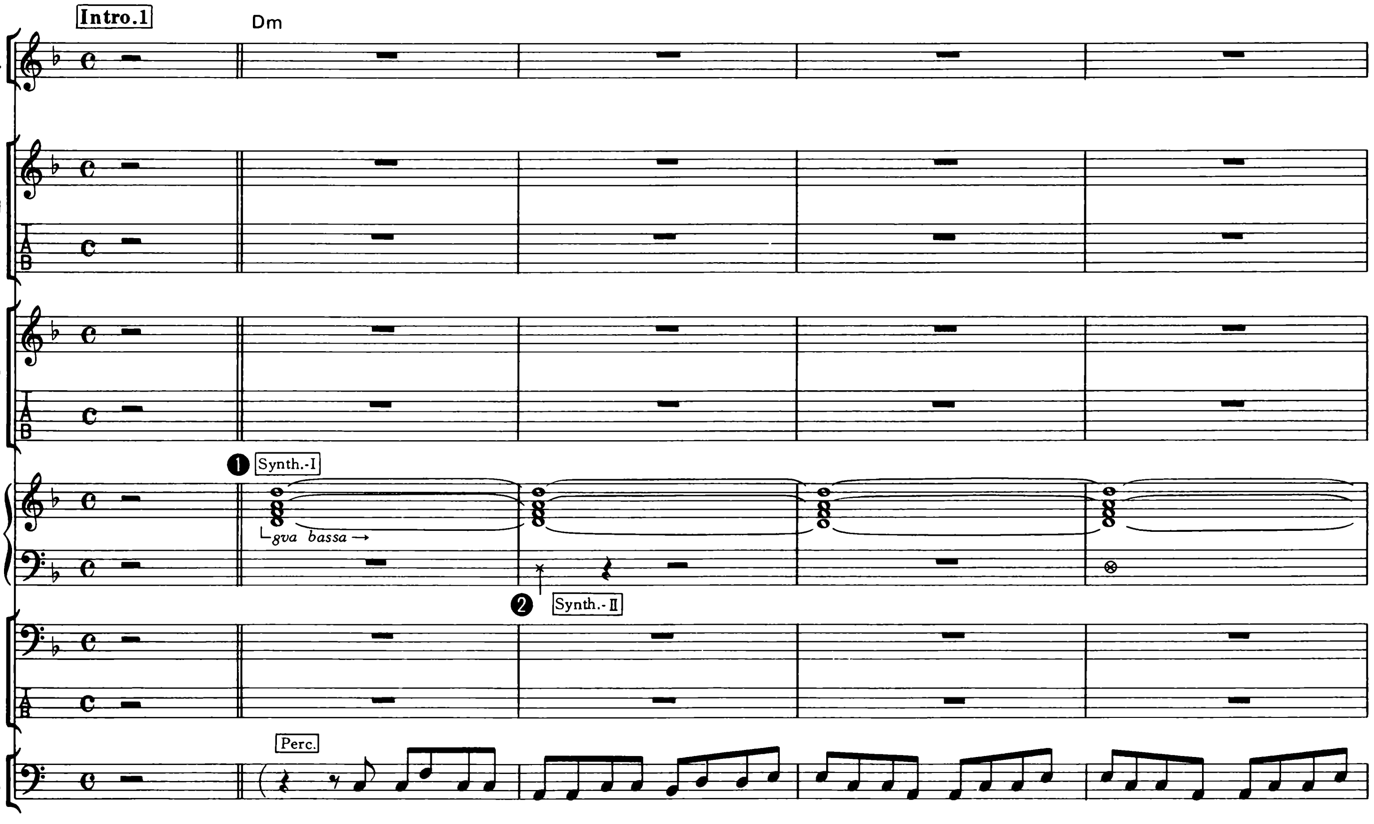
曲の流れに沿って出てくる音色が様々だ。また[H]ではシンセがリードをとるなど、比較的キーボードにかかるウエイトが大きいナンバーだ。リズミカルな切れ味を壊さぬよう、どのフレーズも歯切れよいタッチでプレイすることがポイント。

■Bass

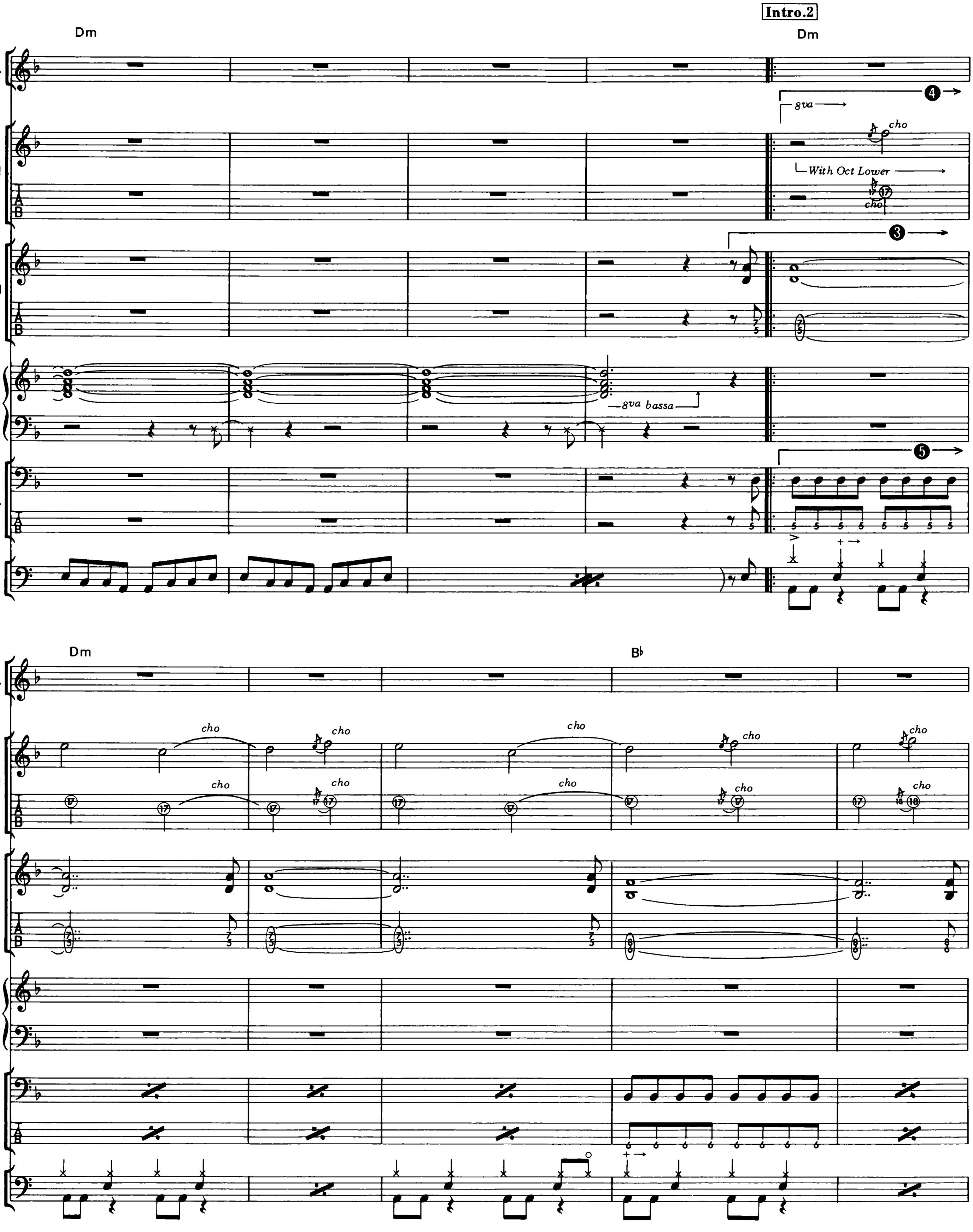
この曲ではシンセ・ベースと普通のベースとを、そのパートごとに使いわけている。ベース・ライン自体はシンプルなものなので、シンセ・ベースか普通のベースかどちらか一方だけでも充分弾きこなせるだろう。

■Drums

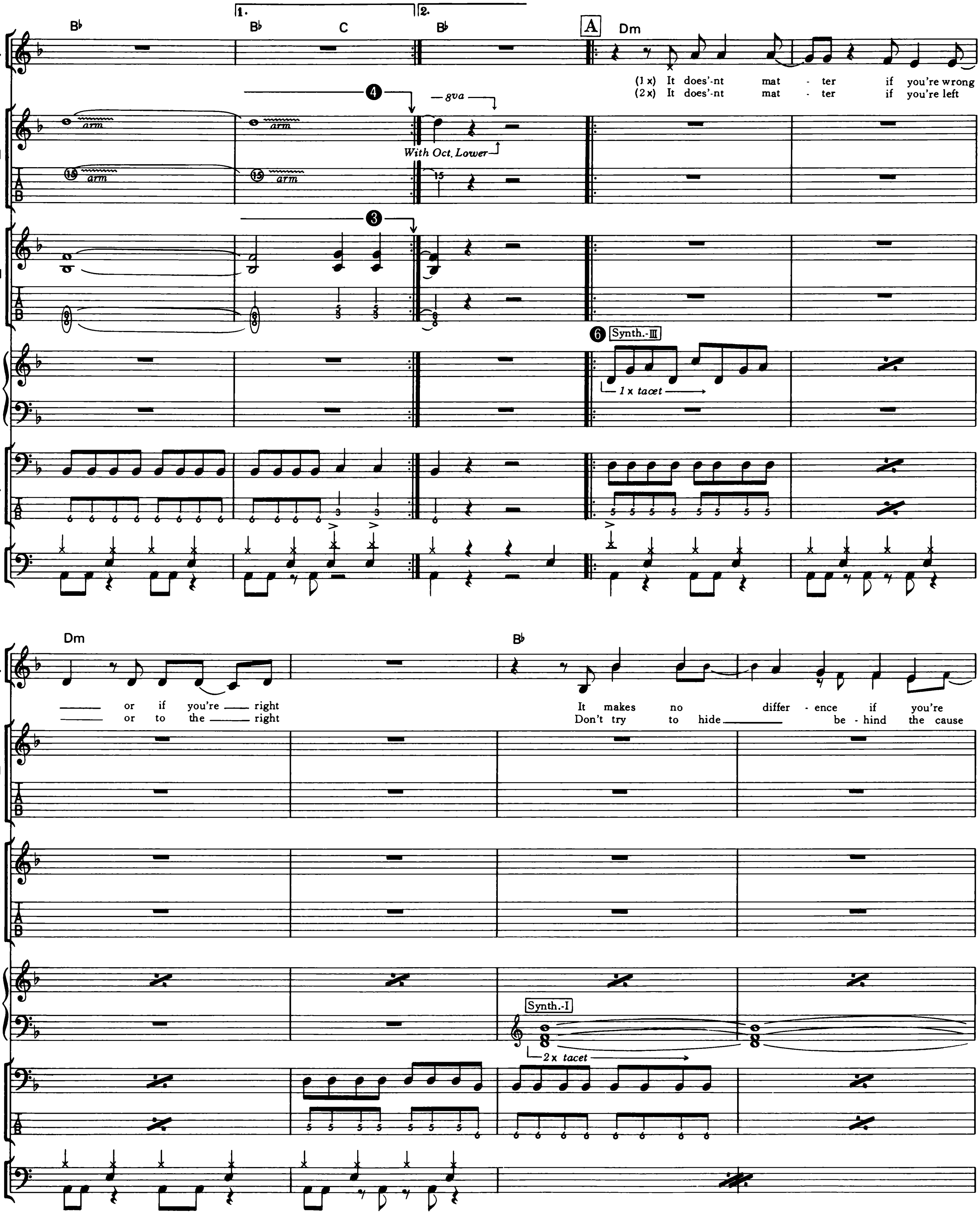
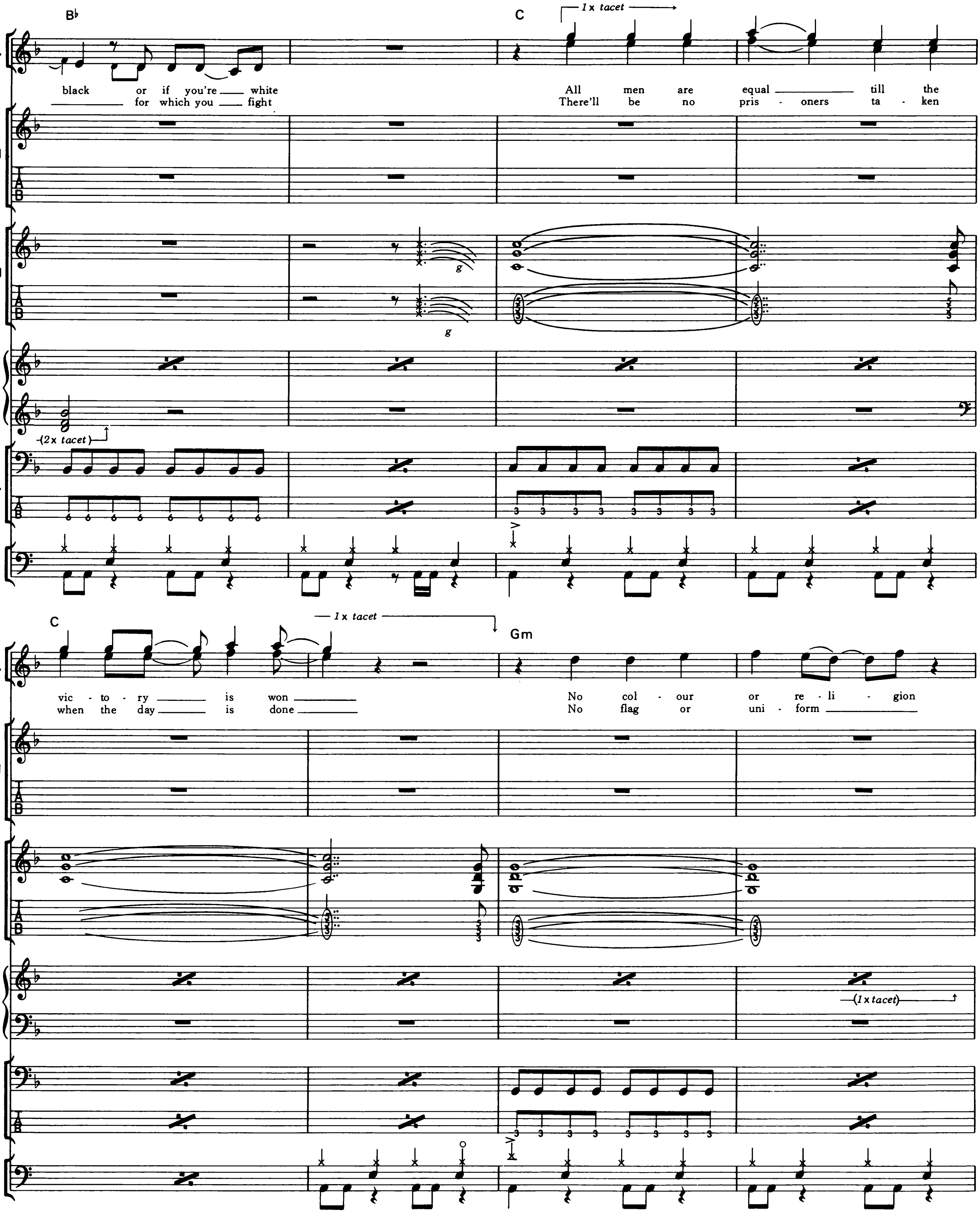
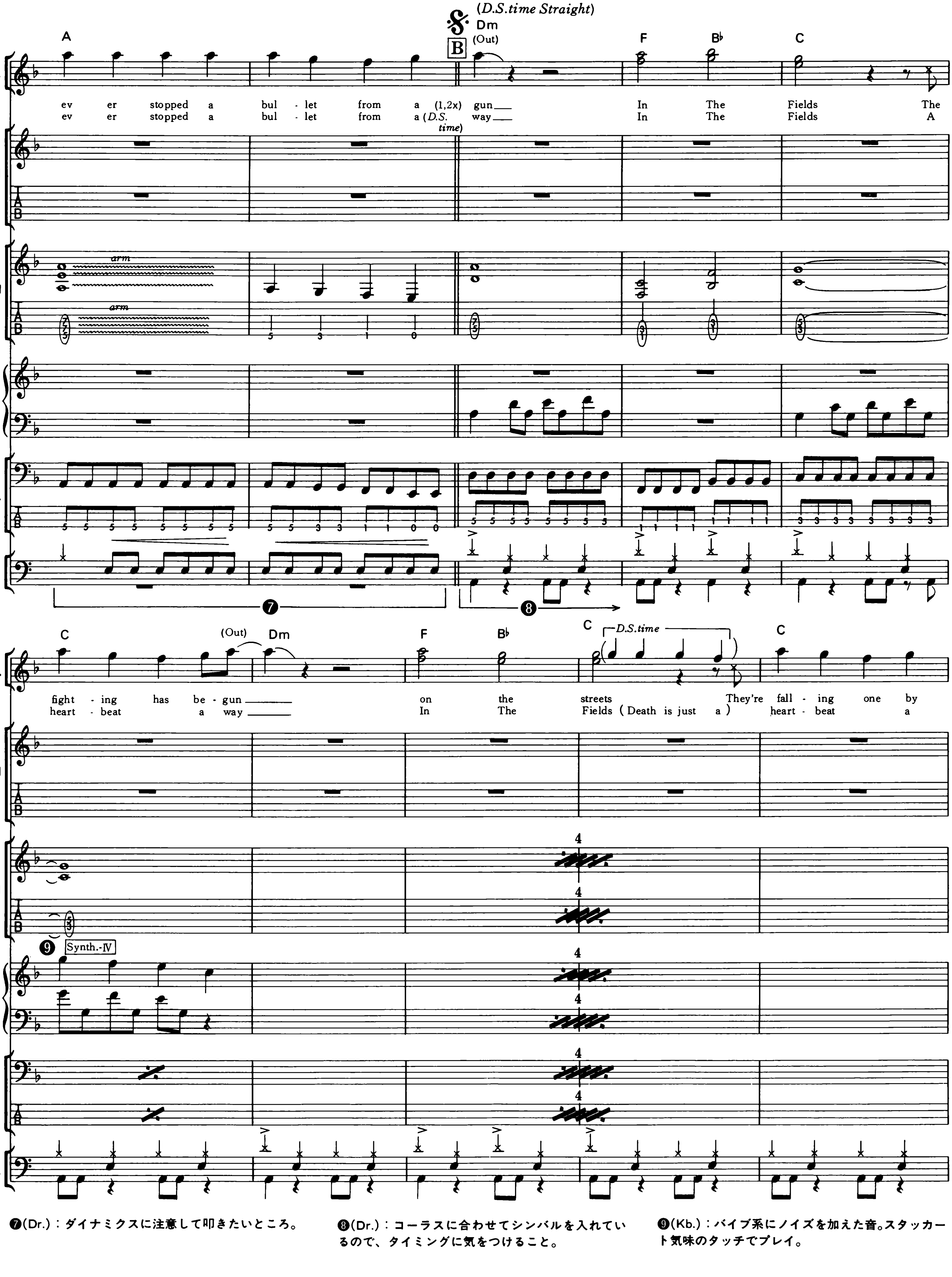
[Intro.] にはコンガのようなパーカッションが入っているが、これはあとからオーバー・ダビングしたものと思われる。実際にプレイするときには省いてもかまわない。どうしても原曲のイメージでという場合、ここだけテープに録音して使う手もある。ドラミングに関しては、シンプルな８ビートなので問題ないと思うが、シンセ・ベースとの兼ね合いからジャストなノリを心がけることが望ましい。



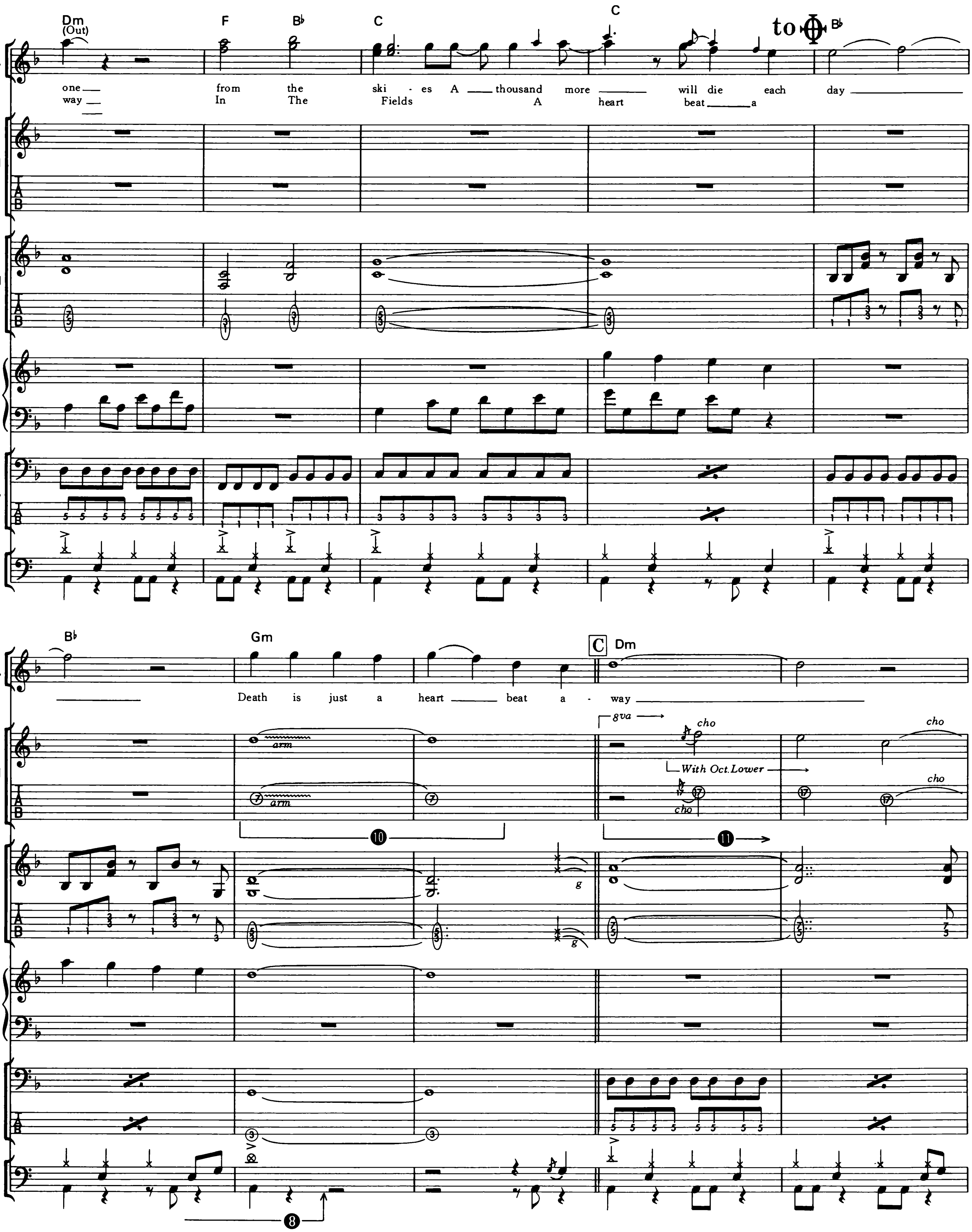
❶(Kb.)：ヴィブラートが深くかかったストリングス・サウンド。リバーブを加えて広がりを表現したい。

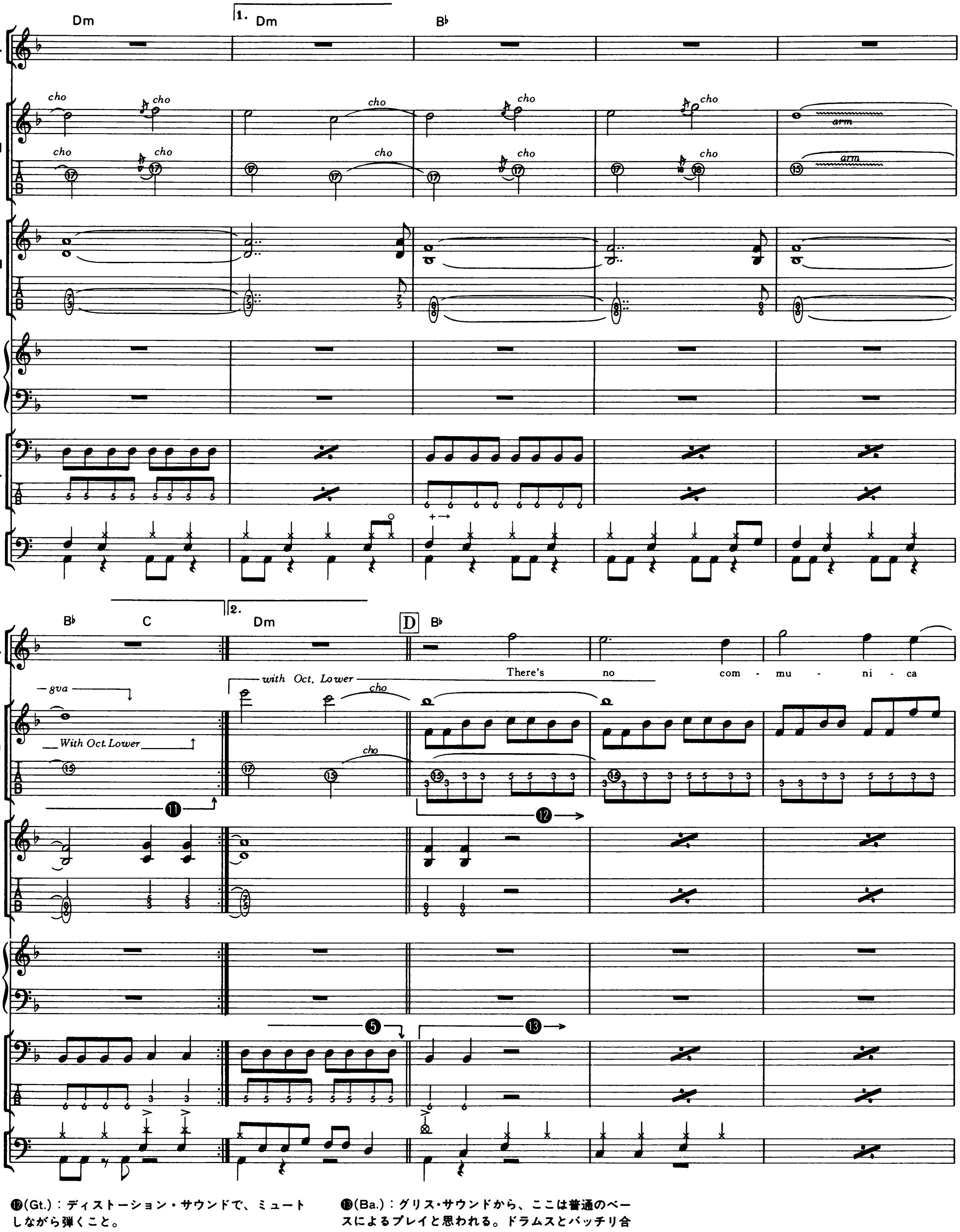
❷(Kb.)：パーカッシヴにキメる爆発音。原曲にとらわれず、自由な音作りでリズム・セクションに強烈なアクセントをつけよう。

❸(Gt.)：いわゆる３度抜きコードでの、ハードなバッキング。半拍引っかけて弾いているのでリズムに注意。

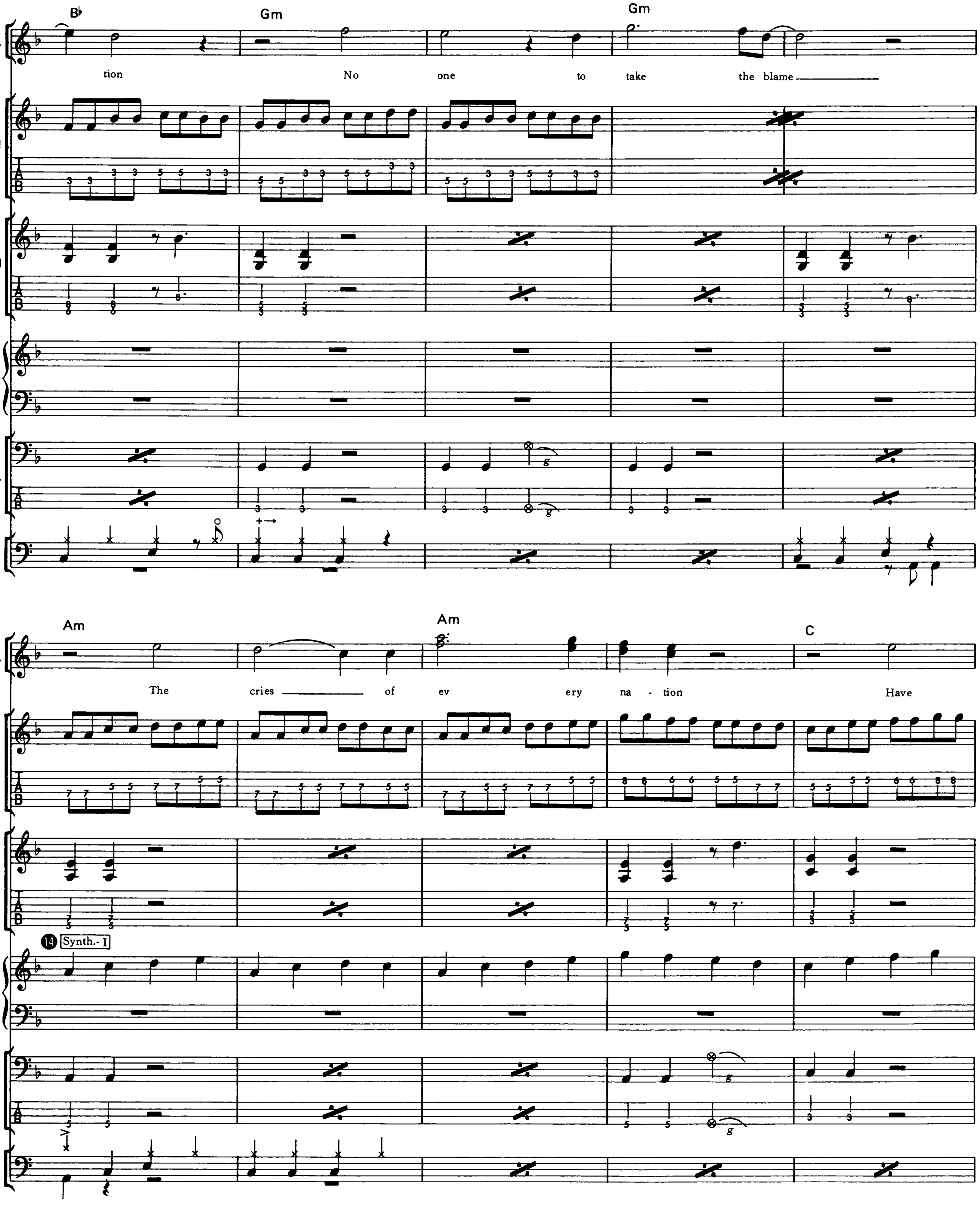
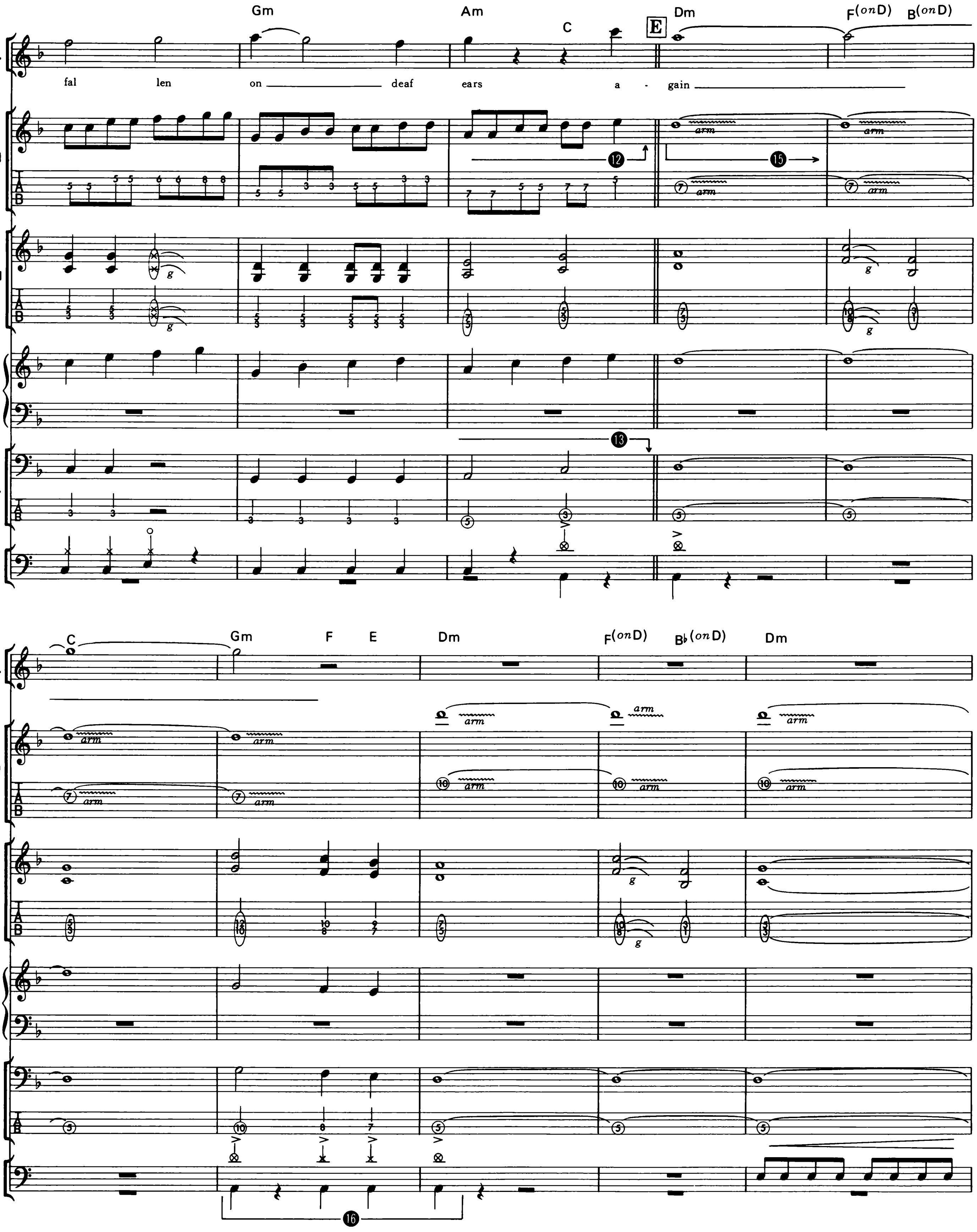
❹(Gt.)：このメロディはオクターヴ・ユニゾンになっているが、おそらくハーモナイザーかオクターバーで、オクターヴ下の音を重ねているのだろう。また７～８小節のアーミングは、２拍３連のタイミングで行っているのがミソだ。

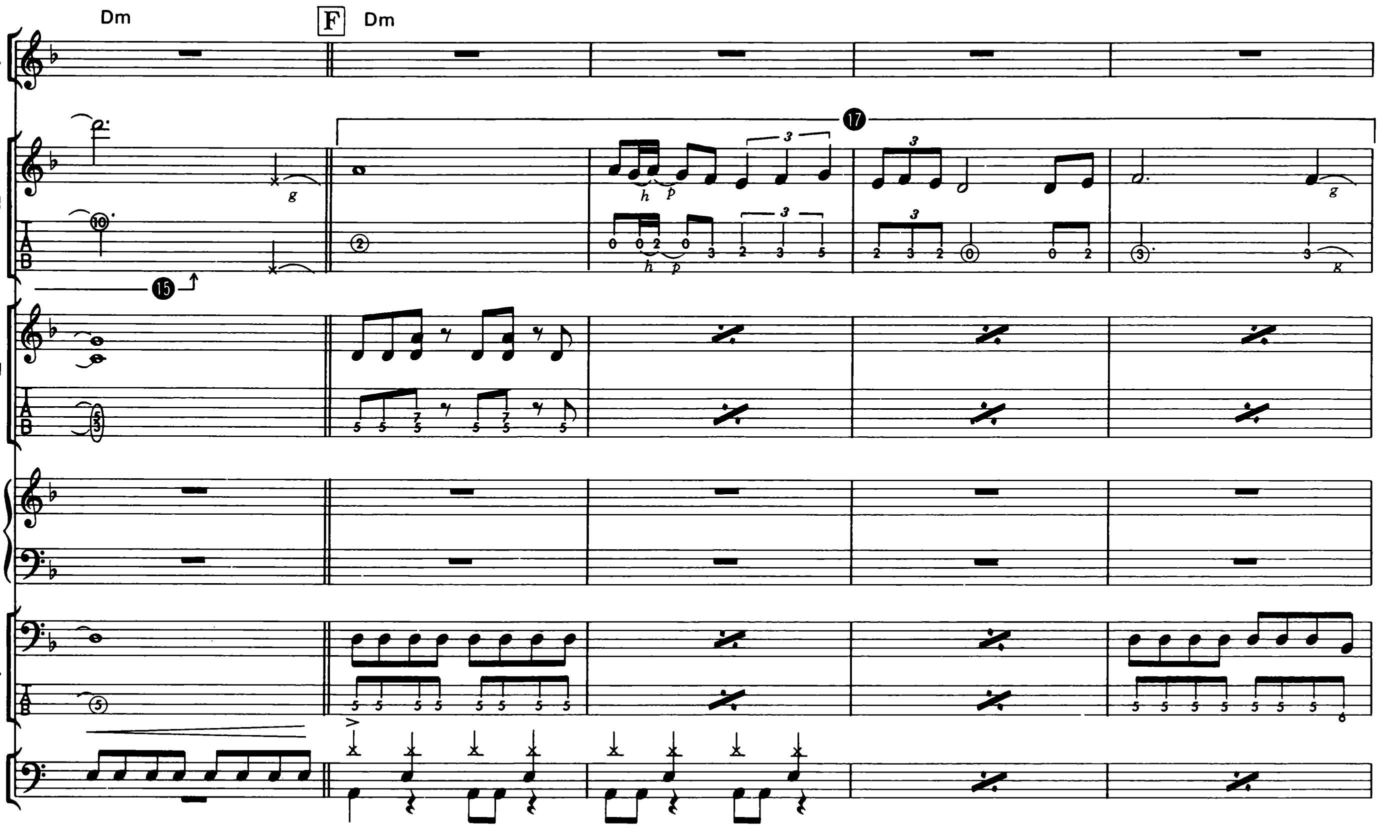
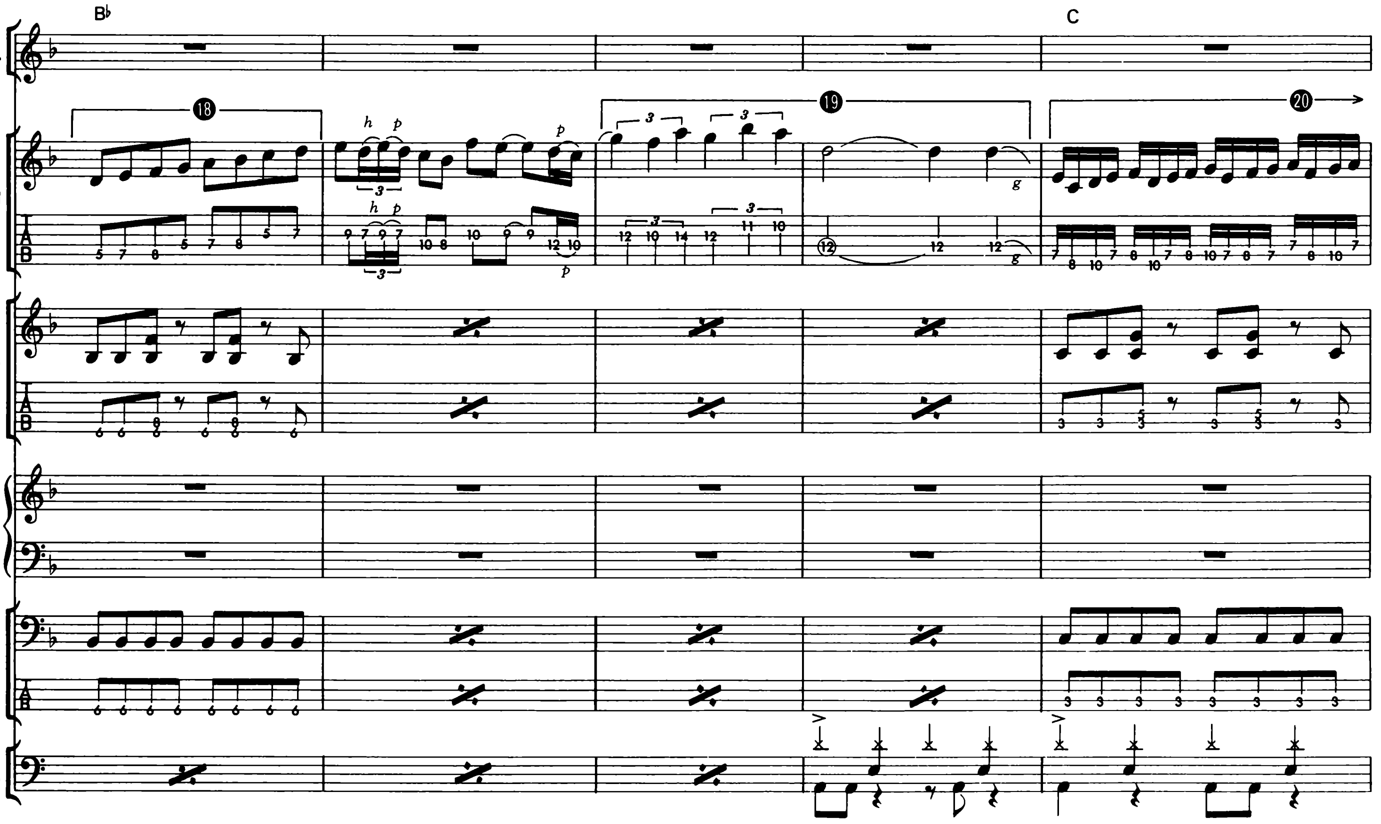
❺(Ba.)：シンセ・ベースの粒のそろった無機質なサウンドで、８分でルートを刻むシンプルなパターンをプレイしている。普通のベースで弾くときは、指よりもピックを使ったほうが雰囲気が近づくはずだ。

❻(Kb.)：切れ味のシャープな減衰音。クラビ系とブラス系を足して、モジュレーションをかけるようなイメージで音作りをしよう。

B♭
C
1 x tacet
Vo.
black or if you're white
for which you fight
All men are equal till the
There'll be no pris - oners ta - ken
Gt.-I
Gt.-II
g
Kb.
(2 x tacet)
Ba.
Dr.
C
1 x tacet
Gm
victory is won
when the day is done
No col - our or re - li - gion
No flag or uni - form
(1 x tacet)

❼(Dr.)：ダイナミクスに注意して叩きたいところ。

❽(Dr.)：コーラスに合わせてシンバルを入れているので、タイミングに気をつけること。

❾(Kb.)：パイプ系にノイズを加えた音。スタッカート気味のタッチでプレイ。

⑩(Gt.)：このアーミングは、2分音符の長さでゆったりと。

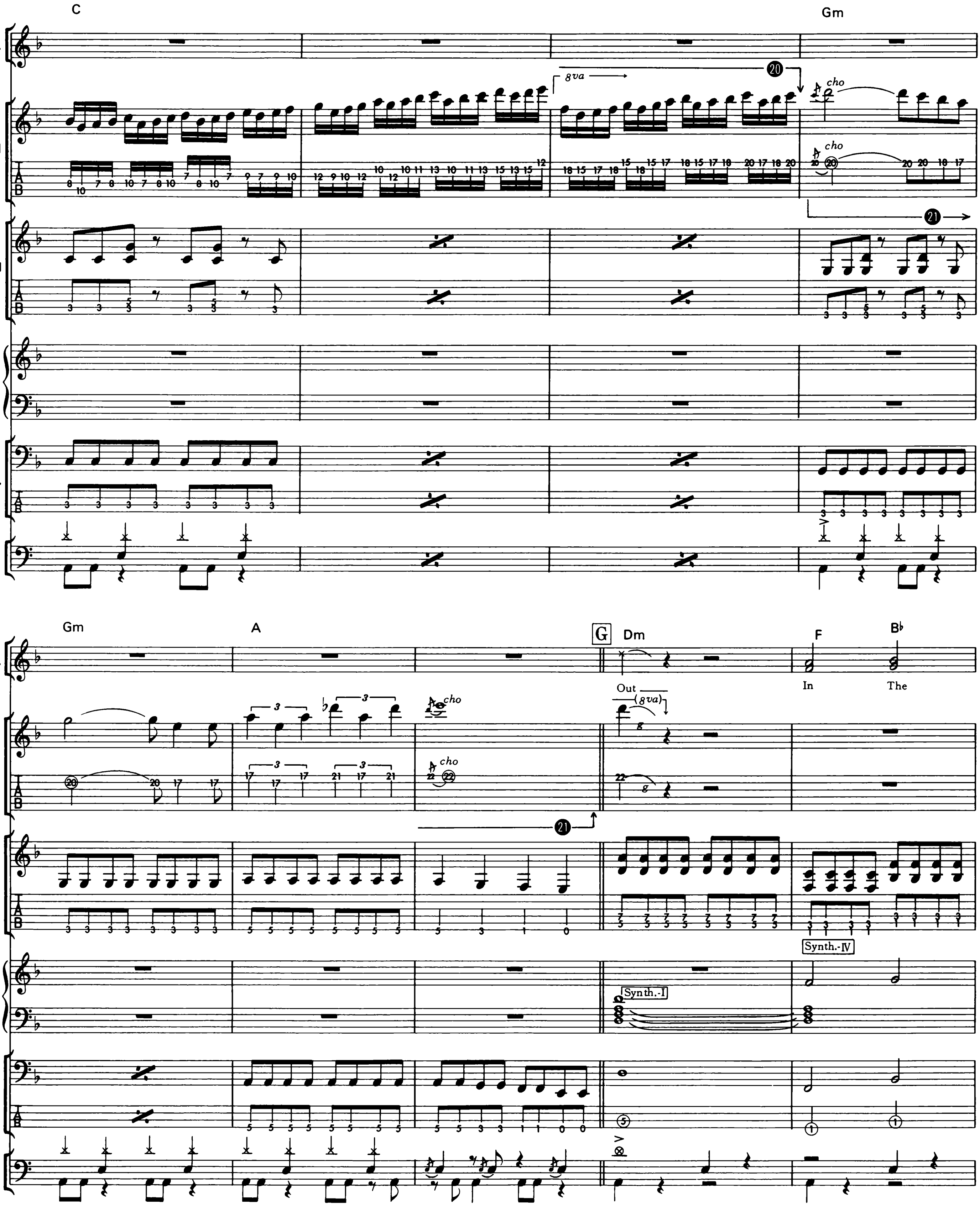
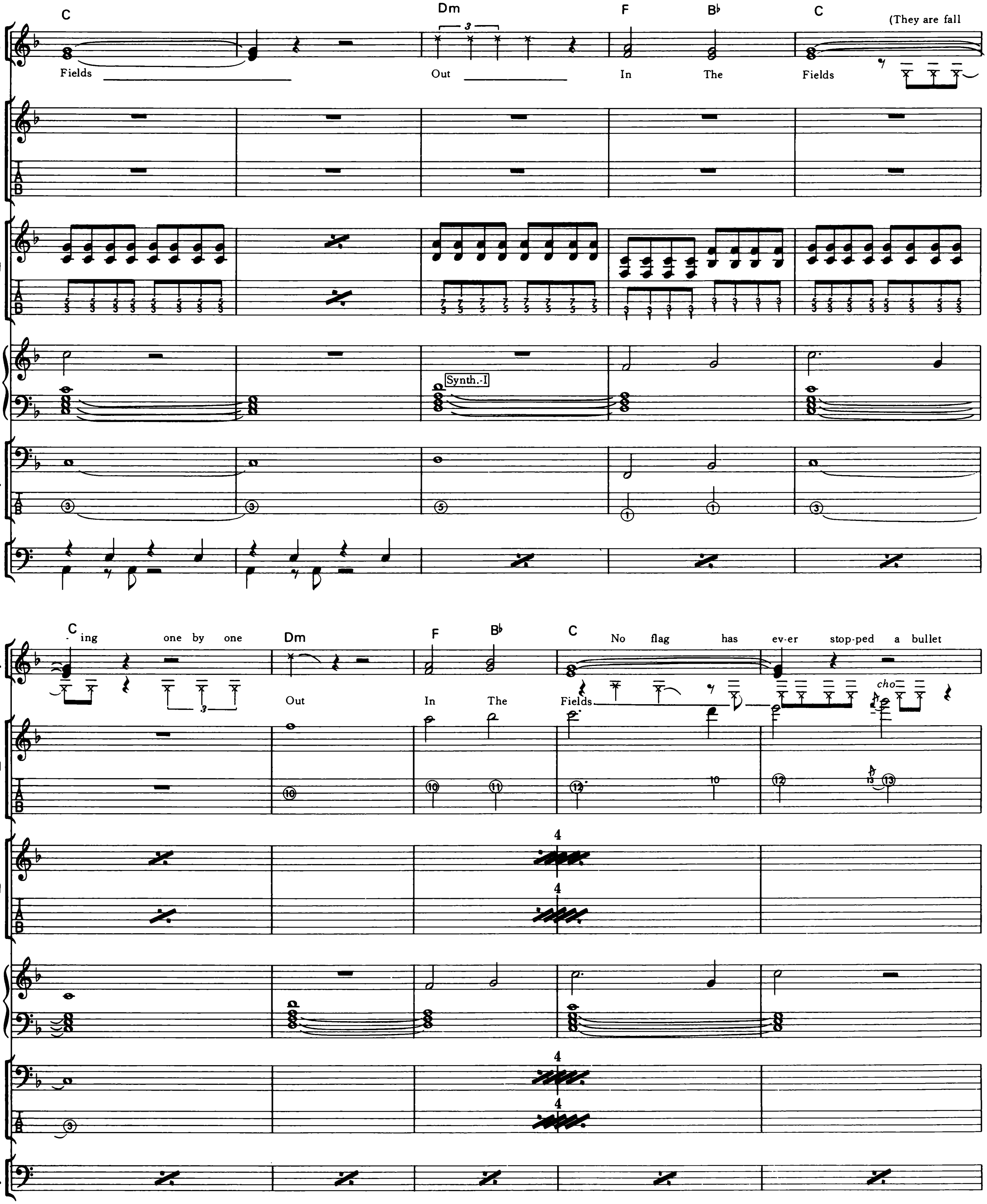
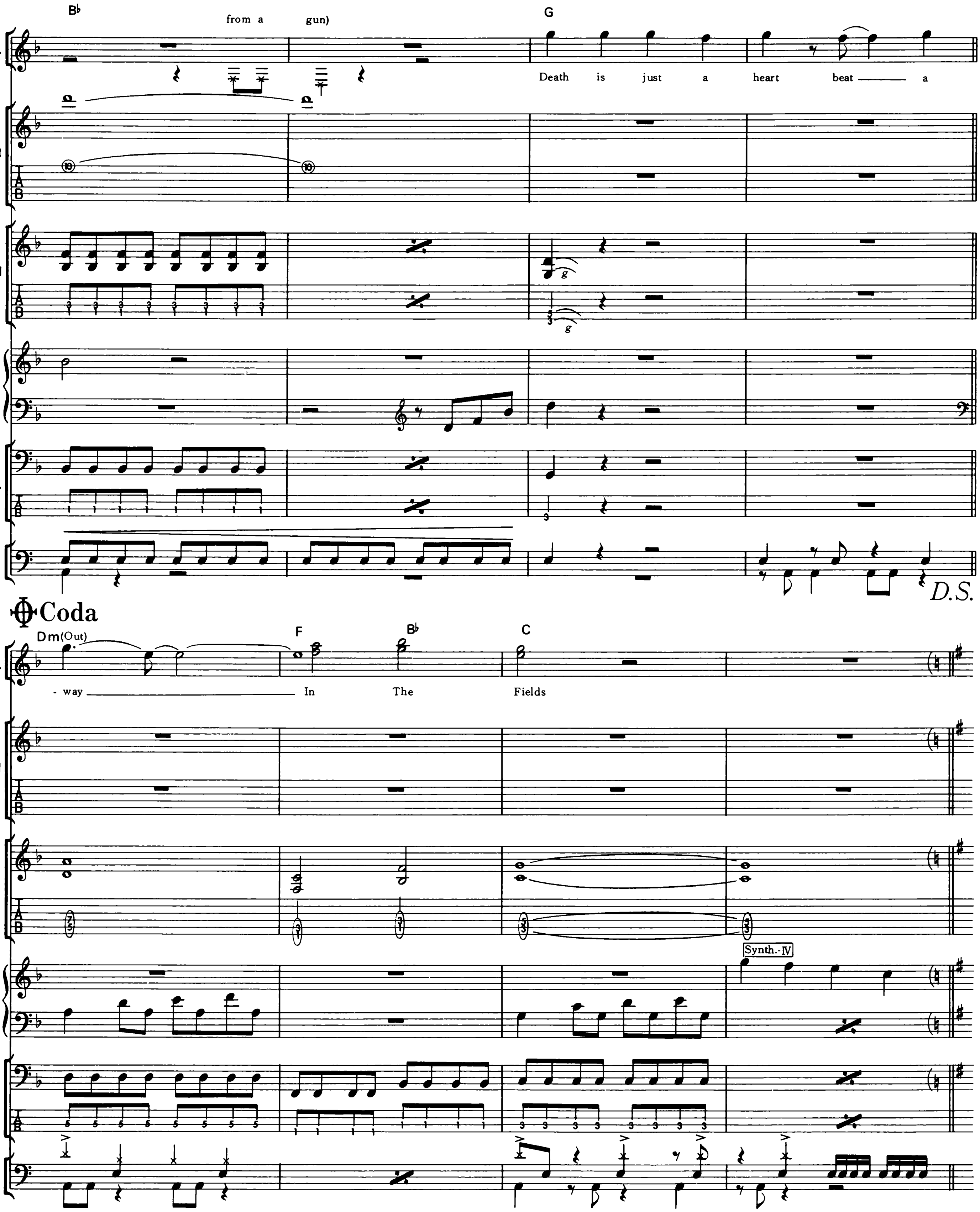
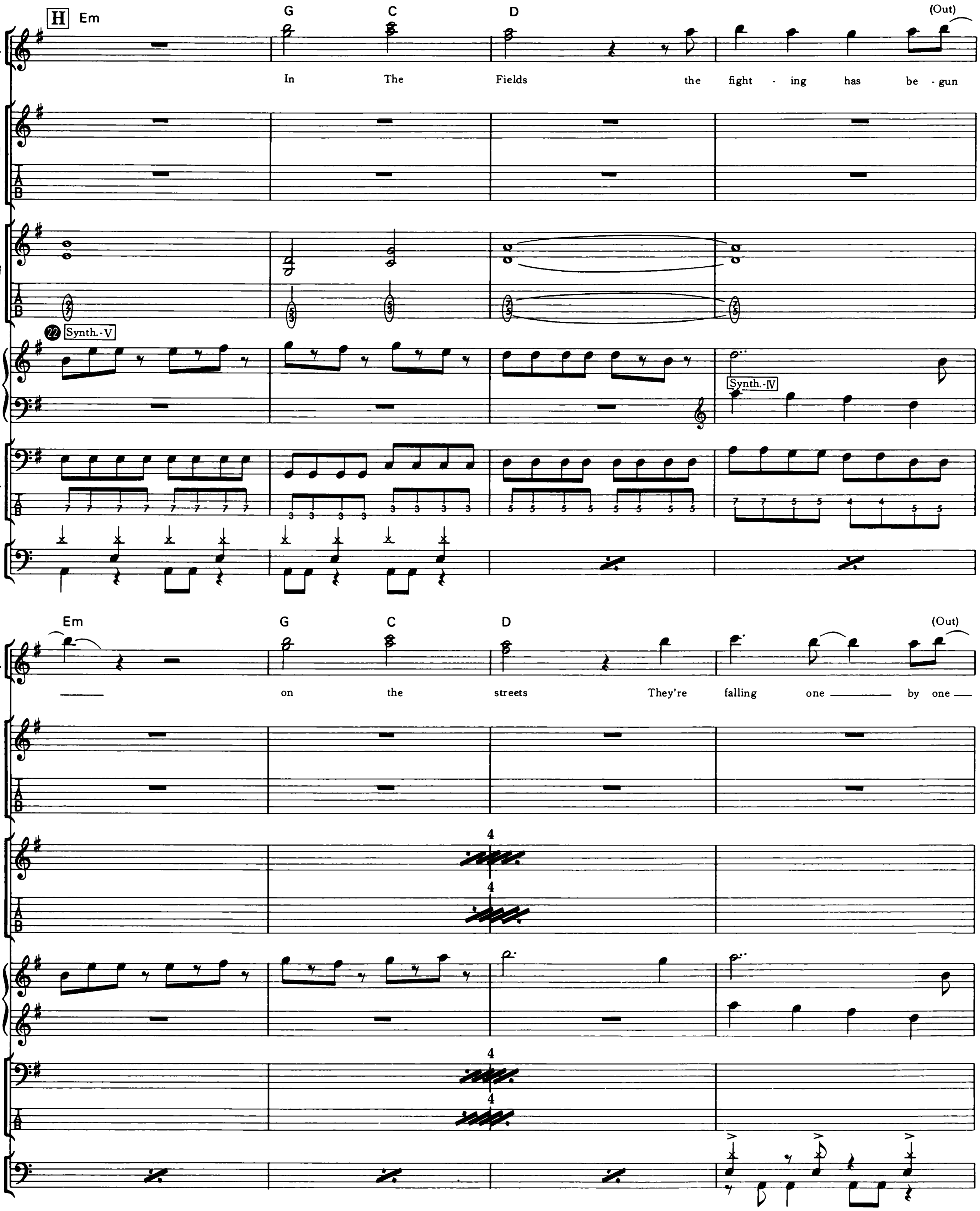
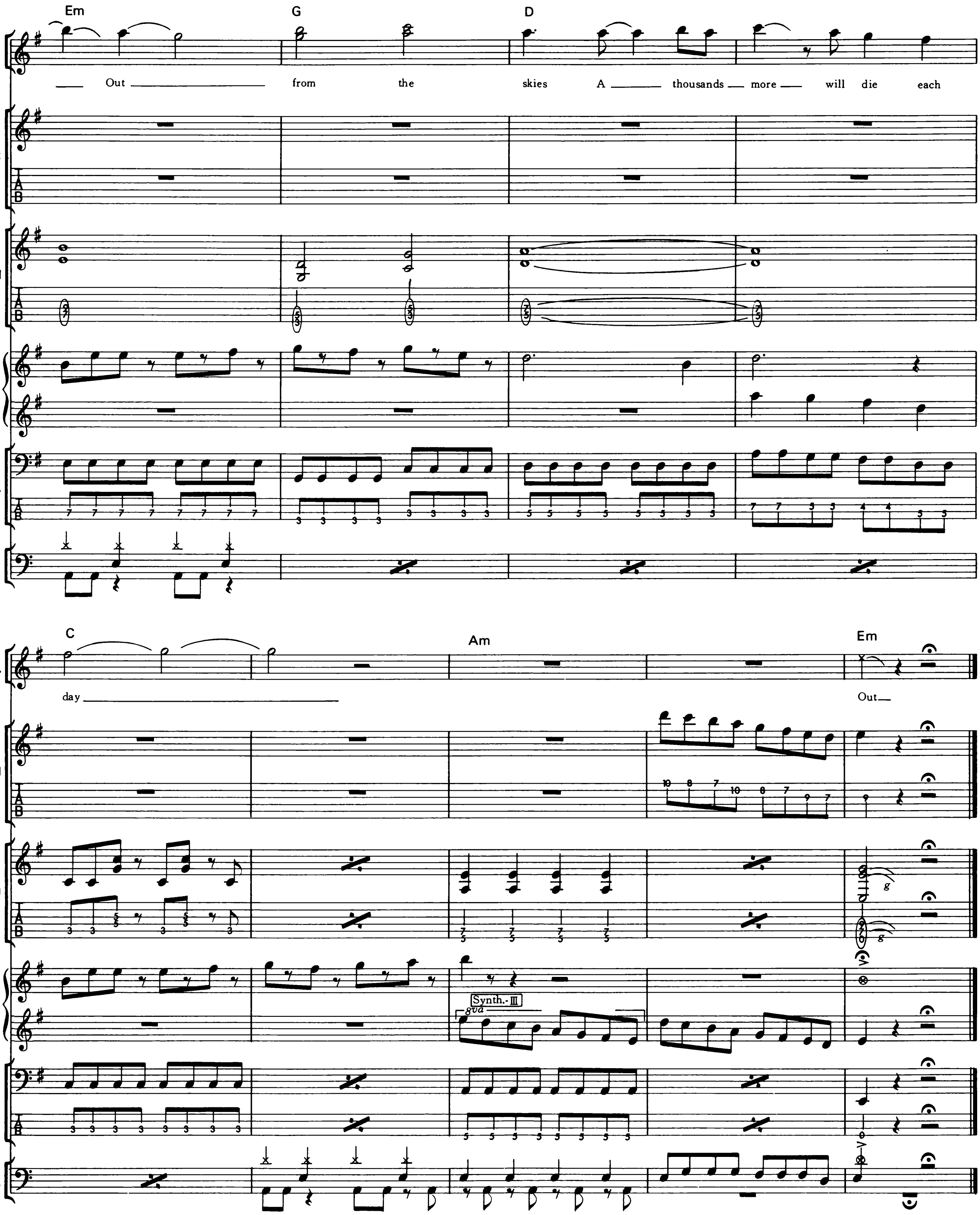
⑪(Gt.)：Intro. と同じメロディ、もちろんオクターヴ・ユニゾンだ。

⓬(Gt.)：ディストーション・サウンドで、ミュートしながら弾くこと。

⓭(Ba.)：グリス・サウンドから、ここは普通のベースによるプレイと思われる。ドラムスとバッチリ合わせて弾こう。

⓮(Kb.)：ギターとユニゾンの動きだ。タイミングが
合うよう充分トレーニングしたい。

⑮(Gt.)：アームによるヴィブラートだが、その場所によってニュアンスが違うので注意。特に7～8小節は、スネアに合わせて8分音符のタイムでヴィブラートをかけているので、バッチリとキメよう。

⑯(Dr.)：バスドラとシンバルをしっかりシンクロさせること。

⑰(Gt.)：開放を使わないポジションでのプレイも考えられるが、サウンド的には譜面どおりがよいだろう。低いポジションでのプレイは弦のテンションもキツくなり、慣れないと弾きづらいので気をつけて。

⑱(Gt.)：右手で軽くミュートして弾く。

⑲(Gt.)：譜面には記していないが、グリスしながら軽くアーミングをかけると感じが出るだろう。

⑳(Gt.)：ゲイリー・ムーアの得意とする上昇フレーズ。かなりのハイ・スピードなので、このフレーズを完璧に弾きこなすにはかなりの練習が必要だろう。他のポジションでのプレイも考えられるので、弾きにくいようであればポジションを変えてもよい。

㉑(Gt.)：ここから深めにディレイをかけ、ソロのエンディングを盛り上げている。

Vo.
Gt.-I
Gt.-II
Kb.
Ba.
Dr.
C
Dm
F
B♭
C
(They are fall
Fields
Out
In The
Fields
Synth.-I
C
ing one by one
Dm
F
B♭
C
No flag has ev-er stop-ped a bullet
Out
In The
Fields
cho

B♭
from a gun)
G
Vo.
Death is just a heart beat a
Gt.-I
Gt.-II
Kb.
Ba.
Dr.
D.S.
Coda
Dm(Out)
F
B♭
C
- way In The Fields
Synth.-IV

㉒(Kb.)：フルート系の素直な音作りでリズミカルに。

Em
G
D
Vo.
Out from the skies A thousands more will die each
Gt.-I
Gt.-II
Kb.
Ba.
Dr.
C
Am
Em
day
Out
Synth.-III
8va

Military Man

●ミリタリー・マン　by P. Lynott

Copyright©1985 by chappell International Music Publishers Limited
Rights for Japan assigned to CHAPPELL/INTERSONG K.K.

この曲のポイント

■Guitar

3度抜きコードによるヘヴィなバッキングと、ミュート・サウンドによる軽いパーカッシヴなバッキングの使いわけがポイントとなる曲。ソロはチョーキングとアーミングの微妙なニュアンスを生かした、スローで味のあるプレイでキメているため、しっかりと弾き込んでみたい。

■Keyboard

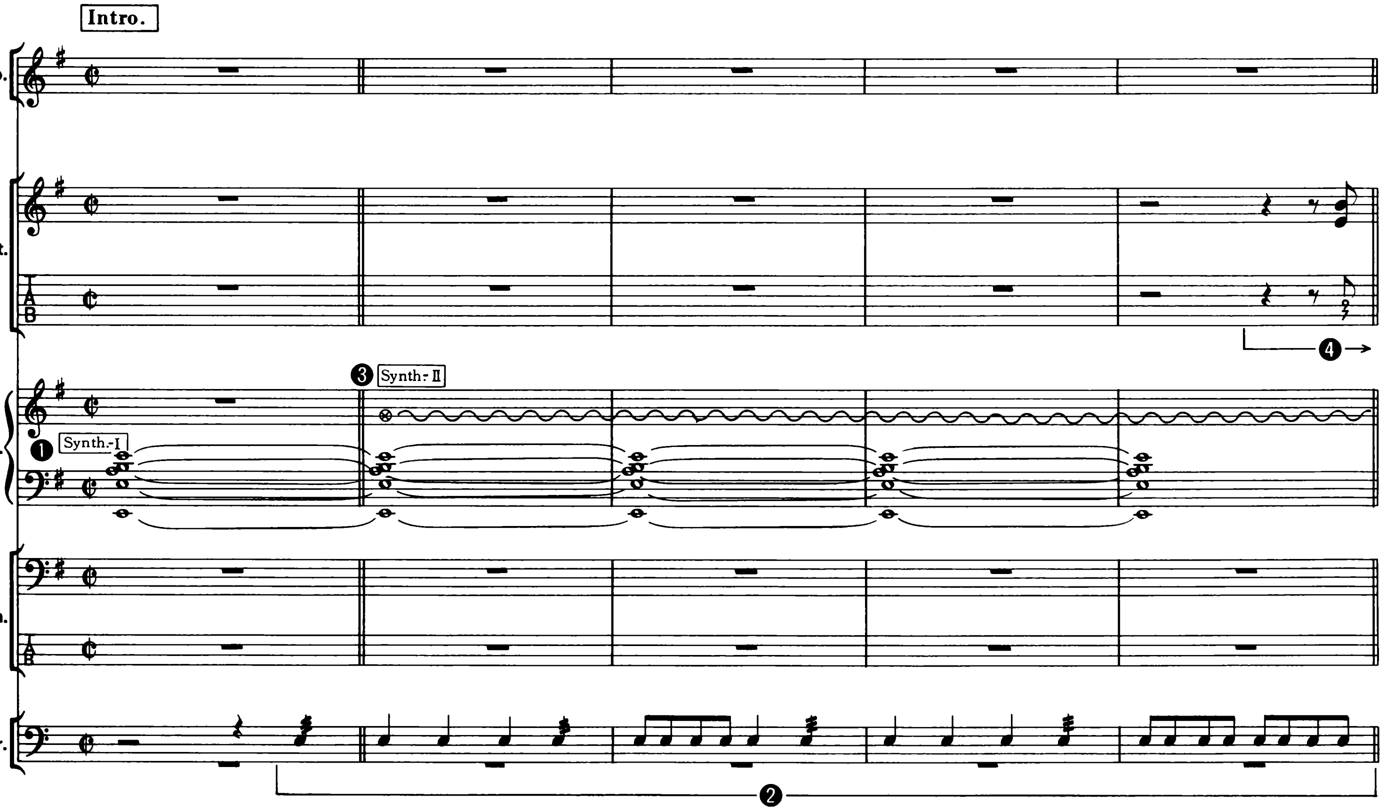
ストリングスを中心とした、ゆったりとしたバッキングばかりなので、初心者でも楽に演奏できるはず。$\frac{2}{2}$拍子の大きなノリでカウントを取っていくとよいだろう。ヴォリューム・ペダルで音量をコントロールしながら、ドラマティックにまとめよう。

■Bass

ディストーションなどを用いて音作りをしており、Intro.ではシンセ・ベースのようなサウンドとなっている。なお途中でビートが変わりノリが大きくなるが、ここではロング・トーンで弾いているのでサスティンに注意してプレイしよう。

■Drums

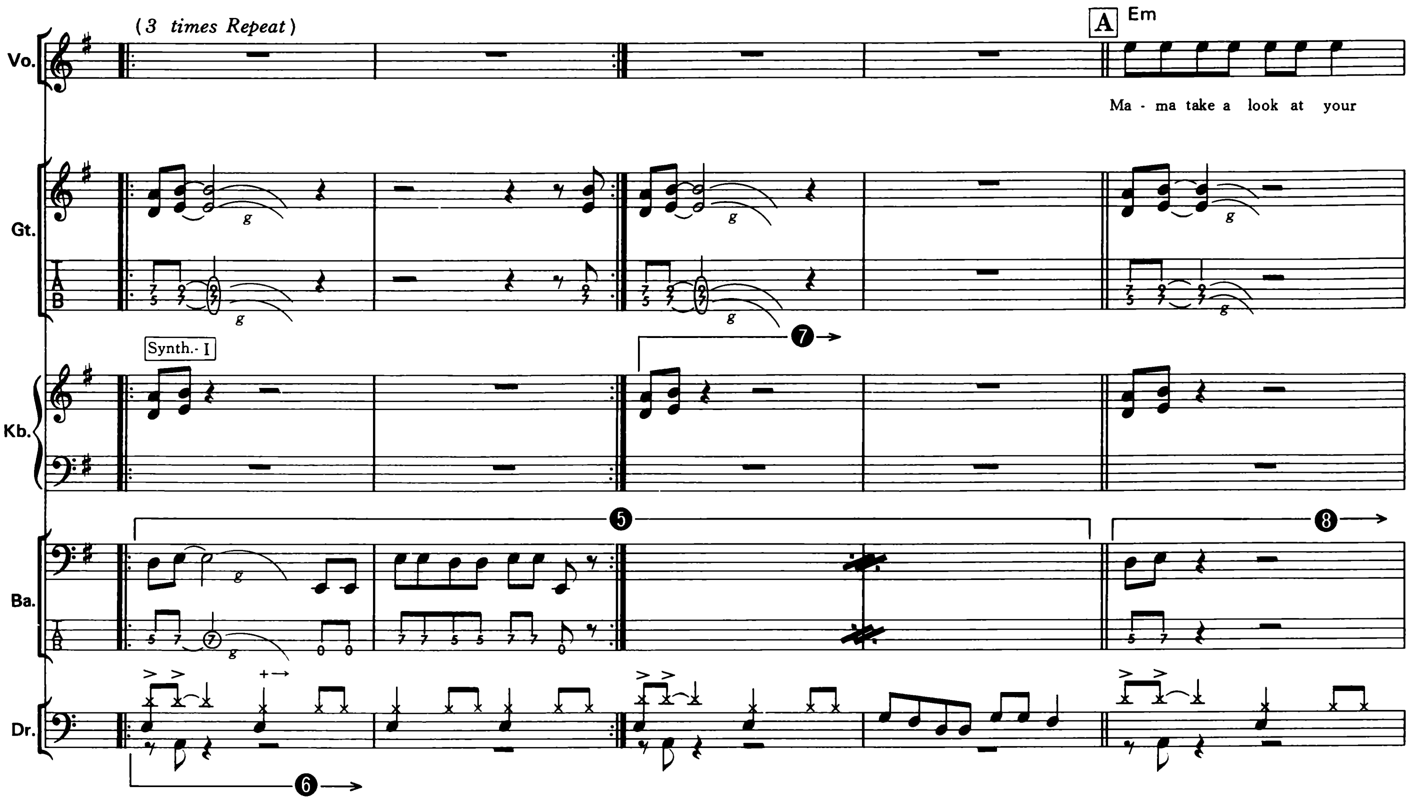
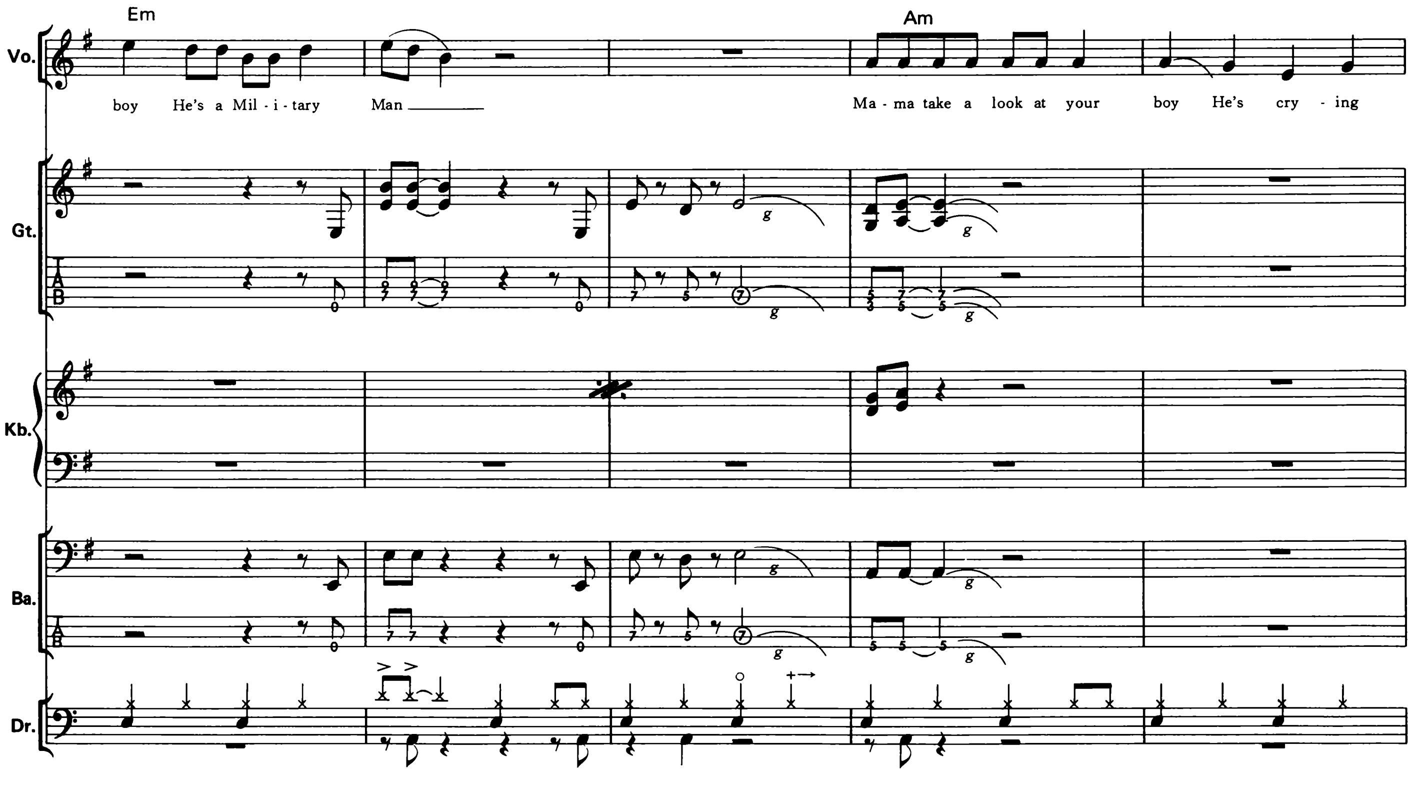
Intro.でスネアのロールを使ったマーチのようなドラミングを行っているため、1点打ち、2点打ちなどの基礎テクニックをしっかり身につけておく必要がある。この曲はスネアが2拍・4拍に入るごく普通の8ビートではなく、1拍・3拍に入る2ビート的なリズムだ。慣れないとノリを出すのが難しいだろう。また途中リズムがハーフになりノリが変わるので注意したい。なおタム類は、シモンズなどのエレクトリック・ドラムを使っていると思われる。



❶(Kb.)：ストリングス・サウンドで重厚に。冒頭は徐々にペダルを踏み込みながらフェイド・インしたい。

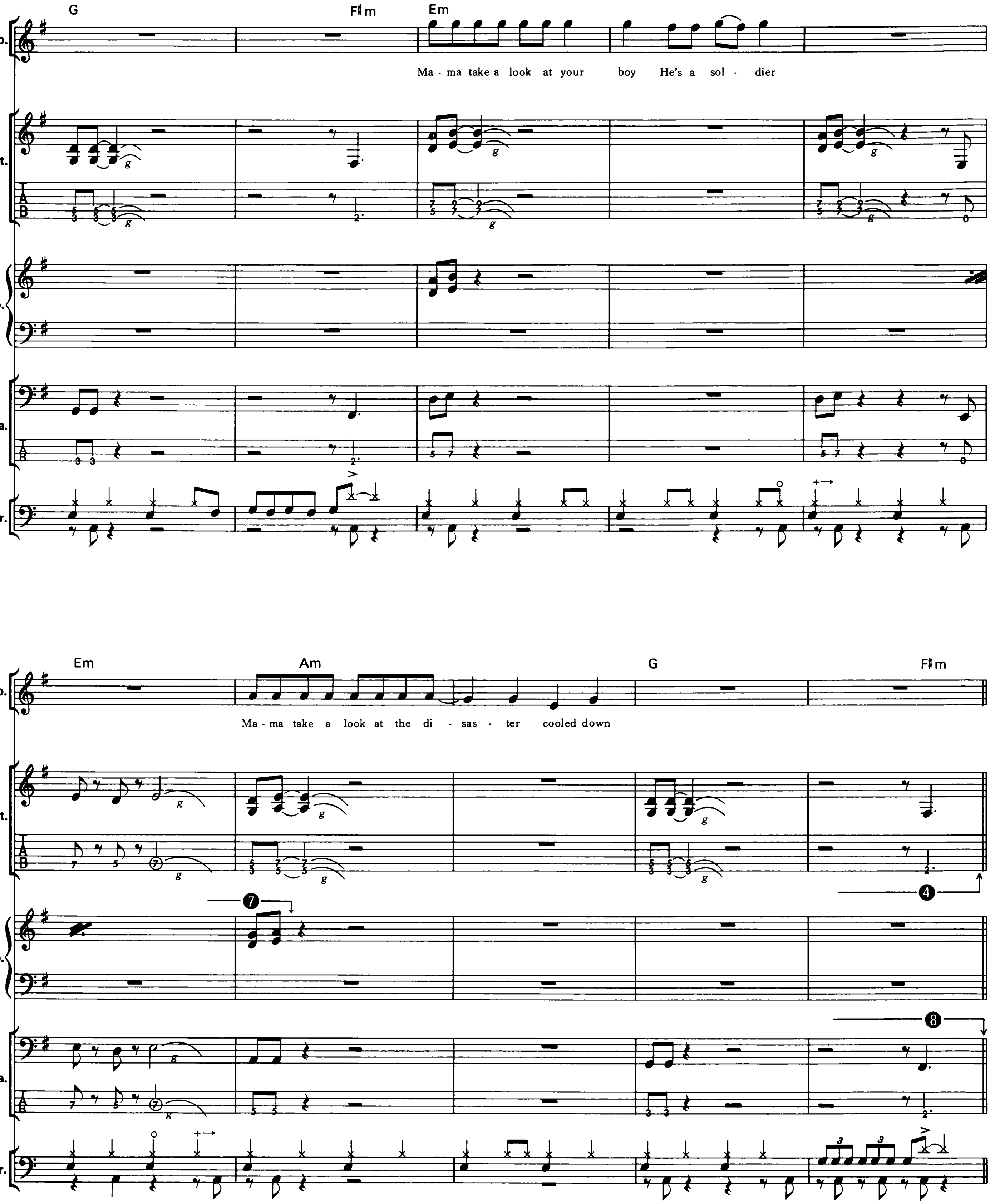
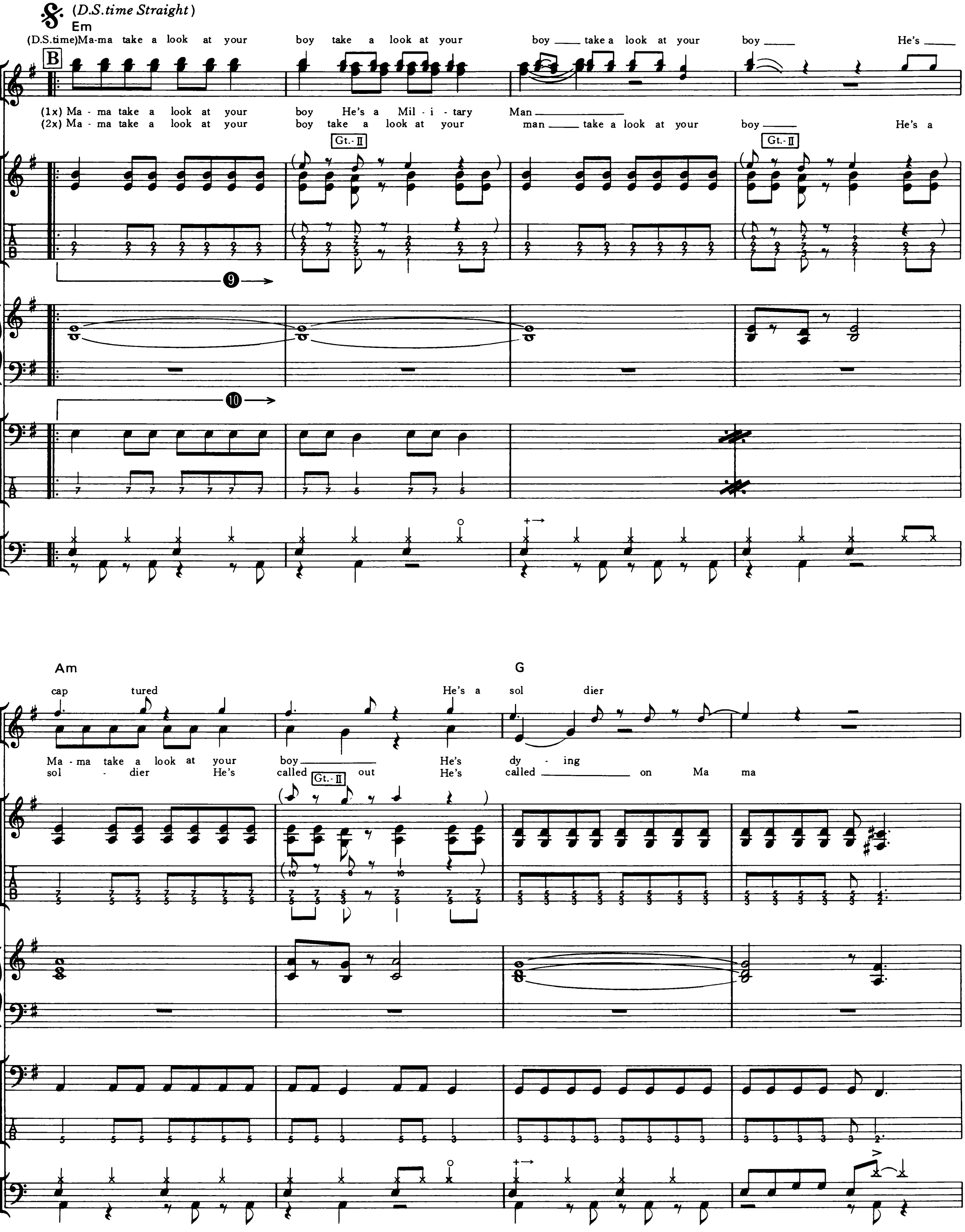
❷(Dr.)：スネアのロールがきれいに出せるよう注意して。

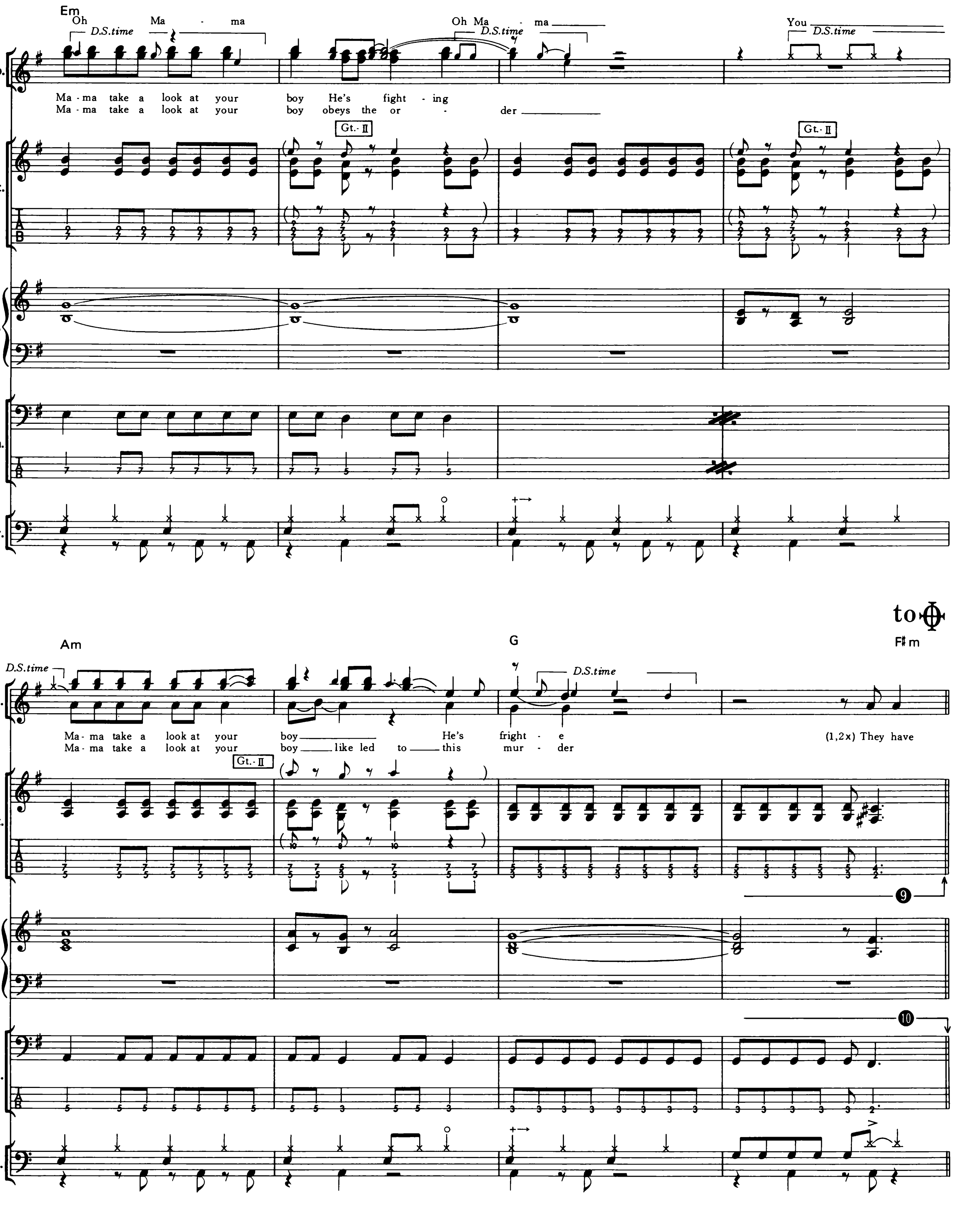
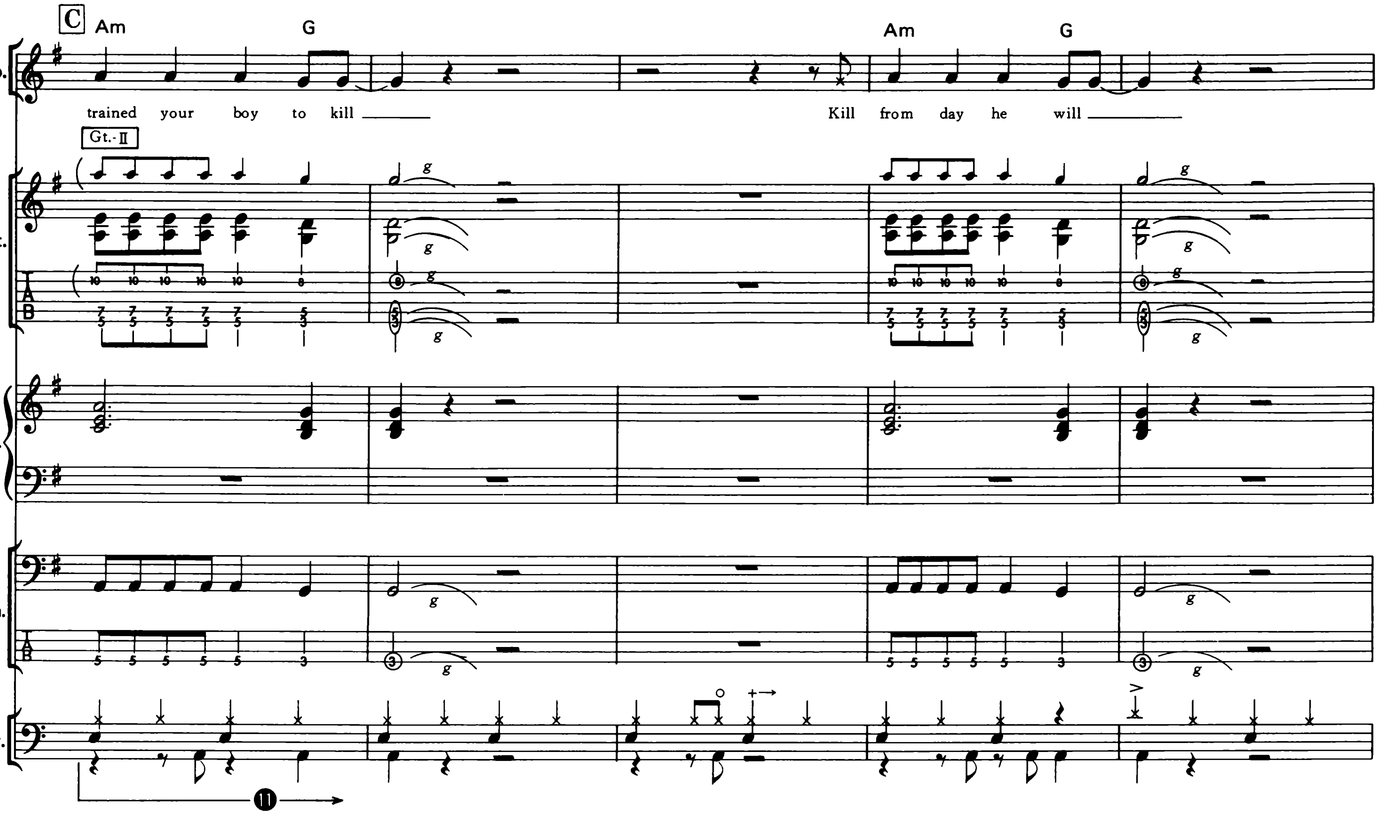
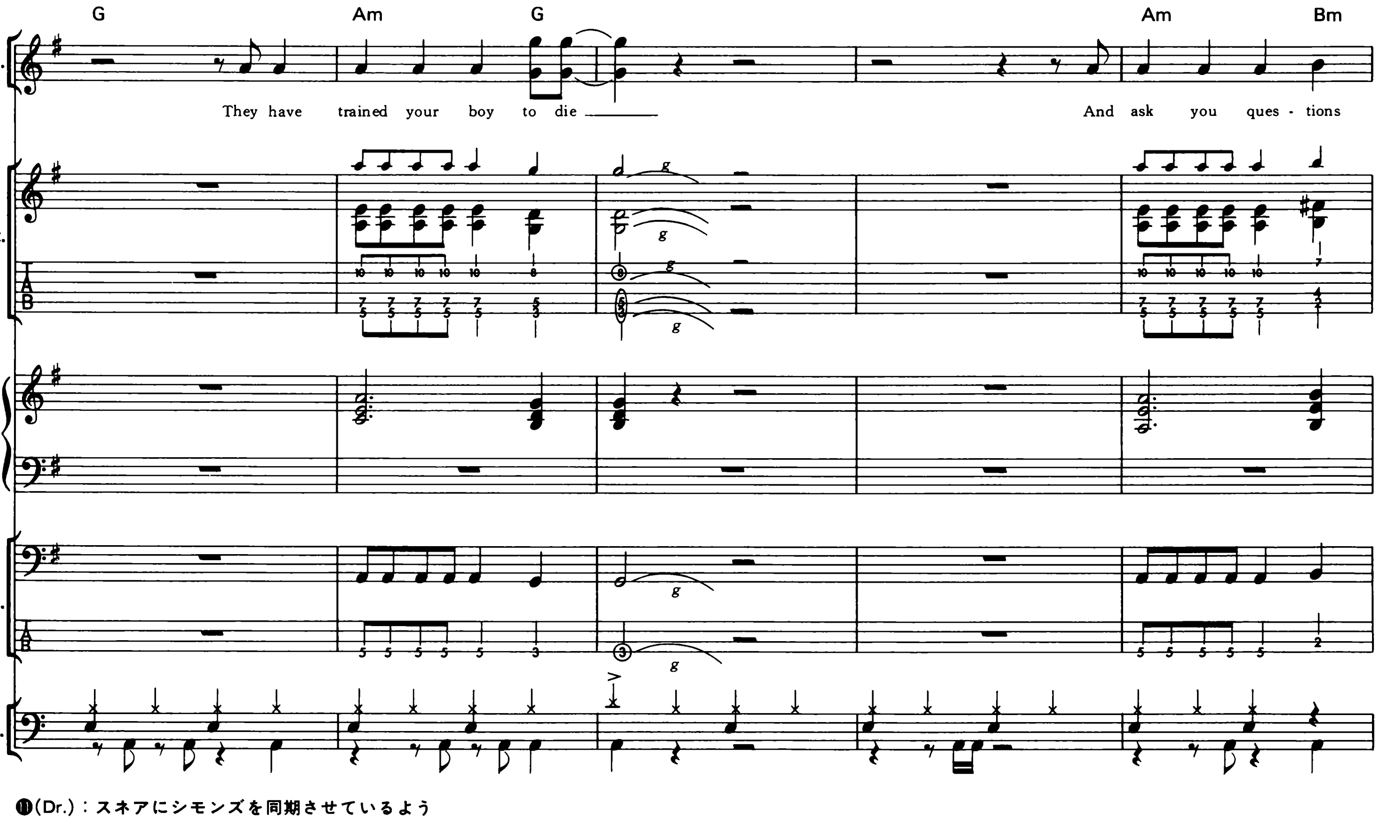
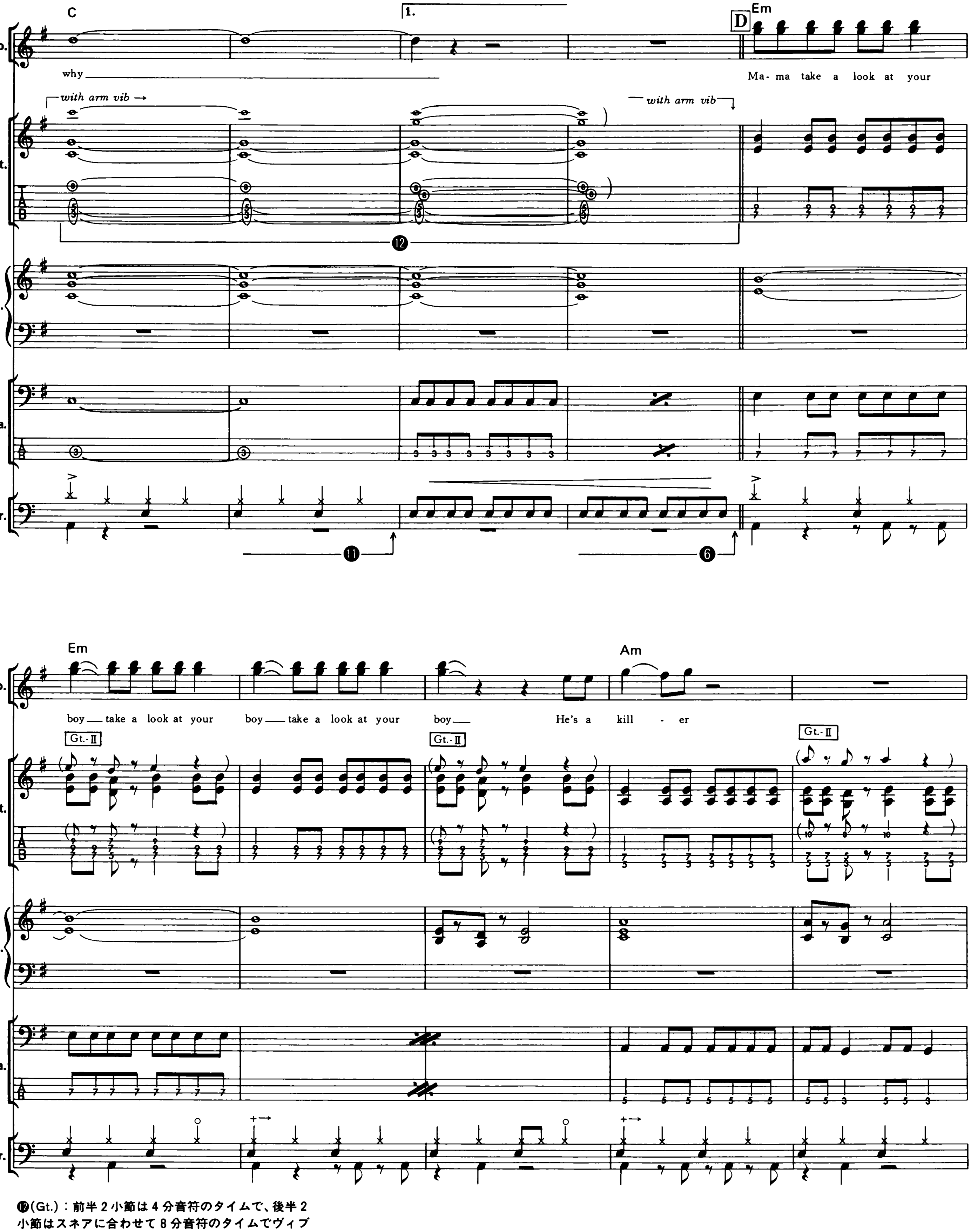
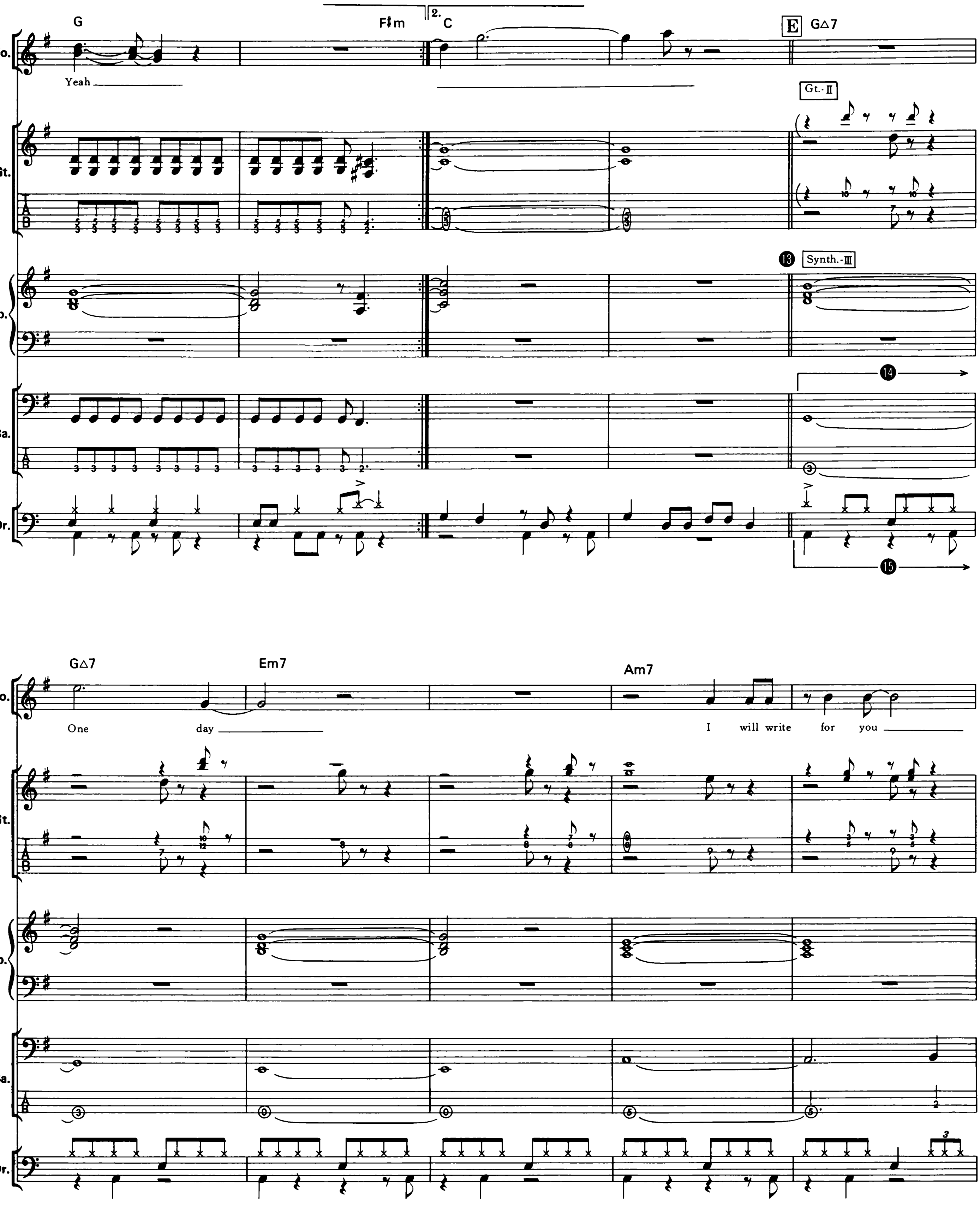
❸(Kb.)：ブラス系の太い音を4小節間伸ばし続け、ベンダーでG音→F音のピッチ下降をコントロールする。

❹(Gt.)：原曲では左右1本ずつギターが聴こえるが、ほとんど同様のプレイなので譜面では省略してある。普通の8ビートと違ってスネアが1拍・3拍に入るため、ノリに気をつけて弾こう。

❺(Ba.)：シンセ・ベースのようにも聴こえるが、おそらくディストーションをつないでサウンド・メイキングしたものだろう。

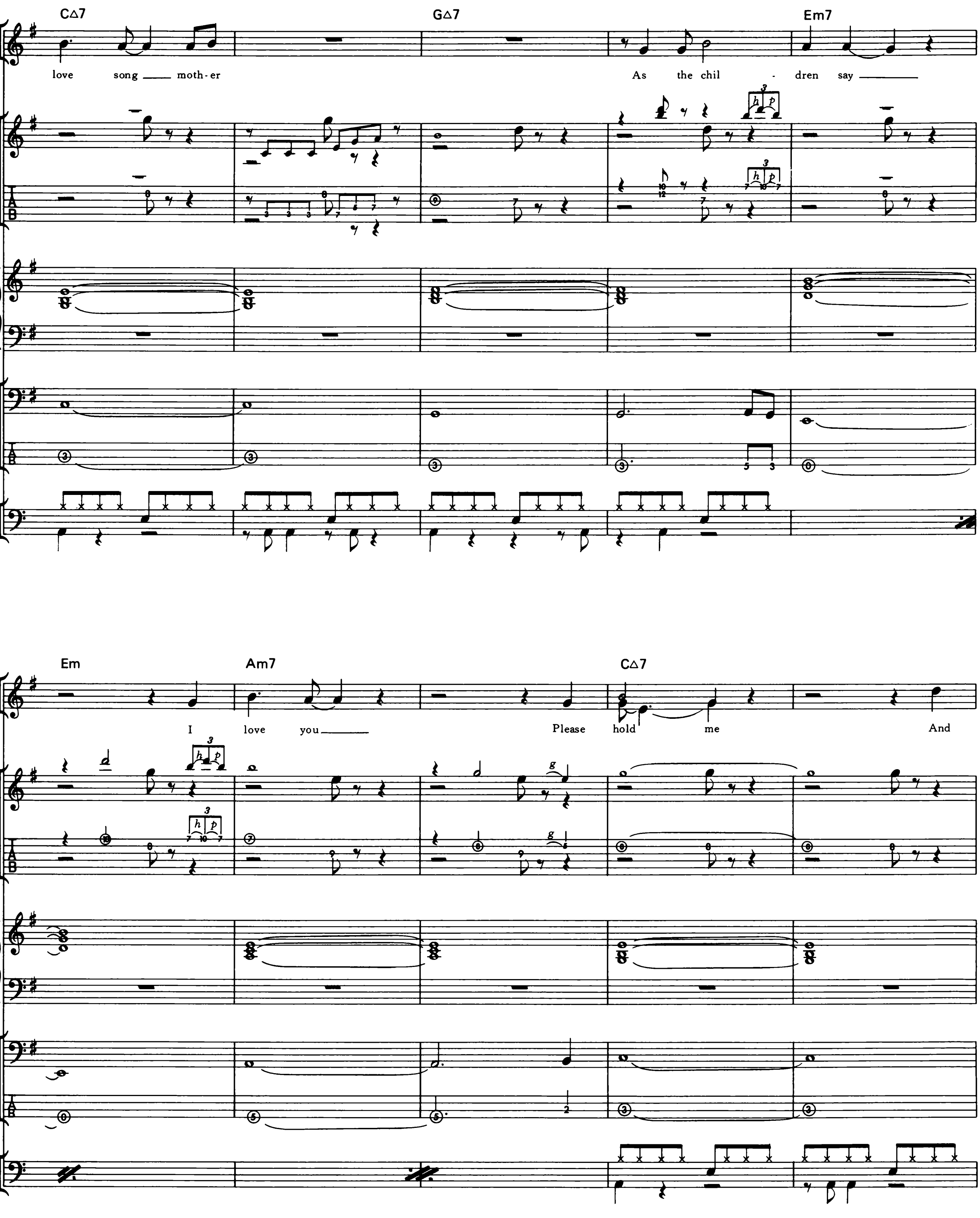
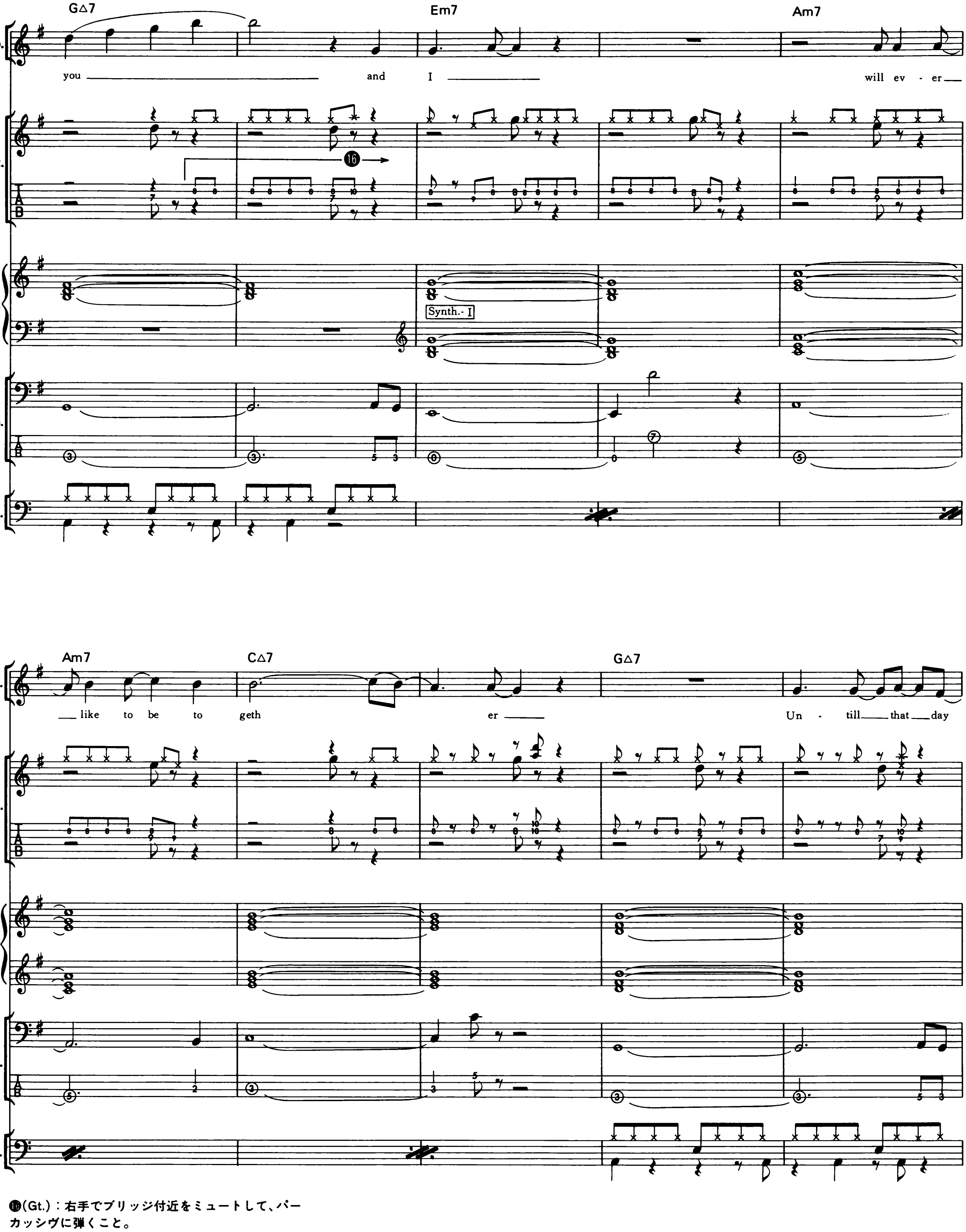
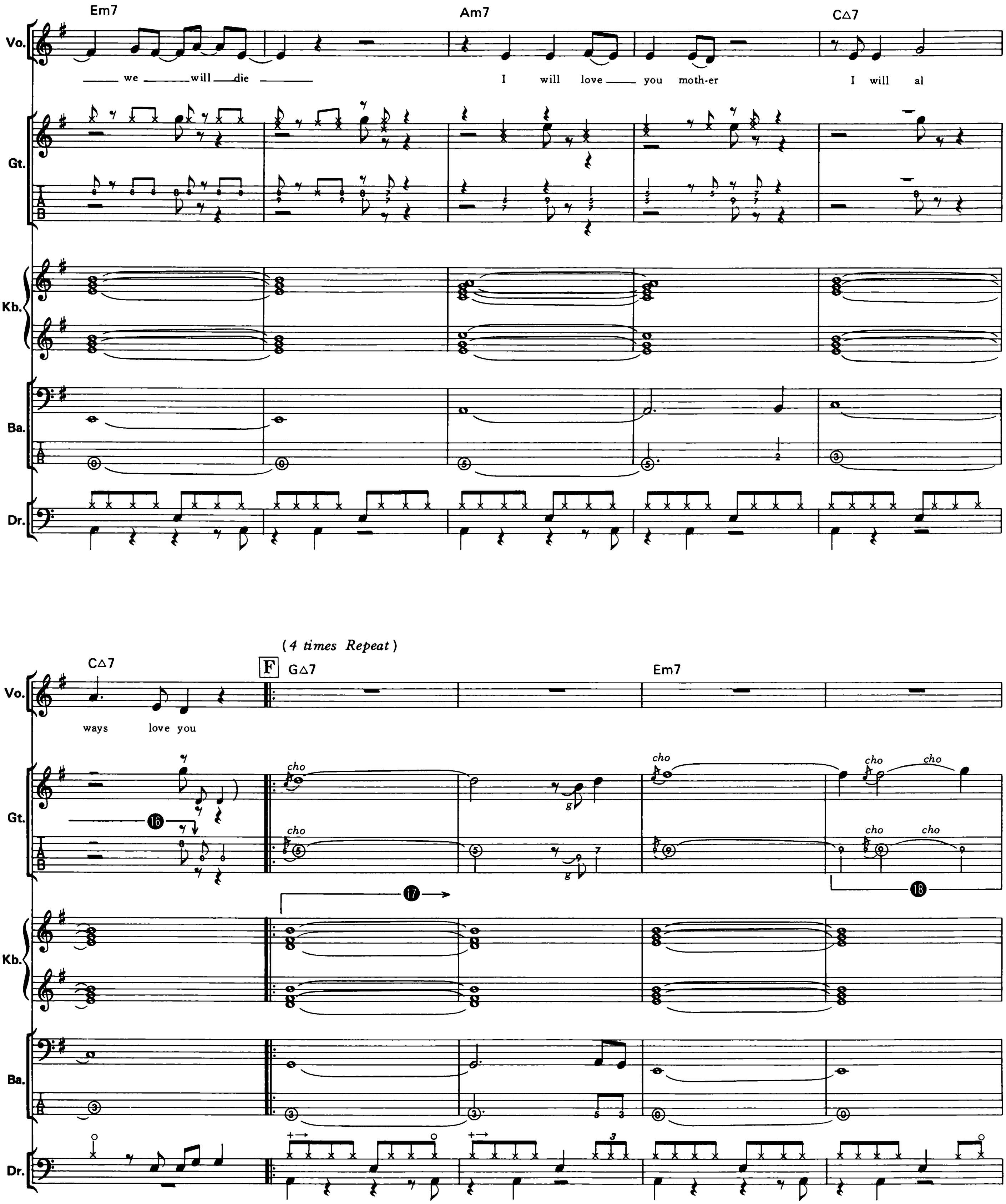
❻(Dr.)：普通の８ビートと違ってスネアが１拍・３拍に入るので、ノリに気をつけよう。

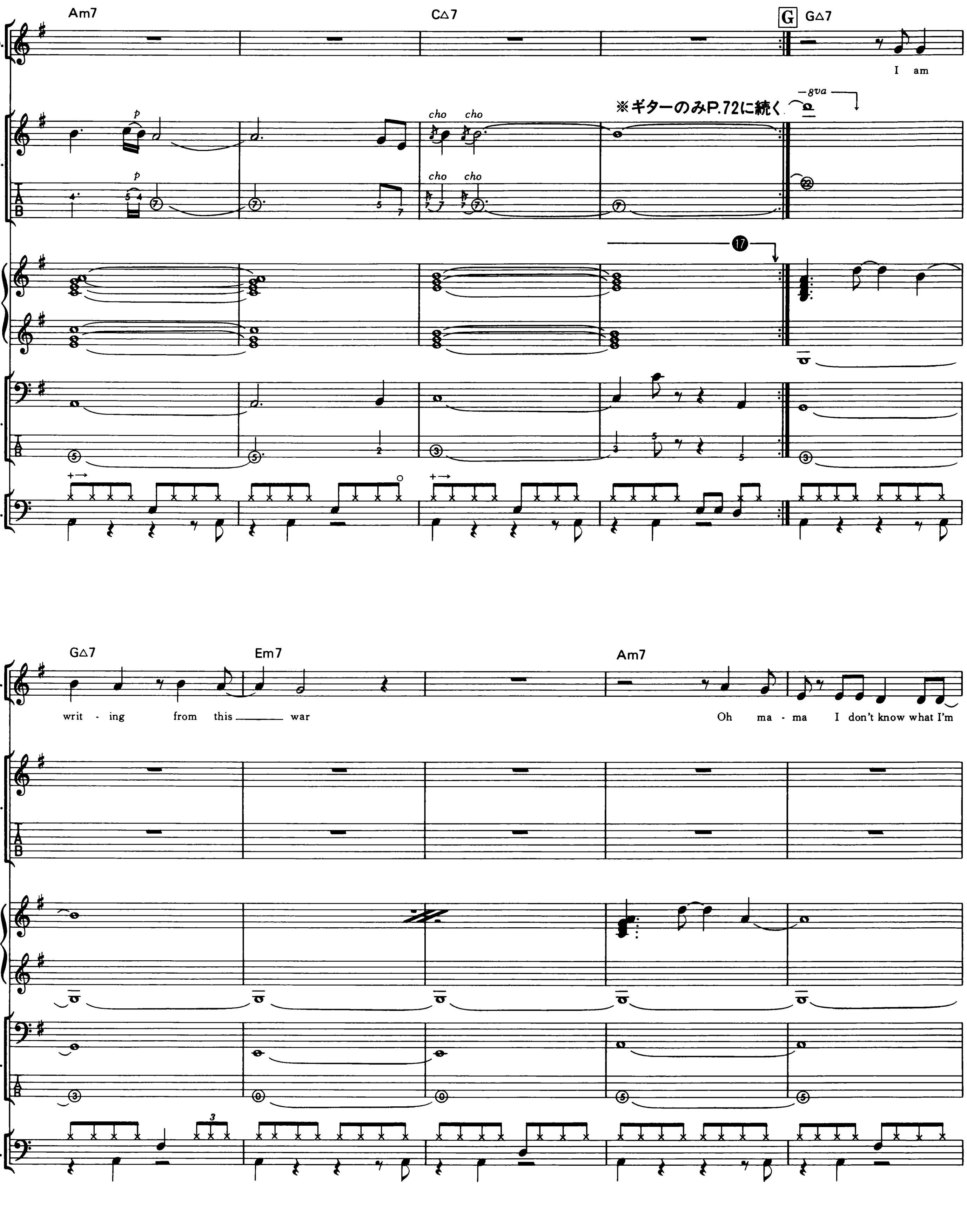
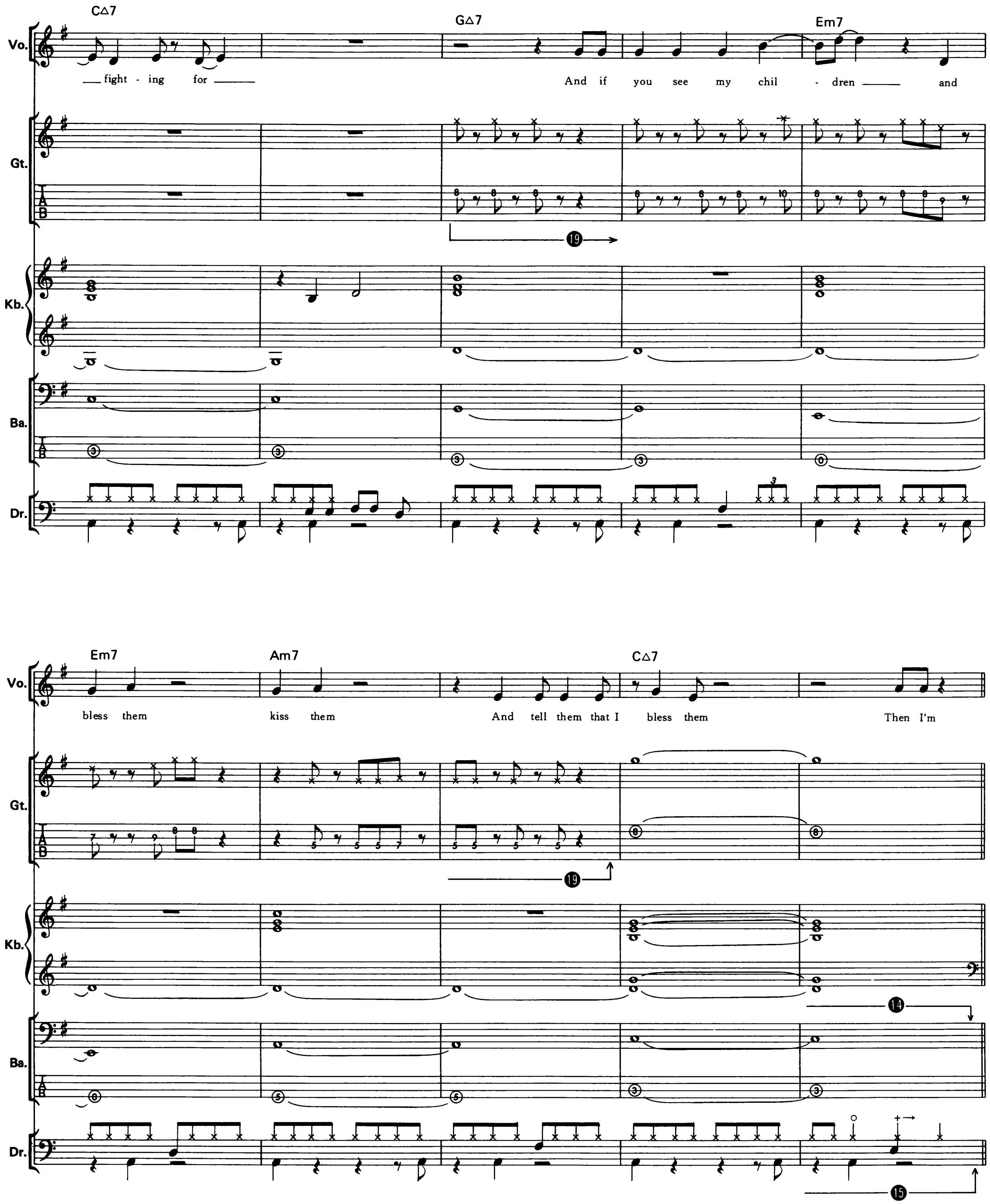
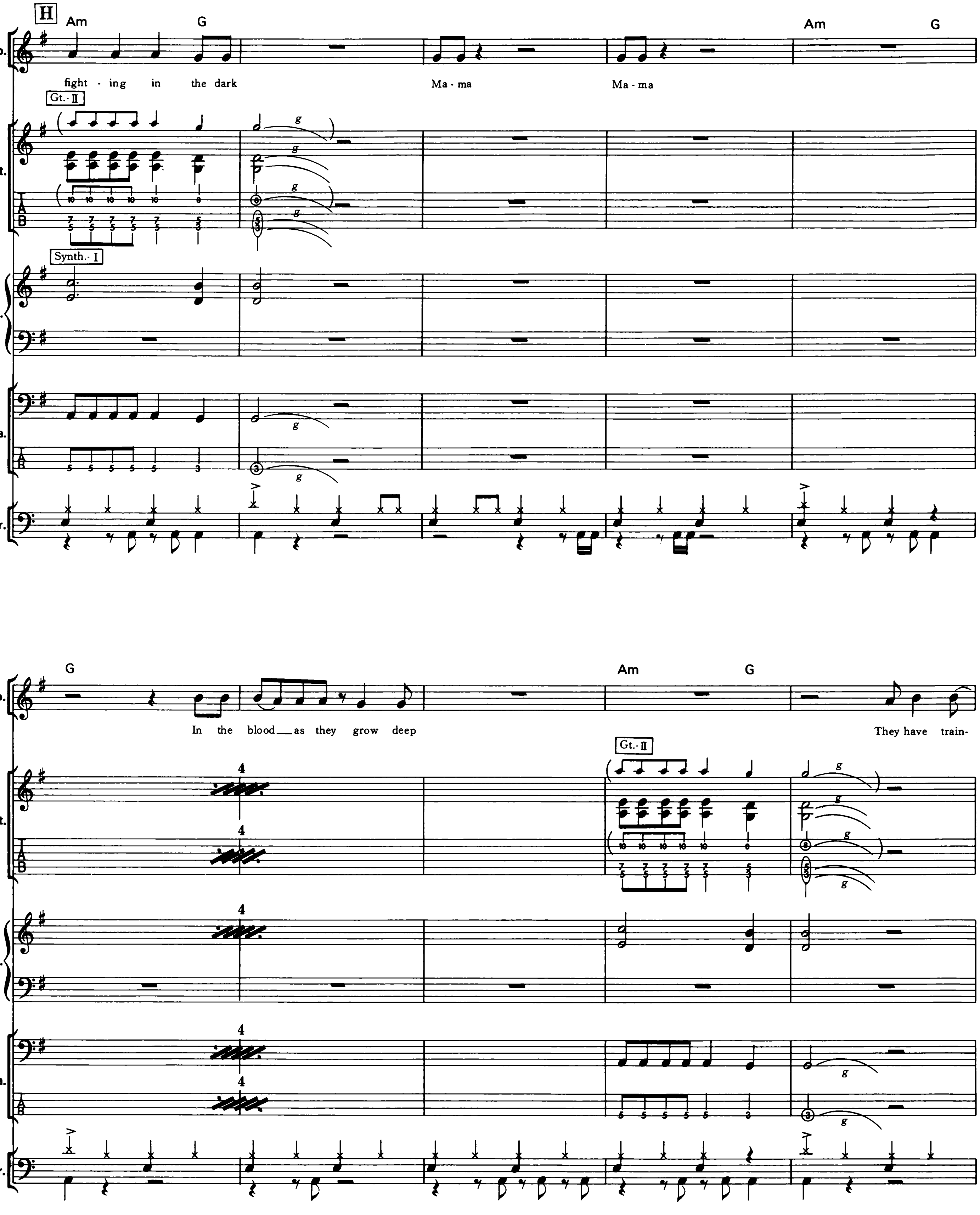
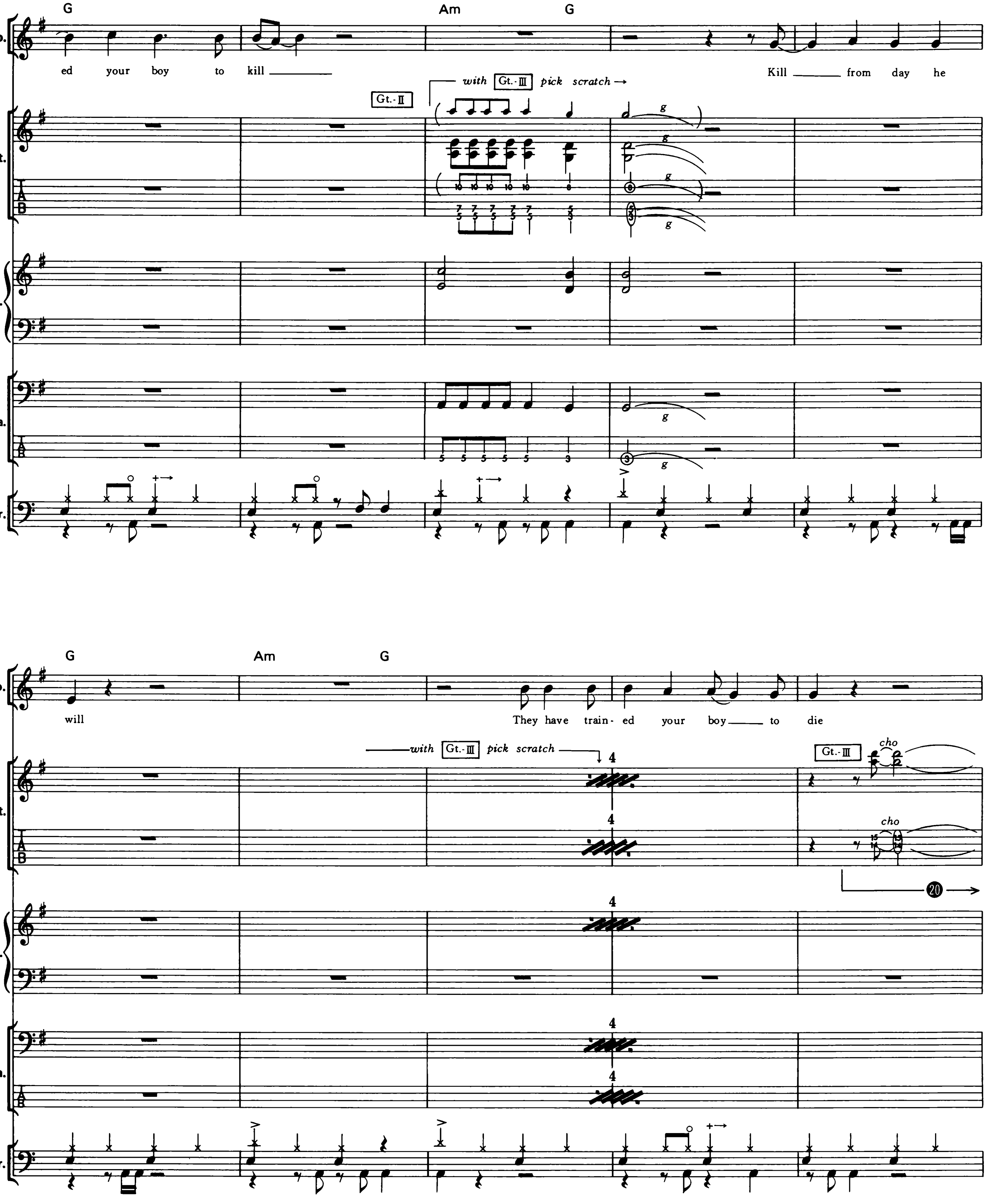
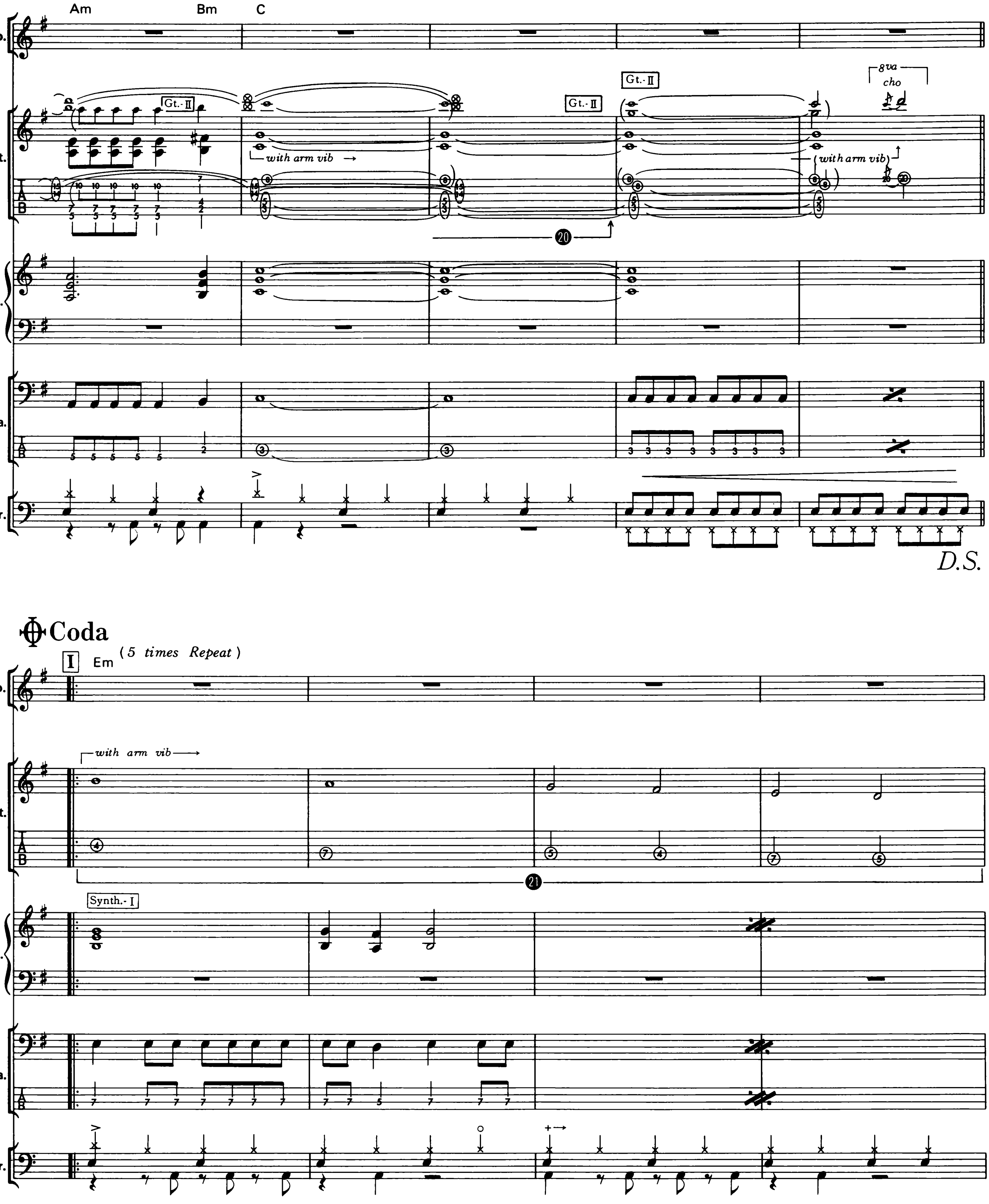
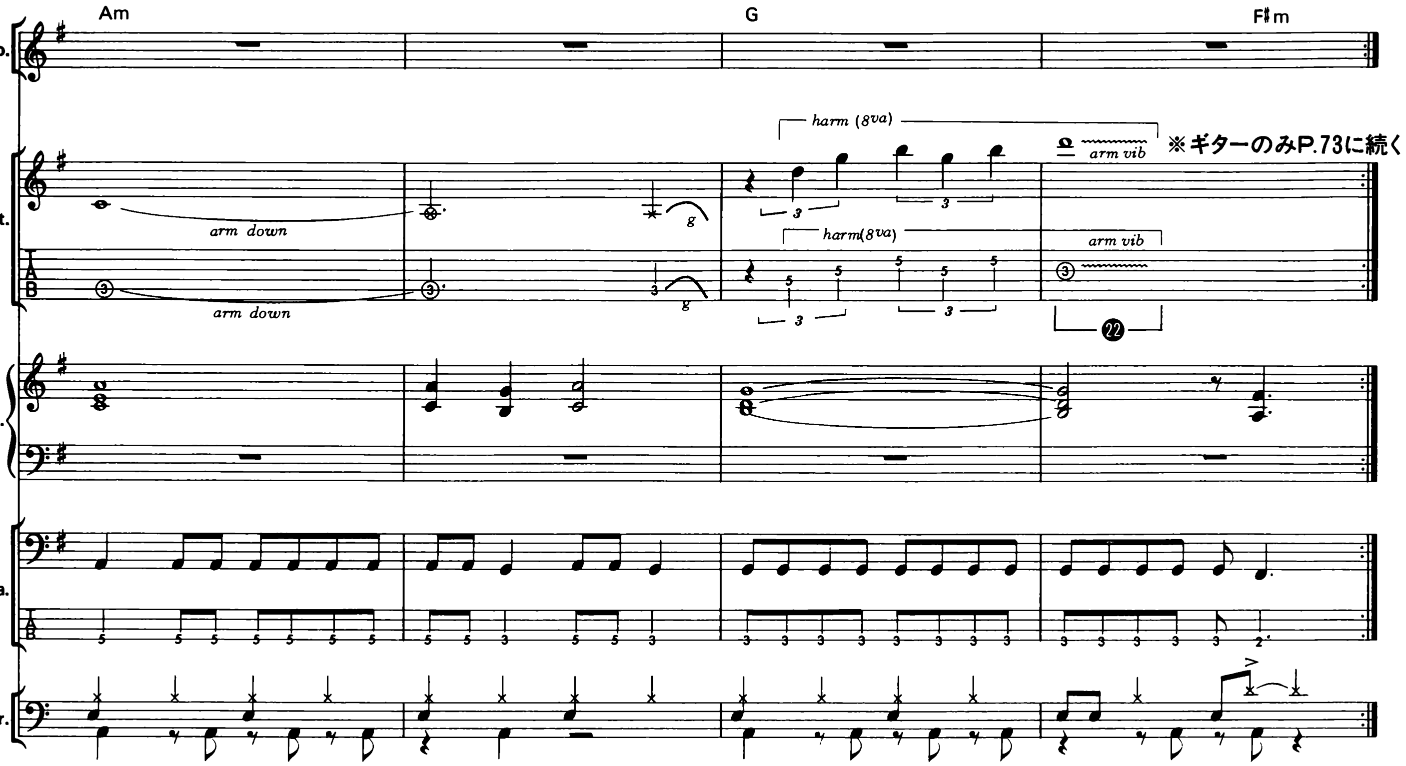
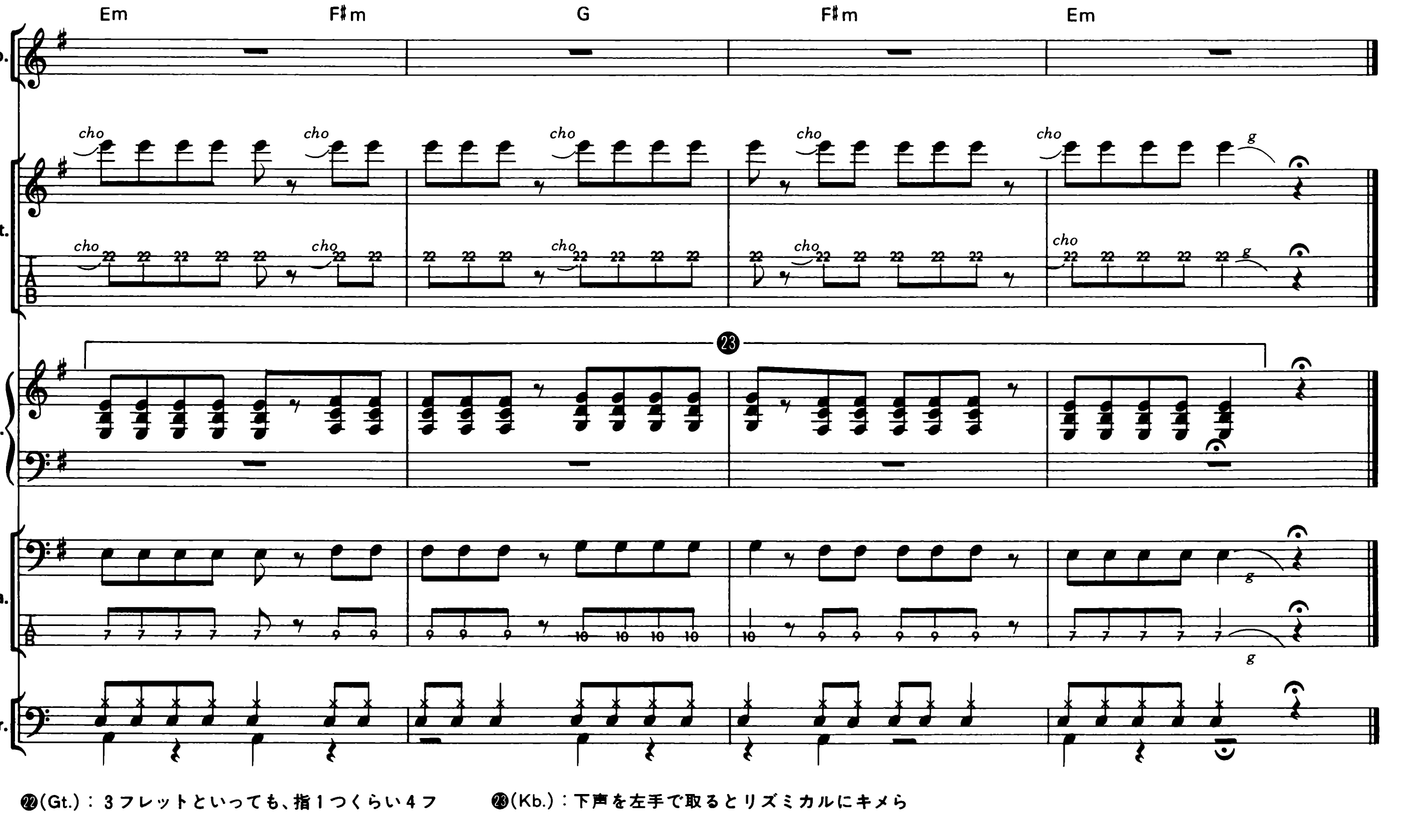
❼(Kb.)：弾きづらいようであれば、１声ずつわけて両手で押さえてもかまわない。

❽(Ba.)：ドラムスのアクセントに合わせて、力強さを強調する。

G
F♯m
Em
Vo.
Ma - ma take a look at your boy He's a sol - dier
Gt.
Kb.
Ba.
Dr.
Em
Am
G
F♯m
Ma - ma take a look at the di - sas - ter cooled down
7
4
8

❾(Gt.)：ここからは、完全に2本のギターのアレンジが異なっている。( )内のほうは強めのピッキングで、ピッキング・ハーモニクス気味に弾こう。

❿(Ba.)：ドライブ感が何よりも大切なところ。ビートを見失わないように。

Em
Oh Ma - ma
D.S.time
Oh Ma - ma
D.S.time
You
D.S.time
Vo.
Ma - ma take a look at your boy He's fight - ing
Ma - ma take a look at your boy obeys the or - der
Gt.-II
Gt.-II
Gt.
Kb.
Ba.
Dr.
to
Am
G
F♯m
D.S.time
D.S.time
Ma - ma take a look at your boy He's fright - e
Ma - ma take a look at your boy like led to this mur - der
(1,2x) They have
Gt.-II
9
10

⓫(Dr.)：スネアにシモンズを同期させているようだ。

⑫(Gt.)：前半２小節は４分音符のタイムで、後半２小節はスネアに合わせて８分音符のタイムでヴィブラートをかける。なお後半は、ギターが１本増えてハモリになっているので注意。

⑬(Kb.)：ローズ系のソフトなエレピ・サウンド。軽くトレモロ効果をかけてプレイ。

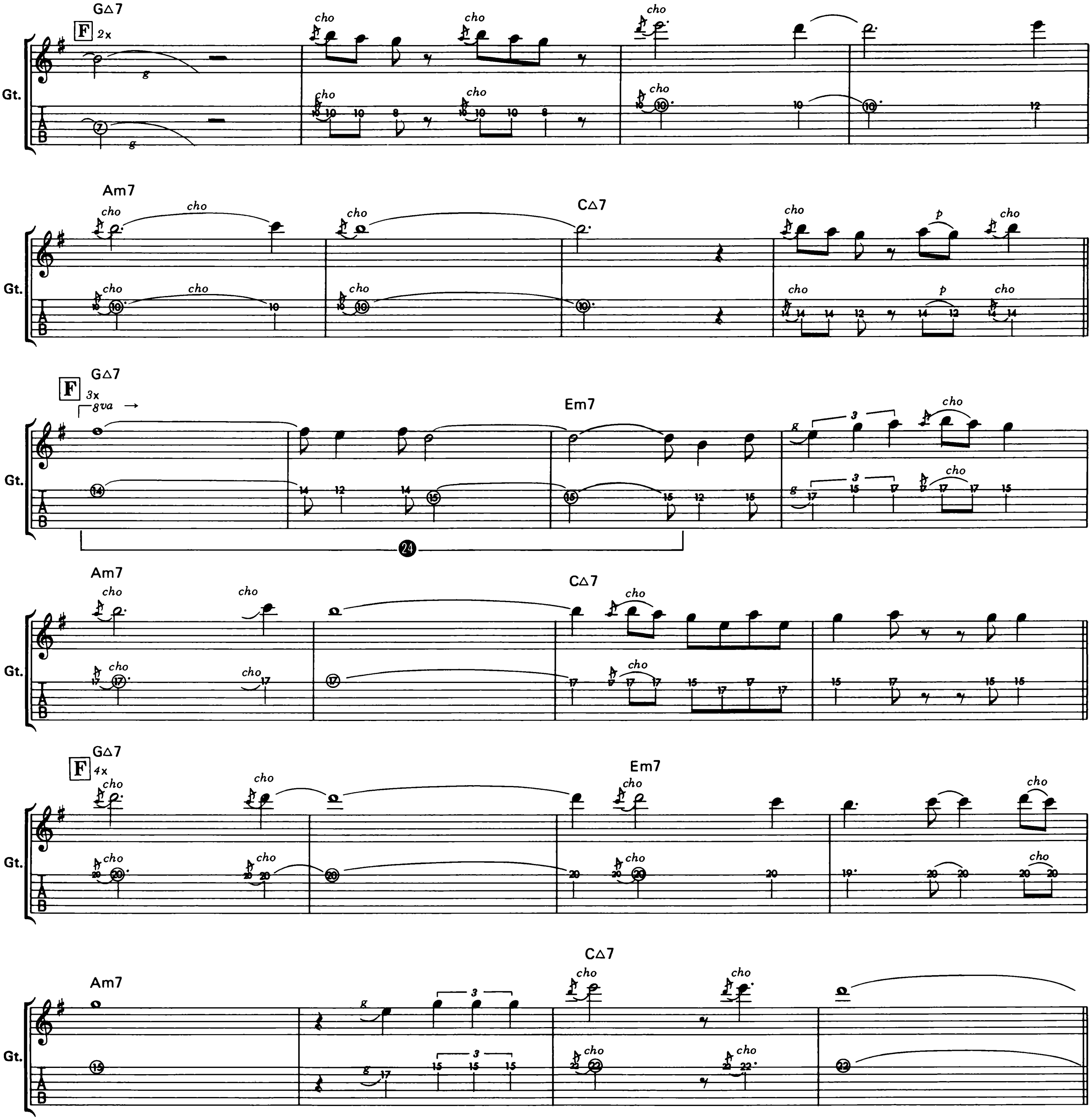
⑭(Ba.)：ロング・トーンを生かしてゆったり弾こう。ときどき入ってくるアクセント的な"バチッ"という音は、弦を引っ張るようにして強くはじくと得られる。

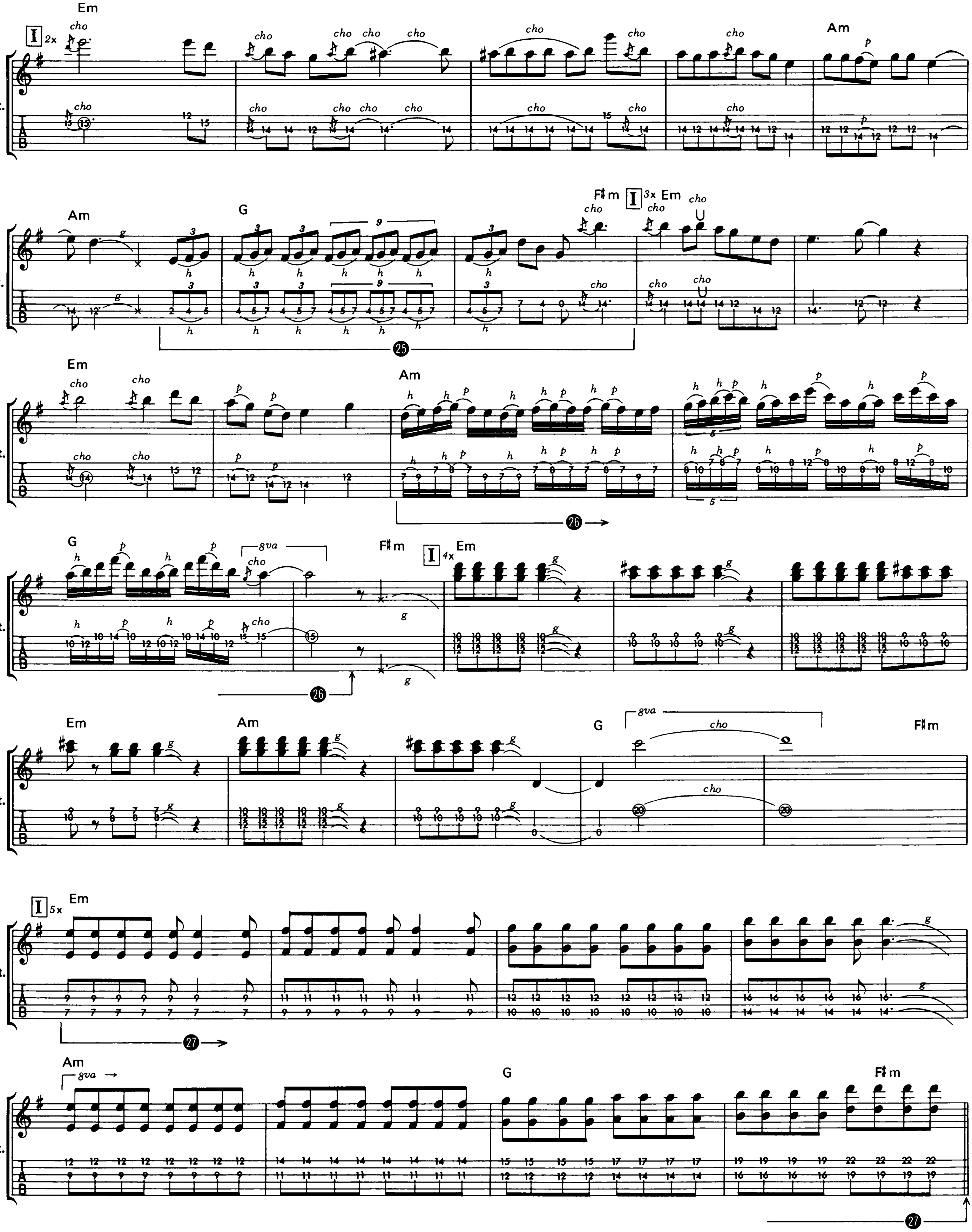
⑮(Dr.)：リズムがハーフに(16ビートのリズムに)なる。ノリに気をつけよう。

Vo.
Gt.
Kb.
Ba.
Dr.
C△7
G△7
Em7
love song mother
As the children say
Em
Am7
C△7
I love you
Please hold me
And

⑯(Gt.)：右手でブリッジ付近をミュートして、パーカッシヴに弾くこと。

⑰(Kb.)：くり返すごとに自由に弾き崩してかまわない。ゆったりとしたリズムを基調に。

⑱(Gt.)：2度チョーキングからさらに3度までチョーキングするフレーズ。3度まで上げるときに、一旦微妙に音程を下げると感じが出る。

Am7
C△7
G
G△7
Vo.
I am
Gt.
※ギターのみP.72に続く
8va
cho cho
p
Kb.
⑰
Ba.
Dr.
G△7
Em7
Am7
writ - ing from this war
Oh ma - ma I don't know what I'm

⑲(Gt.)：右手のミュートによるパーカッシヴなサウンド。

H
Am G Am G
Vo.
fight - ing in the dark Ma - ma Ma - ma
Gt.-II
Gt.
Synth.-I
Kb.
Ba.
Dr.
G Am G
In the blood as they grow deep They have train-

⑳(Gt.)：2弦はそのままで、3弦のみをチョーキングする。中指で3弦、薬指で2弦を押さえるとよい。

㉑(Gt.)：8分音符のタイムでヴィブラートをかける。



㉒(Gt.)：3フレットといっても、指1つくらい4フレットよりあたりがハーモニクス・ポイントだ。

㉓(Kb.)：下声を左手で取るとリズミカルにキメられる。

※P.66　ギターの続き

㉔(Gt.)：アームを使うことによって、味わい深いサウンドに仕上げられている。

※P.71　ギターの続き

㉕(Gt.)：リズム、ノリが難しいところなので要注意。

㉖(Gt.)：いかにもゲイリー・ムーアといった速弾きフレーズ。指使いとポジション移動に気をつけてプレイ。

㉗(Gt.)：オクターヴ奏法。注意しなくてはいけないのは、使用する２本の弦のあいだの弦を確実にミュートすることだ。

Still In Love With You

●それでも君を　by P. Lynott

Copyright©by Pippin The Friendly Ranger Music Company Limited
Rights for Japan assigned to CHAPPELL/INTERSONG K.K.

この曲のポイント

■Guitar

スローなバラード・ナンバーなので、ソロもムードたっぷりに弾こう。バッキングでは、アルペジオのあいだにオブリガート・フレーズが入っているが、何気なく弾いているようでいて、こういう雰囲気を出すのは意外と難しいものだ。ポイントは、弾きすぎたりヴォーカルの邪魔をしたりしないことだろう。

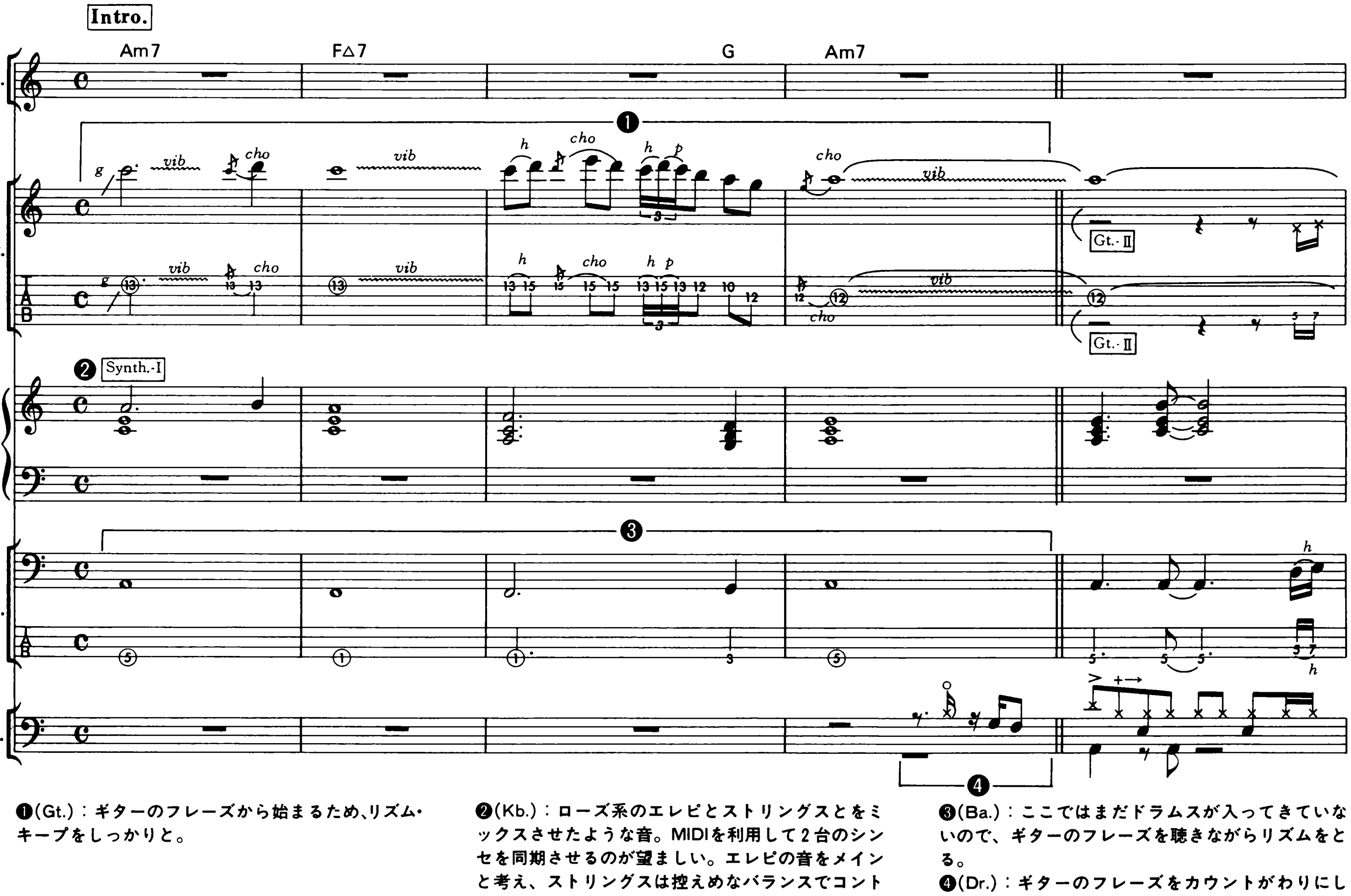
■Keyboard

ストリングスやエレピの重厚な響きを前面に押し出し、全体をしっとりと仕上げたい。ゆったりした動きが中心なだけに、各音のアタックのタイミングは正確に。細かいカウントを体で取りながらプレイしよう。

■Bass

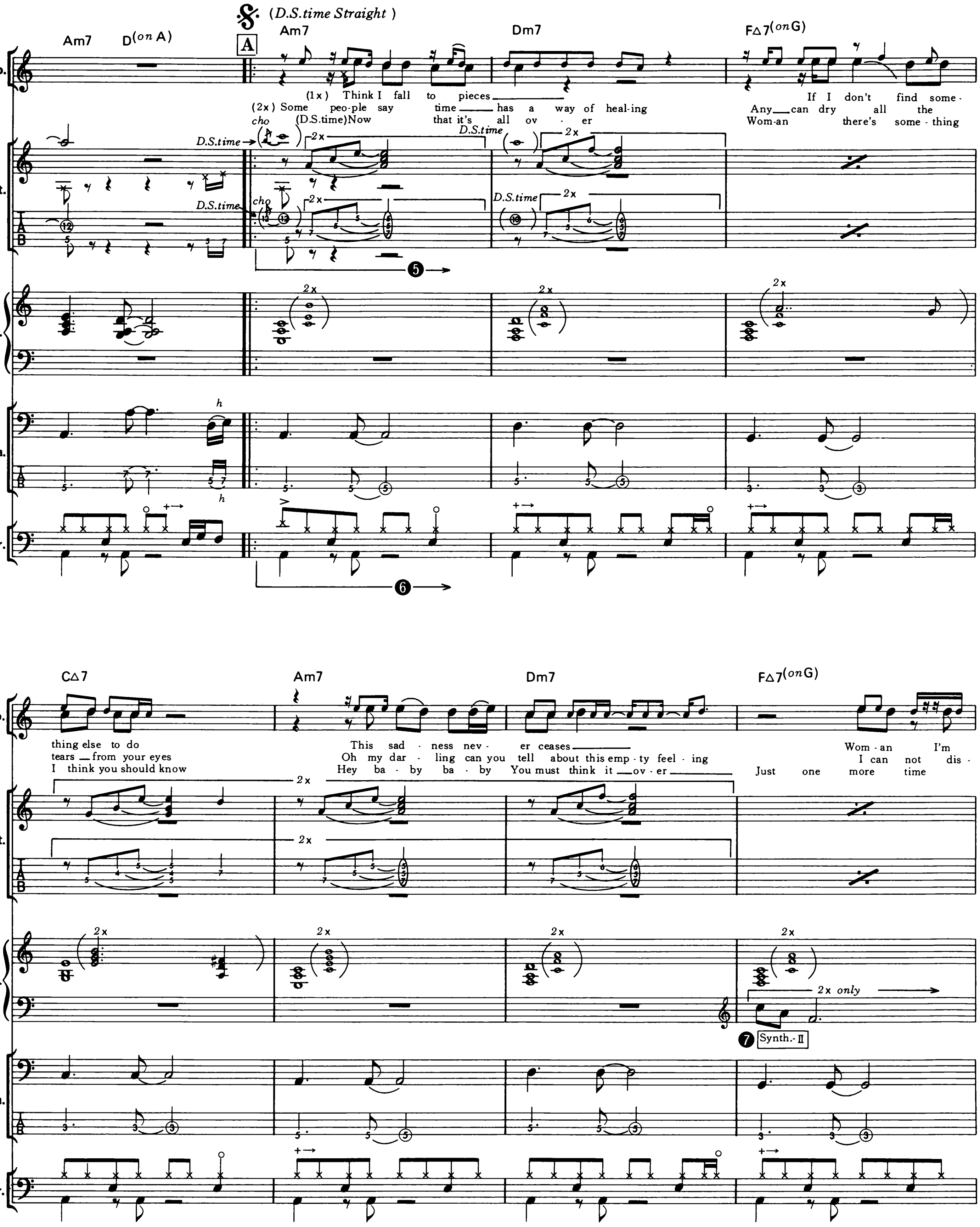
シンプルなベース・ラインの曲だが、ギター・ソロのバックでは、ソロを盛り上げるためにかなり動きのあるフレージングを行っている。ドラムスとのコンビネーションを崩さないよう注意したい。

■Drums

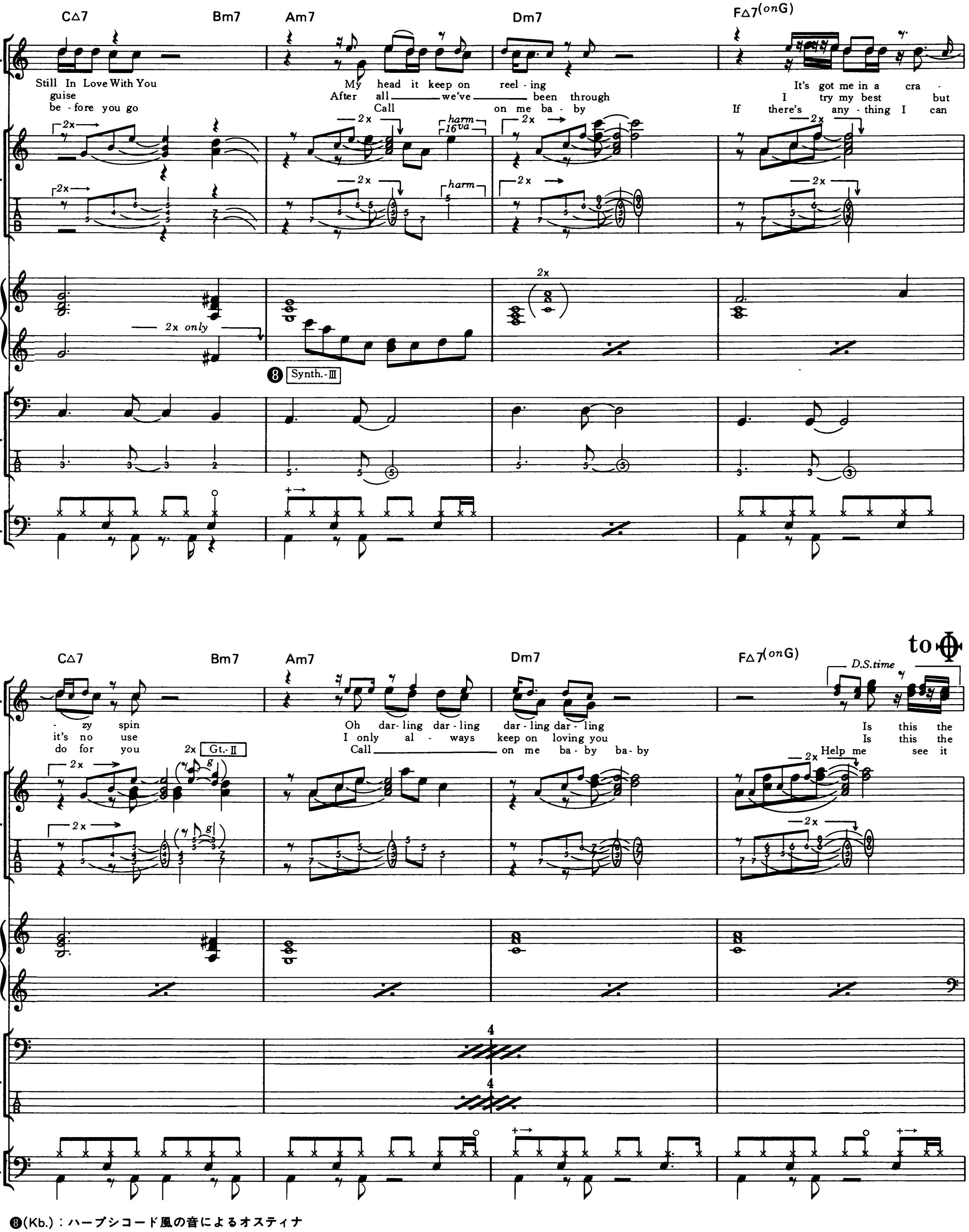
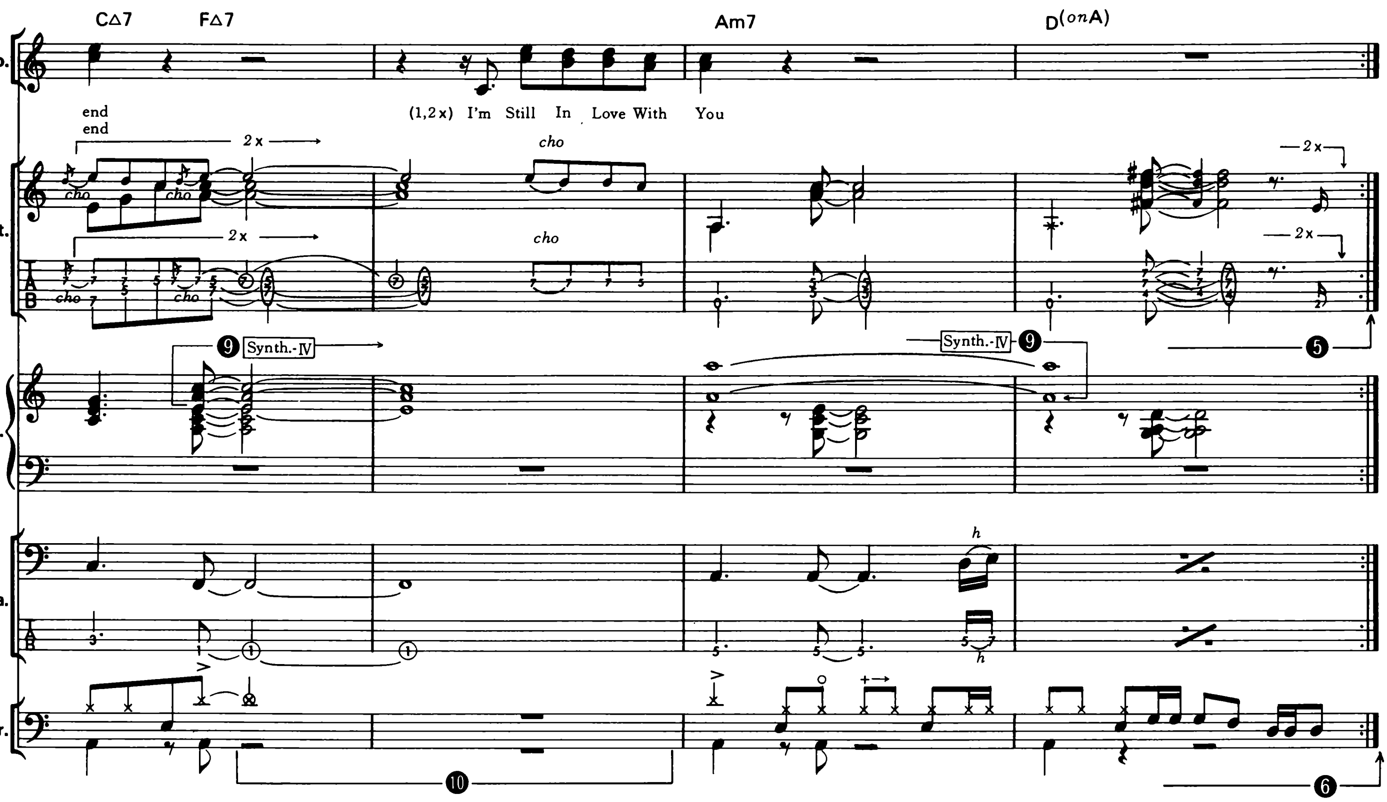
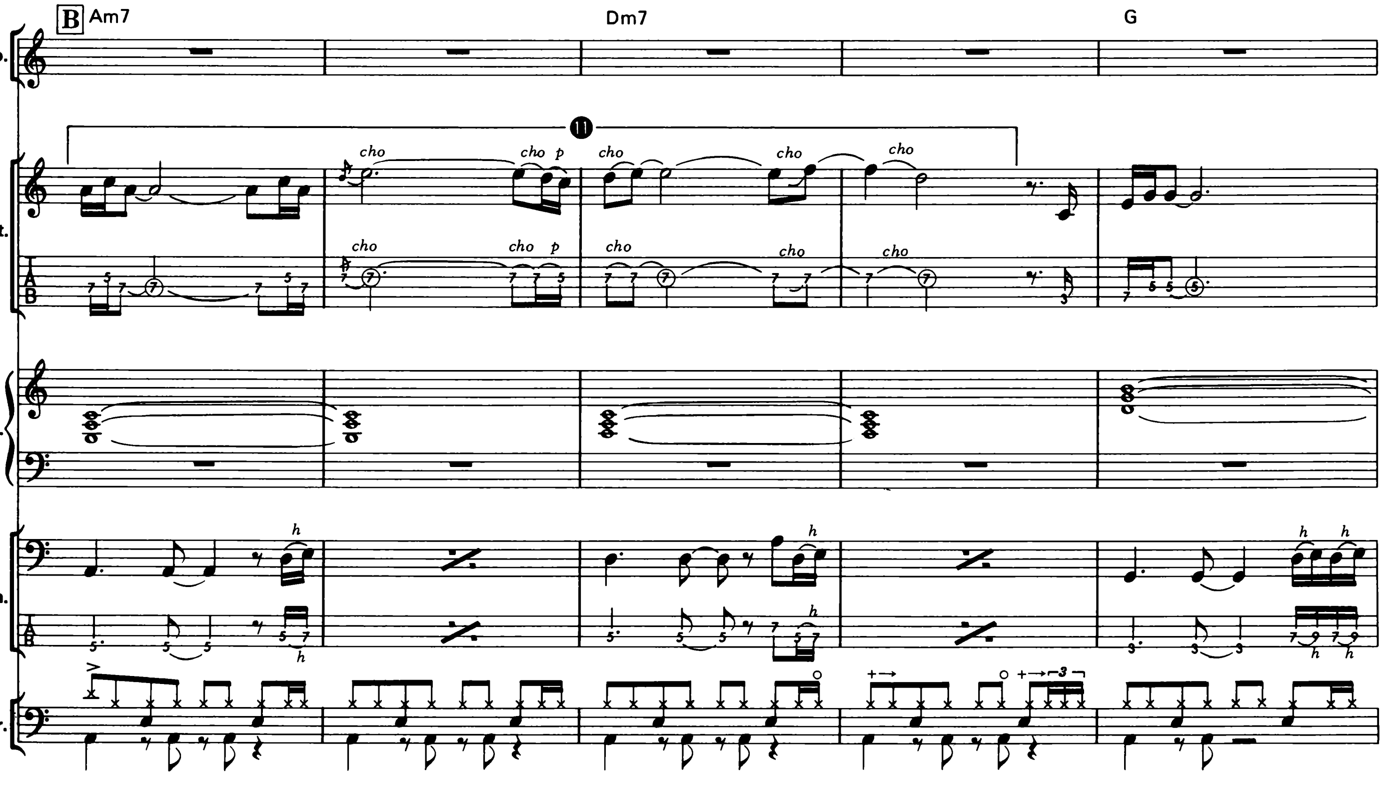
スローで、リズムでプッシュするような曲ではないため、抑えたプレイを心がけて。またブレイク・パターンもよく出てくる。ビシッとキメよう。

❶(Gt.)：ギターのフレーズから始まるため、リズム・キープをしっかりと。

❷(Kb.)：ローズ系のエレピとストリングスとをミックスさせたような音。MIDIを利用して2台のシンセを同期させるのが望ましい。エレピの音をメインと考え、ストリングスは控えめなバランスでコントロールするとよいだろう。

❸(Ba.)：ここではまだドラムスが入ってきていないので、ギターのフレーズを聴きながらリズムをとる。

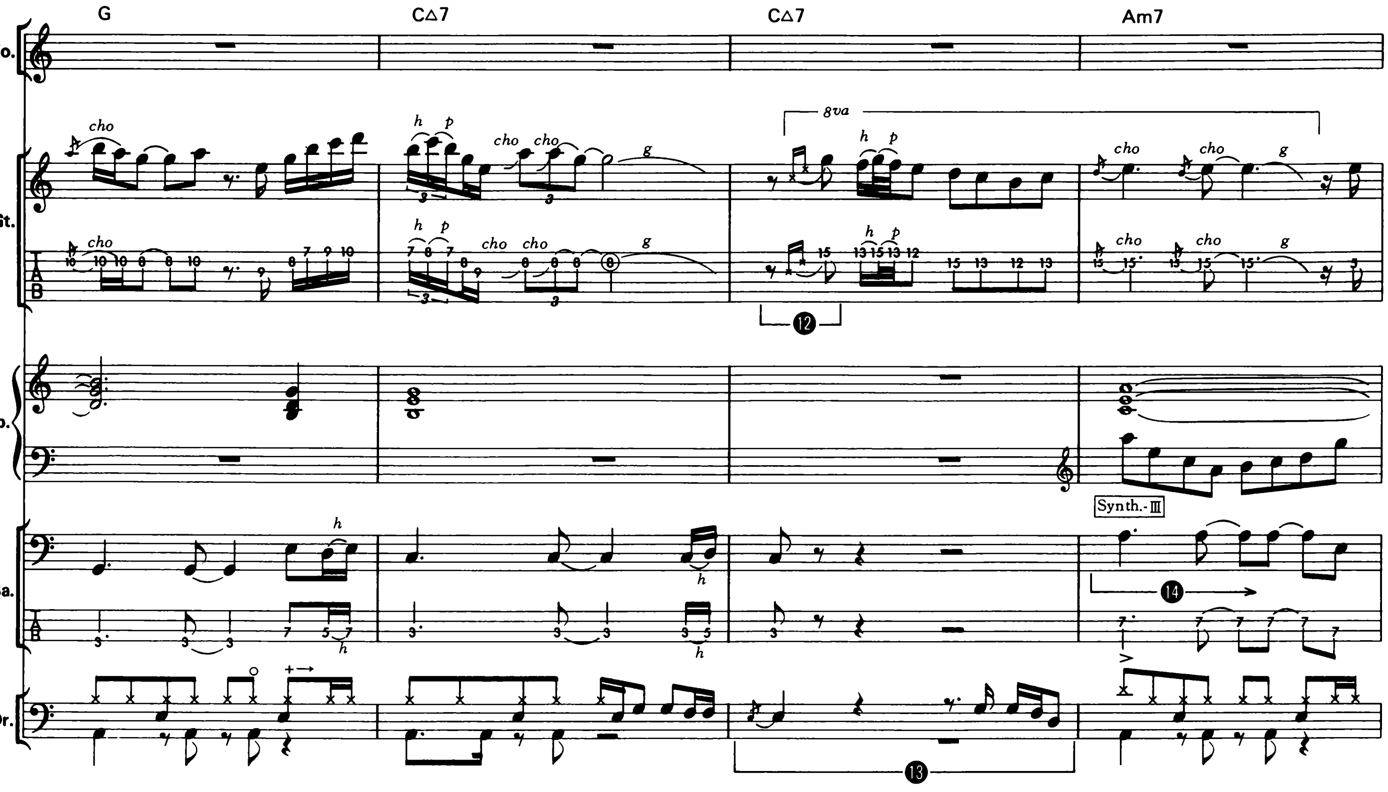
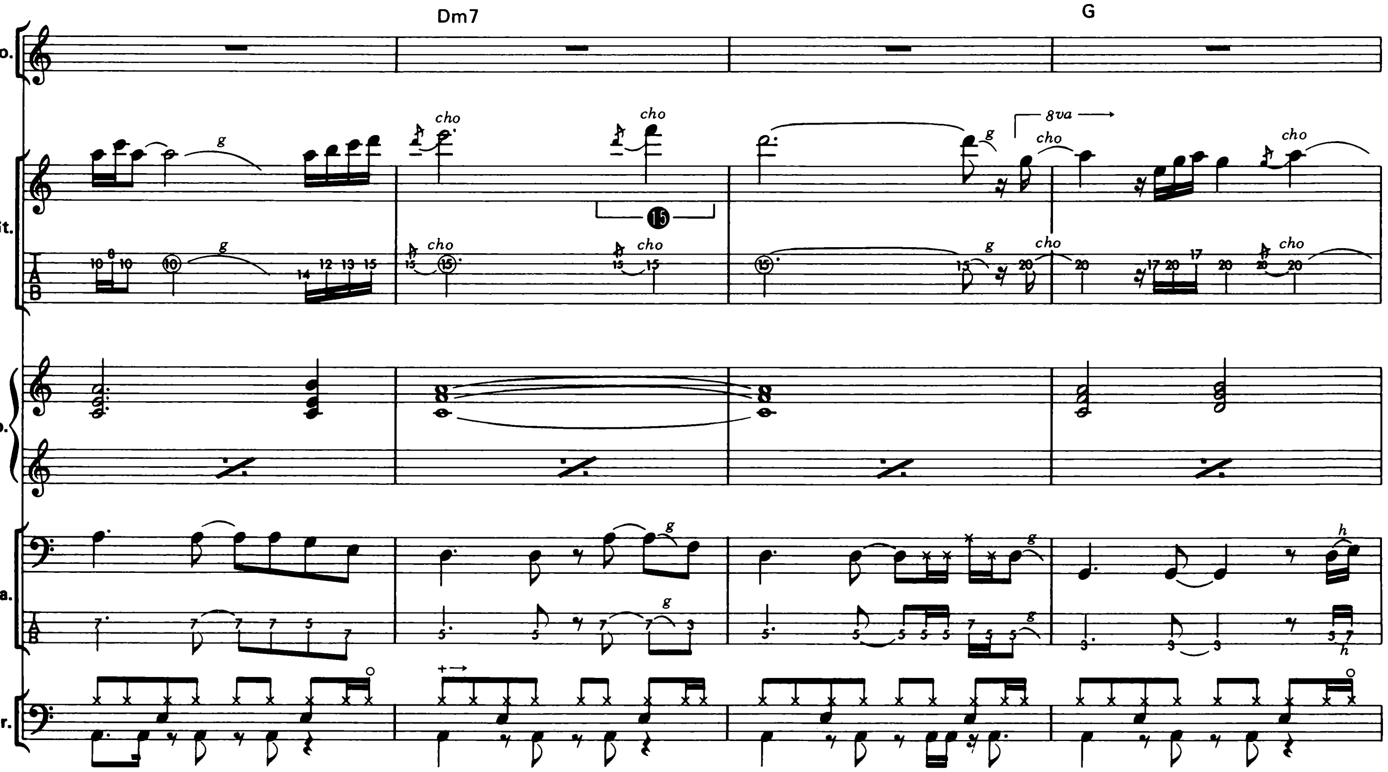
❹(Dr.)：ギターのフレーズをカウントがわりにして入ろう。

❺(Gt.)：1Xと2Xとではギターのアレンジが違うので注意すること。またディストーション・サウンドとクリア・サウンドの、音量バランスにも気をつけること。

❻(Dr.)：こういったリズム・パターンの場合、1打1打を引き締めて叩かないと、だらしないものになってしまう。

❼(Kb.)：ブラス系の音。軽くディレイをかけ目立たせたい。

❽(Kb.)：ハープシコード風の音によるオスティナート・フレーズ。シーケンサーを利用してもよい。手弾きの場合は、各音とも均一のタッチで無機的に流すように。



❾(Kb.)：ストリングス。シンセⅠでエレピの音にコントロールされていたストリングスを、ここでは単独に用いる。

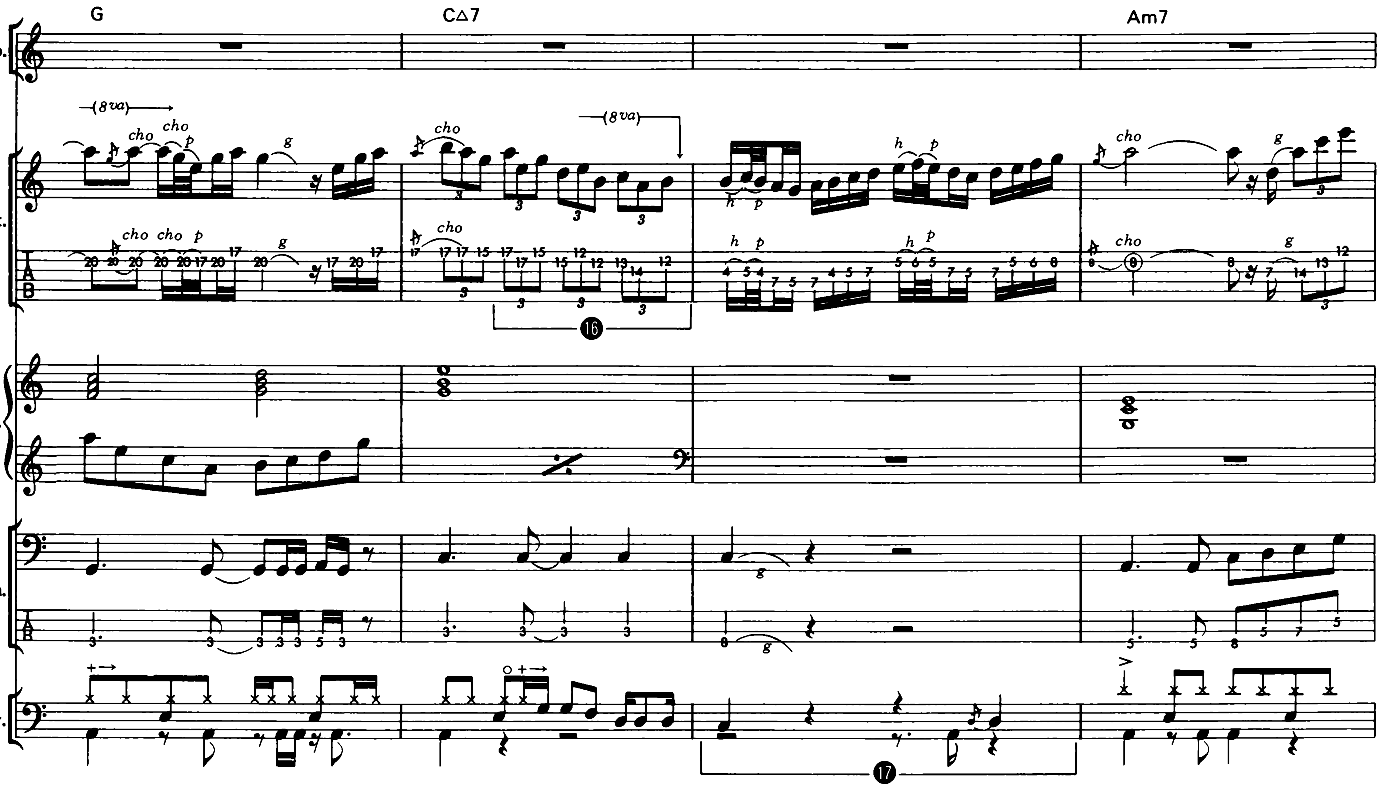
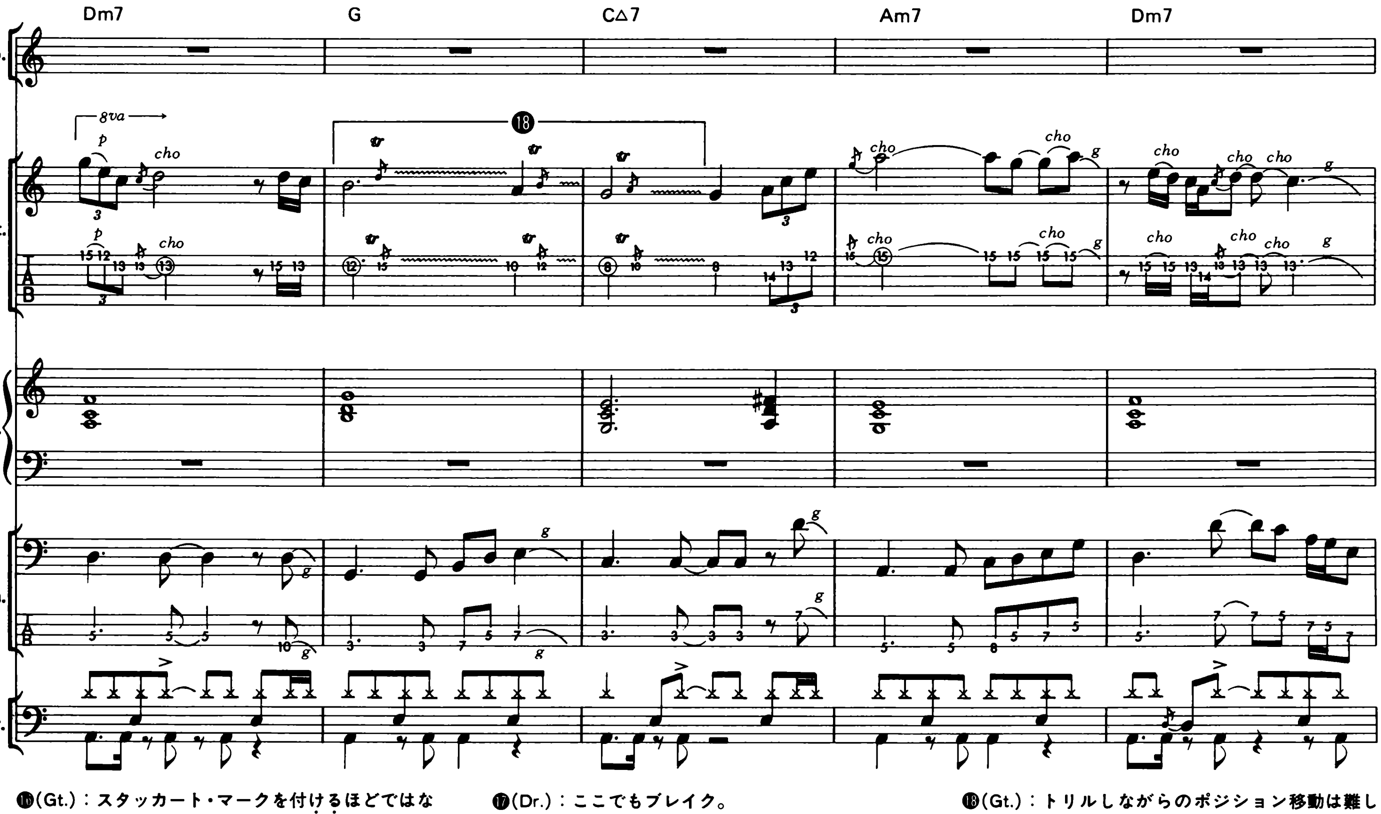
❿(Dr.)：ブレイクのあいだもしっかりとカウントをとり、次のアタマをバッチリキメること。

⓫(Gt.)：チョーキングを用いたゆったりしたフレーズのため、ヴィブラートで表情をつけることを忘れないように。サステインやチョーキングの音程にも気を配ろう。



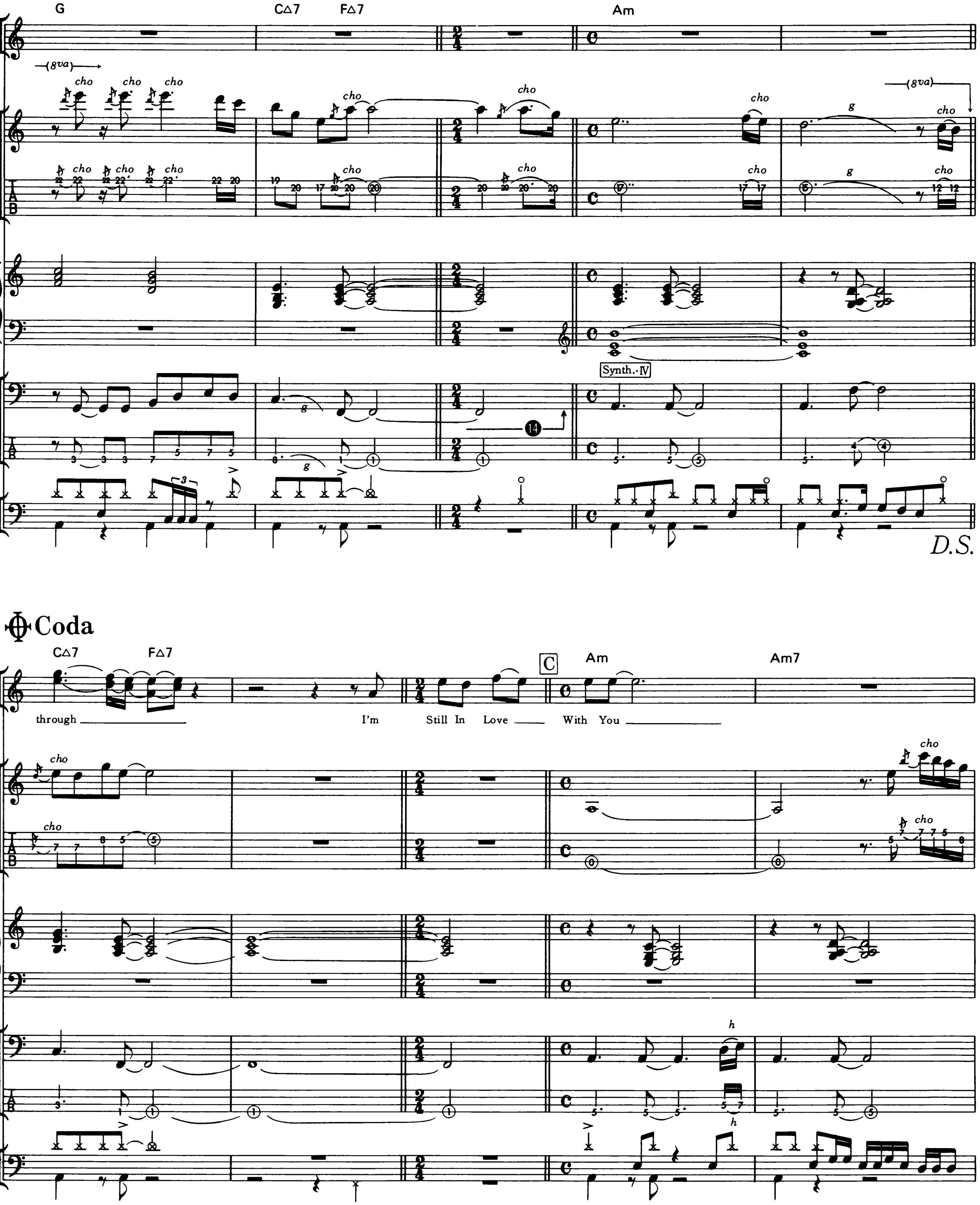
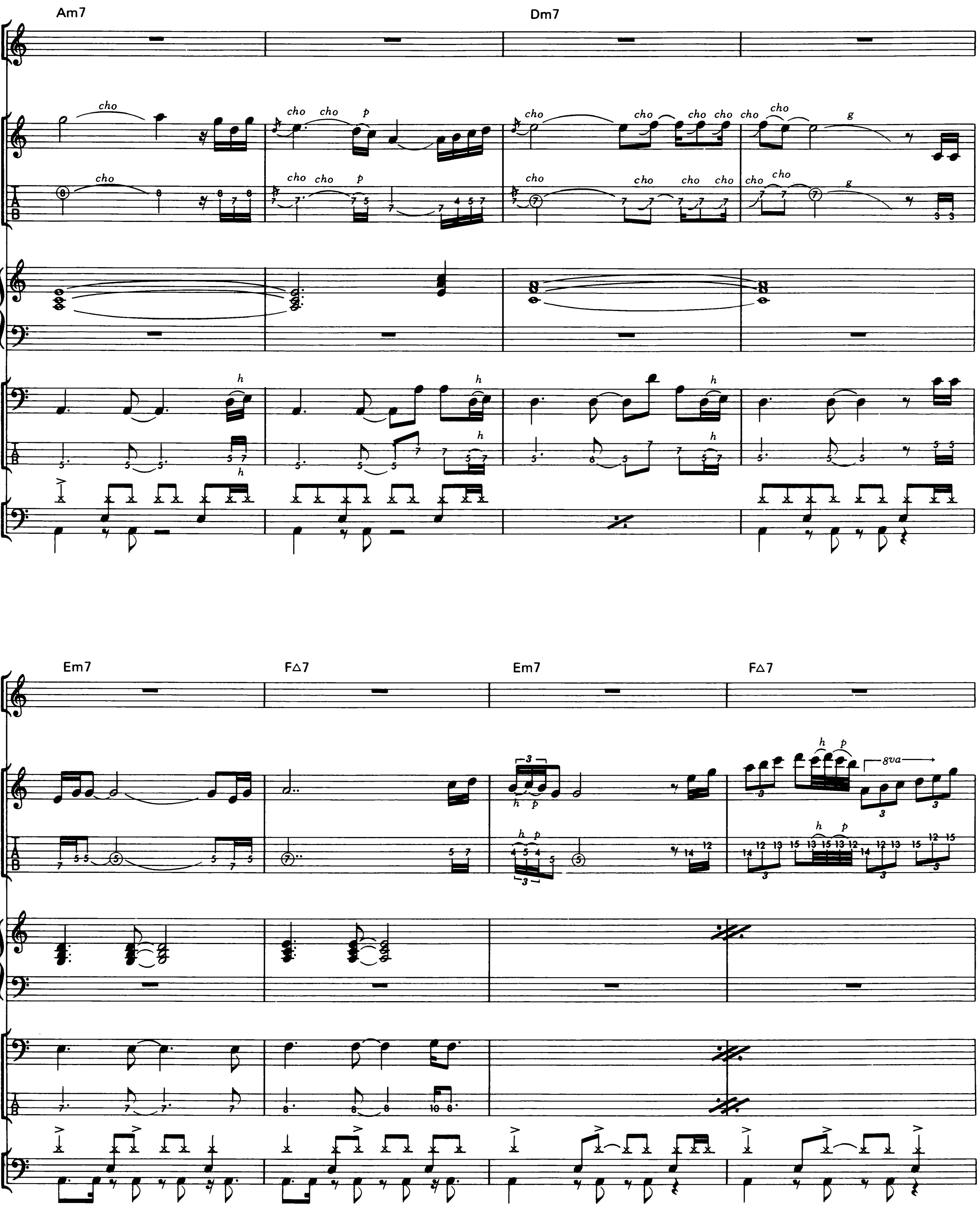
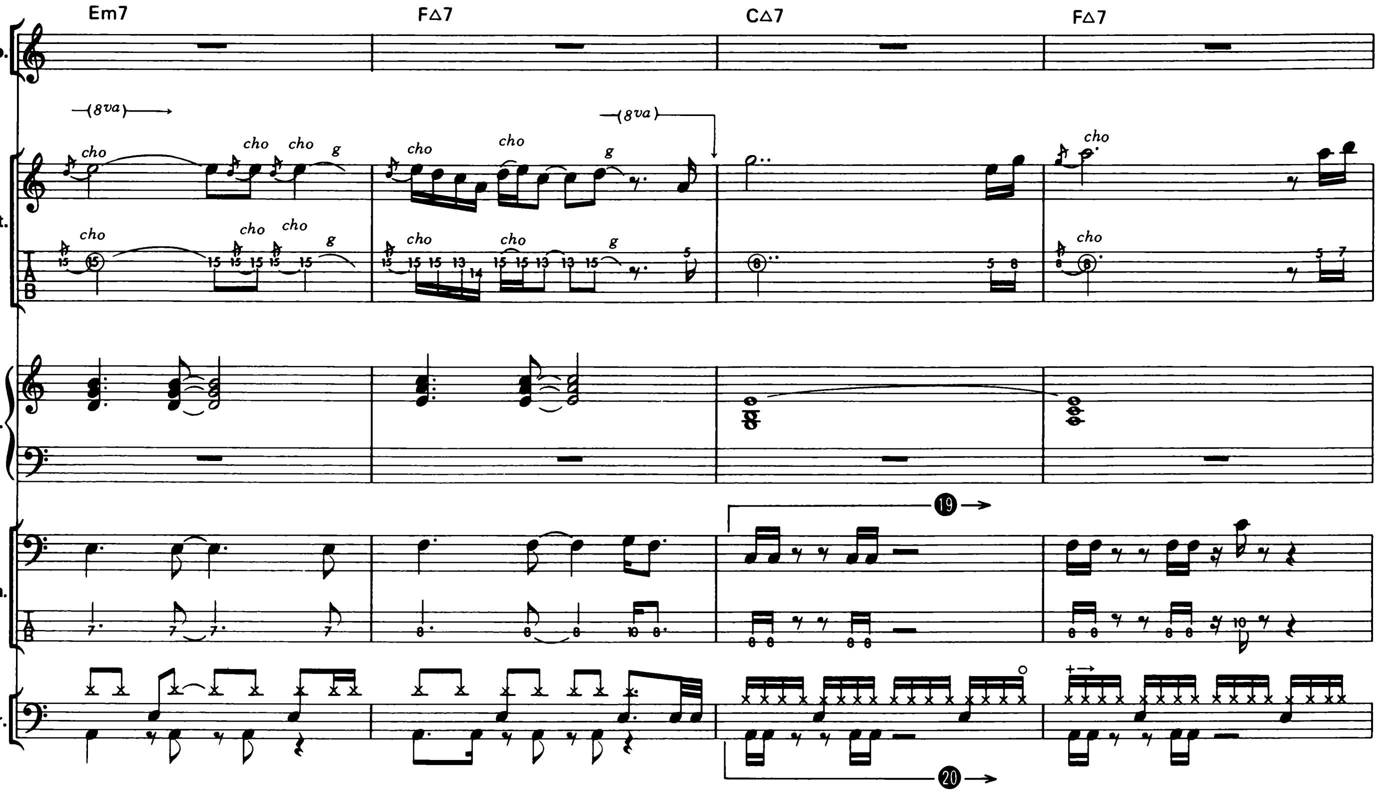
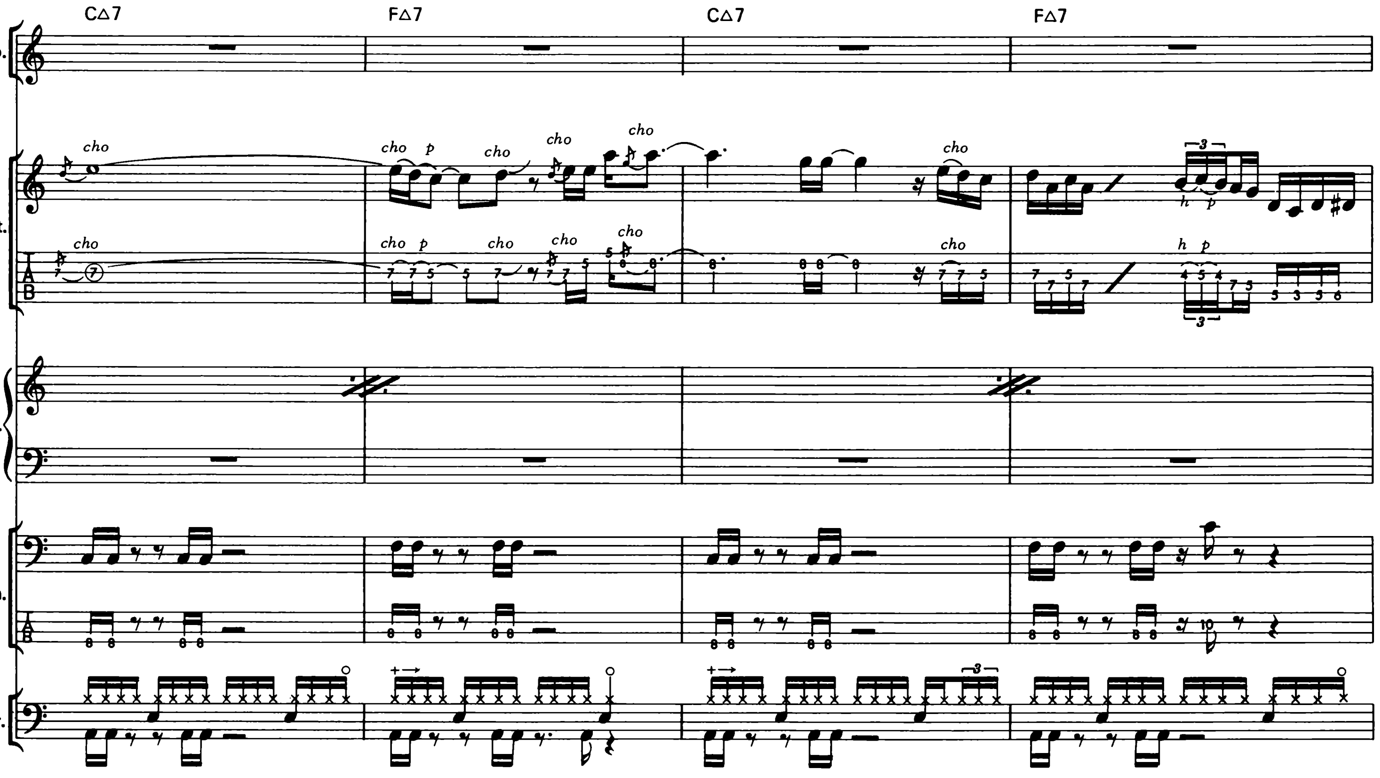
⑫(Gt.)：×印のところはチョップと呼ばれる奏法で、2～3弦をミュートして一気に1弦までピッキングするものだ。

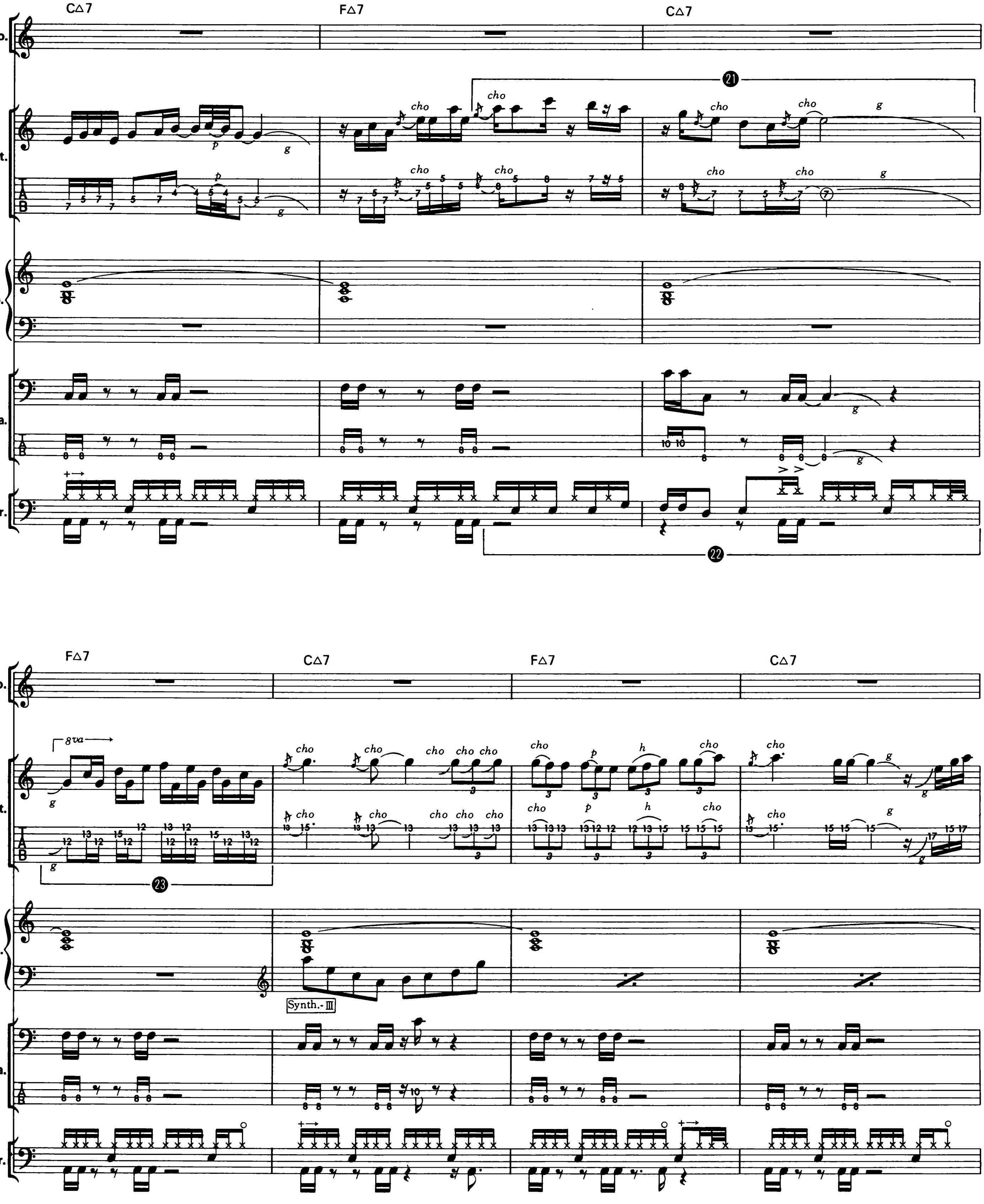
⑬(Dr.)：ここでブレイクすることで、ギター・ソロをより一層際立たせている。

⑭(Ba.)：ここからベースの動きが激しくなる。ドラムスとのコンビネーションに気をつけること。

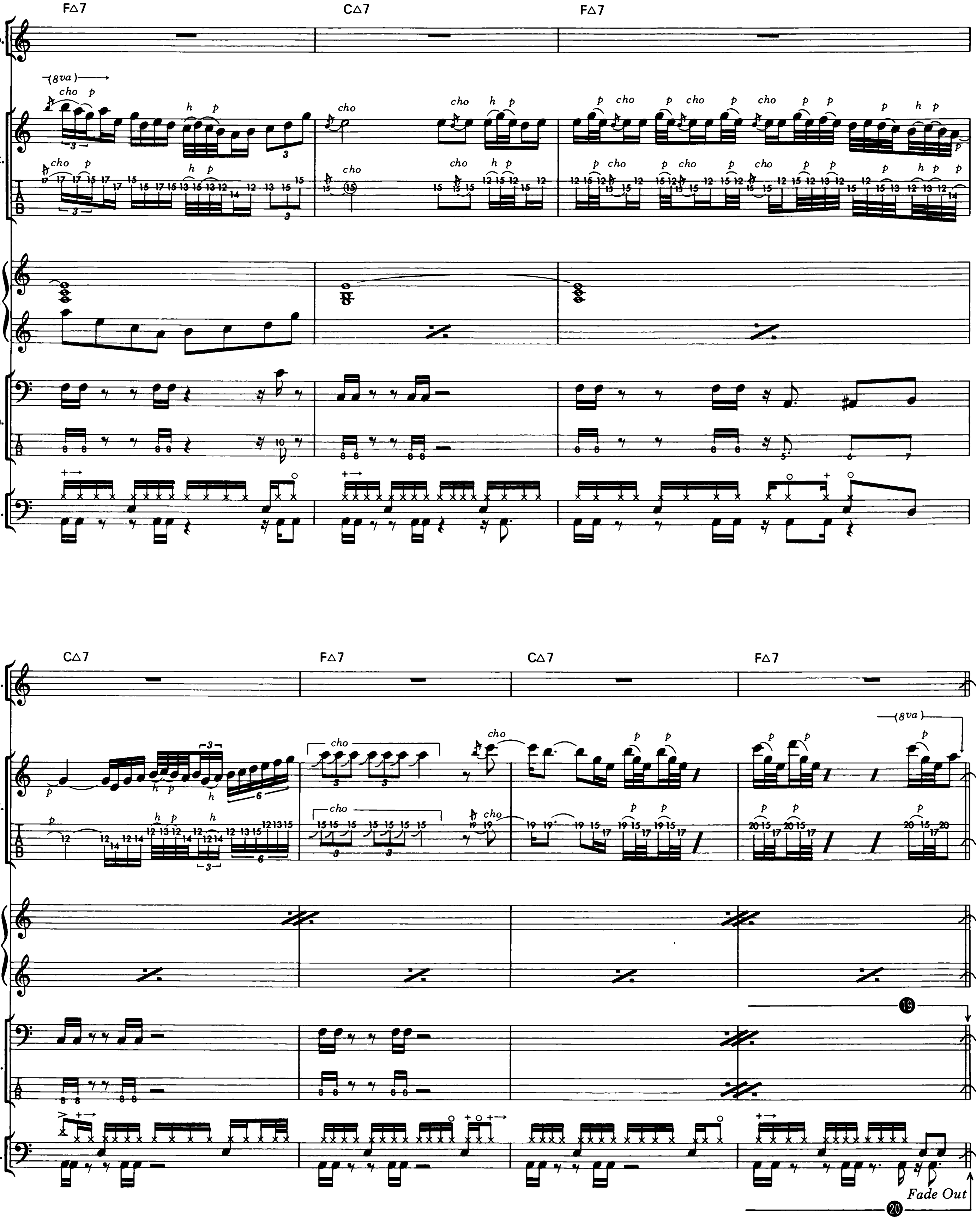
⑮(Gt.)：3度チョーキング、音程に注意。

⑯(Gt.)：スタッカート・マークを付けるほどではないが、軽く音を切ってスタッカート気味に弾きたい。

⑰(Dr.)：ここでもブレイク。

⑱(Gt.)：トリルしながらのポジション移動は難しいので気をつけよう。

G
CΔ7
FΔ7
Am
Vo.
Gt.
Kb.
Ba.
Dr.
(8va)
cho
g
Synth.-IV
D.S.
Coda
C
CΔ7
FΔ7
Am
Am7
through
I'm
Still In Love
With You
h

Am7
Dm7
Em7
F△7
Em7
F△7
Vo.
Gt.
Kb.
Ba.
Dr.

⑲(Ba.)：バスドラとしっかりシンクロさせて、タイトなリズムを作り出したい。

⑳(Dr.)：ビートが16になり、ハイハットとバスドラのパターンが変わる。ノリを崩さないように。

㉑(Gt.)：完全にドラムスとリズムを合わせた、計算されたフレージングだ。しっかりキメたい。

㉒(Dr.)：ギターとのキメとなった、センスのいいフィルイン。ぜひ見習ってもらいたいところだ。

㉓(Gt.)：人差し指で12フレットをバーにして弾く。弦とびピッキングに注意しよう。

F△7
C△7
F△7
C△7
F△7
C△7
F△7
Vo.
Gt.
Kb.
Ba.
Dr.
(8va)
cho
h
p
Fade Out

Shapes Of Things

●シェイプス・オブ・シングス　*by P. Samwell Smith, K. Relf & J. McCarthy*

Copyright©1966 by B.FELDMAN & CO.LTD.,64,Dean Street,London,W.1.
Rights for Japan assigned to TOSHIBA-EMI MUSIC PUBLISHING CO., LTD.

この曲のポイント

■Guitar

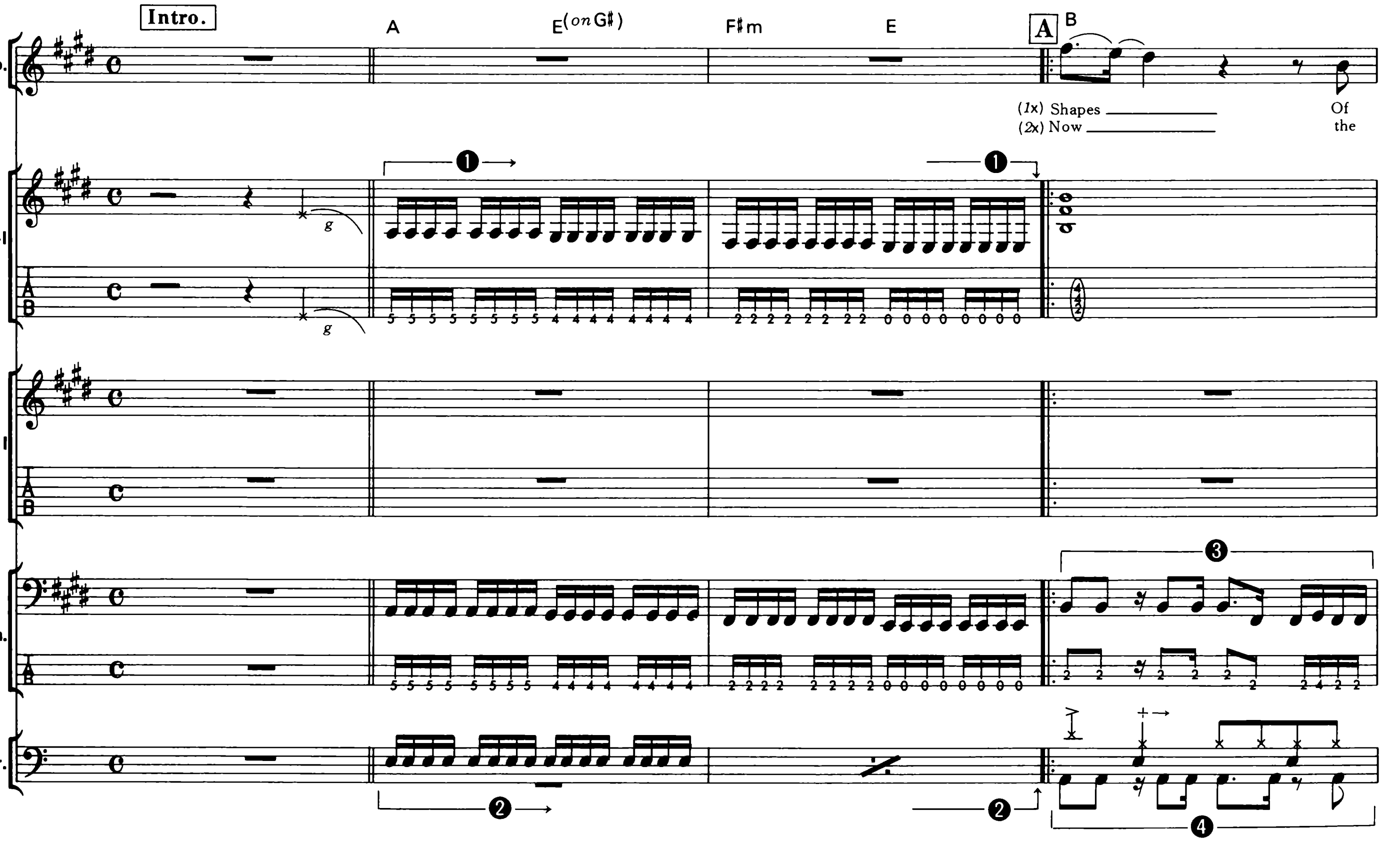
ポップなナンバーだがサウンド自体はヘヴィで、特にコードを弾いたときなどかなりグシャッとした音なので、ディストーションを使ってサウンド・メイキングを。またソロでは深めのディレイを使う。テクニック的には、ゲイリー・ムーアならではのスピーディなピッキングを多用したフレーズが目立つため、かなり難易度の高いものといえるだろう。またソロ後半のボトル・ネック奏法も、しっかりキメたい。

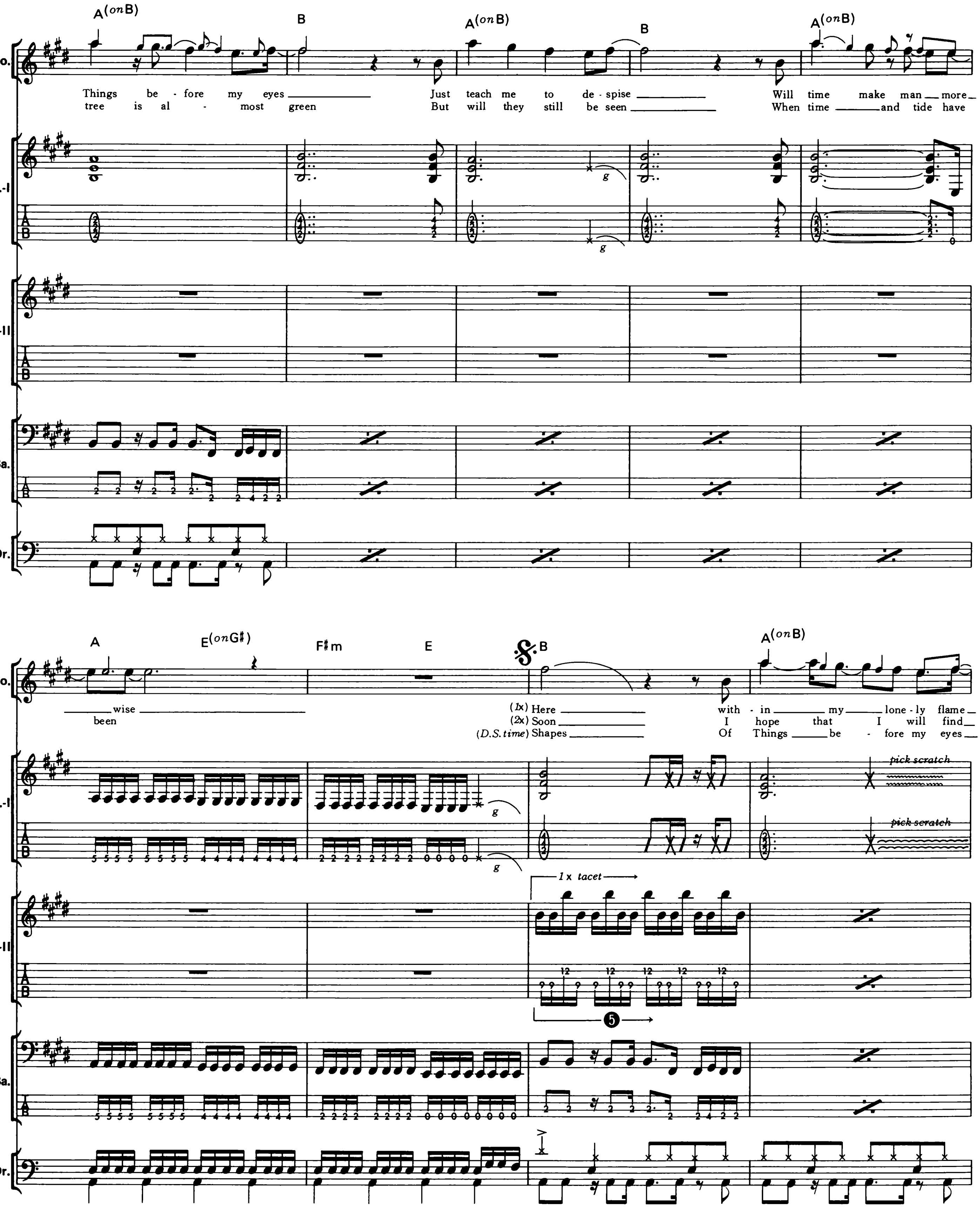
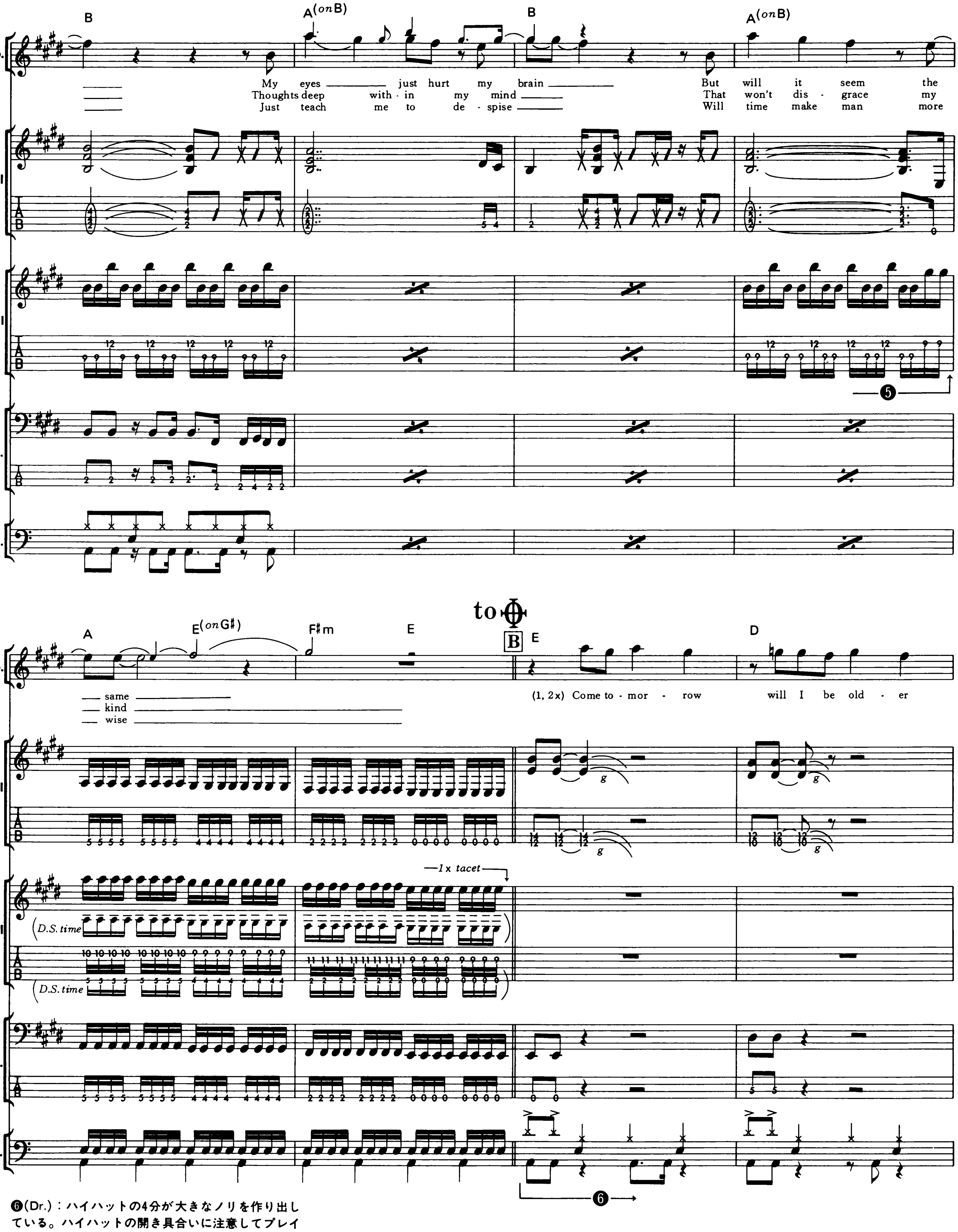
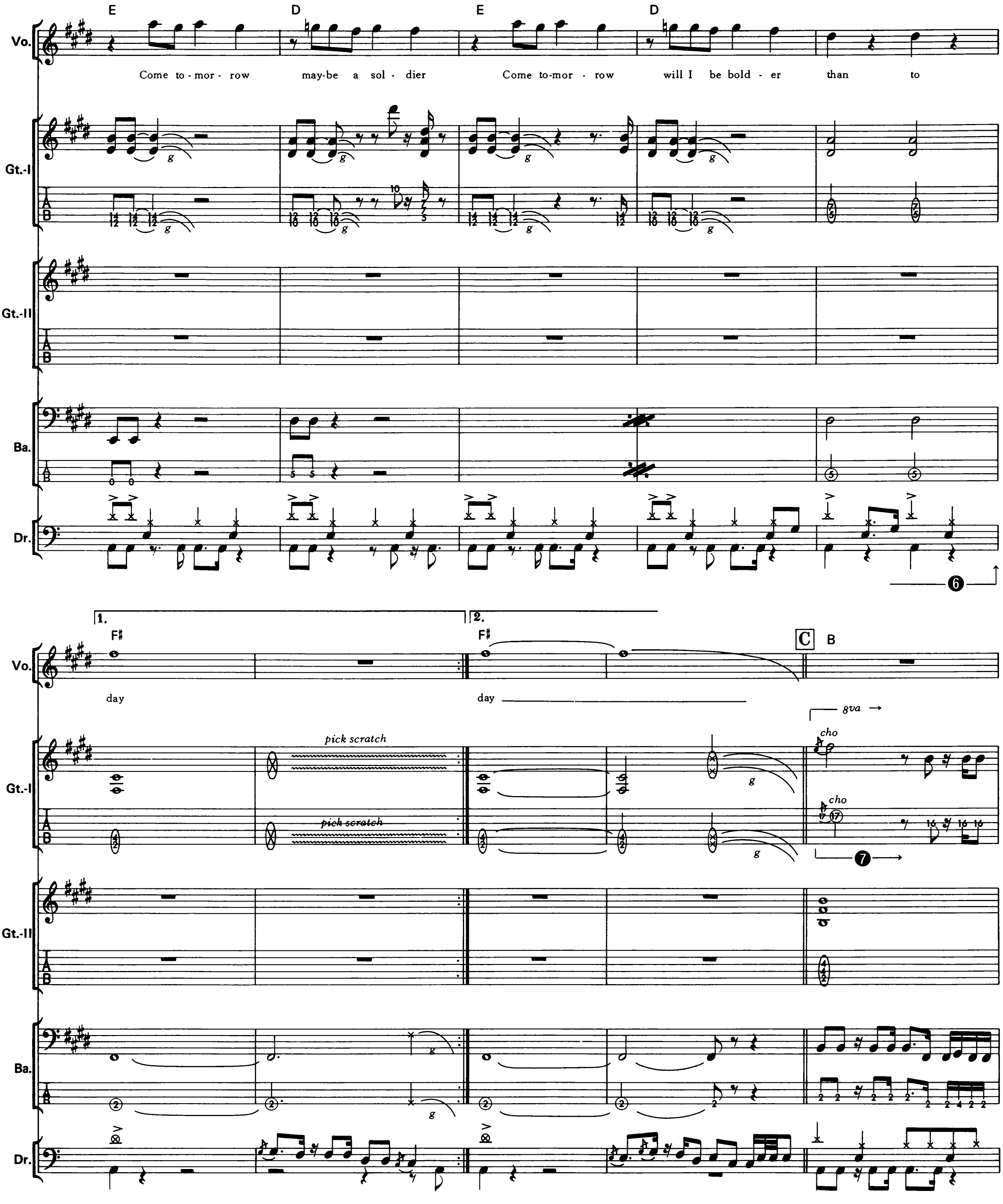
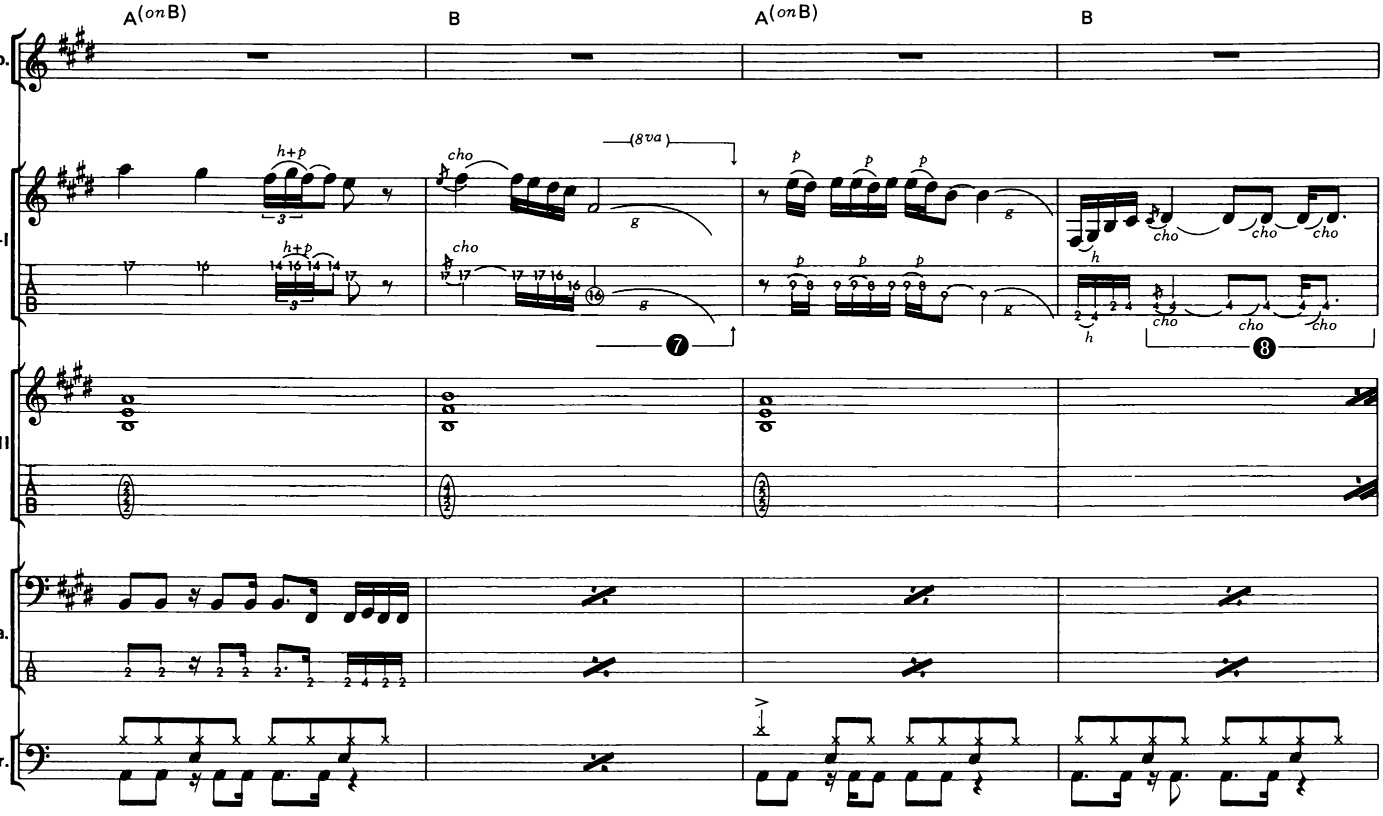
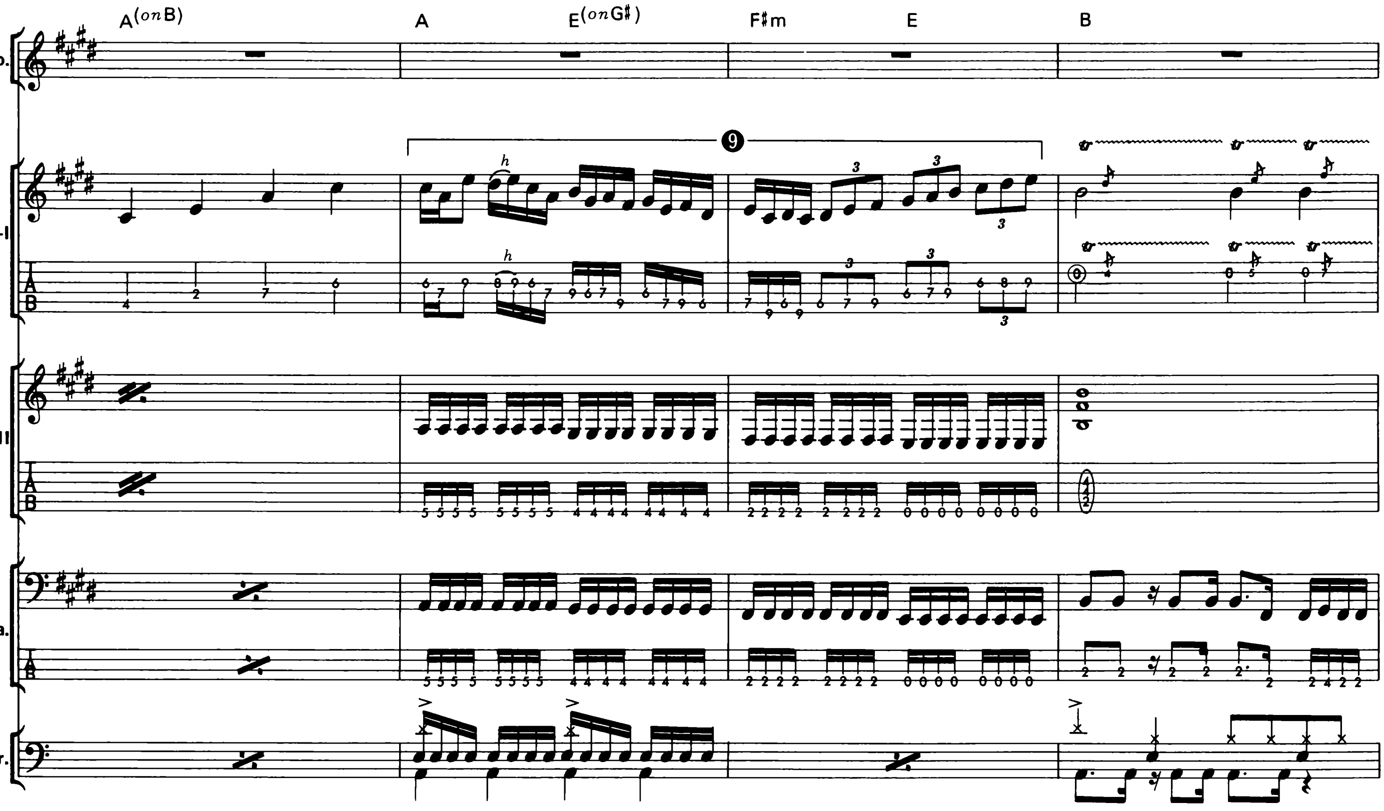
■Bass

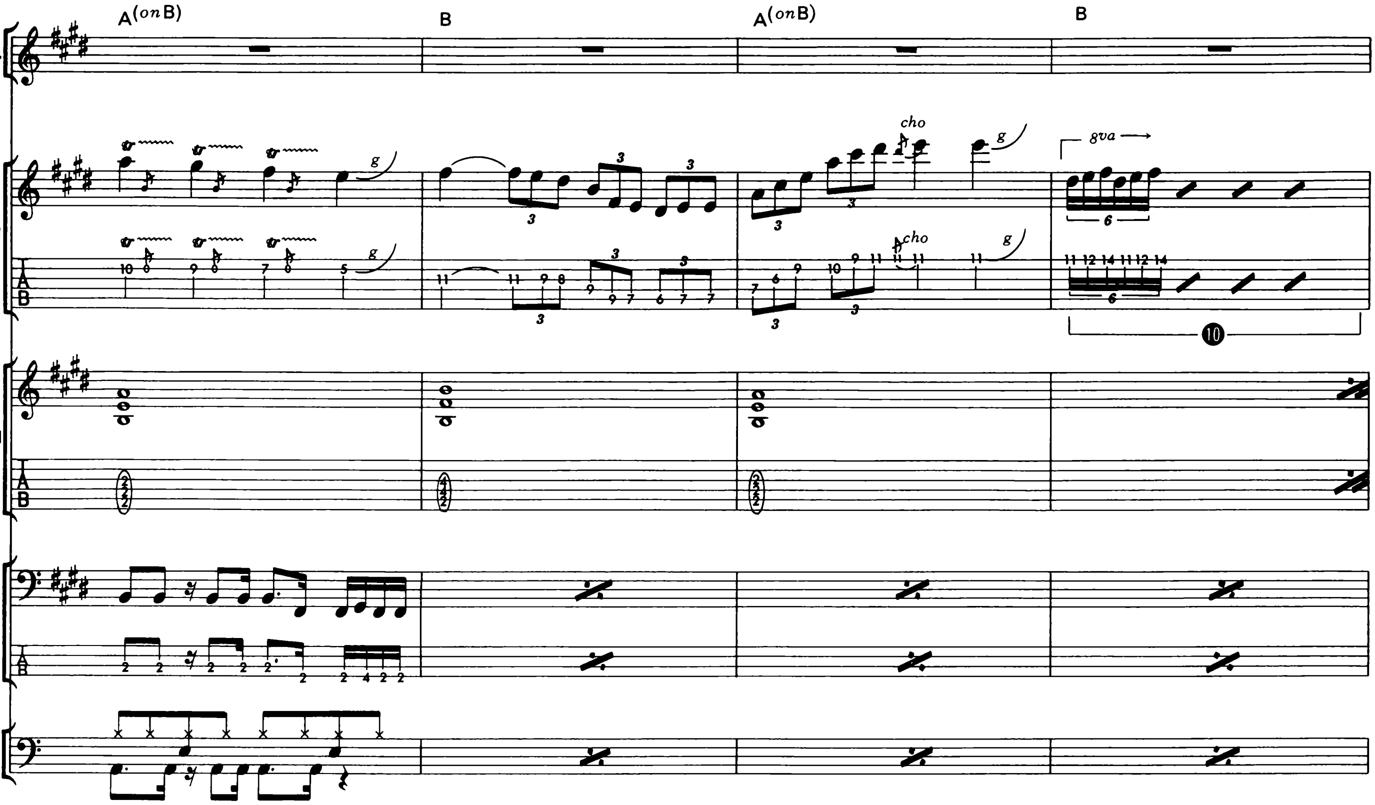
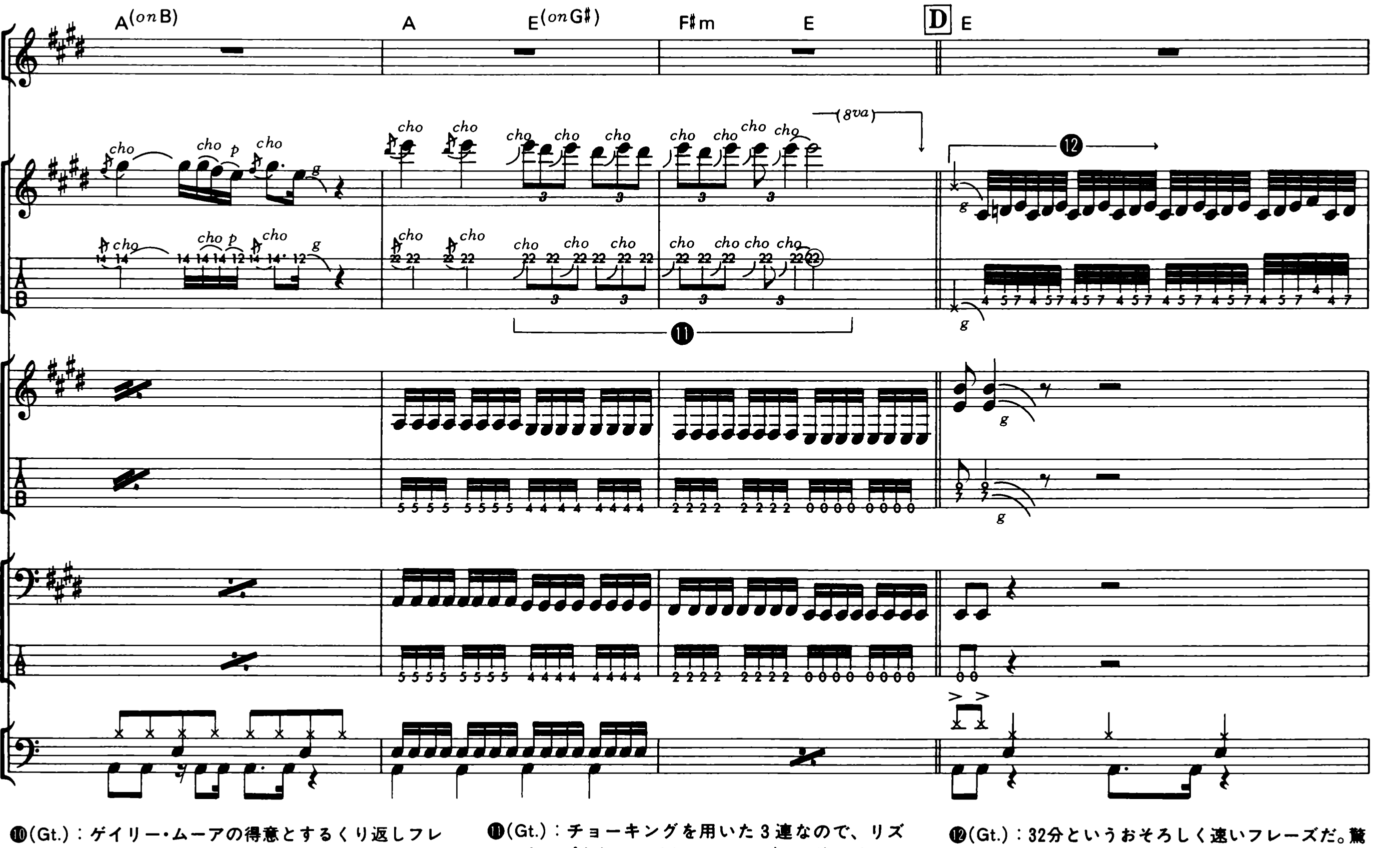
バスドラとのコンビネーションを考えて作られた、16ビートのノリを持ったフレーズが淡々と続く。このフレーズのノリがこの曲のポイント。これはコードが変わっても続いており、いわゆる分数コードとなっている。

■Drums

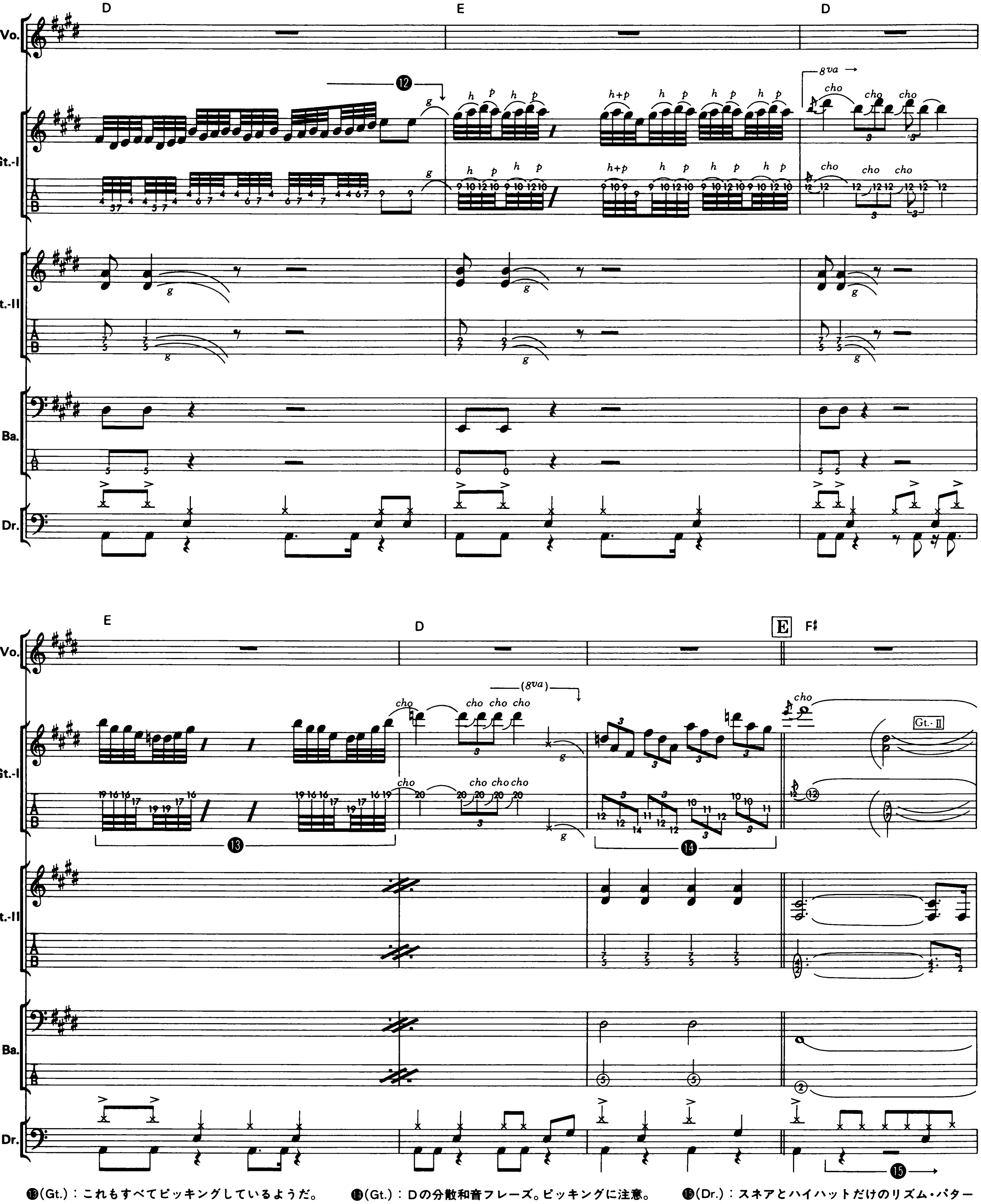
8ビートと16ビートが混ざったリズム・パターン。バスドラは16ビートのノリでタイトにキメているが、ハイハットをややオープン気味にして、ラフな感じを出している。なおイントロやブリッジの、スネアを使った16分のキメはしっかりと。



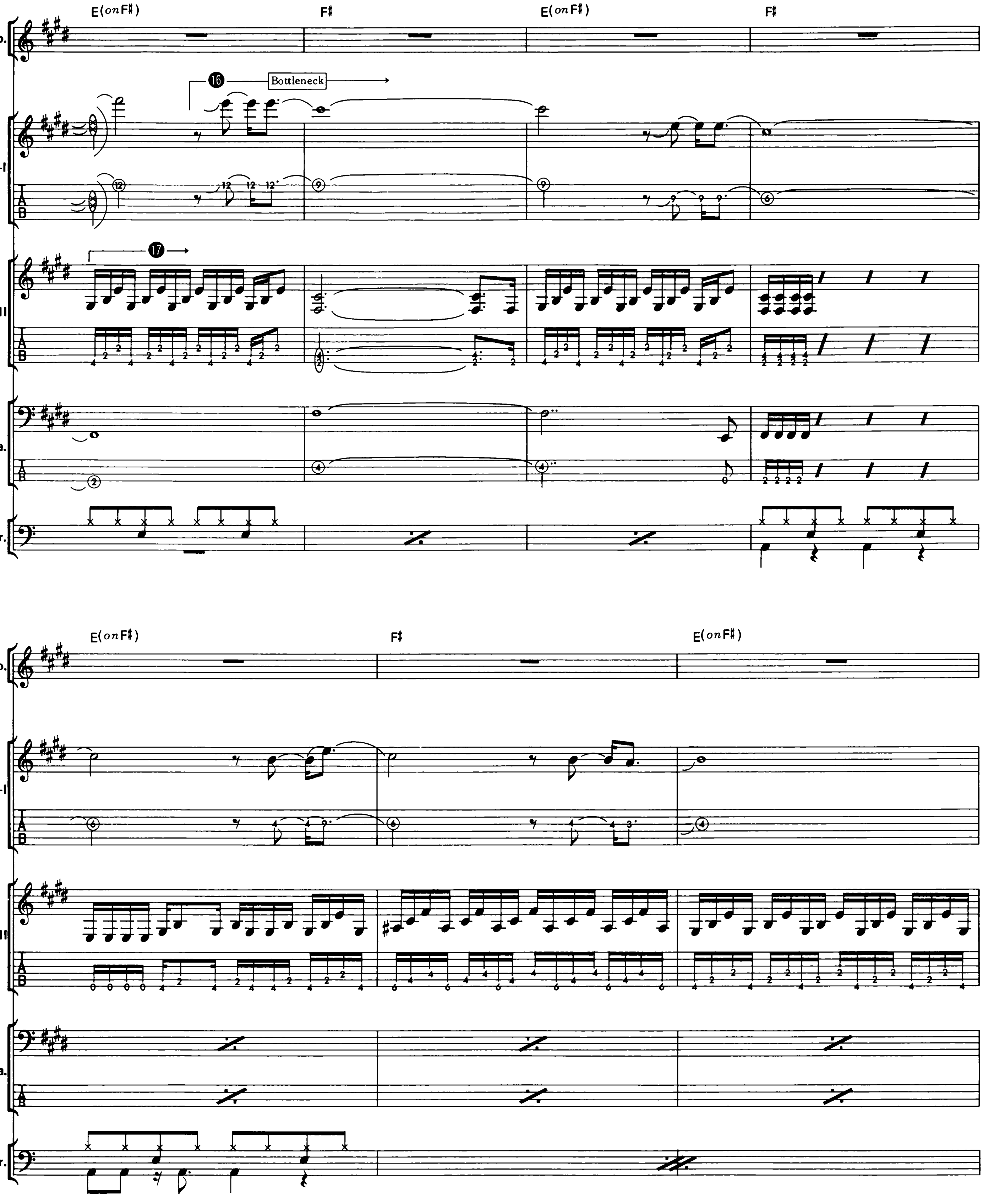
❶(Gt.)：ドラムス、ベースとのキメだ。カッチリと。
❷(Dr.)：この曲で最も大きなポイントとなるキメ。気合いを入れて叩こう。
❸(Ba.)：バスドラとのコンビネーションを考えたフレーズなので、バッチリ合わせて。
❹(Dr.)：バスドラのパターンに注意して、ベースとともに安定したビートを作り出そう。

❺(Gt.)：オクターヴに音がとんでおり、弦とびピッキングが難しい。他のポジションでのプレイも考えられるが、サウンドを考えるとここがベスト。4弦をややミュート気味に弾くといい。

❻(Dr.)：ハイハットの4分が大きなノリを作り出している。ハイハットの開き具合いに注意してプレイしよう。

❼(Gt.)：かなり強めのピッキングで。

❽(Gt.)：ここでのチョーキングは、弦を下に引っ張るように行う。

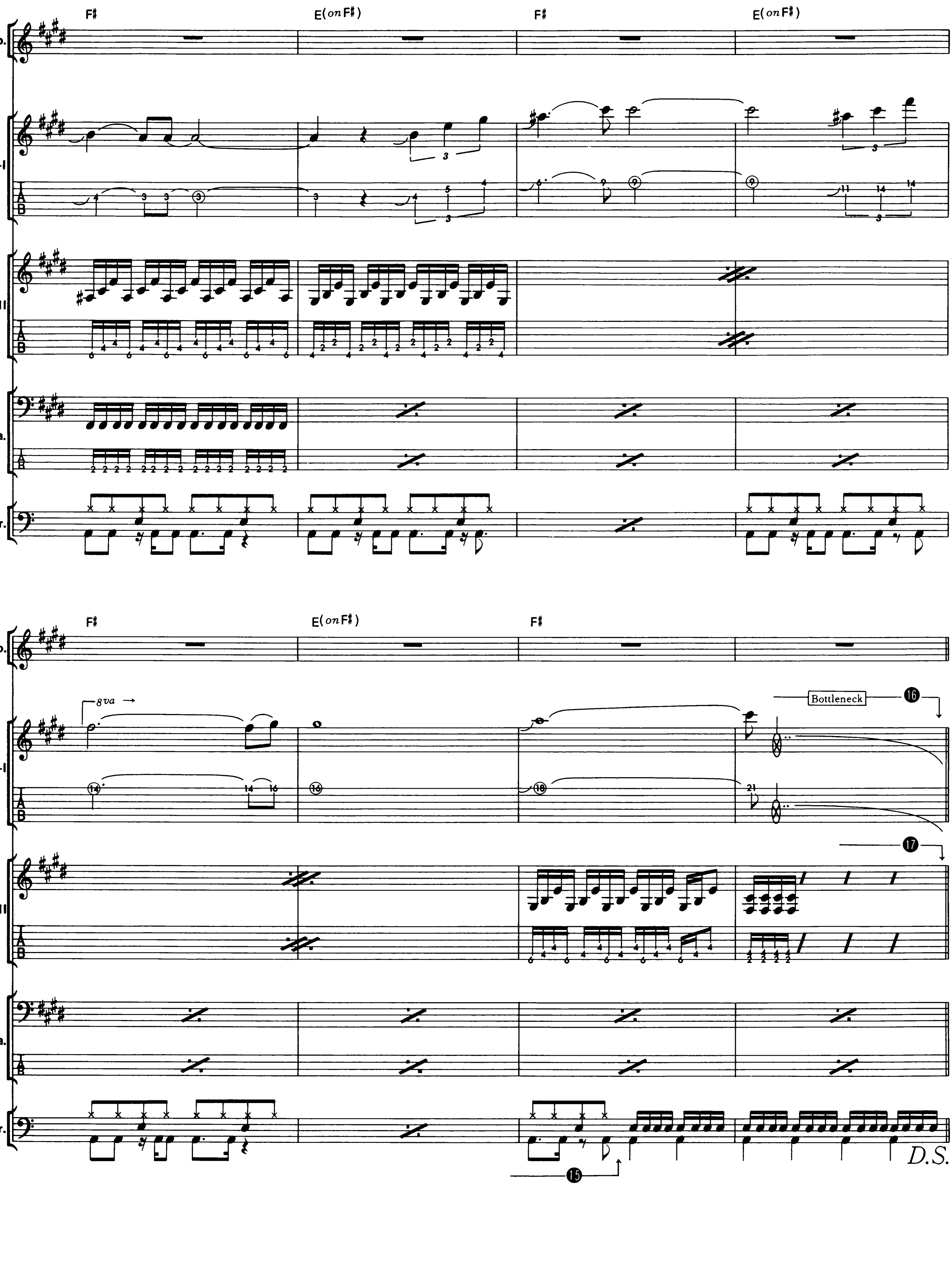
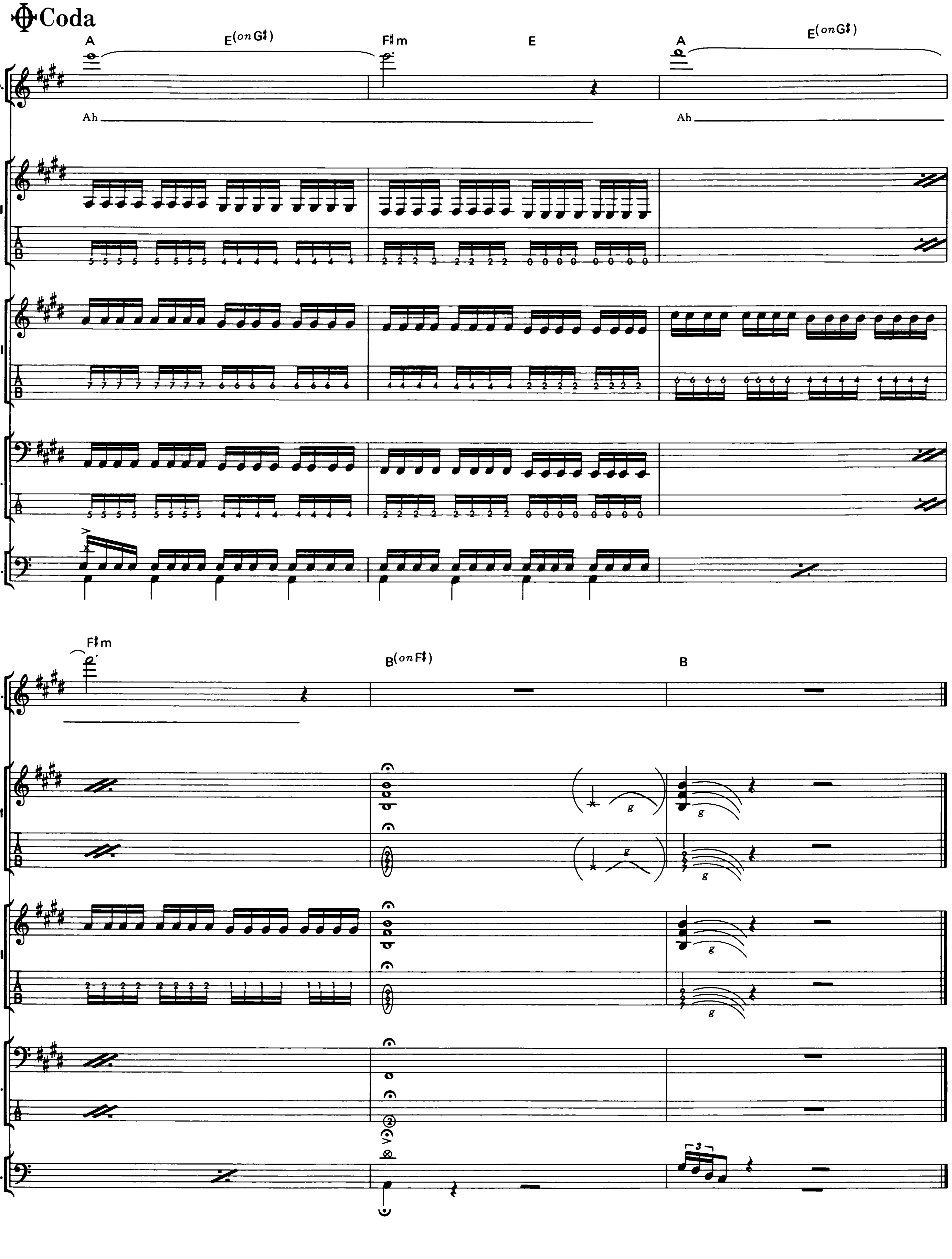
❾(Gt.)：ミュートすることによってフレーズをパーカッシヴにしているので、リズムにノって弾くこと。

⑩(Gt.)：ゲイリー・ムーアの得意とするくり返しフレーズ。すべての音をピッキングして弾いているところがすごい。

⑪(Gt.)：チョーキングを用いた３連なので、リズム・キープをしっかりと。フレーズと一緒に聴こえる"カチカチ"という音は、叩きつけるようにピッキングしているために、ピックアップにピックがぶつかっているものだ。

⑫(Gt.)：32分というおそろしく速いフレーズだ。驚ろいたことに、すべての音をピッキングして弾いている。とにかく右手をきたえなくてはプレイは難しい。

⓭(Gt.)：これもすべてピッキングしているようだ。

⓮(Gt.)：Dの分散和音フレーズ。ピッキングに注意。

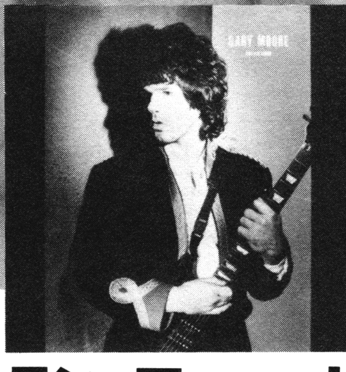
⓯(Dr.)：スネアとハイハットだけのリズム・パターンに、途中からバスドラが入ってくる。そしてさらに、スネアのロールがオーバー・ダビングされている。

⑯(Gt.)：ボトル・ネック奏法部分。

⑰(Gt.)：このアルペジオは、右手でミュート気味にして弾こう。

F♯
E(on F♯)
F♯
E(on F♯)
Vo.
Gt.-I
Gt.-II
Ba.
Dr.
F♯
E(on F♯)
F♯
8va
Bottleneck
16
17
15
D.S.

Coda
A
E(on G♯)
F♯m
E
A
E(on G♯)
Ah
Ah
Vo.
Gt.-I
Gt.-II
Ba.
Dr.
F♯m
B(on F♯)
B

数々の神話が、また色あせる。そんな凄まじいロック・アルバムがこれだ!!

つねに第一線を走る超テク・ギタリスト待望の最新作。
旧友フィル・リノットとのビッグ・ヒット・デュエット「アウト・イン・ザ・フィールド」収録!!

GARY MOORE
RUN FOR COVER



ラン・フォー・カヴァー
ゲイリー・ムーア 《来日記念盤》

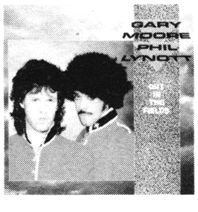
28VB-1045 28VC-1045 各¥2,800 ●ヴァージン・レコード
発売中 ●初回分のみポスター付

ラン・フォー・カヴァー／リーチ・フォー・ザ・スカイ／ミリタリー・マン／エンプティ・ルーム／アウト・イン・ザ・フィールド／他全9曲

▶プロデュース：ゲイリー・ムーア／ピーター・コリンズ／アンディ・ジョンズ／マイク・ストーン／ボー・ヒル

▶カセットのみ「アウト・オブ・マイ・システム」を収録、計10曲!!

★ヒット・シングル「アウト・イン・ザ・フィールド」●07VA-1022 ¥700



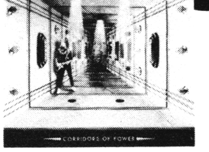
12inch SINGLE

ハードに、メロディアスに、華麗に舞うゲイリー・ムーアが、旧友フィル・リノットと再び最強タッグを組んだ!!10年ぶりに名曲「それでも君を」収録!! 全英大ヒット・ナンバー!!

アウト・イン・ザ・フィールド

●14VA-9003 ¥1,400 発売中 アウト・イン・ザ・フィールド／それでも君を／他全3曲

名作2枚も同時に発売中！

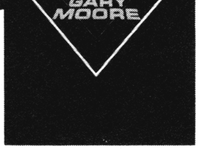


大いなる野望

25VB-1046 25VC-1046
各¥2,500

1982年発表。イアン・ペイス、ニール・マーレイ、トミー・アイアー…最強メンバーでクリエイトされる至極のハード・ロック・サウンド!!

明日への出発／夜明けの誓い／ウィッシング・ウェル／ブレイク・マイ・ハート／想い焦がれて／エンド・オブ・ザ・ワールド／ロッキン・エヴリ・ナイト／コールド・ハート／さすらいの日々／全9曲



炎の舞

25VB-1047 25VC-1047
各¥2,500

1984年、スケール・アップした8曲が、息もつかせず迫り来る！感涙の名曲「エンプティ・ルーム」他、ハード・ロックの美学がここにある…!!

シェイプス・オブ・シングス／ホールド・オン・トゥ・ラヴ／マーダー・イン・ザ・スカイズ／エンプティ・ルーム／夢なき世界で／ティーンエイジ・アイドル／デビル・イン・ハー・ハート／他全8曲

Virgin 心への音楽 TOSHIBA EMI 夢がある贈り物にレコード券

クリエイト派"音楽&映像"人間のキミに!!

Guitar magazine ギター・マガジン

クリエイティブ・ギタリスト&ベーシストにおくるギター専門誌。毎号、

吟味された特集、楽譜、サウンド研究etc.…でギッシリ。ギターのことならこの1誌ですべてOK!! 米国"GUITAR PLAYER"誌と編集提携。

■毎月13日発売／定価450円

Keyboard magazine キーボード・マガジン

すべてのキーボード・プレイヤーのためのホットな情報を満載!! ロック

ありジャズありニュー・ウェーブありの豊富な企画。まさにキーボーディストの要望に応えたマガジンです。米国"KEYBOARD"誌と編集提携。

■毎月18日発売／定価480円

THE VIDEO MAGAZINE ビデオマガジン アビック VIDEO AVIC

オモシロ・カゲキの情報人間、テレビ大好き、映像大好き人間必読の雑誌。

最新ビデオ・ソフトの紹介からハードに関する知識まで、充実のビデオ・ライフのための情報がギッシリ。フランス"VIDEO7"誌と編集提携。

■毎月18日発売／定価480円

SOUND & RECORDING MAGAZINE サウンド&レコーディング・マガジン

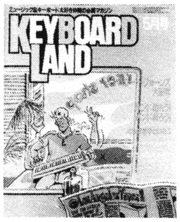
"サン・レコ"は音楽づくりの楽しさをパッケージした、クリエイティブ・

マガジン。レコーディング・セミナー、PAレクチャー、楽器・オーディオの最新情報など、音楽づくりに関する情報・話題がいっぱいです。

■毎月15日発売／定価550円

KEYBOARD LAND キーボードランド

ミュージック&キーボード大好き人間に捧げるファッショナブル・マガジ



ン! インタビューあり、最新ヒット曲あり、セミナーありの盛りだくさんのメニュー。初心者からプロまで、幅広く楽しめる内容です。

■毎月8日発売／定価500円

FOR DRUMMERS PERCUSSIONISTS & ALL THE OTHER PLAYERS Rhythm & Drums magazine リズム&ドラム・マガジン

すべてのプレイヤーを対象にした日本で唯一のリズムとドラムの専門誌。米"Modern Drumer"誌と編集協力。

■年4回発行／3、6、9、12月発売
定価800円／シート・レコード付

FOR PROFESSIONAL & AMATEUR ELECTRIC BASSISTS BASS MAGAZINE ベース・マガジン

あらゆるジャンルのベーシストのためのノウハウや情報を満載。初のベース専門誌がギター・マガジン増刊で登場。

■年2回発行／4、10月発売予定
定価880円／シート・レコード付

発売元●リットーミュージック　当社発売の毎月の新刊楽譜は、上記の雑誌に詳しく紹介されています。

バンド・スコア
ゲイリー・ムーア●ベスト　定価1,900円★

日本音楽著作権協会承認第 8525021-501 号

発　行　人■佐々木隆一
編　集　人■上田英司
表紙写真■東芝EMI株式会社
写真提供■東芝EMI株式会社／飛木恒一郎
表紙デザイン■POWER POCKET INC.
発　行　所
発　売　元■(株)リットーミュージック
東京都新宿区四谷1-5(新四谷駅前ビル7F)
〒160　☎03(359)0266(代)

社団法人 JASRAC 日本音楽著作権協会

■万一、乱丁・落丁がありました時には、当社にてお取り替え致します。
©無断複製・転載を禁じます。

Run For Cover
ラン・フォー・カヴァー
Once In A Lifetime
ワンス・イン・ア・ライフタイム
All Messed Up
オール・メスド・アップ
Out In The Fields
アウト・イン・ザ・フィールド
Military Man
ミリタリー・マン
Still In Love With You
それでも君を
Shapes Of Things
シェイプス・オブ・シングス

Rittor Music

定価1,957円
(本体1,900円)

★